茨城県教育財団文化財調査報告第210集

下 小 池 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設工事地内埋蔵文化財調査報告書

平 成 1 6 年 3 月

国土交通省　常総国道事務所
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第210集

下小池遺跡

しもこいけいせき

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設工事地内埋蔵文化財調査報告書

平成16年3月

国土交通省　常総国道事務所
財団法人　茨城県教育財団

遺跡遠景（南西方向から）

第47号住居跡出土土器

序

首都圏中央連絡自動車道の建設は，首都圏の中核都市を相互に結ぶことにより地域の核となる都市群を形成し，さらにこれらの地域における交通の円滑化を図り，地域の自立性を高める拠点となる都市整備を目的として計画されたものです。阿見町においても２か所のインターチェンジと町域を通過するルートが決定しており，多くの整備効果が期待されています。この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である下小池遺跡が所在しているため，財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文化財発掘調査についての委託を受け，平成14年５月から平成15年１月まで発掘調査を実施しました。

本書は下小池遺跡の調査成果を収録したものです。本書が学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，委託者である国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大なる御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，阿見町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し，衷心より感謝申しあげます。

平成16年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　齋　藤　佳　郎

例　　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成14年度に発掘調査を実施した茨城県稲敷郡阿見町大字小池に所在する下小池遺跡の発掘調査報告書である。

2　当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調　査	平成14年５月１日～平成15年１月10日
整　理	平成15年４月１日～平成16年３月31日

3　当遺跡の発掘調査は，調査第一課長阿久津久の指導のもとに行われ，担当は以下のとおりである。

調査第一課第２班長	川津法伸	平成14年５月１日～平成15年１月10日
主任調査員	飯島一生	平成14年９月16日～平成14年12月12日
主任調査員	小竹茂美	平成14年５月１日～平成14年12月26日
主任調査員	長谷川聡	平成14年11月１日～平成15年１月10日
主任調査員	後藤孝行	平成14年11月１日～平成14年12月26日
主任調査員	石川義信	平成14年８月12日～平成14年９月27日
主任調査員	綿引英樹	平成14年11月１日～平成14年12月26日
副主任調査員	松本直人	平成14年５月１日～平成15年１月10日
調査員	小林健太郎	平成14年11月１日～平成14年11月28日

4　当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は，整理第一課長瓦吹堅の指導のもとに行われ，担当及び分担は以下のとおりである。

主任調査員	鴨志田祐一	平成15年４月１日～平成15年４月30日
		第１章第１節～第２章第２節
主任調査員	浦和敏郎	平成15年４月１日～平成15年４月30日
		第３章第１節～第３節１
首席調査員	小竹茂美	平成15年４月１日～平成15年４月30日
		平成15年７月１日～平成16年３月31日
		第３章第３節２～第４節，写真図版

5　本書の作成にあたり，初期須恵器の時期・特徴などについて，山武考古学研究所の土生朗治氏にご助言をいただいた。

凡　　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝－800m，Y＝＋32,760mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ１，２，３…とし，「A１区」，「B２区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0とし，名称は，大調査区の名称を冠して「A１a1区」，「B２b2区」のように呼称した。

2　抄録の北緯および東経の覧には，世界測地系に基づく緯度・経度を（　）を付して併記した。

3　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　　住居跡－SI　土坑－SK　溝跡－SD　道路跡－SF　井戸跡－SE　不明遺構－SX
　　　　炭焼き窯跡－SY　遺物包含層－HG　柱穴－P

遺物　　土器－P　拓本記録土器－TP　土製品－DP　石器・石製品－Q　金属製品・古銭－M

土層　　撹乱－K

4　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1)　遺構全体図は1,000分の１，遺構は60分の１，または80分の１に縮小して掲載した。

(2)　遺物は原則として３分の１の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合もある。

(3)　遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土･赤彩･施釉･漆　　炉　　竈材･粘土･炭化材･黒色処理　　煤･油煙

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　------- 硬化面

5　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠･竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

6　遺物観察表の作成方法については，次のとおりである。

(1)　計測値の（　）内の数値は現存値を，［　］内の数値は推定値を示した。計測値の単位は，cm，gで示した。

(2)　備考の欄は，残存率及びその他必要と思われる事項を記した。

7「主軸」は，竈を持つ竪穴住居跡については竈を通る軸線とし，他の遺構については長軸（径）を主軸とみなした。「主軸・長軸方向」は主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。（例　N－10°－E，N－10°－W）

抄　録

ふりがな	しもこいけいせき
書名	下小池遺跡
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	Ⅳ
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第210集
編著者名	小竹茂美　鴨志田祐一　浦和敏郎
編集機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　ＴＥＬ　029－225－6587
発行機関	財団法人　茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和１丁目356番地の２　ＴＥＬ　029－225－6587
発行年月日	2004（平成16）年３月26日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
下小池遺跡（しもこいけいせき）	茨城県稲敷郡阿見町大字下小池字後原1316番地ほか（いばらきけんいなしきぐんあみまちおおあざしもこいけあざうしろはら）	084433 － 075	35度 59分 20秒 （35度 59分 31秒）	140度 11分 58秒 （140度 11分 46秒）	18 ～ 25m	20020501 ～ 20030110	29,782㎡	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道事業（茨城県）に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下小池遺跡	集落跡	弥生	竪穴住居跡　1軒	弥生土器（壺）	古墳時代中期後葉の集落跡を中心とする複合遺跡である。竪穴住居跡や土坑からは，高坏・𤭯などの須恵器や200点を超える臼玉が出土している。
		古墳	竪穴住居跡　47軒 土坑　11基	土師器（坏・椀・高坏・器台・坩・甕・壺・甑），須恵器（高坏・𤭯・小型壺），土製品（紡錘車・土玉），石製模造品（勾玉・臼玉・双孔円板・剣形），石器（砥石），種子	
		奈良・平安	竪穴住居跡　26軒 土坑　1基	土師器（坏・甕），須恵器（坏・盤・蓋・甕・甑）	
	生産跡	近代	炭焼き窯跡　1基		
	その他	縄文	陥し穴　2基	縄文土器（深鉢）	
		時期不明	土坑　32基 井戸跡　1基 溝跡　3条 道路跡　1条 不明遺構　1基 遺物包含層　1カ所		

目　　次

序
例　言
凡　例
抄　録
目　次
第１章　調査経緯……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査経過……1
第２章　位置と環境……3
　第１節　地理的環境……3
　第２節　歴史的環境……3
第３章　調査の成果……7
　第１節　遺跡の概要……7
　第２節　基本層序……7
　第３節　遺構と遺物……8
　　1　縄文時代の遺構と遺物……8
　　2　弥生時代の遺構と遺物……10
　　3　古墳時代の遺構と遺物……12
　　(1) 竪穴住居跡……12
　　(2) 土坑……129
　　4　奈良・平安時代の遺構と遺物……143
　　(1) 竪穴住居跡……143
　　(2) 土坑……195
　　5　近代の遺構と遺物……196
　　6　その他の遺構と遺物……197
　　(1) 不明遺構……197
　　(2) 溝跡……198
　　(3) 道路跡……201
　　(4) 井戸跡……201
　　(5) 土坑……202
　　(6) 遺物包含層……266
　　(7) 遺構外出土遺物……213
　第４節　まとめ……220
写真図版
付　図

第１章　調　査　経　緯

第１節　調査に至る経緯

国土交通省は，首都圏全体の発展と交通の円滑化を図るために，一般国道468号首都圏中央連絡自動車道の建設を進めている。

平成12年６月５日，建設省（現国土交通省）関東地方整備局常総国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業地内における埋蔵文化財の有無及び取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成12年６月12，13日に現地踏査を，平成13年11月11～13日，26～28日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成14年１月17日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，事業地内に下小池遺跡が所在する旨回答した。

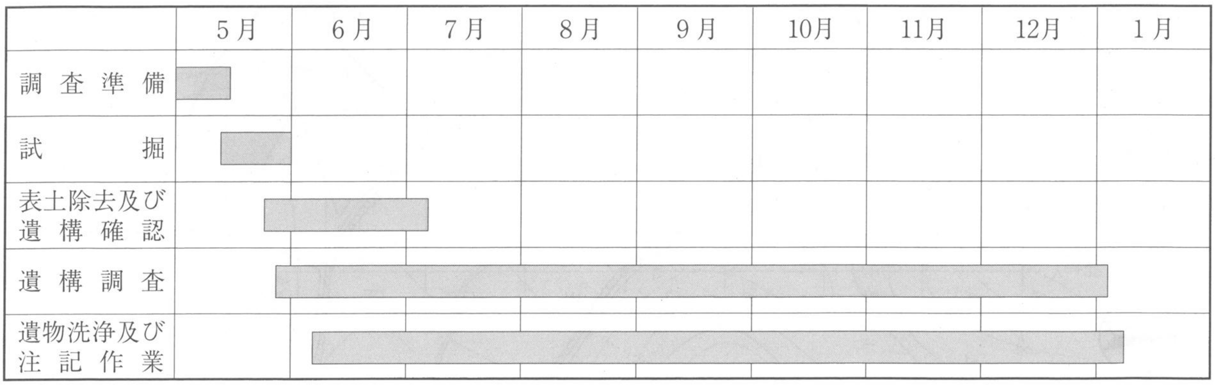
平成14年２月25日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長に対して，文化財保護法第57条の３第１項の規定に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は，計画変更が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成14年２月26日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

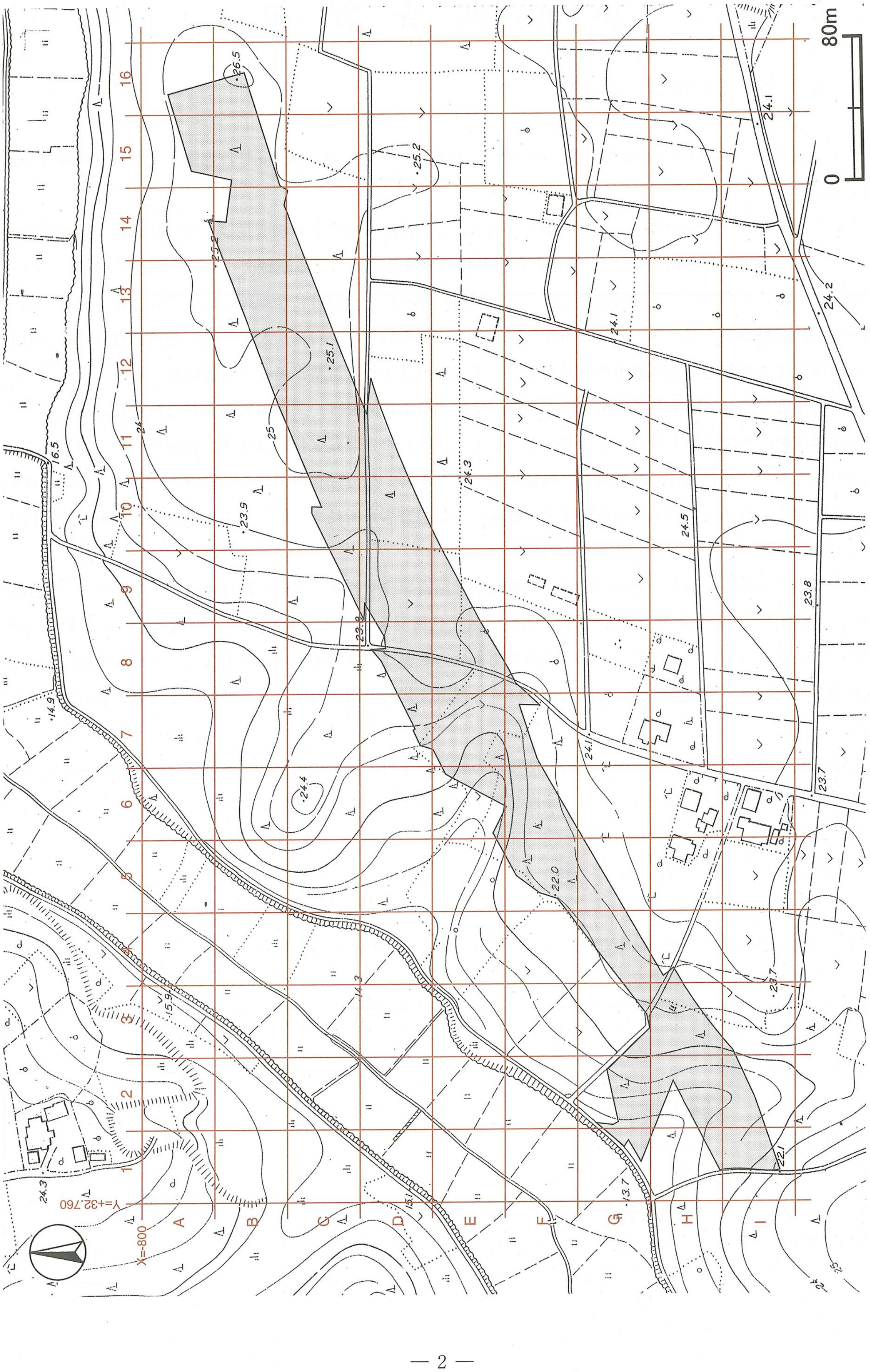
平成14年２月27日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は，茨城県教育委員会に対して，一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成14年２月28日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，下小池遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成14年５月１日から平成15年１月10日まで下小池遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第２節　調　査　経　過

下小池遺跡の調査は，平成14年５月１日から平成15年１月10日までの８か月間実施した。以下，調査の経過について，概要を表で記載する。





第1図　下小池遺跡調査区設定図

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

下小池遺跡は，茨城県稲敷郡阿見町大字下小池字後原1316番地ほかに所在している。

当遺跡が所在する阿見町は，常総台地の一部をなす稲敷台地の北東部と，清明川，桂川，乙戸川などの流域及び霞ヶ浦沿岸の沖積低地とからなっている。台地面は上記の各河川によって開析され，複雑な樹枝状の支谷が刻まれている。当遺跡の近くを流れる乙戸川は，土浦市の乙戸沼を水源とし，井の岡で桂川を合わせ，島田付近でさらに小野川と合流して霞ヶ浦に流入している。

稲敷台地は，新生代第四期洪積世古東京湾時代に堆積した海成の砂層である成田層を基盤とし，その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂礫層，さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層（0.3～5.0m），褐色の関東ローム層（0.5～2.0m）が連続して堆積し，最上部は腐植土層となっている[1]。

当遺跡は，町域南西部，標高約24mの乙戸川左岸台地縁辺部に位置しており，北西には乙戸川の低地から伸びる支谷が入り込んでいる。台地上は主に畑地として耕作され，河川の沖積低地は水田として利用されているが，当遺跡の調査前の現状は，山林・畑地である。

第2節　歴史的環境

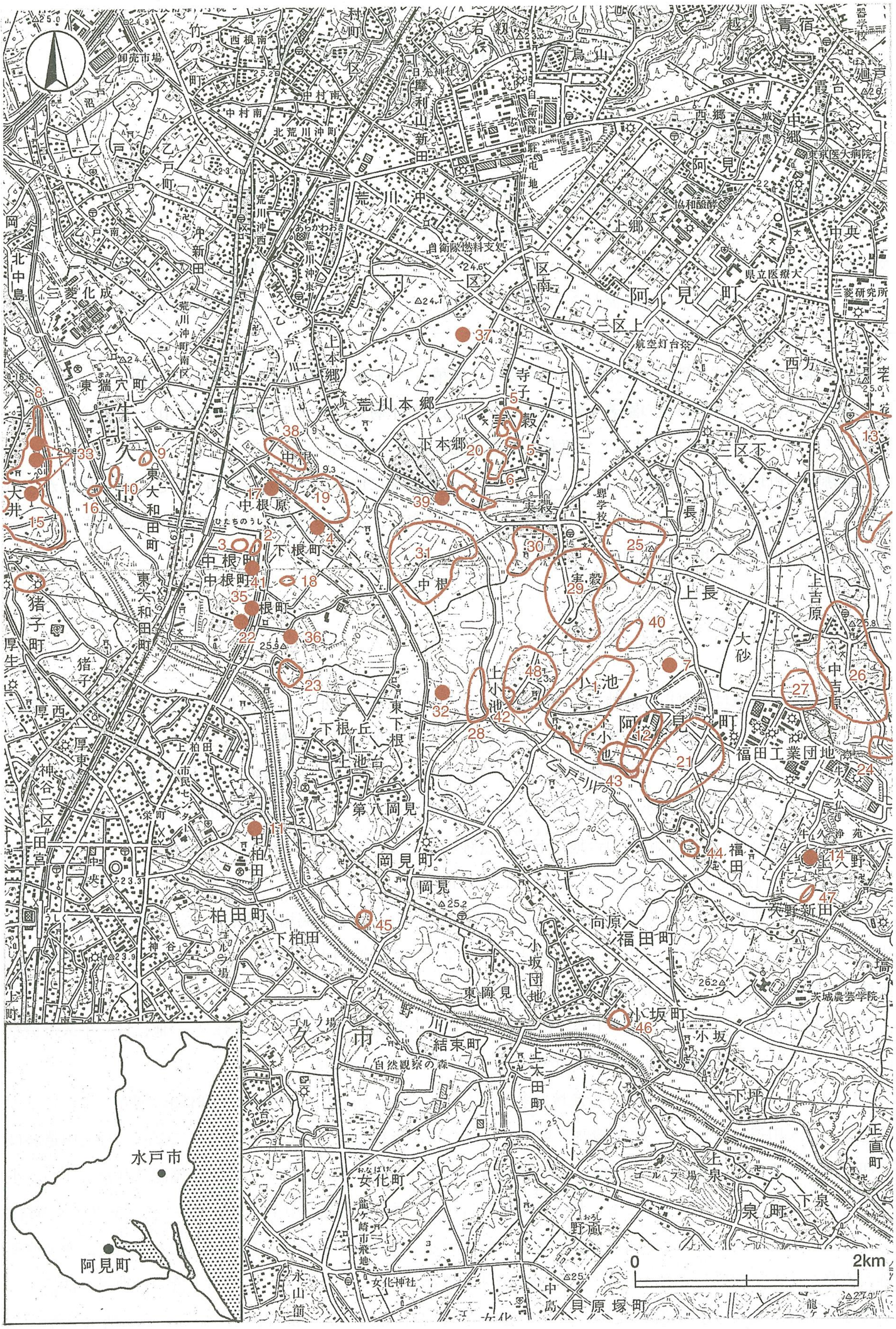
当遺跡周辺の地域は，河川，低地，台地と変化に富んだ自然環境を示し，台地上には数多くの遺跡が分布しており，小野川，乙戸川流域の台地上には，旧石器時代から中世までの遺跡が周知されている。

旧石器時代の遺跡は，ヤツノ上遺跡〈２〉[2]，中久喜遺跡〈３〉[3]，西ノ原遺跡〈４〉[4]，実穀寺子遺跡〈５〉[5]などが知られ，これらの遺跡からはナイフ形石器，実穀古墳群〈６〉[6]では細石刃が出土している。

縄文時代の遺跡は，小野川沿いの台地に下大井遺跡〈８〉[7]，ヤツノ上遺跡，東山Ａ遺跡〈９〉[8]，馬場遺跡〈10〉[9]，ダシ山遺跡〈11〉が位置している。ヤツノ上遺跡からは，晩期の土器片とともに，同時期の土偶が出土し，東山Ａ遺跡では，早期から中期の土器片が出土している。また馬場遺跡からは，早期から前期の土器片が出土している。町域の乙戸川流域の台地上には，早期から後期の土器が出土した実穀寺子遺跡，早期から前期の土器が出土した下小池東遺跡〈12〉[10]がある。

弥生時代の遺跡は少なく[11]，弥生土器が出土している竹来遺跡[12]や下原遺跡〈13〉[13]の他には，牛久市奥原町の天王峯遺跡で弥生時代後期の集落跡が確認されている[14]程度である。

古墳時代の遺跡は，小野川，乙戸川流域に多く分布している。小野川流域では，当財団の調査によって下大井遺跡，行人田遺跡〈16〉[15]，馬場遺跡，東山Ａ遺跡などが所在していることが明らかになり，行人田遺跡は前期，東山Ａ遺跡は中期，下大井遺跡，馬場遺跡は中期から後期の集落跡であることが確認された。また，小野川と乙戸川に挟まれた台地上でも，隼人山遺跡〈17〉[16]，西ノ原遺跡，中下根遺跡〈18〉[17]，ヤツノ上遺跡，中久喜遺跡など中期を主体とする集落跡が確認されている。町域の中根遺跡〈19〉は，隼人山遺跡，西ノ原遺跡と道路を挟んで隣接しており，同一集落の可能性も想定されている。さらに乙戸川下流の台地縁辺部には，実穀寺子遺跡，実穀寺子西遺跡〈20〉[18]，下小池東遺跡，福田遺跡〈21〉が所在している。下小池東遺跡では，昭和53，56年の調査で中期の竪穴住居跡が13軒検出され，また実穀寺子遺跡も５世紀中葉の時期の集落であり，



第２図　下小池遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院５万分の１「土浦」・「龍ヶ崎」）

表1　下小池遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
1	下小池遺跡		○	○	○	○			25	向辺田遺跡		○		○	○		
2	ヤツノ上遺跡	○	○		○	○		○	26	花房遺跡			○	○	○		
3	中久喜遺跡	○	○		○	○			27	手接遺跡				○	○		
4	西ノ原遺跡	○			○				28	大高田遺跡				○			
5	実穀寺子遺跡	○			○	○			29	実穀神田遺跡				○			
6	実穀古墳群	○			○				30	上宿遺跡				○			
7	谷ノ沢遺跡	○	○						31	延戸遺跡		○		○	○		
8	下大井遺跡		○		○	○	○	○	32	反子遺跡				○			
9	東山A遺跡		○						33	下大井古墳群				○			
10	馬場遺跡		○		○				34	道山古墳群				○			
11	ダシ山遺跡		○		○				35	愛宕脇古墳				○			
12	下小池東遺跡		○		○				36	琴塚古墳				○			
13	下原遺跡		○	○	○				37	北古辺古墳				○			
14	源台遺跡		○	○	○	○			38	内記古墳群				○			
15	大井遺跡	○			○	○	○	○	39	だめき古墳				○			
16	行人田遺跡		○		○				40	塚越古墳群				○			
17	隼人山遺跡				○	○			41	ヤツノ上古墳				○			
18	中下根遺跡				○				42	上小池城						○	
19	中根遺跡				○				43	下小池城						○	
20	実穀寺子西遺跡		○		○				44	福田城						○	
21	福田遺跡		○		○	○			45	岡見城						○	
22	梨の木遺跡				○				46	小坂城						○	
23	水落下遺跡				○				47	久野城跡						○	
24	大日遺跡				○	○			48	前畑遺跡				○		○	○

住居跡からは石製模造品が出土している。このように，この時期は沖積低地を利用した農耕を中心に生活が営まれ，集落は沖積低地に面した台地縁辺部に立地することが多い。

また，古墳は集落の周辺部に位置しており，小野川沿いでは下大井古墳群〈33〉，道山古墳群〈34〉，愛宕脇古墳〈35〉，琴塚古墳〈36〉が分布し，乙戸川沿いでは北古辺古墳〈37〉，内記古墳群〈38〉，だめき古墳〈44〉，実穀古墳群，塚越古墳群〈45〉が分布する。実穀古墳群は５世紀末から６世紀後葉にかけて構築された古墳群であり，第４号墳から直刀が出土した。また，小野川と乙戸川の間にはヤツノ上古墳群〈41〉が分布している。

『和妙類聚抄』によれば，当遺跡周辺は信太郡高来郷に属する[19)]が，奈良・平安時代の遺跡は，小野川沿いでは行人田遺跡，隼人山遺跡，中下根遺跡，ヤツノ上遺跡，中久喜遺跡が調査されている。このうち，ヤツノ上遺跡では平安時代の竪穴住居跡８軒，掘立柱建物跡２棟が確認されている。また，小野川下流の姥神遺跡では，奈良時代の竪穴住居跡16軒，平安時代の竪穴住居跡58軒及び掘立柱建物跡４棟が確認されている[20)]。

中世の阿見地域は信太荘と呼ばれ，中世の遺跡は城館がほとんどである。乙戸川左岸には上小池城跡〈42〉，下小池城跡〈43〉[21)]，福田城跡〈44〉，また小野川左岸には岡見城跡〈45〉，小坂城跡〈46〉が位置しており，阿見町小池に所在する下小池城跡は，戦国時代末期に土岐氏によって構築されたものと伝えられている。

※文中の〈　〉内の番号は，表１，第２図中の該当番号と同じである。

註

1）日本の地質『関東地方』編集委員会 『日本の地質３　関東地方』共立出版　1986年10月
2）小高五十二「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）　ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第81集　1993年３月
3）荒井保雄「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）　中久喜遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第86集　1993年３月
4）深谷憲二　柴田博行「牛久東下根特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書　中下根遺跡・西ノ原遺跡・隼人山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第113集　1996年６月
5）浅野和久「荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）　実穀古墳群・実穀寺子遺跡１」『茨城県教育財団文化財調査報告』第144集　1999年３月
6）註５）に同じ
7）川津法伸「一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書１　下大井遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第171集 2001年３月
8）松浦敏「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）　東山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第101集　1995年９月
9）白田正子「牛久市北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）　馬場遺跡・行人田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第106集 1996年３月
10）阿見町教育委員会『下小池東遺跡発掘調査報告書』 1979年３月
11）阿見町史編さん委員会『阿見町史』 1983年３月
12）小川和博　大渕淳志　鍛治文博『阿見町竹来遺跡発掘調査報告書（第二次調査）』 1992年３月
13）阿見町下原遺跡発掘調査会『下原遺跡　茨城県稲敷郡阿見町所在の古代集落の調査』 1998年３月
14）河野辰男　編 『天王峯遺跡報告書』 天王峯遺跡発掘調査会　1984年９月
15）註９）に同じ
16）註４）に同じ
17）註４）に同じ
18）宮崎修士　柴田博行「（仮称）荒川本郷地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書　実穀寺子西遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第156集　2000年３月
19）池邊　彌『和名類聚抄郡郷里驛名考證』 吉川弘文館　1981年２月
20）奥原遺跡発掘調査会『茨城県牛久市文化財調査報告書　奥原遺跡発掘調査報告書』 1989年12月
21）阿見町教育委員会『下小池城跡保存調査報告書』 1981年11月

参考文献

・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図（地名表編）』茨城県教育委員会　平成13年３月
・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図（地図編）』茨城県教育委員会　平成13年３月

第3章　調　査　の　成　果

第1節　遺　跡　の　概　要

下小池遺跡は，阿見町の南西部，乙戸川左岸の標高約24ｍの台地上に立地する古墳時代中期を中心とした旧石器時代から近世にかけての複合遺跡であり，小支谷を挟んだ北側に塚越古墳群が分布している。調査区域の現状は山林及び畑地であり，調査対象面積は東西に長い29,782㎡である。

今回の調査によって，縄文時代の陥し穴２基，弥生時代の竪穴住居跡１軒，古墳時代の竪穴住居跡47軒，平安時代の竪穴住居跡26軒，土坑44基，溝３条，炭焼き窯跡１基などが確認された。遺物は，遺物収納コンテナ（60×40×20㎝）に86箱ほど出土しており，遺物の大半は古墳時代のものである。主な出土遺物は，弥生土器片，土師器（坏，坩，高坏，壺，甕，甑），須恵器（坏，高台付坏，高坏，甕，甑），土製品（球状土錘，紡錘車），石器・石製品（尖頭器，石鏃，石製模造品，砥石），鉄製品（刀子）などである。

第2節　基　本　層　序

基本層序を確認するテストピットは，調査区南西部のＦ５j7区に設置した。地表面の標高は24.1ｍで，地表面から３ｍほど掘削し，基本土層図は第３図に示した。

土層は，10層に細分され，第１層が表土（耕作土），第２～９層が関東ローム層，そして第10層が常総粘土層に対比される。以下，テストピットの観察から，各層の特徴を述べる。

第１層は極暗褐色の腐植土層である。ローム粒子をわずかに含み，粘性・しまりはともに弱い。層厚は，36～56㎝である。

第２層は明褐色のソフトローム層である。粘性・しまりは普通で，層厚は16～32㎝である。

第３層は褐色のソフトローム層である。粘性・しまりは普通で，層厚は11～58㎝である。

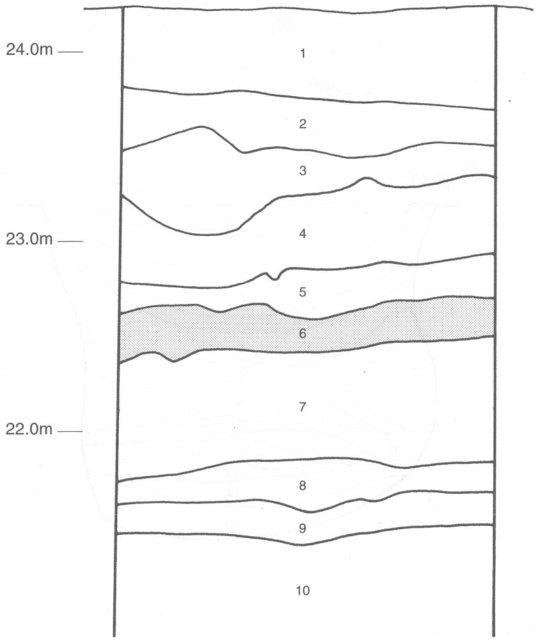
第４層は褐色のハードローム層であり，赤色粒子，黒色粒子を微量含む。粘性は普通でしまりは強く，層厚は28～49㎝である。

第５層は褐色のハードローム層であり，黒色粒子を微量含み，第４層よりやや色味が強い。粘性・しまりともに強く，層厚は７～15㎝である。

第６層は暗褐色のハードローム層であり，黒色粒子を微量含み，粘性・しまりともに強い。層厚は18～29㎝で，第２黒色帯に相当すると考えられる。

第７層は褐色のハードローム層である。粘性・しまりともに強く，層厚は58～62㎝である。

第８層はにぶい褐色のハードローム層であり，赤色粒



第３図　基本土層図

子，黒色粒子を微量含む。粘性・しまりともに極めて強く，層厚は14～28cmである。

第９層は明褐色のハードローム層であり，白色粒子，黒色粒子を中量含む。粘性は普通でしまりは強く，層厚は10～20cmである。

第10層はにぶい黄褐色の粘土層であり，粘性・しまりともに極めて強い。層厚は40cm以上あり，下層は未掘のため，本来の厚さは不明である。

住居跡・土坑等の遺構は，第２層上面で確認した。

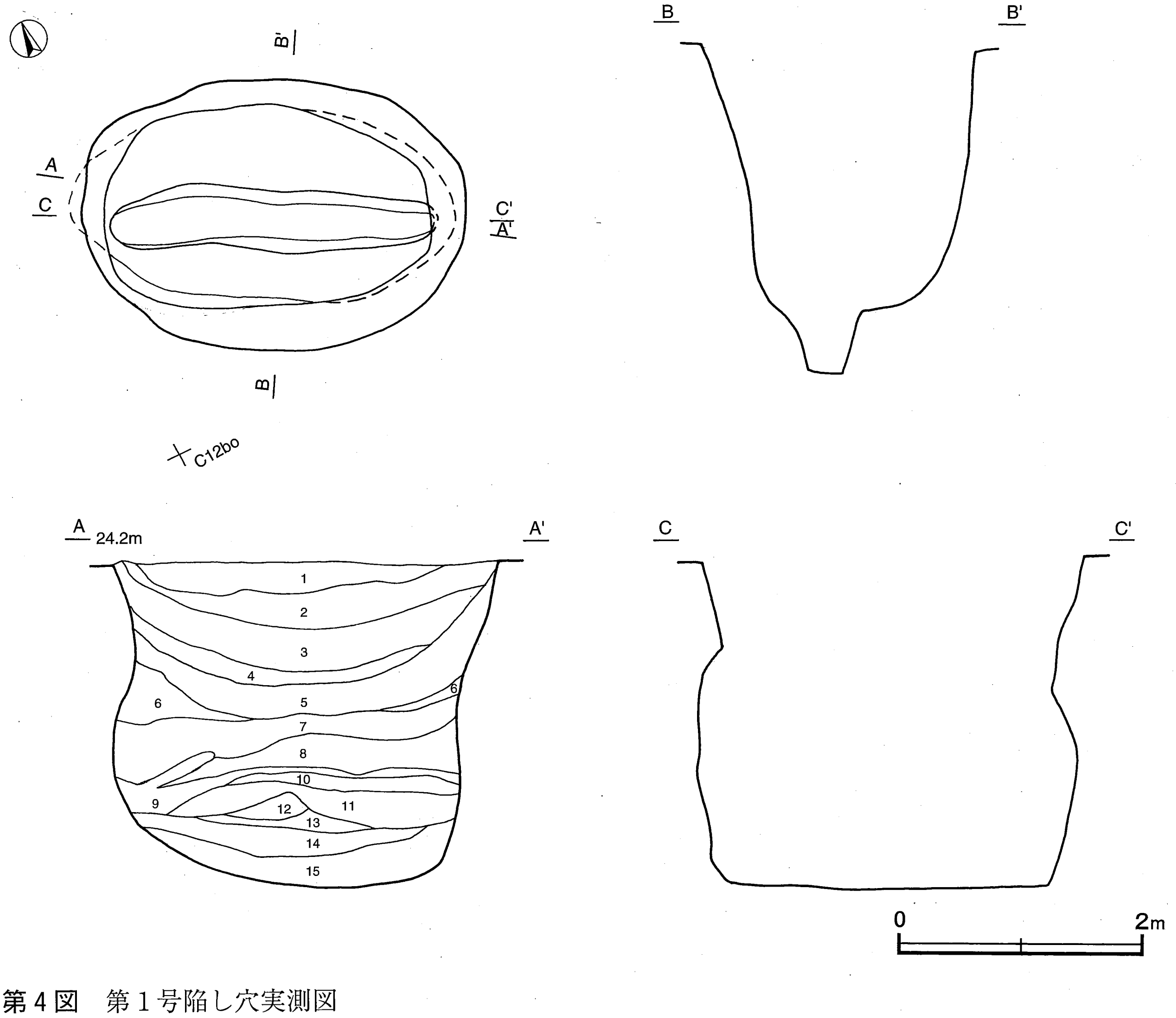
第３節　遺 構 と 遺 物

１　縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で，陥し穴２基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

第１号陥し穴（SK15）（第４図）

位置　調査区西部のＣ12a0区，標高24.1ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第４図　第１号陥し穴実測図

規模と形状　長径3.10m，短径2.20mほどの楕円形で，深さは265cmほどである。短径の断面はU字状を呈し，壁は外傾して立ち上がっている。南北壁はオーバーハングし，上部は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－65°－Wである。

覆土　15層に分層される。第1～6層は，レンズ状に堆積する自然堆積である。第7～15層は，ロームブロックを多く含み，ブロック状に堆積する人為堆積である。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒　　　色	炭化粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
3	黒　褐　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4	極 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量
5	褐　　　色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
6	褐　　　色	ローム粒子多量
7	褐　　　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
8	褐　　　色	ロームブロック多量，炭化粒子微量
9	褐　　　色	ローム粒子多量，炭化粒子微量
10	褐　　　色	ロームブロック多量
11	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
12	褐　　　色	ロームブロック中量
13	暗　褐　色	ローム粒子・粘土ブロック中量，炭化粒子少量
14	暗　褐　色	ローム粒子・粘土ブロック中量
15	暗　褐　色	ロームブロック多量，粘土ブロック少量

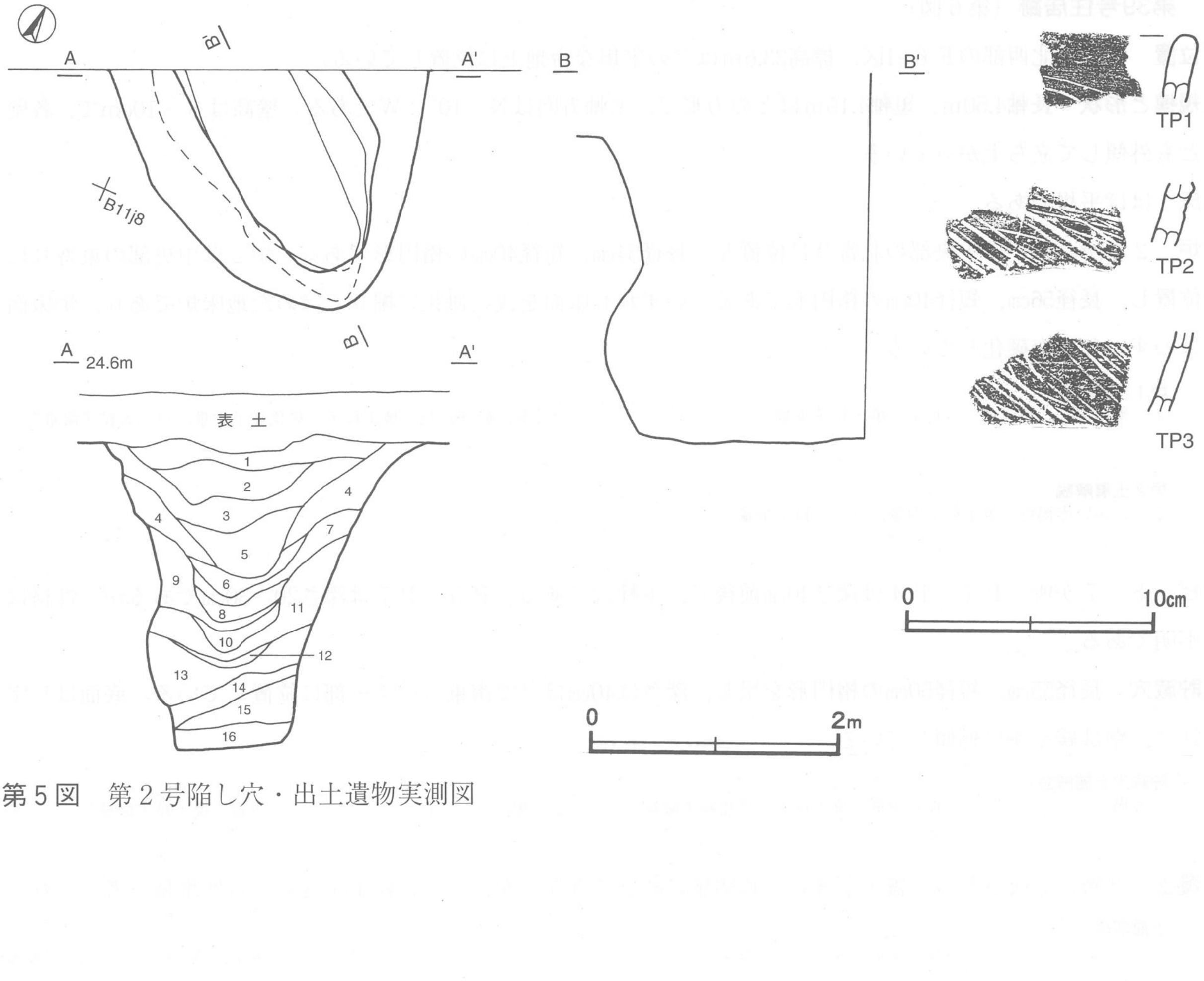
遺物出土状況　出土していない。

所見　規模や形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第2号陥し穴（SK43）（第5図）

位置　調査区西部のB11i8区，標高24.3mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　調査区内で長径方向に2.00mほどが確認され，短径は2.40m，深さは250cmほどである。短径の断面はU字状で底部は平坦である。壁は下部でオーバーハングし，上部は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－50°－Wである。



第5図　第2号陥し穴・出土遺物実測図

覆土　16層に分層される。第１～７層は，レンズ状に堆積する自然堆積である。第８～16層は，ロームブロックを多く含み，ブロック状に堆積する人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，粘土粒子微量
7　褐　　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
9　褐　　　色　ロームブロック中量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
11　褐　　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
13　褐　　　色　ロームブロック多量
14　褐　　　色　ロームブロック多量，粘土ブロック微量
15　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量
16　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況　覆土上層から縄文時代早期の土器片が出土している。

所見　規模や形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。

第２号陥し穴出土遺物観察表（第５図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP 1～3	縄文土器	深鉢	－	(2.7～3.2)	－	長石・雲母	明赤褐	普通	斜行する条線文	覆土上層	

2　弥生時代の遺構と遺物

今回の調査で，弥生時代後期の竪穴住居跡１軒を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

第39号住居跡（第６図）

位置　調査区北西部のＦ６e1区，標高23.6ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸4.50ｍ，短軸4.15ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｗである。壁高は８～10cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。

炉　２か所。炉１は中央部の北寄りに位置し，長径54cm，短径40cmの楕円形である。炉２は中央部の東寄りに位置し，長径56cm，短径40cmの楕円形である。いずれも床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉１土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子微量

炉２土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ40cm前後で，主柱穴である。Ｐ５～Ｐ７は深さ20～30cmであるが，性格は不明である。

貯蔵穴　長径55cm，短径50cmの楕円形を呈し，深さは40cmほどで南東コーナー部に位置している。底面はＵ字状で，壁は緩やかに外傾している。

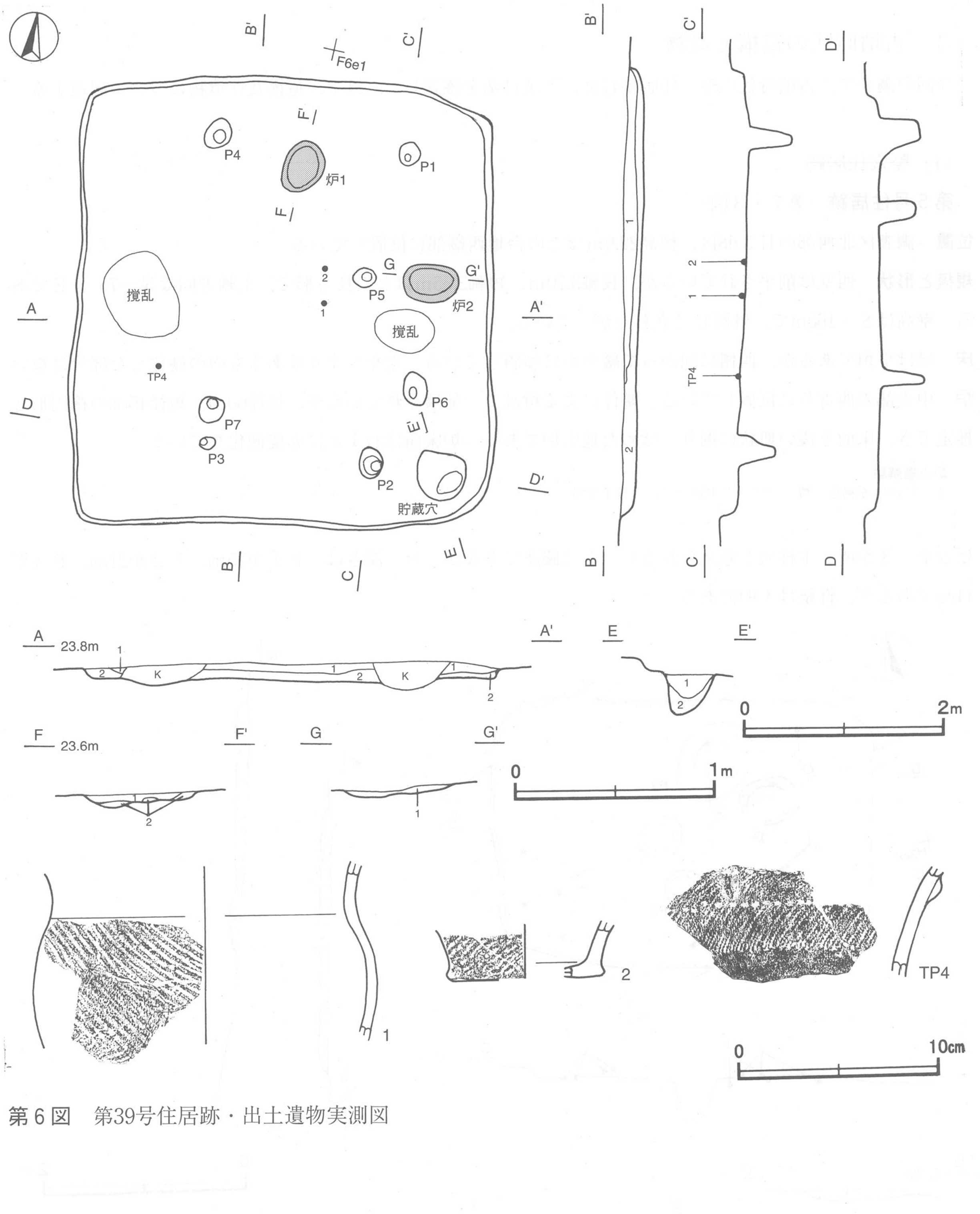
貯蔵穴土層解説
1　褐　　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

覆土　２層に分層される。覆土が薄いため明確に断定できないが，ローム粒子を含んだ自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片29点（壺），土師器片112点（坏類26，甕類86）が出土している。1・2・TP4は中央部の床面から出土している。胎土や文様の構成から1・2は同一個体と考えられる。また，土師器片は細片であり，混入である。

所見　時期は，後期後葉である。



第6図　第39号住居跡・出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表（第6図）

	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	弥生土器	壺	−	(8.8)	−	長石・石英	にぶい橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文施文，羽状構成	中央部床面	10%
2	弥生土器	壺	−	(2.8)	[7.9]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	附加条一種(附加2条)の縄文施文	中央部床面	10%
TP4	弥生土器	壺	−	(5.5)	−	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部下位に付加状一種（付加2条）の縄文，刺突文の上位に貼瘤，頸部は無文	中央部床面	

3　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査で，古墳時代の竪穴住居跡47軒，土坑11基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第5号住居跡（第7・8図）

位置　調査区北西部のＨ３d8区，標高22.9ｍほどの台地西端部に位置している。

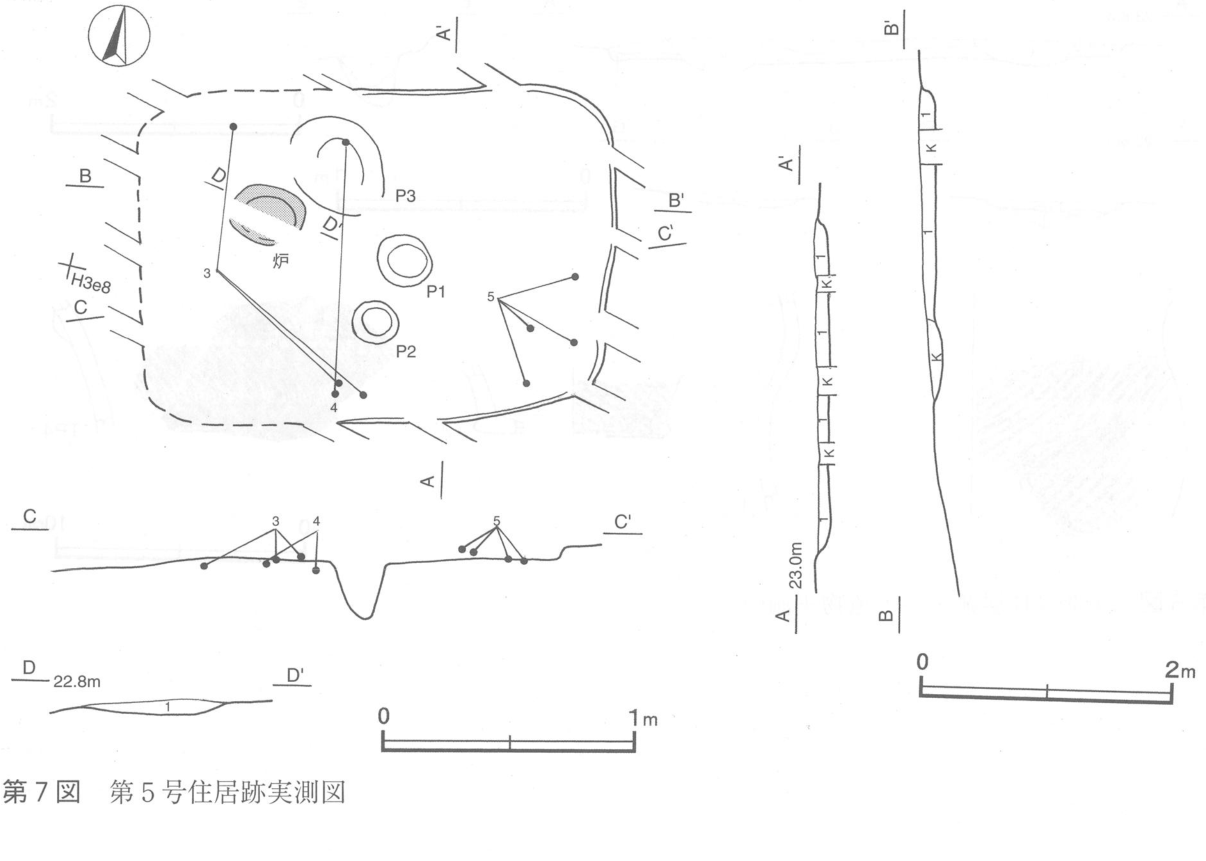
規模と形状　西壁は削平されているが，長軸3.70ｍ，短軸2.65ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－75°－Ｅである。壁高は８～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，西側に向かって緩やかに傾斜している。ややしまりはあるものの硬化した部分はない。

炉　中央部の西寄りに位置している。耕作による撹乱で一部壊されているが，長径60㎝，短径45㎝の楕円形と推定でき，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量

ピット　３か所。主柱穴と考えられるピットは確認できなかった。深さは，Ｐ１が35㎝，Ｐ２が21㎝，Ｐ３が11㎝であるが，性格は不明である。



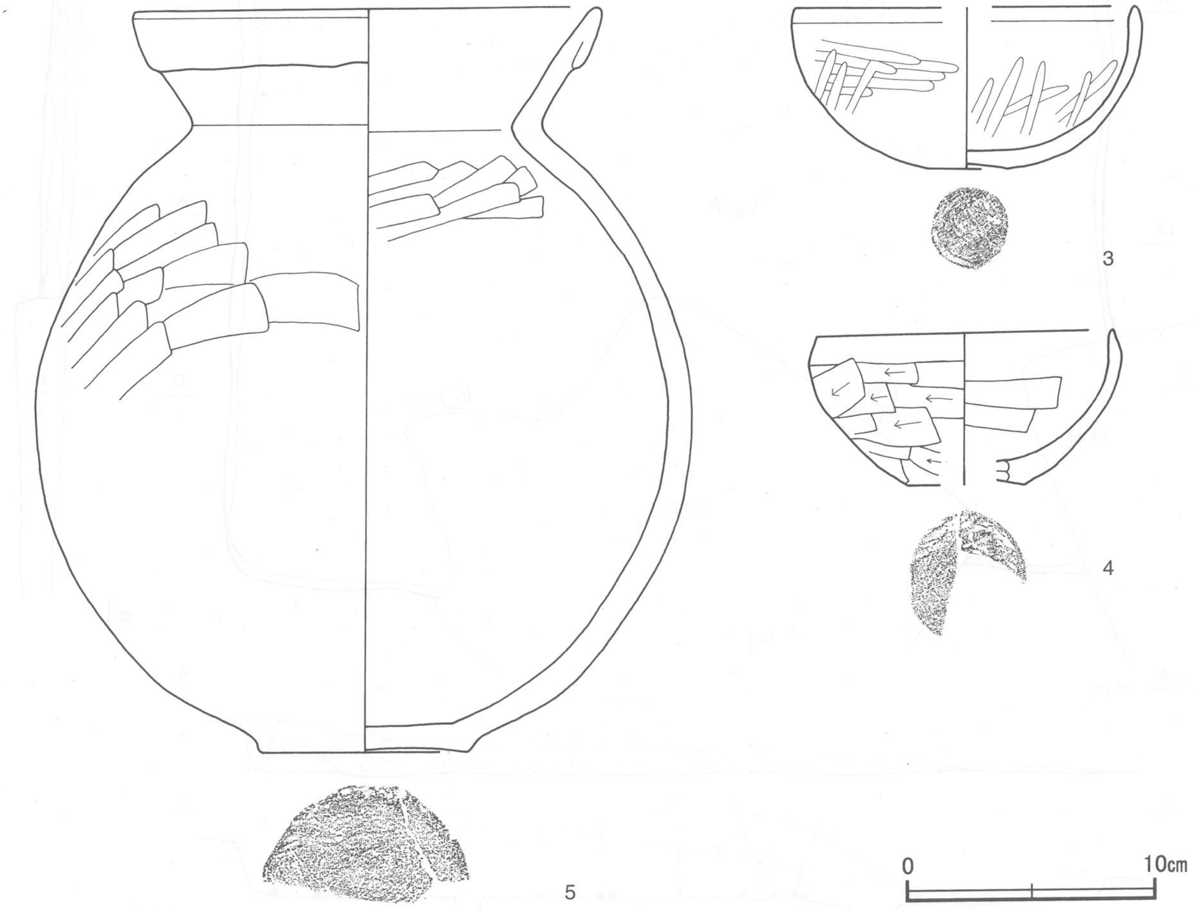
第７図　第５号住居跡実測図

覆土　単一層である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片121点（坏類36，甕類85）が出土している。3は南壁際の床面，4はＰ２及び南壁際の床面，5は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第８図　第５号住居跡出土遺物実測図

第５号住居跡出土遺物観察表（第８図）

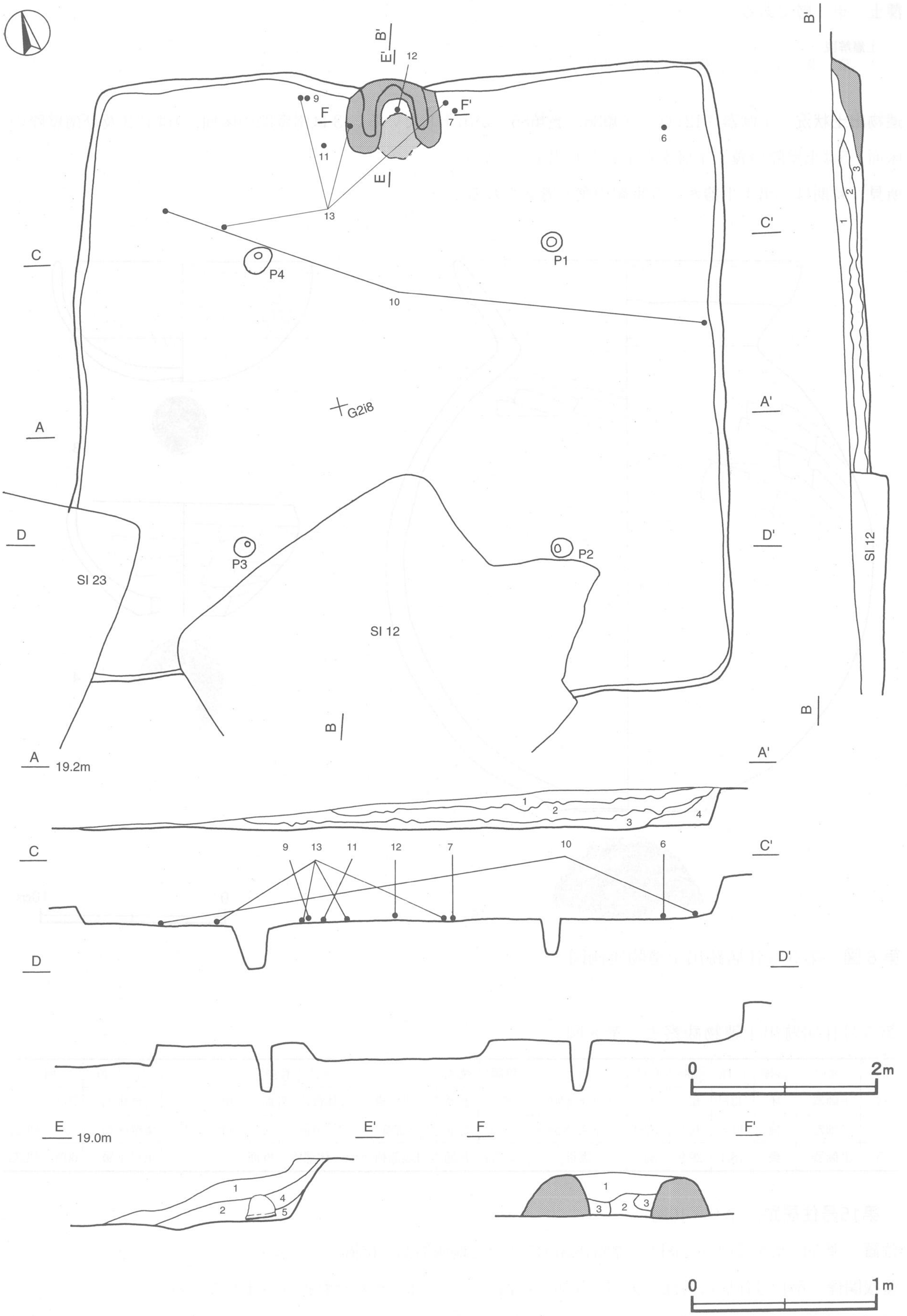
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
3	土師器	坏	[13.8]	6.5	3.2	長石･石英･赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ,体部内･外面ヘラ磨き	南壁床面	70%
4	土師器	椀	11.8	6.2	[3.9]	長石･石英･赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ	南壁床面	70%　PL27
5	土師器	甕	18.4	29.9	[8.0]	雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	東壁下層	60%　PL33

第15号住居跡（第９・10図）

位置　調査区北西部のＧ２i8区，標高18.8ｍほどの台地西端部に位置している。

重複関係　第12号住居に南部，第23号住居に南西コーナー部をそれぞれ掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.90ｍ，短軸6.80ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｅである。壁高は16～38cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。



第９図　第15号住居跡実測図

床　ほぼ平坦であるが，南西側に向かって緩やかに傾斜している。暗褐色のローム土でややしまりはあるものの硬化した部分は認められない。

竈　北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ80cm，袖部幅100cmほどで，焚口の掘り込みは検出できなかった。袖部は，床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，被熱により赤変硬化している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1　黒　褐　色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量		
2　暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量	4　暗 赤 褐 色	焼土ブロック少量，ローム粒子微量
3　にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量	5　にぶい赤褐色	焼土粒子多量，炭化粒子少量

ピット　4か所。深さはＰ１・Ｐ３・Ｐ４が約40cm，Ｐ２が56cmであり，主柱穴である。

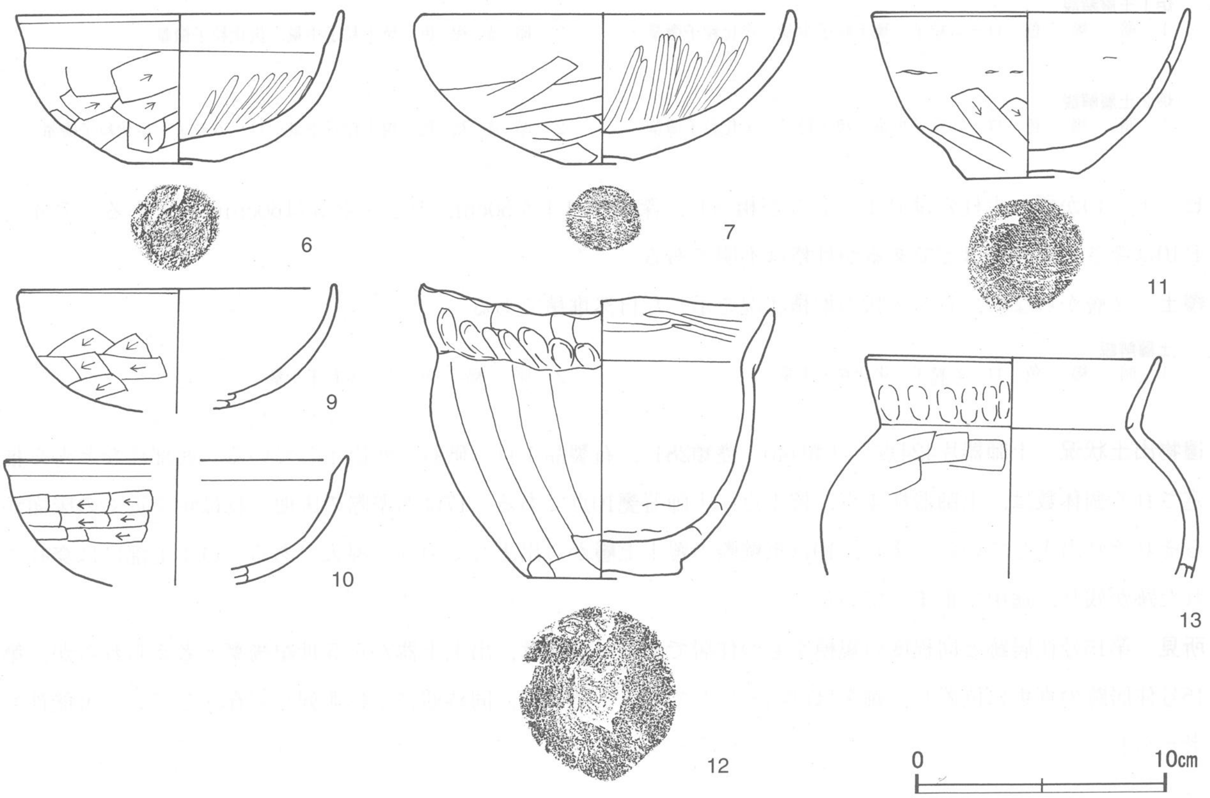
覆土　4層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており，自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	3　暗　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	4　褐　　　色	ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片461点（坏類179，甕類282）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏5点，椀1点，土師器甕12点である。7は竈東側の床面，9～11は竈西側の床面，12は竈覆土下層からそれぞれ出土している。竈火床部の奥に逆位で出土した12は，体部に被熱痕が認められ，支脚に転用されたものと考えられる。

所見　1辺が約7ｍのやや大きい床面積をもつ住居である。初期竈を付設していることや出土土器から，時期は5世紀末葉から6世紀初頭と考えられる。



第10図　第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
6	土師器	坏	13.0	6.0	3.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラ磨き	北東コーナー下層	100% PL25
7	土師器	坏	14.7	6.0	2.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラ磨き	竈東側床面	80%
9	土師器	坏	12.8	(4.9)	−	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面摩耗調整不明	竈西側床面	50%
10	土師器	坏	[13.8]	(5.0)	−	長石・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面摩耗調整不明	竈西側床面	30%
11	土師器	椀	12.4	6.5	4.5	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面底部ヘラ削り,内面ナデ	竈西側床面	95% PL25
12	土師器	甕	14.1	11.7	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部指頭痕,体部外面ヘラナデ,内面ナデ	竈	98%
13	土師器	甕	11.8	(8.8)	−	長石・石英	橙	普通	口辺部指頭痕,体部外面ヘラナデ,内面ナデ	竈西側床面	40%

第16号住居跡（第11・12図）

位置　調査区北西部のＧ３h2区，標高19.7ｍほどの西への斜面部に位置している。

重複関係　第17号住居に南東部の20％ほどと第28号土坑に西壁を掘り込まれている。

規模と形状　南西コーナー部は削平されているが，長軸7.20ｍ，短軸6.95ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁高は最大20㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，西側に向かって緩やかに傾斜している。床面は褐色のローム土で，ややしまりはあるものの硬化した部分はない。

炉　２か所。炉１は中央部の北寄りに位置し，径39㎝ほどの円形である。また，炉２は中央部に位置し，長軸59㎝，短径50㎝の楕円形である。ともに床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はいずれもわずかに赤変硬化している。

炉１土層解説
１　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
２　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子微量

炉２土層解説
１　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
２　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量

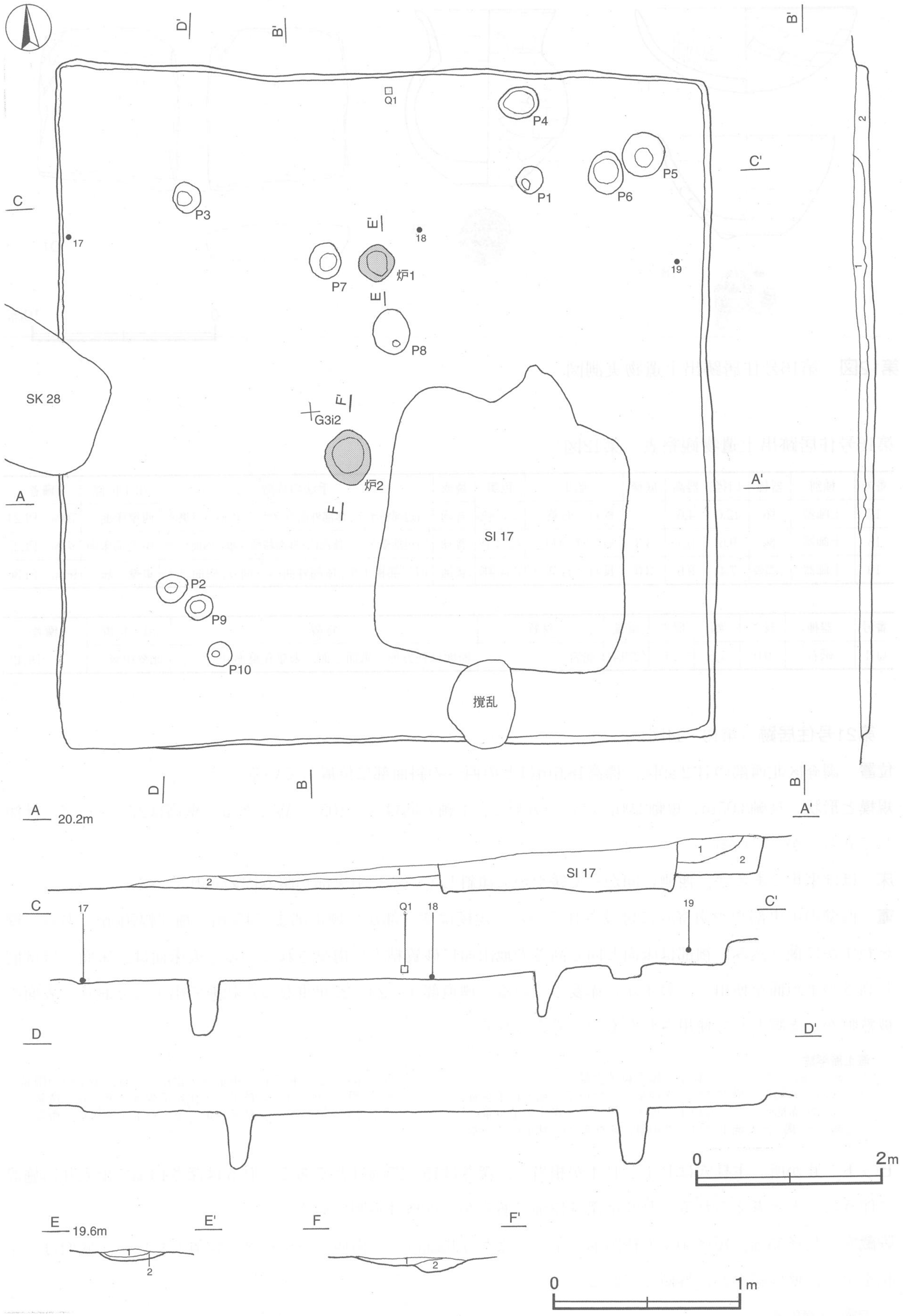
ピット　10か所。主柱穴はＰ１～Ｐ３が相当し，深さはＰ１が50cm，Ｐ２・Ｐ３は60cmほどである。Ｐ４～Ｐ10は深さ10～30㎝ほどであるが性格は不明である。

覆土　２層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

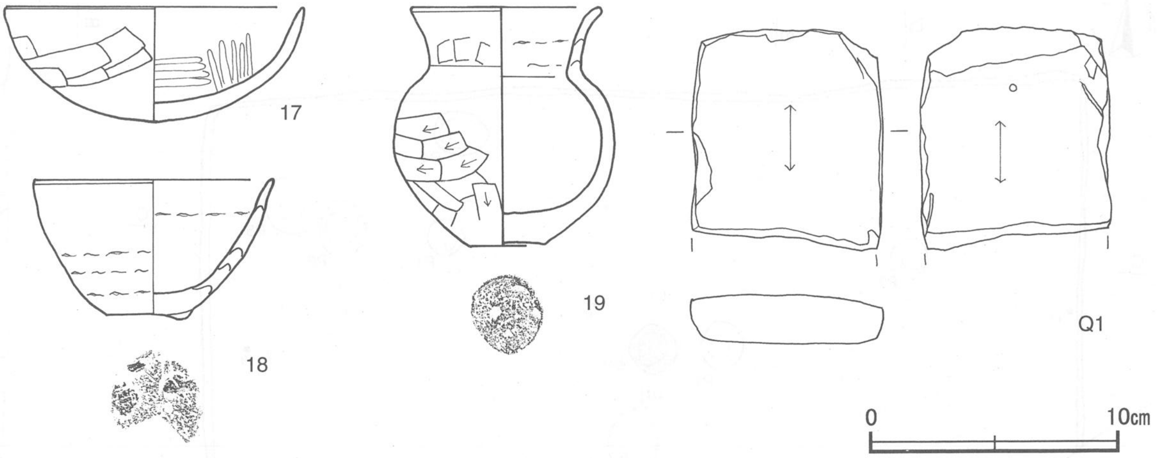
土層解説
１　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
２　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片424点（坏類140，甕類284），石製品１点（砥石）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏４点，椀１点，土師器甕10点である。17は西壁際の床面，18は炉１近くの床面からそれぞれ出土している。また，19は東壁際の覆土上層から出土しており，混入である。Ｑ１上部には穿孔された跡が残り，途中で止まっている。

所見　第15号住居跡と同程度の規模をもつ住居である。時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられるが，第15号住居跡の真東に位置し，軸をほぼ同じにしていることから，同時期に２軒並列して存在していた可能性も考えられる。



第11図　第16号住居跡実測図



第12図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第12図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
17	土師器	坏	12.0	4.6		長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラナデ,内面ヘラ磨き	西壁床面	70%　PL24
18	土師器	椀	9.6	5.4	3.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部内・外面輪積み痕,内面ナデ	中央部床面	80%　PL25
19	土師器	小型壺	7.4	9.6	3.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ナデ	東壁上層	95%　PL36

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	(9.0)	7.6	2.1	(279.4)	泥岩	断面は長方形，砥面２面，未穿孔痕あり	北壁中層	PL42

第21号住居跡（第13・14図）

位置　調査区北西部のＨ２a9区，標高18.6ｍほどの西への斜面部に位置している。

規模と形状　長軸3.05ｍ，短軸2.90ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－105°－Ｗである。壁高は27～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，西側に向かって緩やかに傾斜している。中央部が踏み固められている。

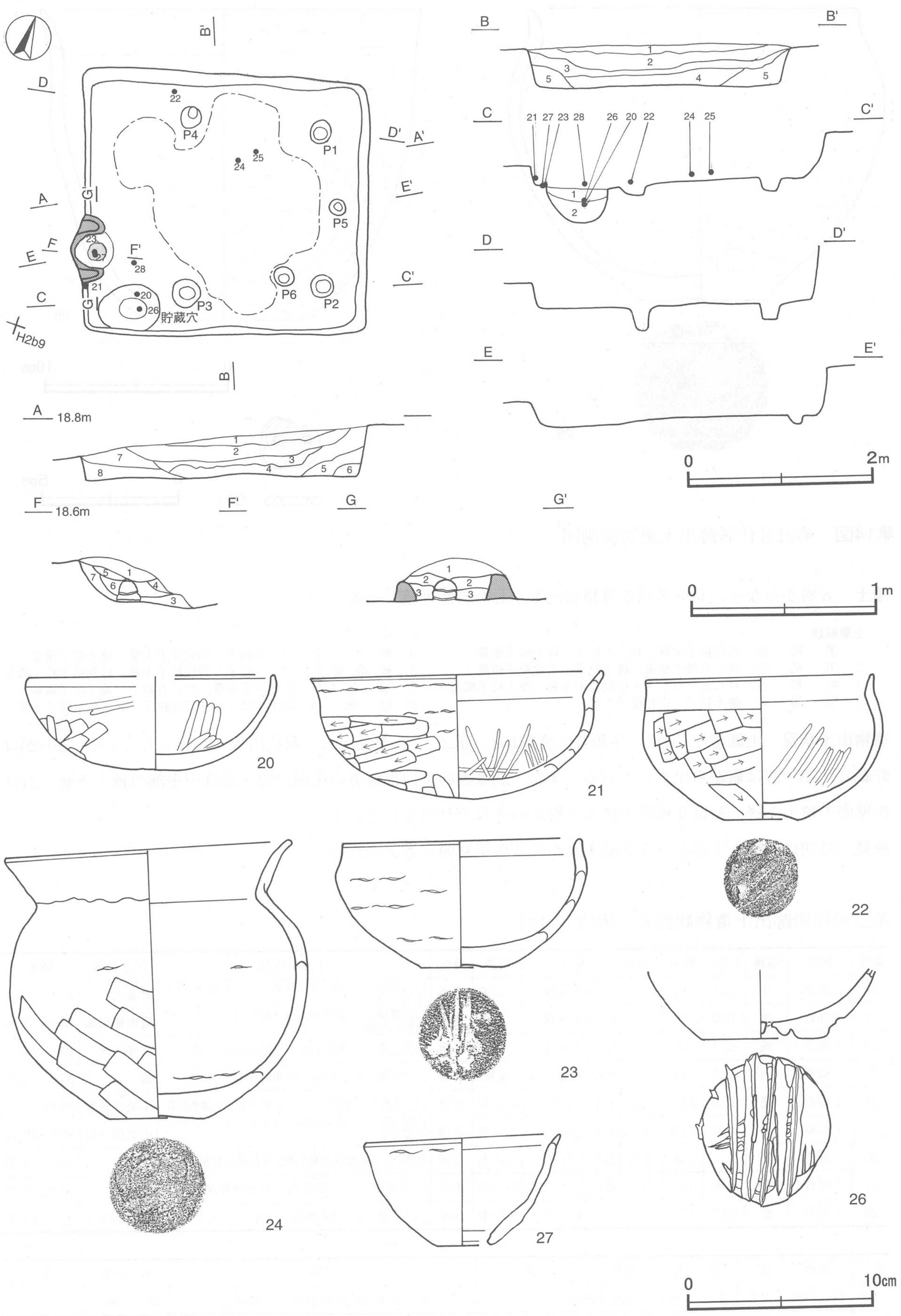
竈　西壁の中央部やや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで45cm，袖部幅70cmである。壁をわずかに掘り込み，袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，わずかに赤変している。煙道部から23と27が重なった状態で出土しており，表面の被熱痕から支脚として使用されたものと考えられる。

竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量・炭化粒子・粘土粒子少量
3　ごく暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量
5　暗　褐　色　粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

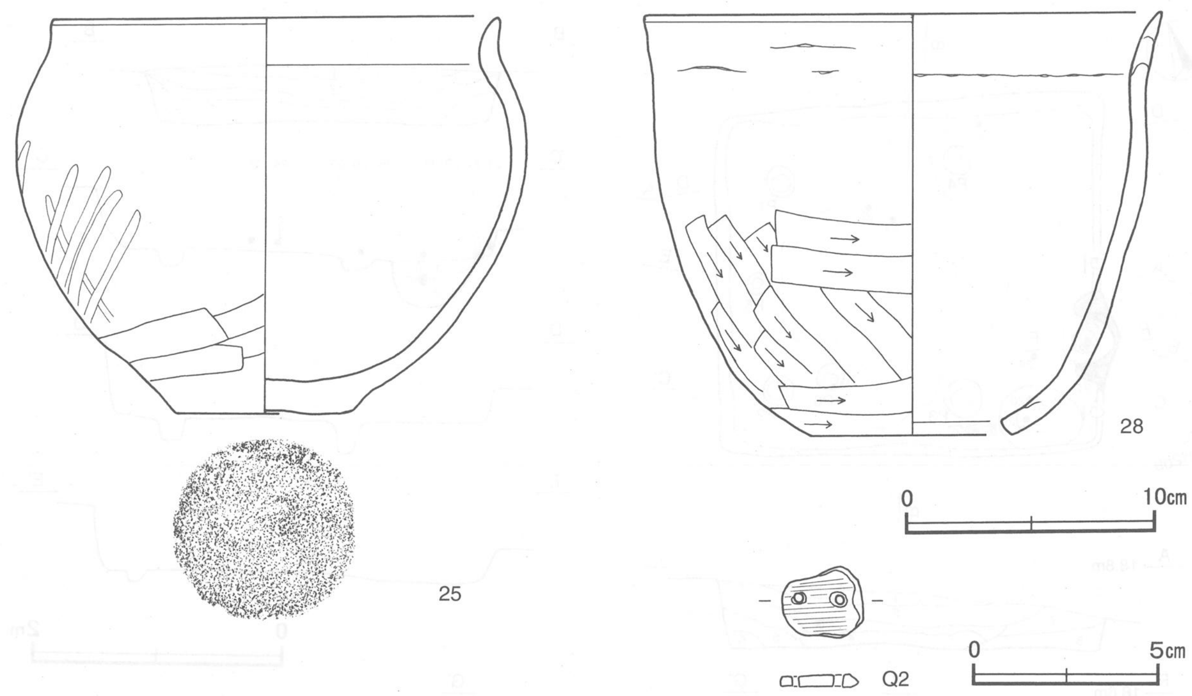
ピット　６か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは15～25cmほどである。Ｐ５は深さ13cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ13cmであるが，性格は不明である。

貯蔵穴　長径55cm，短径50cmの楕円形を呈し，深さは40cmほどで南西コーナー部に位置している。底面はＵ字状を呈し，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



第13図　第21号住居跡・出土遺物実測図



第14図　第21号住居跡出土遺物実測図

覆土　８層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	黒　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4	暗　褐　色	焼土粒子・炭化粒子少量
5	褐　　　色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6	極 暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量
7	暗　褐　色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
8	暗　褐　色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

遺物出土状況　土師器片151点（坏類47，甕類102，甑２），石製品１点（双孔円板）が出土している。20･26は貯蔵穴，23・27は竈から出土している。また，28は竈の焚口部前方の床面，24・25は中央部の覆土下層，21は西壁際の覆土下層，22は北壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀末葉から６世紀初頭と考えられる。

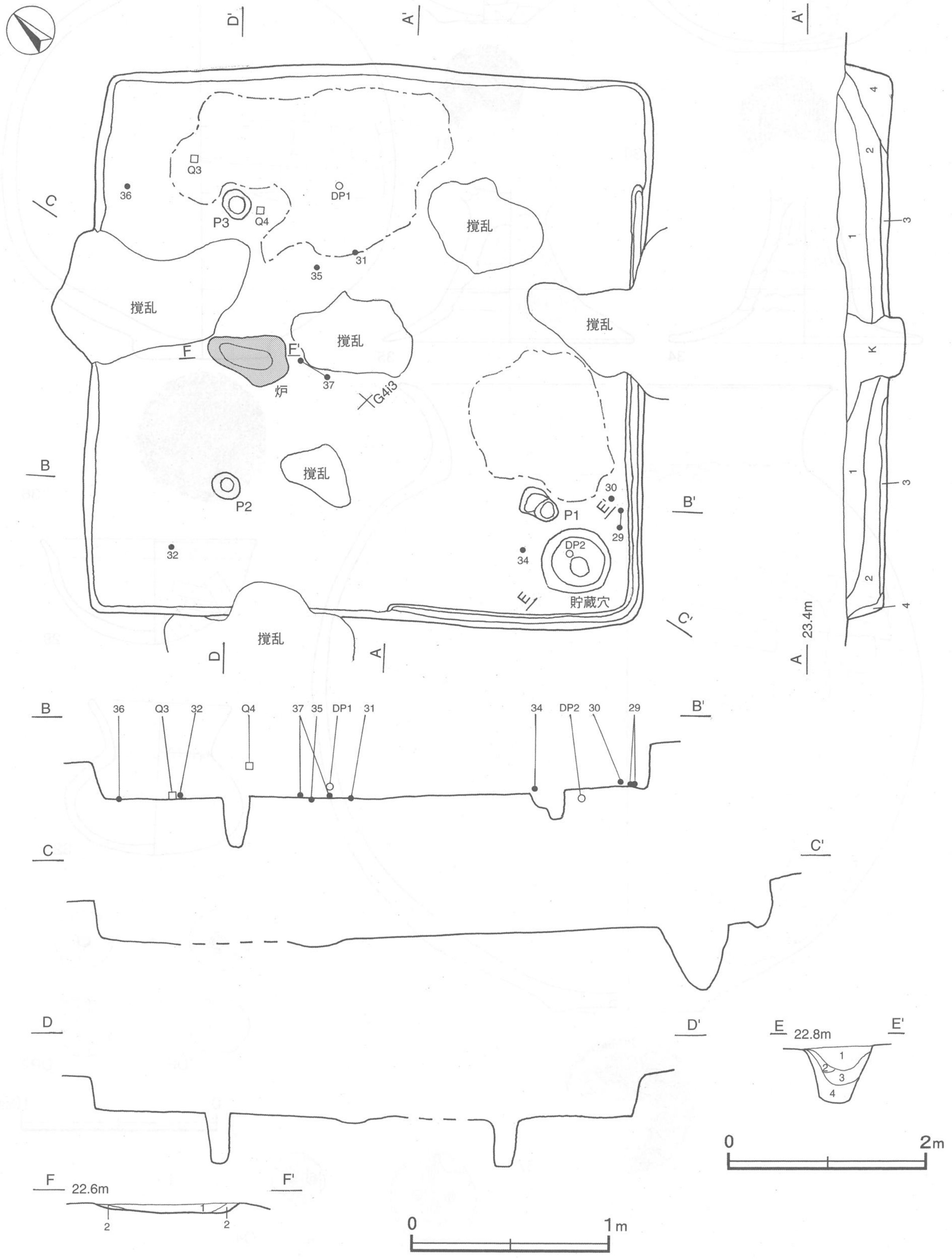
第21号住居跡出土遺物観察表（第13・14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
20	土師器	坏	13.4	5.2		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面上位ヘラ磨き，外面下位ヘラナデ	貯蔵穴	70%　PL24
21	土師器	坏	16.0	6.6		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り・下位ヘラナデ，内面ヘラ磨き	竈南側床面	100%　PL26
22	土師器	椀	12.3	7.8	4.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北壁床面	100%　PL25
23	土師器	椀	12.7	6.8	4.6	長石・石英・雲母	浅黄	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗，底部研磨痕	竈	95%　PL29
24	土師器	甕	15.5	14.9	5.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	中央部下層	100%
25	土師器	甕	18.0	15.9	7.0	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き・下位ヘラナデ，内面ナデ	中央部下層	90%　PL41
26	土師器	甕	－	(3.8)	6.8	長石・石英	にぶい褐	普通	体部内・外面摩耗調整不明，底部砥石転用痕	貯蔵穴	10%　PL36
27	土師器	甑	10.6	6.0	3.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗調整不明	竈	100%　PL36
28	土師器	甑	20.7	17.0	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈手前床面	90%　PL36

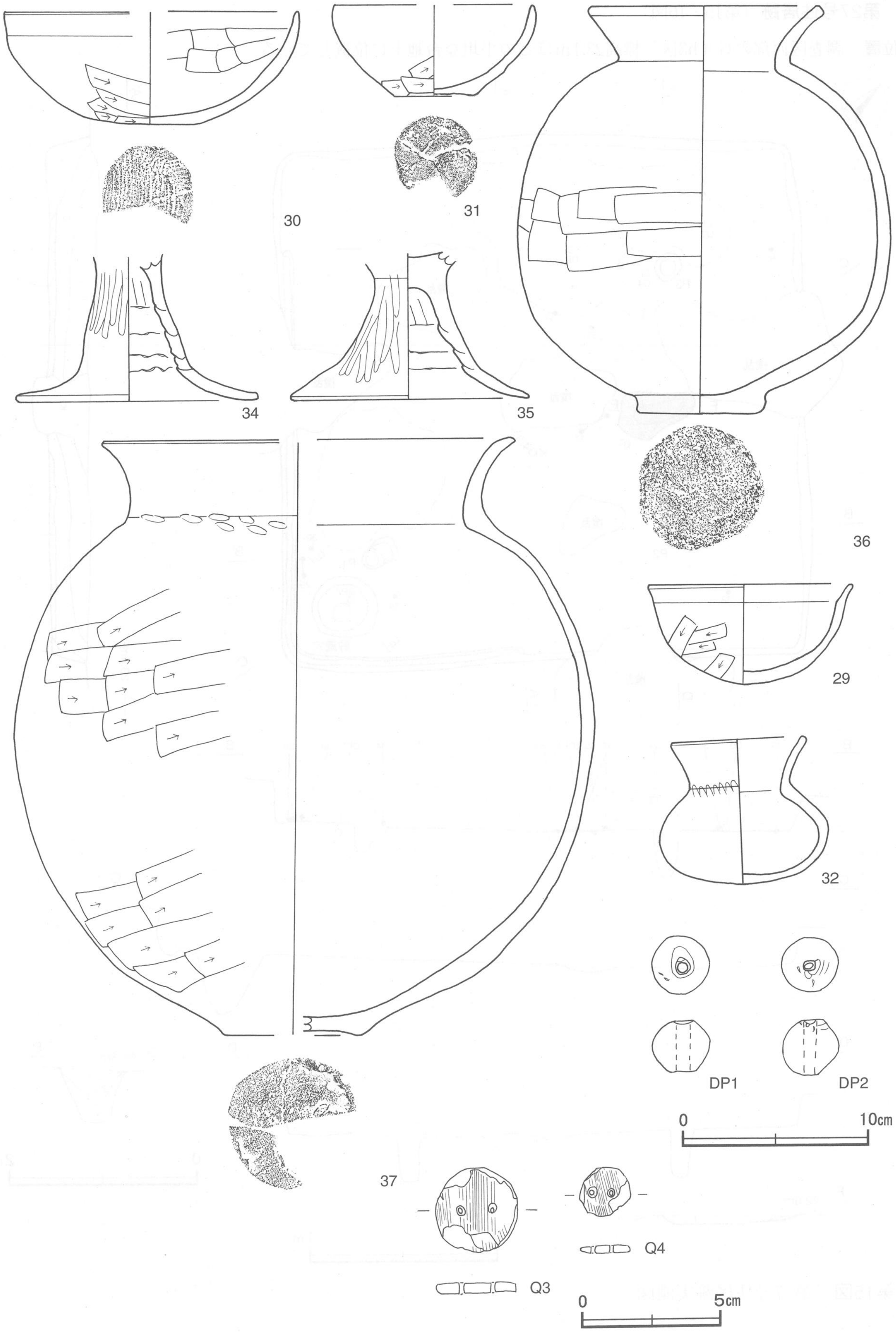
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q２	双孔円板	2.1	2.4	0.4	3.8	滑石	孔径0.23，両面横位の研磨痕，片面穿孔	覆土下層	

第27号住居跡（第15・16図）

位置　調査区西部のＧ４h3区，標高23.1ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第15図　第27号住居跡実測図



第16図　第27号住居跡出土遺物実測図

規模と形状　一辺5.60mほどの方形で，主軸方向はＮ－45°－Ｅである。壁高は38～46cmで，外傾して立ち上がっている。

床　撹乱により大きく壊されているが，ほぼ平坦で，北東壁際，南東壁際が踏み固められている。壁溝は，南コーナー部付近で確認された。

炉　中央部の北西壁寄りに位置している。長径77cm，短径50cmの不整楕円形を呈し，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

ピット　３か所。深さはＰ１・Ｐ３が50cm，Ｐ２が30cmほどであり，主柱穴と考えられる。他の１本は撹乱のため検出されていない。

貯蔵穴　南コーナー部に位置している。径70cmほどの円形で，深さは68cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　にぶい褐色　粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　４層に分層される。覆土全体に土器が散在し，第３層，第４層にロームブロックが比較的多く含まれることから人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片1261点（坏類19，甕類1237，高坏５），土製品（球状土錘２），石製品（双孔円板１）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏４点，土師器甕12点，土師器高坏３，小型壺１点である。31・35・37は中央部，29・30は，南東壁寄り，36は北西壁寄り，32は西コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。また，34は南コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
29	土師器	坏	11.0	5.4		長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	南東壁床面	95%　PL26
30	土師器	坏	[14.5]	6.2	5.0	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	南東壁床面	60%
31	土師器	坏	[10.8]	4.9	4.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ	中央部床面	60%
32	土師器	坩	7.1	7.8		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部縦位ヘラナデ，体部外面摩耗，内面ナデ	西コーナー床面	100% PL36
34	土師器	高坏	－	(7.8)	13.1	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，裾部内・外面ナデ	南コーナー下層	50%
35	土師器	高坏	－	(7.8)	12.6	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，裾部内・外面ナデ	中央部床面	45%
36	土師器	甕	12.3	22.0	6.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面中位ヘラナデ，内面摩耗調整不明	北西壁床面	95%　PL31
37	土師器	甕	[22.0]	32.1	[7.2]	長石	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	中央部床面	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP１	球状土錘	3.0	2.7	0.7	24.1	土製	ナデ，片面穿孔	中央部床面	
DP２	球状土錘	3.0	2.9	0.7	24.4	土製	ナデ，片面穿孔	貯蔵穴	

番号	器種	長さ	厚さ	幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ３	双孔円板	3.4	0.4	3.3	7.6	滑石	孔径0.13，両面縦位の研磨痕，片面穿孔	北コーナー床面	
Ｑ４	双孔円板	1.9	0.3	2.1	2.0	滑石	孔径0.15，両面斜位の研磨痕，片面穿孔	中央部上層	

第29号住居跡（第17・18図）

位置　調査区西部のＧ４e5区，標高23.0ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.15ｍ，短軸2.90ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－80°－Ｅである。壁高は６～16㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際以外は踏み固められている。

炉　中央部に位置している。長径75㎝，短径51㎝の不整楕円形を呈し，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
１　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
２　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　２か所。ともに深さは33㎝ほどであり，主柱穴である。柱穴の位置から，上屋は棟持ち柱の構造と考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径40㎝，短径34㎝の楕円形で，深さは24㎝である。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

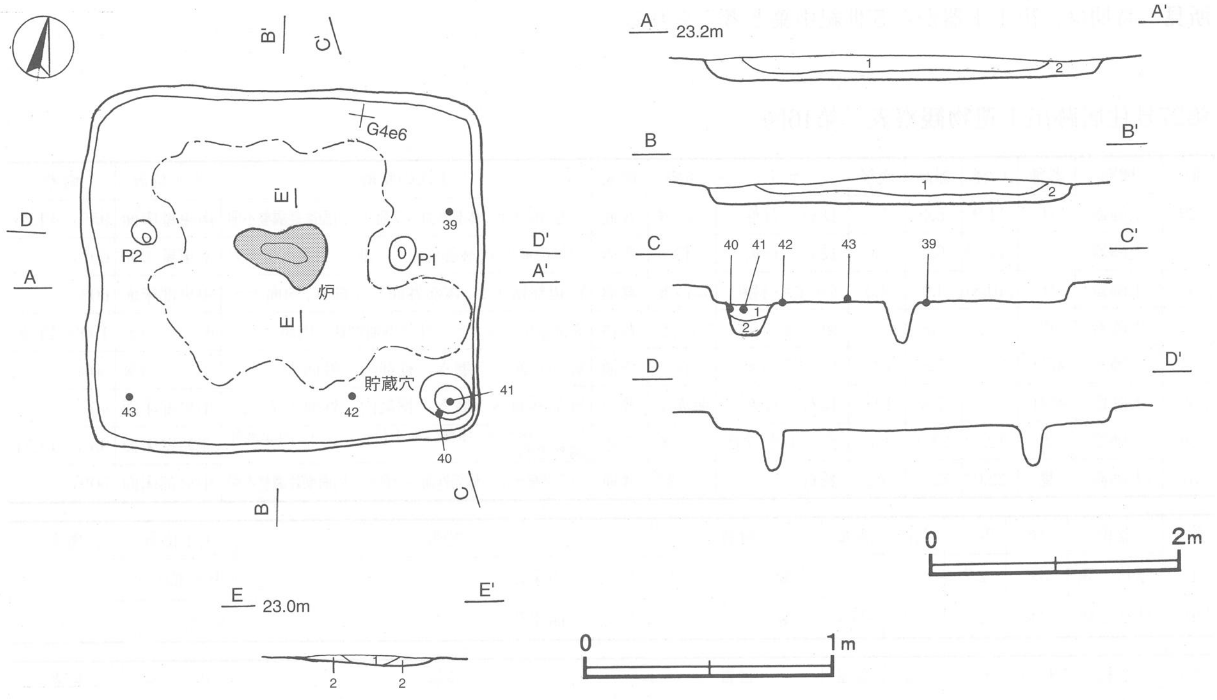
貯蔵穴土層解説
１　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
２　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

覆土　２層に分層される。覆土が薄いため明確に断定できないが，ローム粒子を含んだ自然堆積と考えられる。

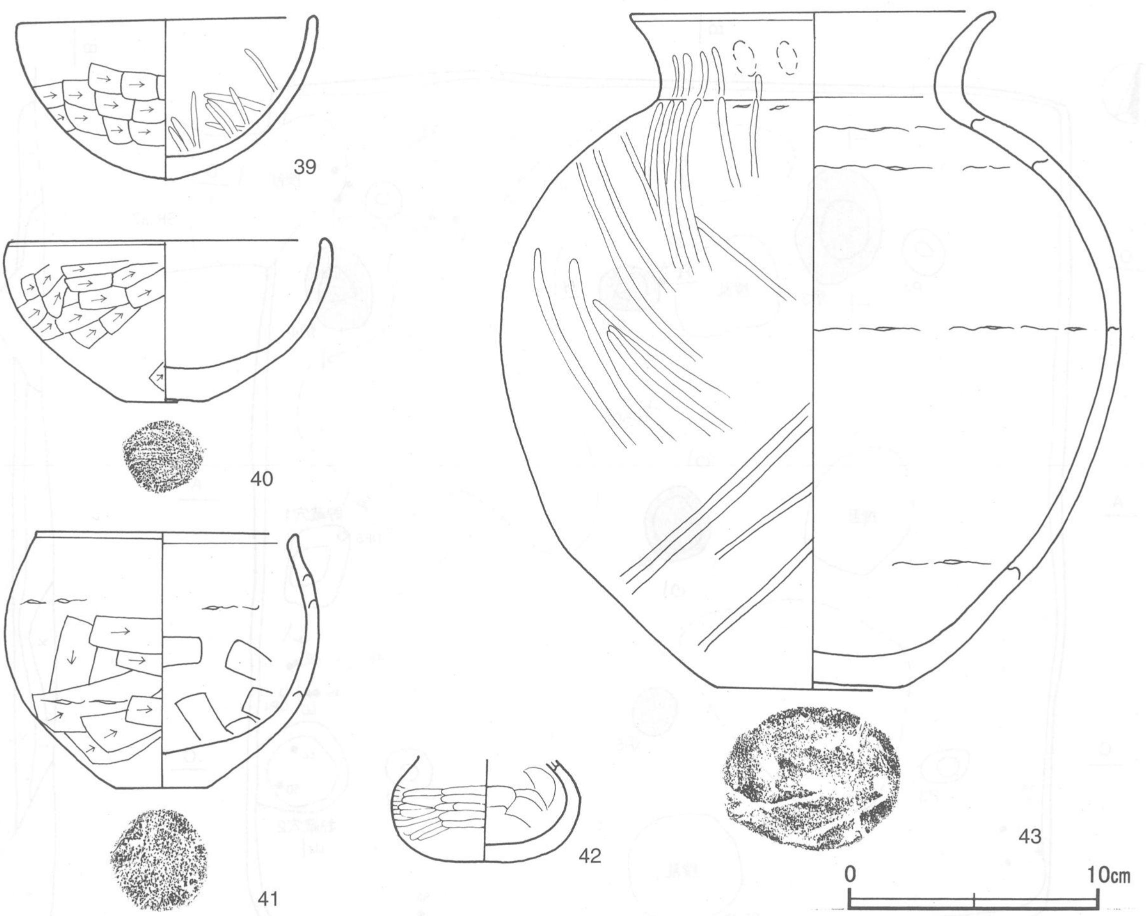
土層解説
１　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
２　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片56点（坏類15，甕類40，坩１）が出土している。40・41は貯蔵穴覆土上層から出土している。39は東壁寄り，42は南壁寄り，43は南西コーナー寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第17図　第29号住居跡実測図



第18図　第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
40	土師器	坏	12.7	6.4	3.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	貯蔵穴	98%　PL27
39	土師器	椀	11.7	6.5		長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	東壁床面	100% PL27
41	土師器	椀	10.4	10.3	3.5	石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	貯蔵穴	98%　PL25
42	土師器	坩	−	(4.2)		長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	南壁床面	50%
43	土師器	甕	[14.6]	27.2	7.0	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，頸部から体部外面ヘラミガキ，内面ナデ	南西コーナー床面	70%　PL29

第31号住居跡（第19～21図）

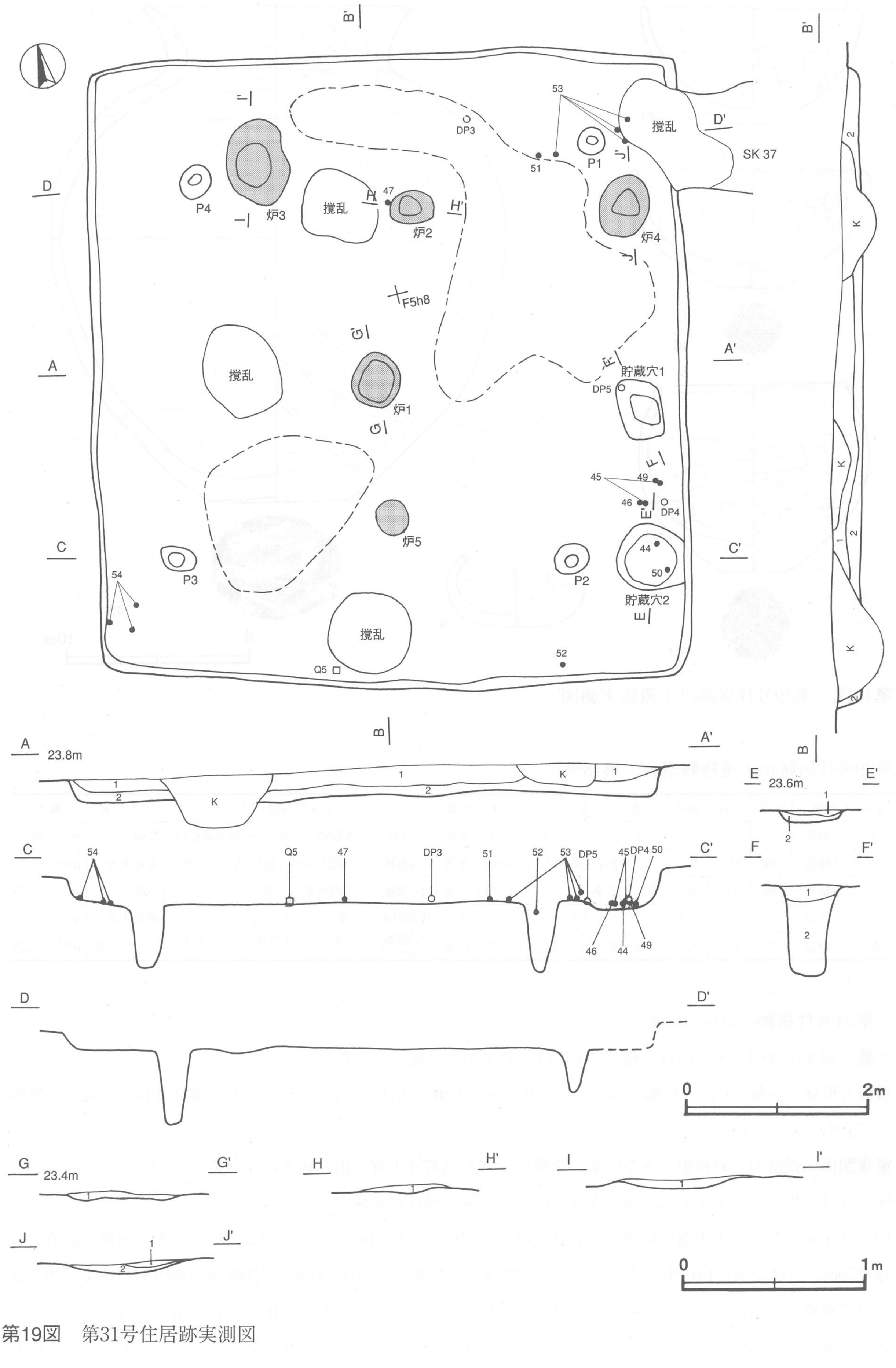
位置　調査区西部のＦ５h7区，標高23.6ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸6.95ｍ，短軸6.55ｍほどの方形で，主軸方向はＮ−10°−Ｅである。壁高は13～43㎝で，外傾して立ち上がっている。

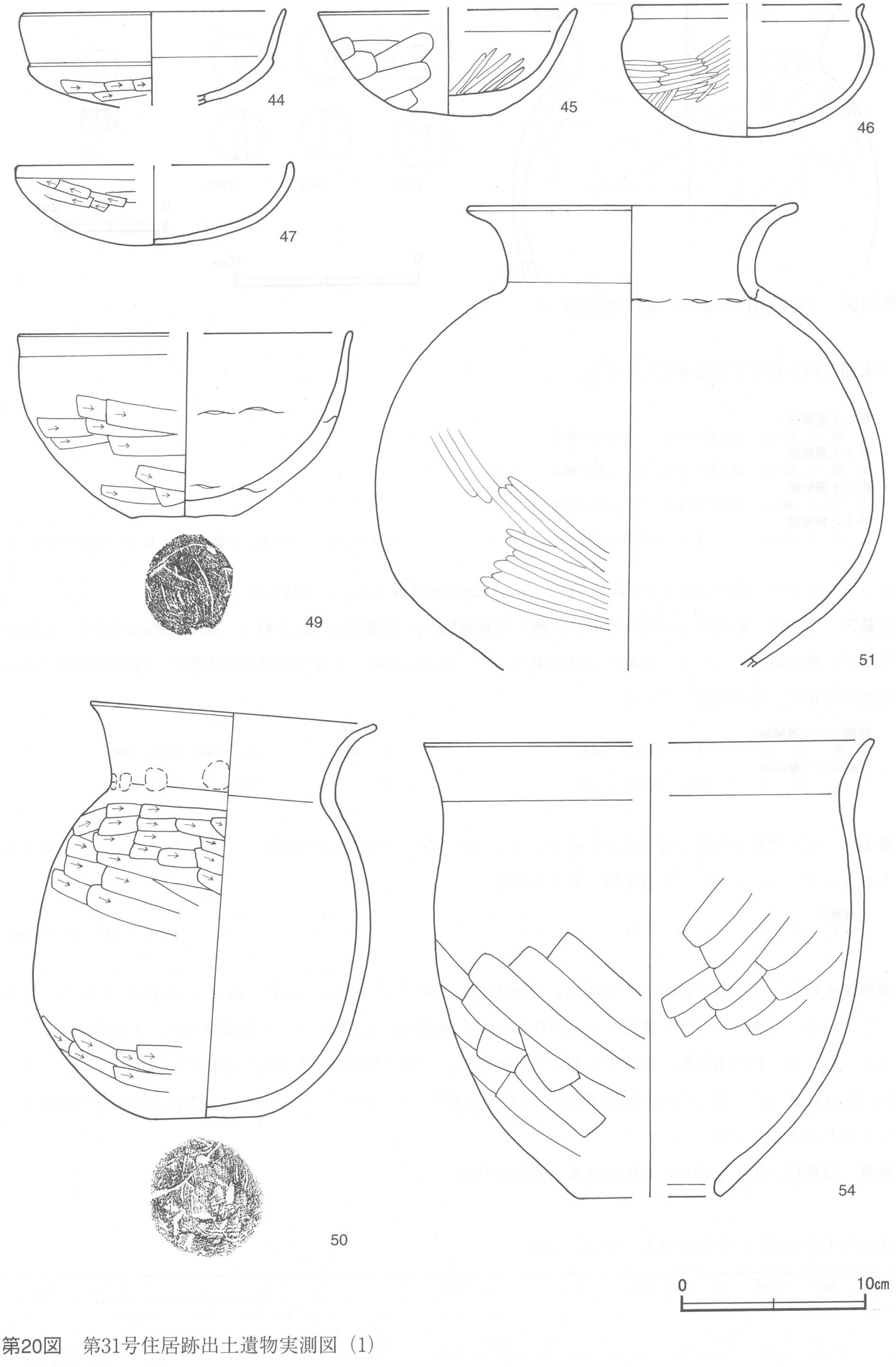
重複関係　攪乱のため断定できないが，東壁の一部を第37号土坑に掘り込まれている。

床　ほぼ平坦で，炉１とＰ１の間及び炉１とＰ３の間に硬化面が見られる。

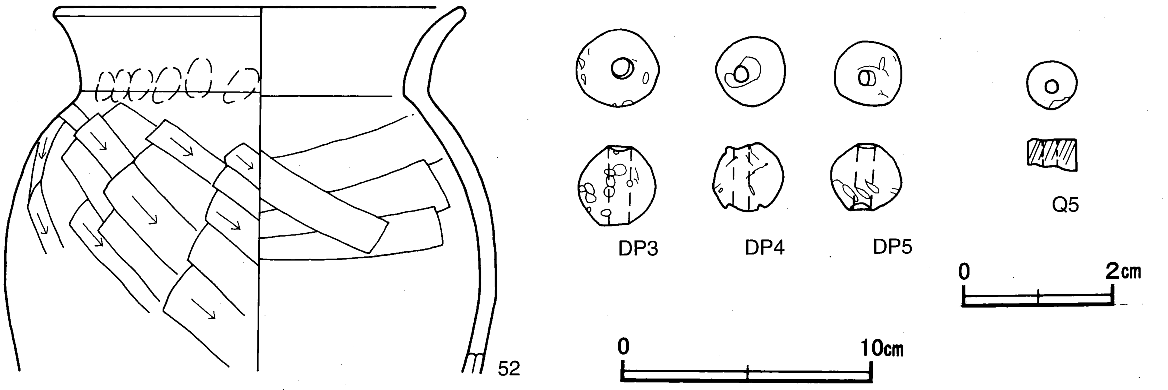
炉　５か所。炉１は中央部に位置し，長径65㎝，短径53㎝の楕円形である。炉２は炉１と北壁の間に位置し，長径50㎝，短径35㎝の楕円形である。炉３は北壁寄りに位置し，長径100㎝，短径68㎝の楕円形である。炉４は中央部東壁寄りに位置し，長径69㎝，短径55㎝の楕円形である。いずれも，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。また，炉５は炉１と南壁の間に位置し，径42㎝ほどの円形



第19図　第31号住居跡実測図



第20図　第31号住居跡出土遺物実測図（1）



第21図　第31号住居跡出土遺物実測図（2）

で床面と同じ高さで赤変硬化している。

炉１土層解説
１　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
炉２土層解説
１　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子微量
炉３土層解説
１　明赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
炉４土層解説
１　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量　　２　極暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　４か所。深さはＰ１が46cm，Ｐ２～Ｐ４は80cm前後であり，主柱穴と考えられる。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は東壁寄りに位置した長軸70cm，短軸45cmの長方形で，深さは90cmである。底面は平坦で，壁は直立している。貯蔵穴２は南東コーナー寄りに位置した径70cmほどの円形で，深さは12cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴１土層解説
１　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量　　２　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
貯蔵穴２土層解説
１　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量　　２　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

覆土　２層に分層される。撹乱が多く断定できないが，覆土全体に土器が散在し，ロームブロックを少量から中量含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
１　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量　　２　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片1504点（坏類336，甕類1163，高坏５），土製品（球状土錘３），石製品（臼玉１）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏８点，椀１点，土師器甕25点，土師器高坏２点である。45・46・49は東壁際，47は中央部，52は南壁寄り，54は西壁際の床面からそれぞれ出土している。また，44・50は貯蔵穴２，DP３は中央部北壁寄り，DP４は東壁寄り，DP５は貯蔵穴１，Ｑ５は南壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀前葉と考えられる。

第31号住居跡出土遺物観察表（第20・21図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
44	土師器	坏	14.3	(5.1)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ	貯蔵穴	80%　PL31
45	土師器	坏	[13.9]	5.6		長石・石英	浅黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き	東壁床面	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
47	土師器	坏	[15.0]	4.4		長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	中央部床面	40%
46	土師器	椀	[12.4]	7.2		長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	東壁床面	40%
49	土師器	椀	[18.0]	10.0	5.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ	東壁床面	50%
50	土師器	甕	15.4	22.8	6.0	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ	貯蔵穴	80%
51	土師器	甕	17.8	(25.4)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	東壁床面	60%
52	土師器	甕	16.4	(14.6)	−	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	南壁床面	30%
54	土師器	甑	[24.4]	24.5	[8.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	西壁床面	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 3	球状土錘	3.3	3.2	0.6	29.5	土製	ナデ，片面穿孔	北壁床面	
DP 4	球状土錘	3.0	2.7	0.6	21.9	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	
DP 5	球状土錘	2.8	2.7	0.6	19.9	土製	ナデ，片面穿孔	貯蔵穴	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	臼玉	0.65	0.38	0.18	0.30	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	

第32号住居跡（第22・23図）

位置　調査区西部のＦ５i3区，標高23.5mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　西壁の一部を第38号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.05m，短軸5.80mほどの方形で，主軸方向はＮ－75°－Ｗである。壁高は40～57cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。また，出入り口と考えられるＰ５と東壁の間と貯蔵穴の西側にやや高まりをもった硬化面が確認できる。

炉　２か所。炉１は中央部からやや西壁寄りに位置し，長径52cm，短径40cmの楕円形である。炉２はＰ１とＰ４の間に位置し，径70cmほどの円形である。いずれも，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉１土層解説
１　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック微量
炉２土層解説
１　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

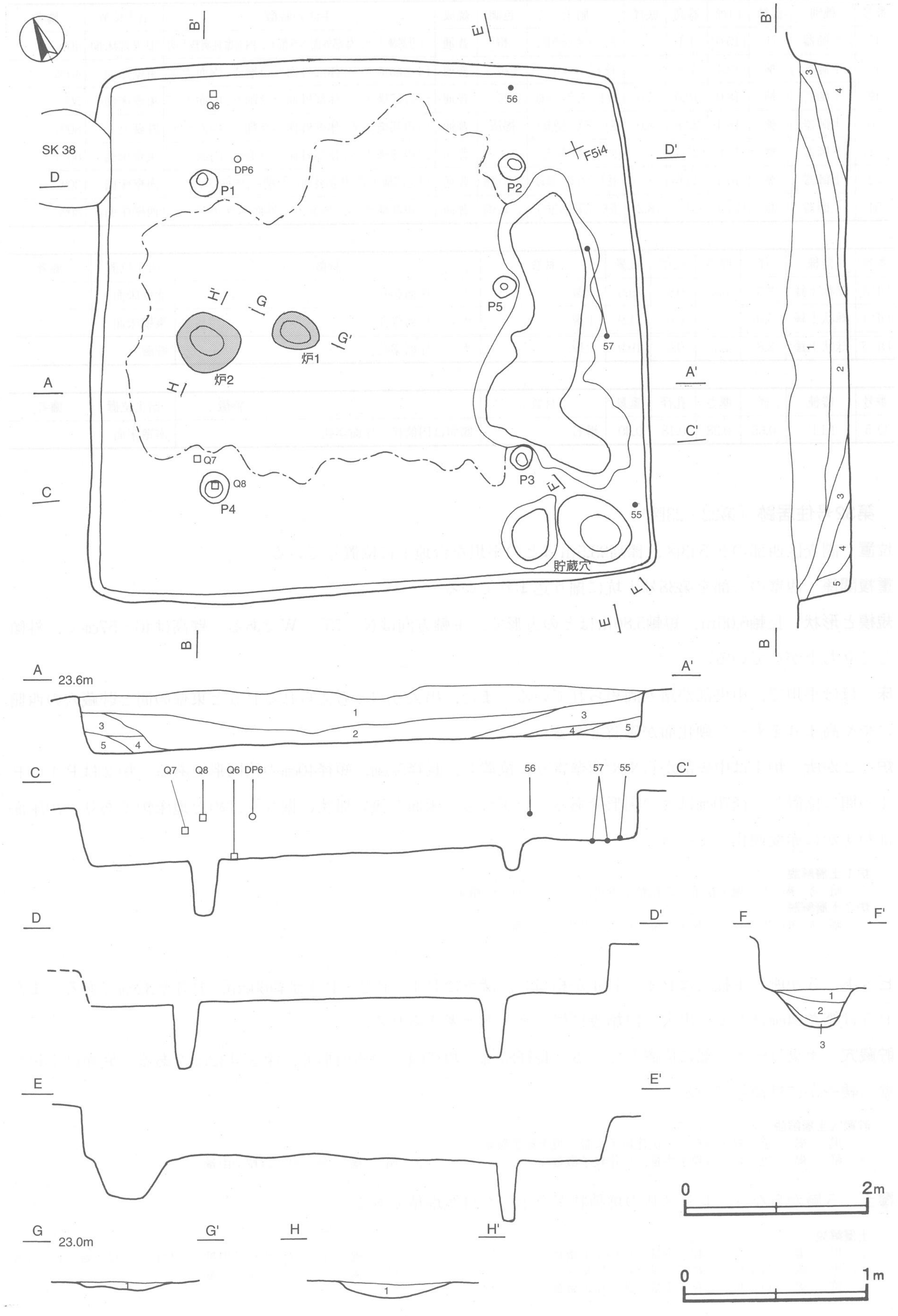
ピット　５か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さはＰ１・Ｐ２・Ｐ４が約60cm，Ｐ３が32cmである。また，Ｐ５は深さ24cmほどで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径87cm，短径64cmの楕円形で，深さは42cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
１　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
２　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
３　暗　褐　色　ローム粒子中量

覆土　５層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

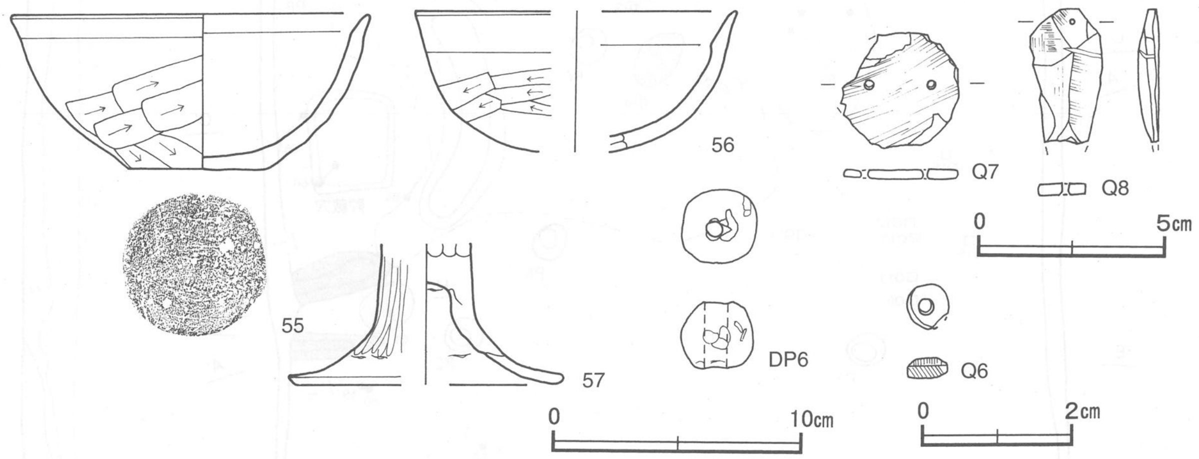
土層解説
１　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
２　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
３　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
４　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
５　暗　褐　色　ローム粒子中量



第22図　第32号住居跡実測図

遺物出土状況　土師器片418点（坏類82，甕類301，高坏35），土製品（球状土錘１），石製品３点（双孔円板1，剣形1，臼玉１）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏４点，土師器甕９点，土師器高坏８点である。55は南コーナー寄り，57は南東壁寄りの床面からそれぞれ出土している。56は北東壁際の覆土上層から出土しており混入である。また，Ｑ７・８・DP６は覆土上層から出土しており，本跡の埋没過程で流れ込んだものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第23図　第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
55	土師器	坏	14.3	6.2	5.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	南コーナー床面	100% PL26
56	土師器	坏	[12.8]	(5.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ナデ	北東壁上層	30%
57	土師器	高坏	－	(5.8)	[11.1]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，裾部内・外面ナデ	南東壁床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP６	球状土錘	3.0	2.7	1.0	25.7	土製	ナデ，片面穿孔	北コーナー上層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ６	臼玉	0.54	0.20	0.15	(0.09)	滑石	側面に稜，片面穿孔，一部欠損	北東壁床面	

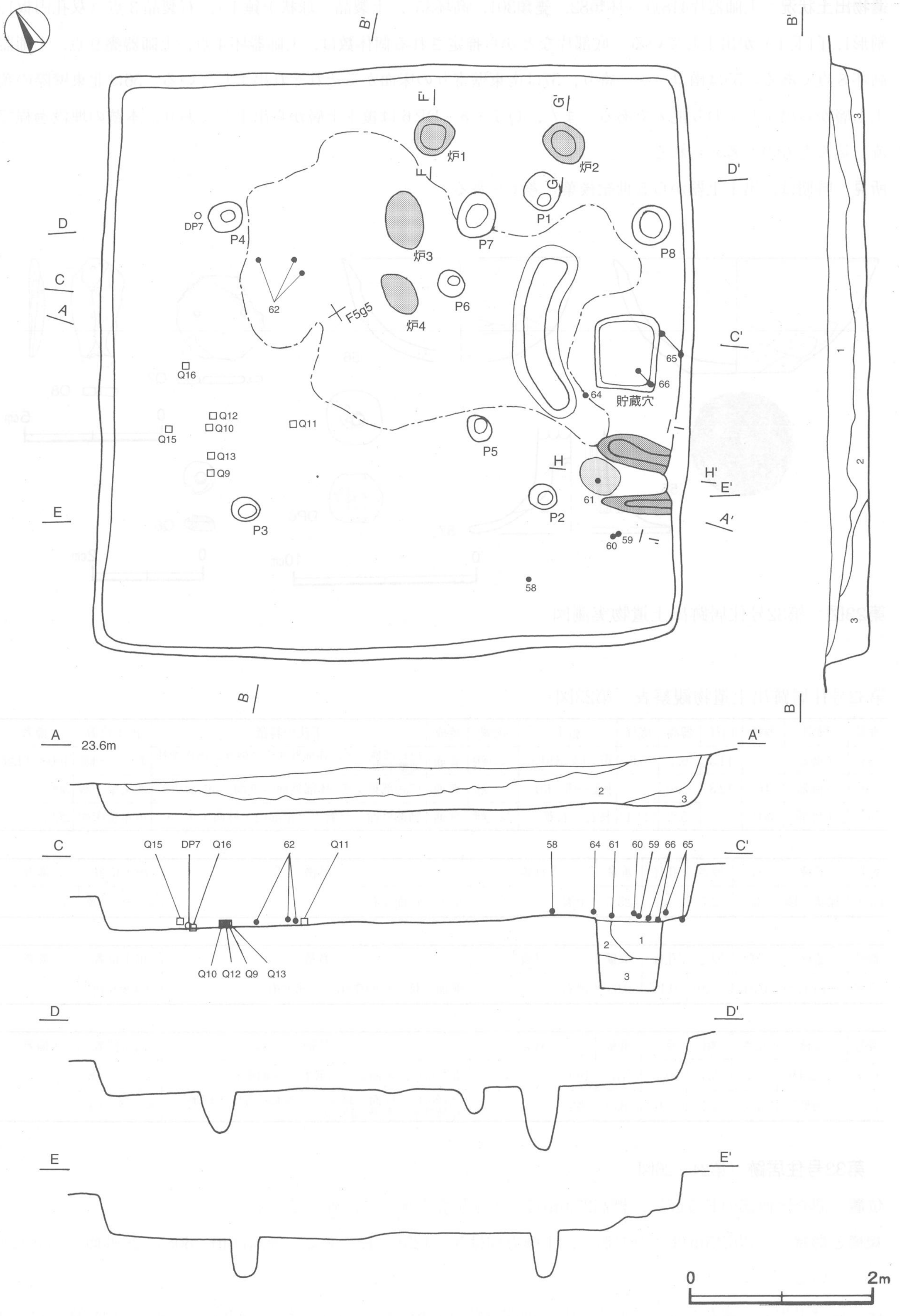
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ７	双孔円板	3.5	(3.4)	0.4	(7.7)	滑石	孔径0.15，表面斜位の研磨，片面穿孔	西コーナー上層	
Ｑ８	剣形	(4.0)	2.1	0.6	(6.8)	滑石	孔径0.12，片面に鎬有り，各面斜方向の研磨，片側穿孔，剣先部欠損	西コーナー上層	

第33号住居跡（第24～26図）

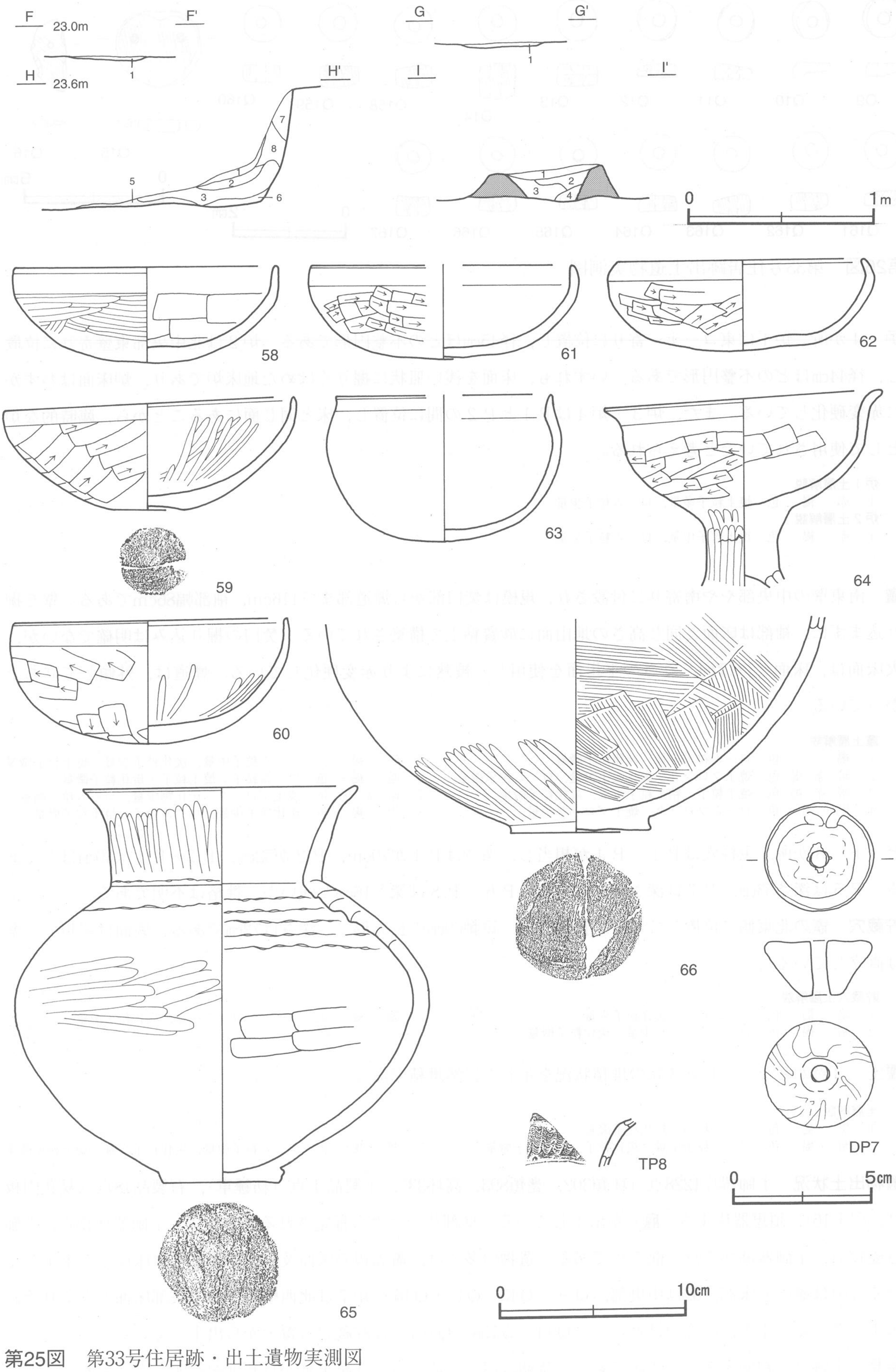
位置　調査区西部のＦ５g5区，標高23.6ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺6.45ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－125°－Ｅである。壁高は40～60㎝で，外傾して立ち上がっている。

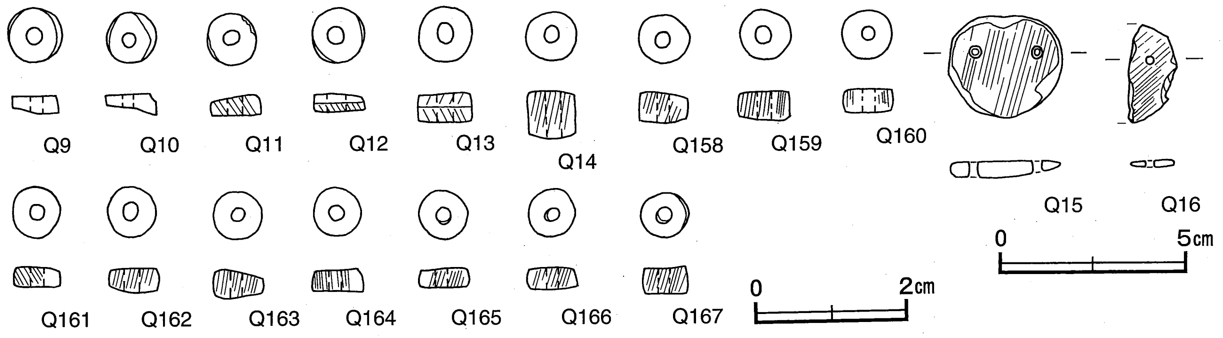
床　ほぼ平坦で，竈左袖部からＰ１・Ｐ２の間は踏み固められている。また，貯蔵穴に面する硬化面には土手状の高まりが確認できる。



第24図　第33号住居跡実測図



第25図　第33号住居跡・出土遺物実測図



第26図　第33号住居跡出土遺物実測図

炉　4か所。炉1は東コーナー寄りに位置し，径45cmほどの不整円形である。炉2は北中央部東壁寄りに位置し，径44cmほどの不整円形である。いずれも，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。また，炉3・炉4はP1とP2の間に位置し，床と同じ面にあることから，臨時的な炉として使用されていたと考えられる。

炉1土層解説
1　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子少量
炉2土層解説
1　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量

竈　南東壁の中央部やや南寄りに付設され，規模は焚口部から煙道部まで116cm，袖部幅86cmである。壁を掘り込まずに，袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。焚口の掘り込みは明確でないが，火床面は，床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，被熱により赤変硬化している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　褐　　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量
8　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　8か所。主柱穴はP1～P4が相当し，深さはP1が70cm，P2が52cm，P3・P4は40cmほどである。P5は深さ53cm，P7は深さ74cmと深く，P6・P8は深さ16cmと浅いが，性格は不明である。

貯蔵穴　竈の北東側に位置している。長軸84cm，短軸69cmの長方形で，深さは72cmである。底面は平坦で，壁は直立している。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

覆土　3層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片1228点（坏類302，甕類893，高坏33），土製品1点（紡錘車），石製品18点（双孔円板2，臼玉16），須恵器片1点（𤭯）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏13点，土師器甕15点，土師器高坏5点，甑1点である。遺物の多くは，竈周辺の床面及び北西壁寄りの床面から出土している。61は竈の火床部，62は中央部，Q9～Q13・Q15・Q16・DP7は北西壁寄りの中央部床面からそれぞれ出土している。また，臼玉のほとんど（Q14・Q158～Q167）は貯蔵穴の覆土から出土している。

所見　本跡は，初期竈をもつ住居であり，時期は出土土器から5世紀末葉から6世紀初頭と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表（第25・26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
58	土師器	坏	14.1	5.1		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	南西壁床面	98%　PL24
59	土師器	坏	15.7	6.1	3.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈南側床面	98%　PL24
60	土師器	坏	14.8	6.5		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	竈南側床面	97%　PL29
61	土師器	坏	[14.2]	5.0	2.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈	70%
62	土師器	坏	13.3	5.0		長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ナデ	中央部床面	60%　PL24
63	土師器	椀	[11.6]	7.9		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗調整不明	P3覆土上層	70%
64	土師器	高坏	15.0	(10.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，坏部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ，脚部外面ヘラ磨き	竈北側床面	70%
65	土師器	甕	14.8	21.2	6.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口辺部・体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	東壁床面	80%
66	土師器	甕	－	(11.4)	7.4	長石・石英・赤色粒子	暗黒褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ハケ目調整	東壁床面	50%
TP 8	須恵器	𤭯	－	(2.6)	－	長石	灰	普通	頸部片，18本の櫛歯状工具による波状文	中央部上層	PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 7	紡錘車	4.3	2.2	0.7	30.4	土製	最小径1.6，円錐台形，側面ヘラ磨き	北西壁床面	PL43

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	臼玉	0.66	0.21	0.17	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北西壁床面	PL44
Q10	臼玉	0.65	0.29	0.16	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北西壁床面	PL44
Q11	臼玉	0.65	0.26	0.16	0.20	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北西壁床面	PL44
Q12	臼玉	0.67	0.25	0.16	0.19	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北西壁床面	PL44
Q13	臼玉	0.68	0.36	0.17	0.32	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北西壁床面	PL44
Q14	臼玉	0.64	0.60	0.18	0.43	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q158	臼玉	0.62	0.39	0.18	0.25	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q159	臼玉	0.64	0.36	0.17	0.26	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q160	臼玉	0.63	0.28	0.18	0.18	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q161	臼玉	0.64	0.29	0.18	0.19	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q162	臼玉	0.64	0.33	0.18	0.21	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q163	臼玉	0.63	0.35	0.17	0.20	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q164	臼玉	0.63	0.32	0.16	0.21	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q165	臼玉	0.63	0.24	0.18	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q166	臼玉	0.65	0.27	0.18	0.18	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44
Q167	臼玉	0.62	0.34	0.18	0.23	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	貯蔵穴	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	双孔円板	3.3	3.0	0.5	8.2	滑石	孔径0.20，表面縦位の研磨，裏面横位の研磨，片面穿孔	北西壁床面	
Q16	有孔円板	(1.3)	2.9	0.2	(1.0)	滑石	孔径0.20，両面縦位の研磨，片面穿孔，1/2欠損	北西壁床面	

第34号住居跡（第27図）

位置　調査区西部のＦ５i5区，標高23.7ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第１号不明遺構に北西部から南東部を掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.80ｍ，短軸4.05ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－85°－Ｗである。壁高は26～32㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉周辺の中央部が踏み固められている。

炉　中央部の東寄りに位置し，長径78㎝，短径46㎝ほどの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床

炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量

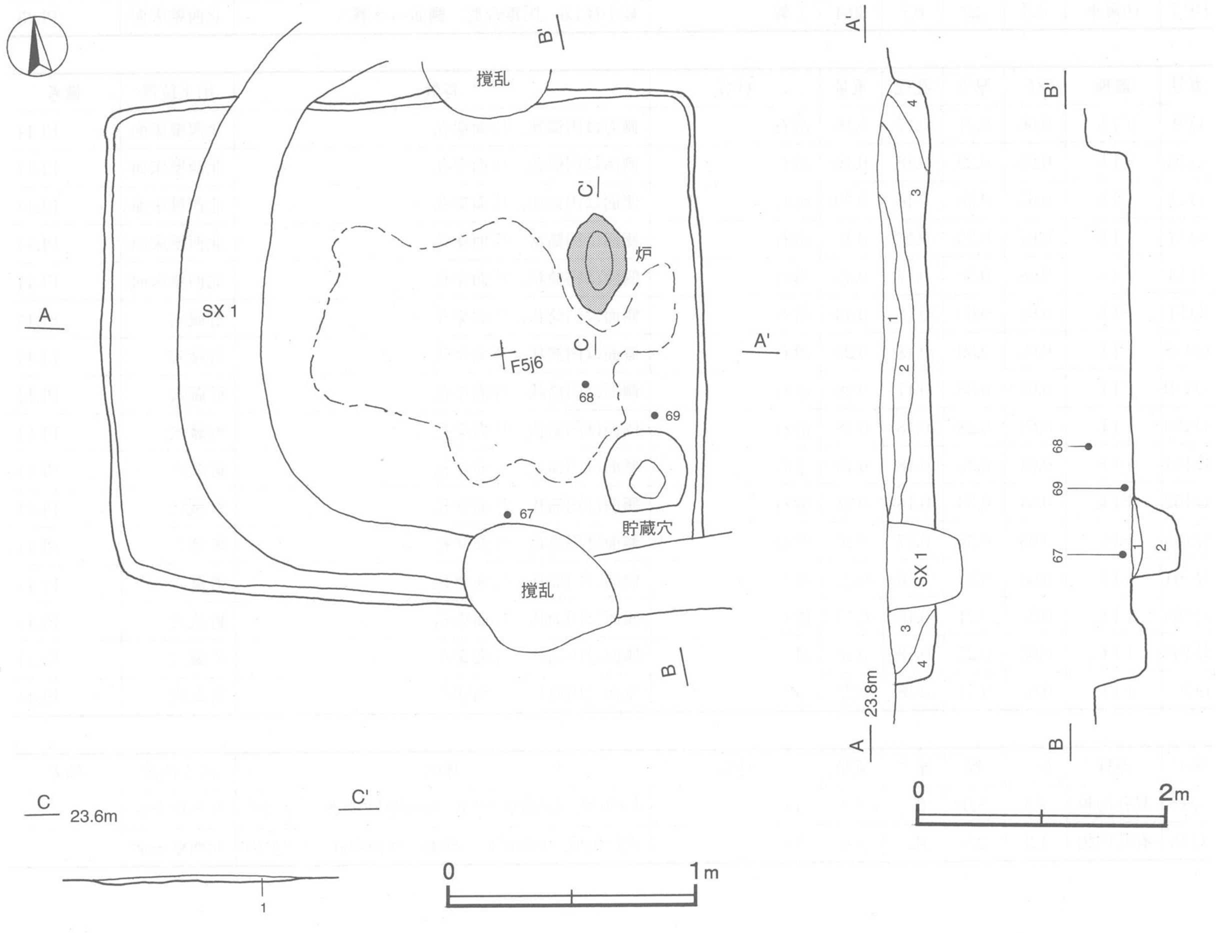
ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

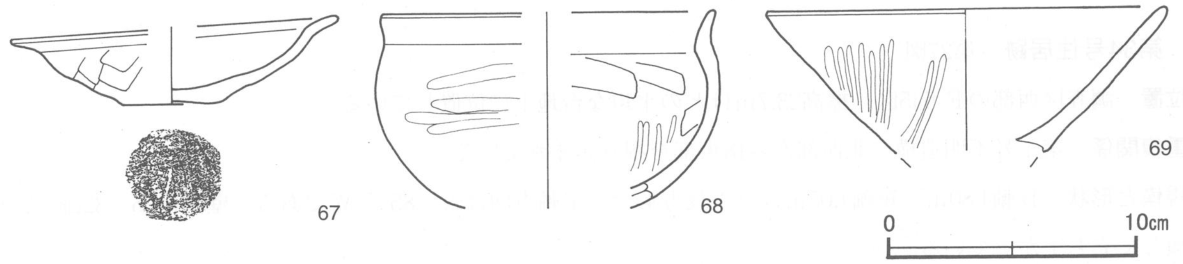
貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長軸65cm，短軸60cmの長方形で，深さは37cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

覆土　4層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量





第27図　第34号住居跡・出土遺物跡実測図

遺物出土状況　土師器片754点（坏類175，甕類565，高坏14)が出土しているが，ほとんどが細片である。67は南壁寄りの床面，68は中央部東壁寄りの覆土中層，69は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。

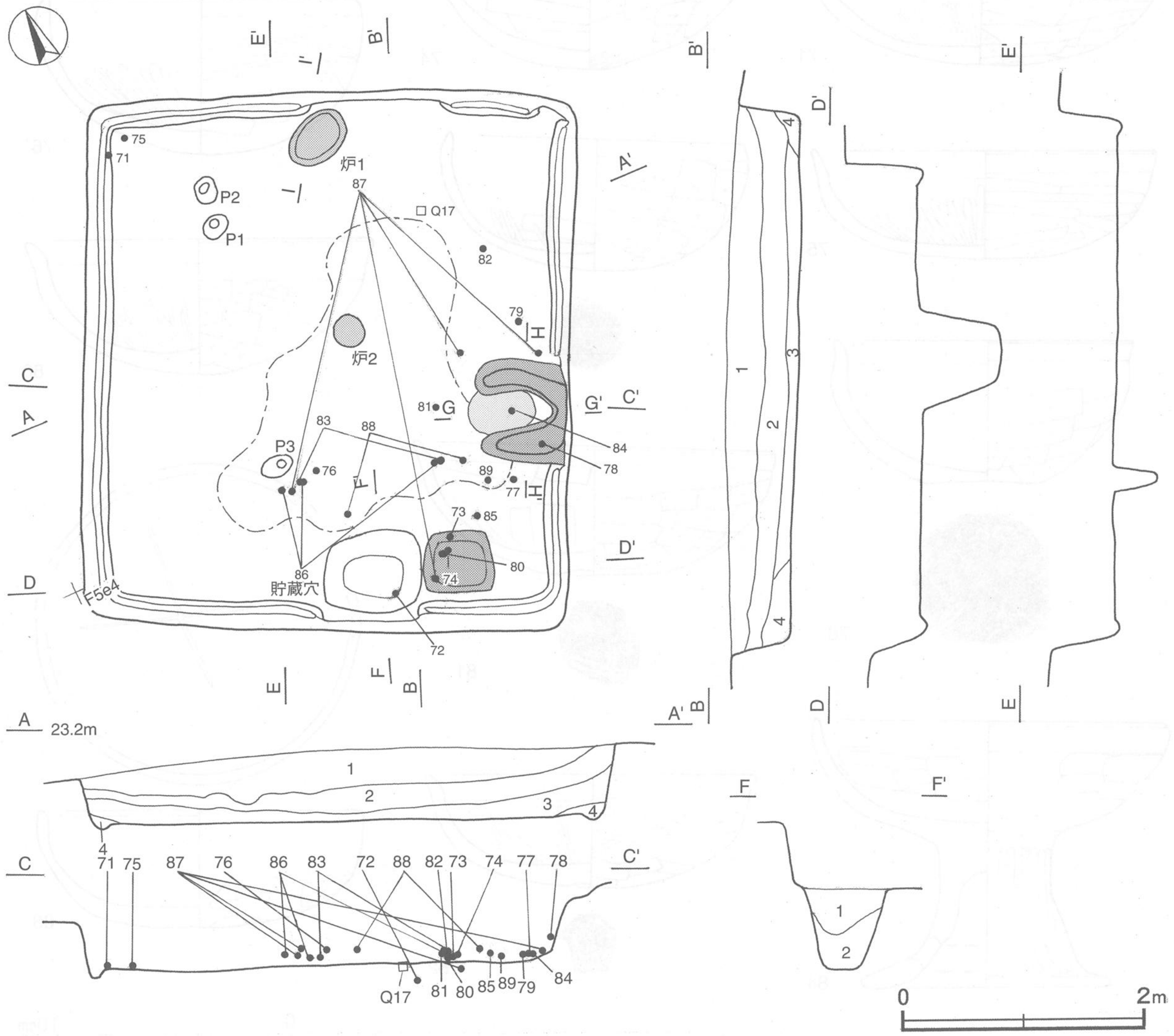
第34号住居跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
67	土師器	坏	[13.2]	3.5	4.2	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	南壁下層	60%
68	土師器	椀	[13.4]	(7.8)		長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ後ヘラ磨き	東壁中層	45%
69	土師器	高坏	16.0	(5.7)		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	東壁下層	30%

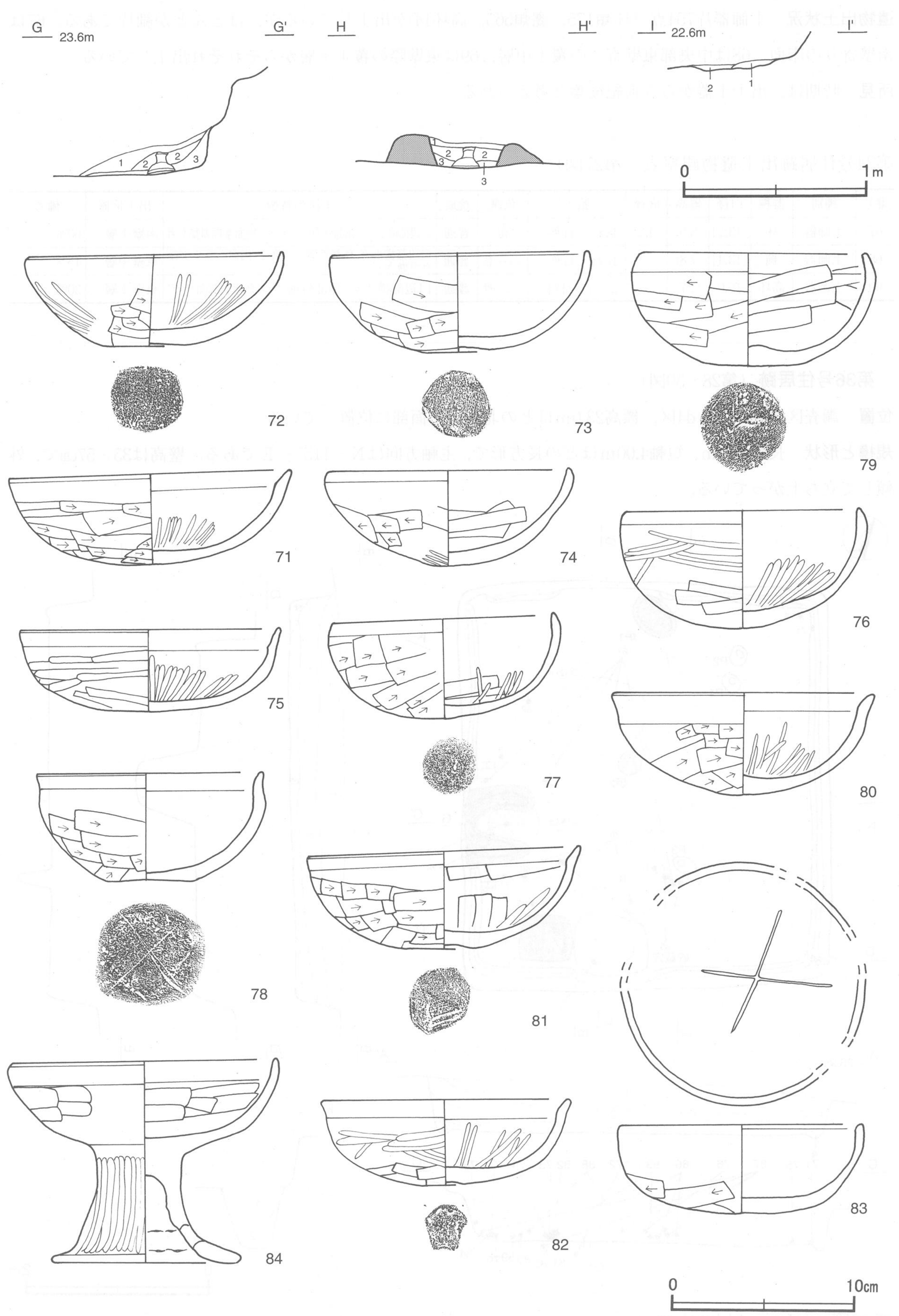
第36号住居跡（第28～30図）

位置　調査区西部のＦ５d4区，標高23.0ｍほどの北への斜面部に位置している。

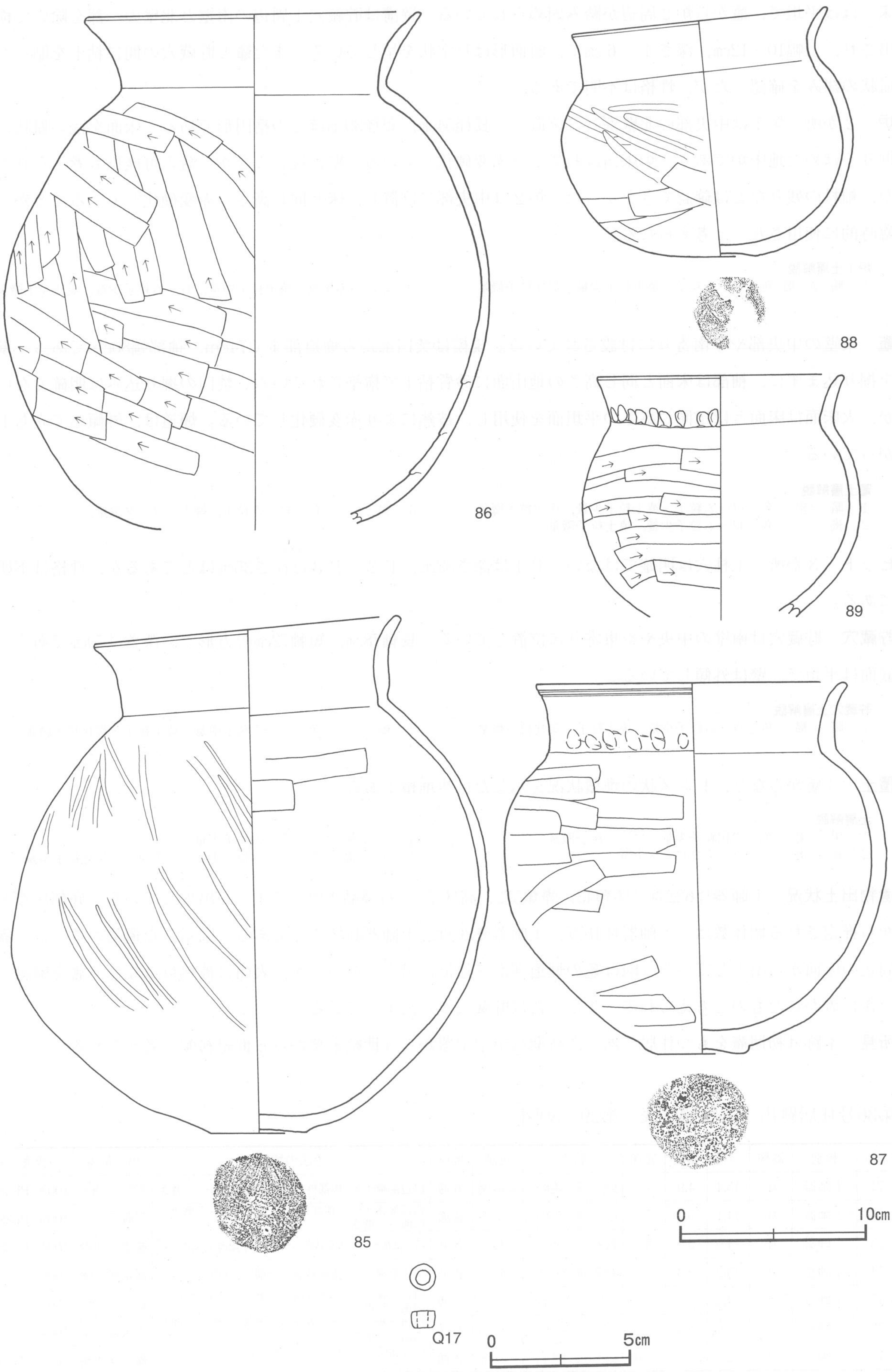
規模と形状　長軸4.55ｍ，短軸4.00ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－115°－Ｅである。壁高は35～57㎝で，外傾して立ち上がっている。



第28図　第36号住居跡実測図



第29図　第36号住居跡・出土遺物実測図



第30図　第36号住居跡出土遺物実測図

床　ほぼ平坦で，竈から炉２周辺が踏み固められている。壁溝は貯蔵穴１周辺の南壁と北壁の一部を除いて検出され，上幅10～12cm，深さ４～６cmで，断面形はＵ字状を呈している。また竈と貯蔵穴の間に粘土を貼った皿状の窪みを確認したが，性格は不明である。

炉　２か所。炉１は中央部の北壁寄りに位置し，長径54cm，短径39cmほどの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。壁に近いことから竈の可能性も考えられたが，袖材の残りなどは確認できなかった。炉２は中央部に位置し，床と同じ高さで赤変硬化していることから，臨時的に使用されたと考えられる。

炉１土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

竈　東壁の中央部やや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで74cm，袖部幅80cmである。壁を掘り込まずに，袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。焚口の掘り込みは明確でないが，火床面は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，被熱により赤変硬化している。煙道は，外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　褐色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐色　ローム粒子，焼土ブロック少量

ピット　３か所。主柱穴は明確ではない。Ｐ１は深さ52cm，Ｐ２・Ｐ３は深さ35cmほどであるが，性格は不明である。

貯蔵穴　貯蔵穴は南壁の中央やや東寄りに位置している。長軸78cm，短軸72cmの方形で，深さは70cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　４層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子少量
4　暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片622点（坏類43，甕類572，高坏７），石製品１点（臼玉）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏16点，土師器甕20点，土師器高坏４点である。図示した遺物の多くは，竈周辺の床面から出土している。84は竈の煙道部から逆位に出土しているが，表面に被熱痕はなく，竈を廃絶した後に置かれたものと考えられる。また，72は貯蔵穴から出土している。

所見　本跡は初期竈をもつ住居であり，時期は出土土器から５世紀末葉から６世紀初頭と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表（第29・30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
71	土師器	坏	15.4	4.9		長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラ磨き	北コーナー床面	100% PL24
72	土師器	坏	14.1	5.1	3.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き	貯蔵穴	100% PL29
73	土師器	坏	14.0	5.0	3.5	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	竈手前下層	100% PL28
74	土師器	坏	13.2	5.3		石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ	竈南側下層	100% PL24
75	土師器	坏	14.2	4.5		長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ磨き・下位ヘラ削り,内面ヘラ磨き	北コーナー床面	100%
76	土師器	坏	13.0	6.4		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ磨き・下位ヘラ削り,内面ヘラ磨き	中央部下層	100% PL25
77	土師器	坏	12.4	5.2	2.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ後ヘラ磨き	竈南側下層	100% PL24

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
78	土師器	坏	12.2	5.9	4.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明，底部ヘラ書き	竈袖部	100% PL28
79	土師器	坏	12.3	6.0	5.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	竈北側床面	100% PL27
80	土師器	坏	14.4	5.5		長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南西壁下層	95% PL24
81	土師器	坏	15.0	5.6	3.4	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ後ヘラ磨き	竈手前床面	90% PL24
82	土師器	坏	13.4	4.7	2.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き・下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き	中央部床面	90% PL31
83	土師器	坏	13.2	4.8		長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面下位ヘラ削り，内面摩耗調整不明，内面ヘラ書き	中央部床面	90% PL28
84	土師器	高坏	14.4	11.1	9.8	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部横ナデ，坏部内・外面ヘラナデ，脚部外面ヘラ磨き，裾部横ナデ	竈	95%
85	土師器	甕	16.5	27.5	5.1	長石・石英	浅黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	竈南側下層	70% PL33
86	土師器	甕	18.0	(27.4)	−	長石	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	中央部下層	70% PL33
87	土師器	甕	16.3	19.8	5.4	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ	中央部下層	70% PL31
88	土師器	小型甕	13.8	12.8	[3.3]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ後ヘラ磨き，内面ナデ	中央部床面	80% PL30
89	土師器	小型甕	13.2	(12.9)	−	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面剥離	竈南側床面	80%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q17	臼玉	0.43	0.30	0.19	0.06	滑石	側面は円錐状，片面穿孔	中央部床面	

第37号住居跡（第31・32図）

位置　調査区西部のＦ５c8区，標高23.3ｍほどの北への斜面部に位置している。

規模と形状　長軸6.05ｍ，短軸5.15ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－25°－Ｅである。壁高は10～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部及び炉２から南東壁にかけて踏み固められている。

炉　３か所。炉１は北東壁とＰ１の間に位置し，長径35cm，短径29cmほどの楕円形である。炉２は中央部に位置し，長径100cm，短径65cmほどの不整楕円形である。ともに床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。炉３はＰ６近くに位置し，長径42cm，短径27cmほどの楕円形であるが，掘り込みはほとんど見られない。

炉１土層解説
１　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
炉２土層解説
１　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量

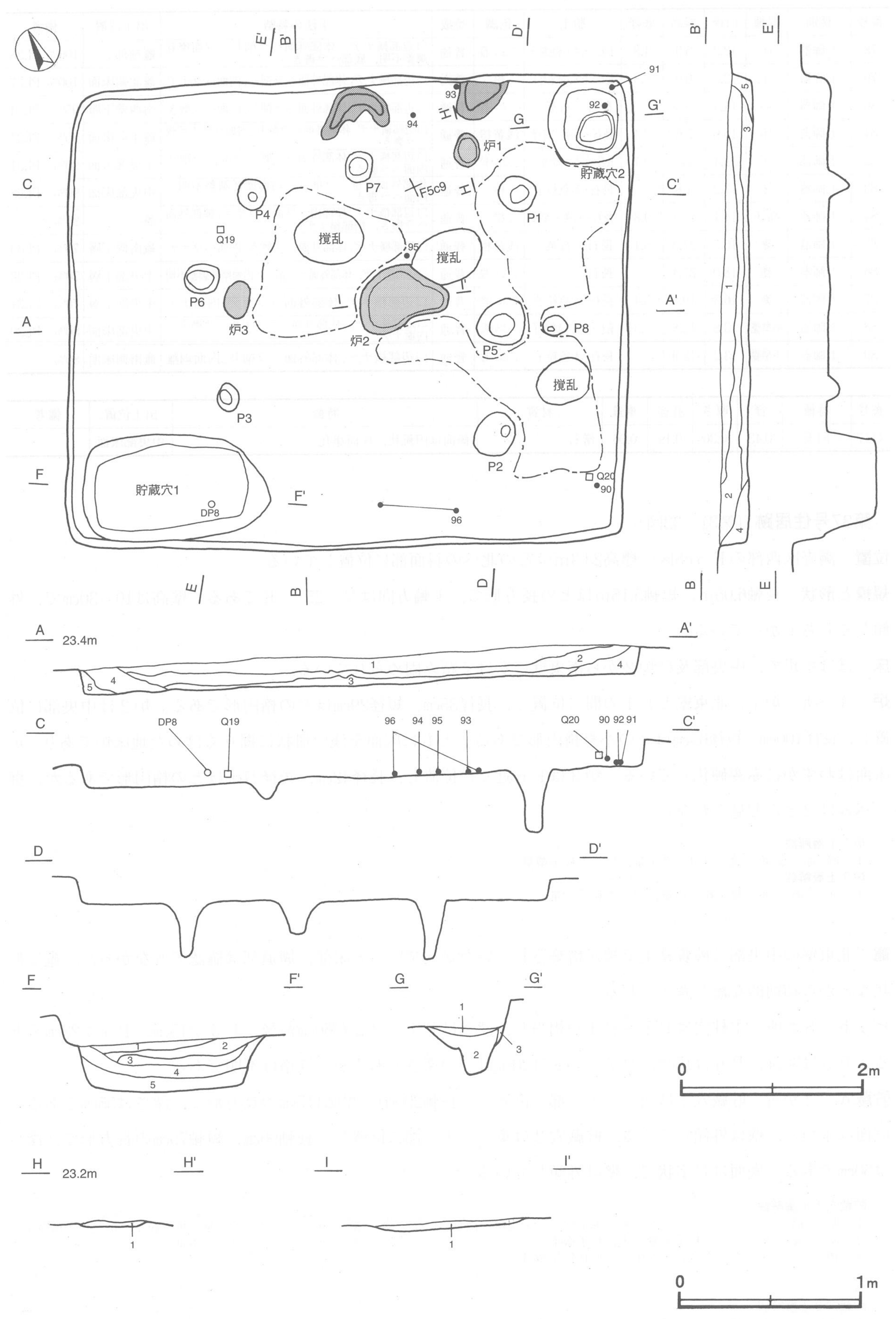
竈　北東壁の中央部に砂質粘土で袖が構築されていたが，焚口，火床部，煙道部は確認できなかった。竈は形状などから初期的な竈と考えられる。

ピット　８か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さはＰ１・Ｐ２が60cm前後，Ｐ３が15cm，Ｐ４が22cmである。Ｐ５は38cm，Ｐ６は15cm，Ｐ７・Ｐ８は20cmほどの深さであるが，性格は不明である。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は西コーナー部に位置し，長軸200cm，短軸115cmの長方形で，深さは55cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。貯蔵穴２は東コーナー部に位置し，長軸90cm，短軸75cmの長方形で，深さは50cmである。底面はＵ字状で，壁は外傾している。

貯蔵穴１土層解説
１　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
２　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
３　褐　　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
４　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
５　暗　褐　色　ロームブロック中量

貯蔵穴２土層解説
１　褐　　　色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
２　褐　　　色　ローム粒子・焼土粒子少量
３　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量



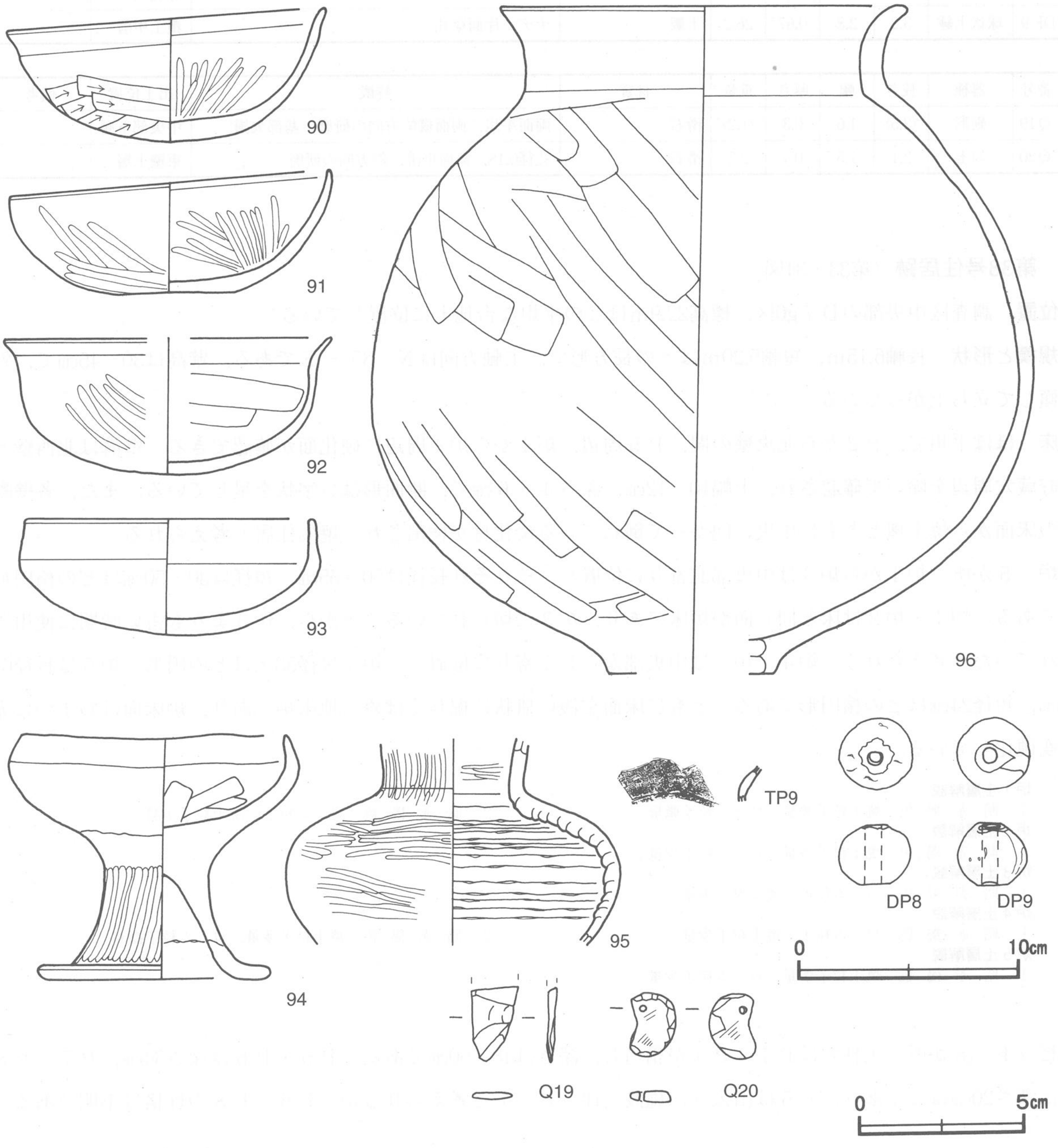
第31図　第37号住居跡実測図

覆土　5層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　褐　　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　褐　　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片2070点（坏類160，甕類1899，高坏11），須恵器片1点（𤭯），土製品2点（球状土錘），石製模造品2点(剣形1，勾玉1)が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏9点，土師器甕25点，土師器高坏3点，土師器壺1点である。91・92は貯蔵穴2の覆土上層，93・94は竈付近の床面から出土している。また，95・TP9は中央部，96は南西壁際の床面，90・Q20は南東壁際の下層，Q19は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から5世紀末葉から6世紀初頭と考えられる。



第32図　第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
90	土師器	坏	14.5	6.0		長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南東コーナー床面	80%　PL28
91	土師器	坏	14.4	5.3	6.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き	貯蔵穴	70%　PL24
92	土師器	坏	[14.8]	6.1		長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	貯蔵穴	70%
93	土師器	坏	12.9	5.4		長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部内・外面摩耗調整不明	竈手前床面	50%　PL25
94	土師器	高坏	12.0	11.0	10.5	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面摩耗調整不明，内面ヘラナデ，脚部ヘラ磨き，裾部横ナデ	竈手前床面	100%　PL35
95	土師器	壺	－	(4.3)	－	長石・石英	橙	普通	頸部～体部外面ヘラ磨き，内面輪積み痕	中央部床面	70%
96	土師器	甕	18.2	31.5	[7.9]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	南壁床面	70%　PL33
TP 9	須恵器	𤭯	－	(1.7)	－	長石	灰	普通	頸部片，９本の櫛歯状工具による波状文	中央部床面	PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 8	球状土錘	3.3	2.7	0.7	28.0	土製	ナデ，片面穿孔	貯蔵穴	
DP 9	球状土錘	3.2	2.8	0.67	26.2	土製	ナデ，片面穿孔	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	剣形	(2.5)	1.6	0.3	(1.2)	滑石	両面平坦，両面縦位方向の研磨，基部欠損	中央部下層	
Q20	勾玉	2.1	1.5	0.4	2.2	滑石	孔径0.18，両面平滑，斜方向の研磨	東壁上層	

第38号住居跡（第33・34図）

位置　調査区中央部のＤ７g0区，標高22.9ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸6.15ｍ，短軸5.20ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｅである。壁高は30～45㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，Ｐ２から北東壁の間，Ｐ５周辺，炉１から炉４周辺に硬化面が確認できる。壁溝は北西壁と貯蔵穴周辺を除いて確認され，上幅10～12㎝，深さ４～６㎝で，断面形はＵ字状を呈している。また，各壁際の床面から焼土塊とともに中央に向かって倒れている炭化材が検出され，焼失住居と考えられる。

炉　５か所。炉１から炉３は中央部北寄りに位置し，それぞれ長径は50～65㎝，短径は30～50㎝ほどの楕円形である。炉１・炉２は床と同じ面が炉床であり，炉３に切られていることから，炉３よりも古い時期に使用されていたと考えられる。炉４・炉５は中央部からＰ１寄りに位置し，炉４は径53㎝ほどの円形，炉５は長径61㎝，短径24㎝ほどの楕円形である。ともに床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉１土層解説
１　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子微量
２　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量

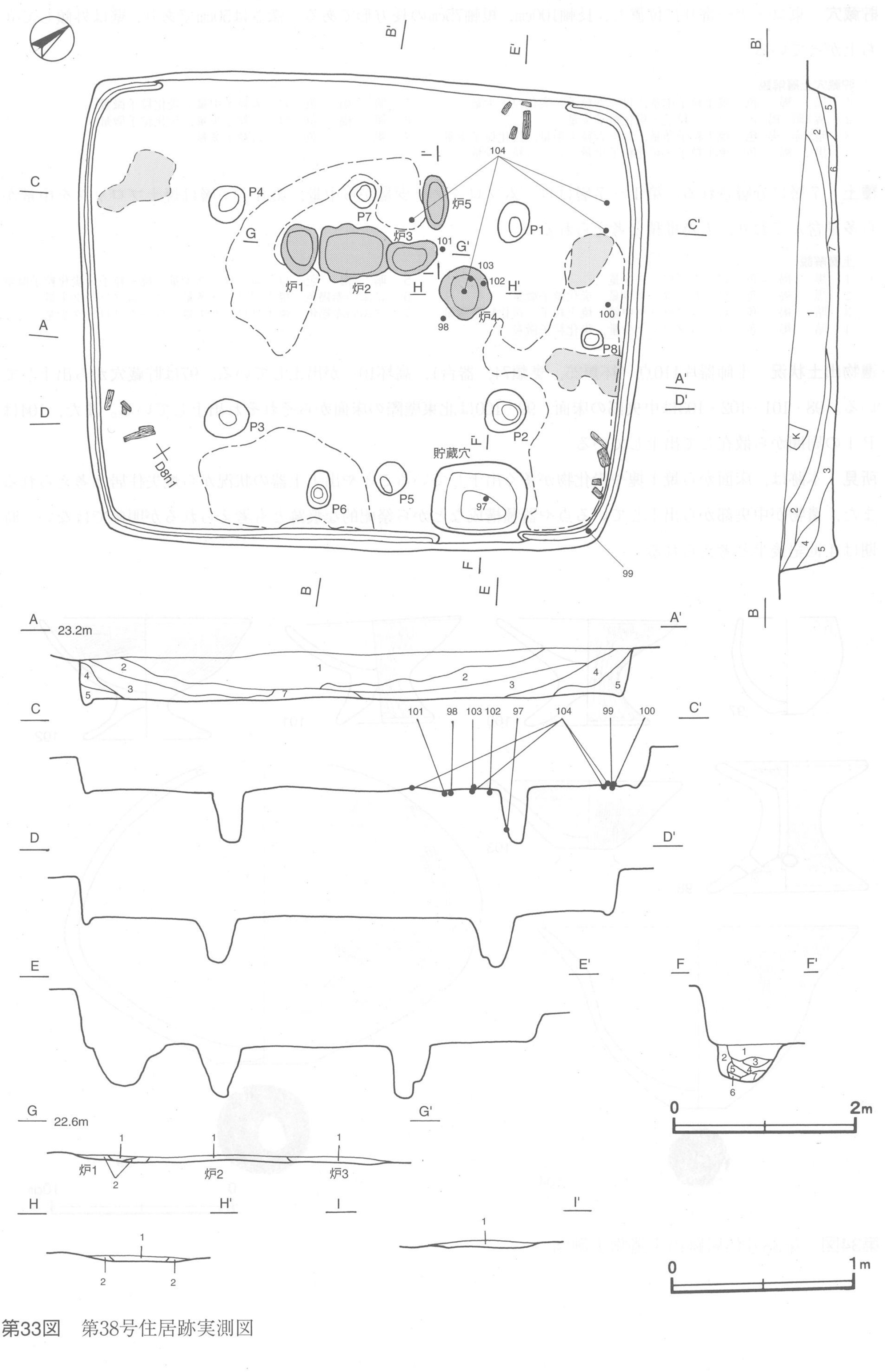
炉２土層解説
１　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子少量

炉３土層解説
１　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量

炉４土層解説
１　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
２　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子微量

炉５土層解説
１　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子少量

ピット　８か所。主柱穴はＰ１～Ｐ４が相当し，深さは48～60㎝である。Ｐ５・Ｐ６は深さ34㎝，Ｐ７・Ｐ８は深さ20㎝ほどであり，Ｐ５は出入り口施設に伴うピットと考えられるが，Ｐ６～Ｐ８の性格は不明である。



第33図　第38号住居跡実測図

貯蔵穴　東コーナー寄りに位置し，長軸100cm，短軸75cmの長方形である。深さは50cmであり，壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量	5	暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
2	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	6	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子少量	7	褐色	ローム粒子多量
4	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量			

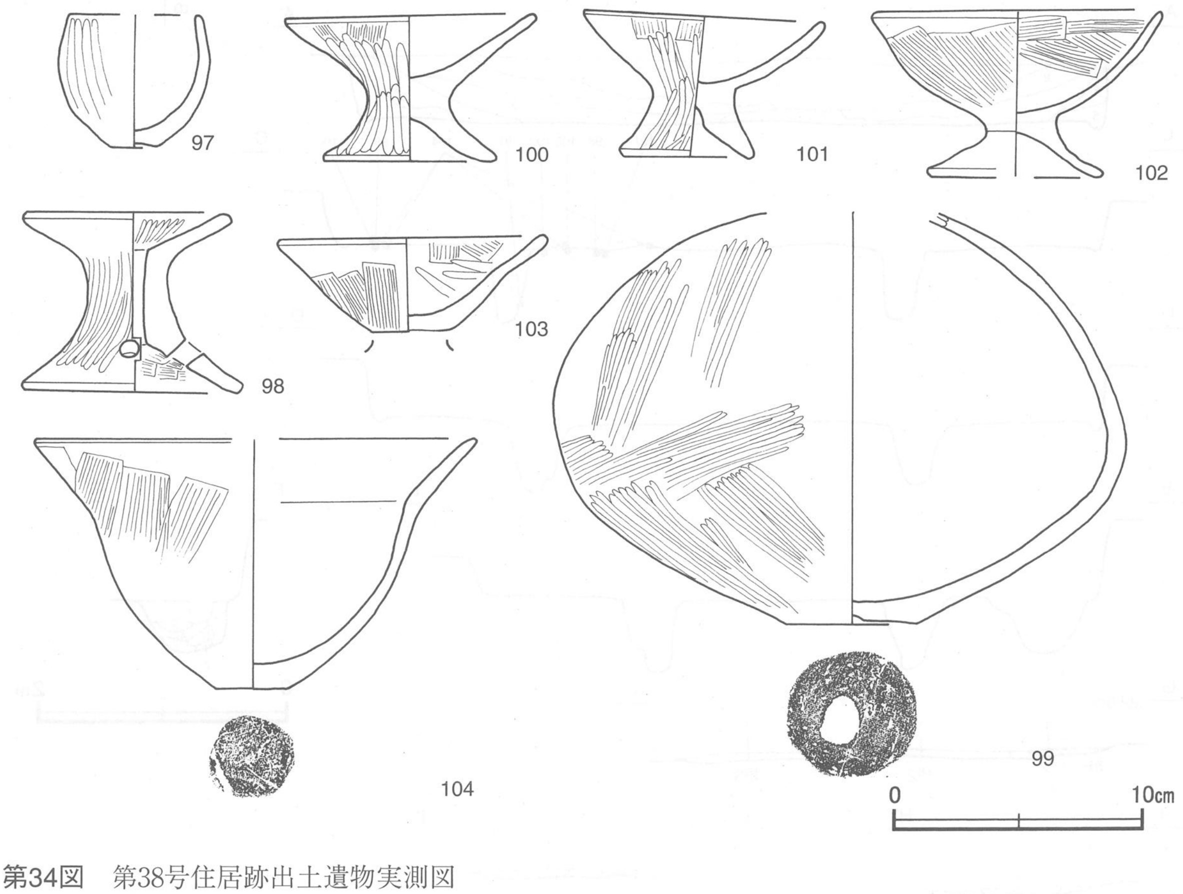
覆土　７層に分層される。第１～７層はロームブロックを少量から中量，第６・７層は焼土ブロックを中量から多量含んでおり，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量	5	暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	6	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量，ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	7	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量
4	暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片110点（坏類25，甕類74，器台1，高坏10）が出土している。97は貯蔵穴から出土している。98・101・102・103は中央部の床面，99・100は北東壁際の床面からそれぞれ出土している。また，104はＰ１の周囲から散在して出土している。

所見　本跡は，床面から焼土塊や炭化物が多く出土していることや出土土器の状況から焼失住居と考えられる。また，遺物が中央部から出土している点や器種構成などから祭祀的な痕跡とも考えられるが明確ではない。時期は４世紀後半と考えられる。



第34図　第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
97	土師器	椀	[5.2]	5.2	2.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	貯蔵穴	60%
98	土師器	器台	8.1	7.2	8.7	長石	にぶい黄橙	普通	器受部内面・脚部外面ヘラ磨き，裾部内面ハケ目調整後横ナデ	中央部床面	100% PL35
99	土師器	壺		(16.5)	5.2	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面摩耗調整不明	北東壁床面	70%
100	土師器	高坏	9.9	5.9	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部・脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き，坏部内面摩耗調整不明	北東壁下層	98% PL35
101	土師器	高坏	9.5	5.9	5.1	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部・脚部外面ハケ目調整後ヘラ磨き，坏部内面摩耗調整不明	中央部床面	90%
102	土師器	高坏	11.5	6.7	[7.1]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部内・外面ハケ目調整後ナデ，裾部摩耗，裾部は坏部より剥離	中央部床面	90% PL35
103	土師器	高坏	10.7	(3.5)	―	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面ハケ目調整後ナデ，内面ハケ目調整後ヘラ磨き	中央部床面	50%
104	土師器	鉢	[17.6]	10.0	3.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ハケ目調整，内面ナデ	中央部床面	50%

第40号住居跡（第35・36図）

位置　調査区西部のＦ５i0区，標高23.8ｍほどの平坦な台地上に位置している。また，南東部は調査区域外に延びているため，未調査である。

規模と形状　長軸6.85ｍ，短軸6.20ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－70°－Ｗである。壁高は36～48㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，土層観察面近くの床は，一部撹乱によって壊されている。ややしまりはあるものの硬化した部分は見られない。壁溝は北東壁で一部検出され，上幅10～12㎝，深さ４～６㎝で，断面形はＵ字状を呈している。

炉　中央部に位置し，長径78㎝，短径48㎝ほどの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量

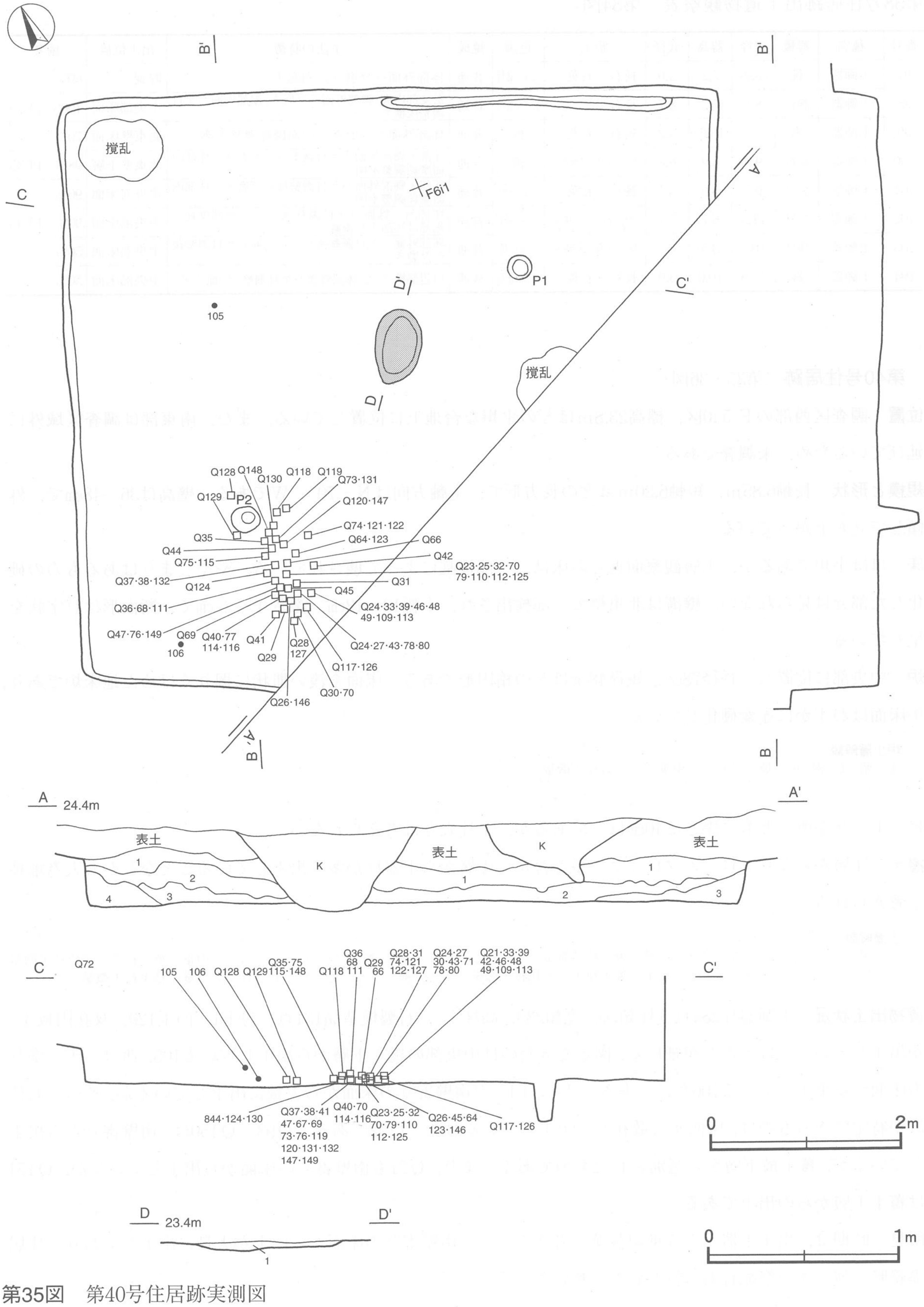
ピット　２か所。ともに深さは40㎝ほどであるが，主柱穴とは考えられない。

覆土　４層からなり，ロームブロックを多く含んで中層から土器片が多く出土していることなどから人為堆積と考えられる。

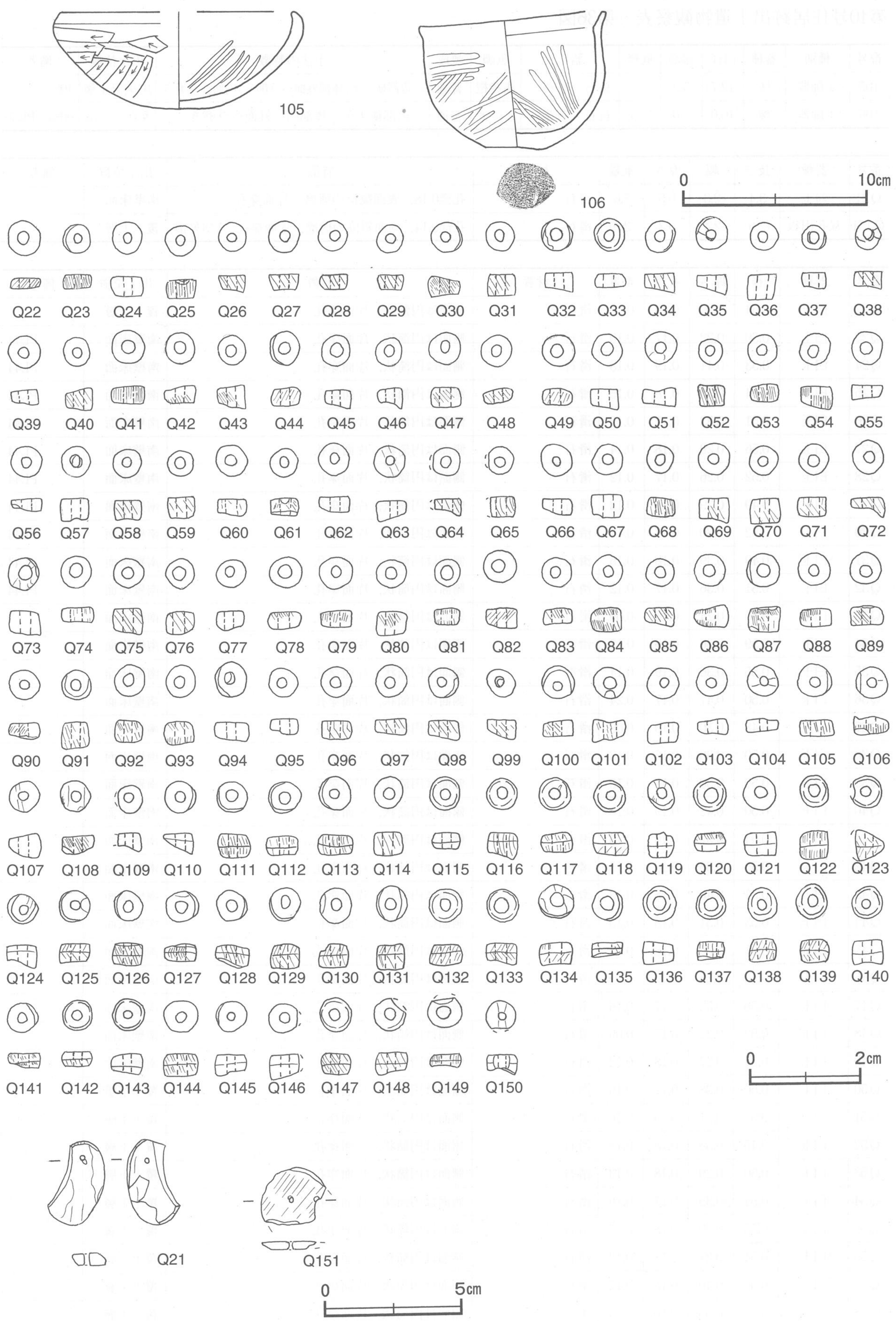
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　褐　　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片284点（坏類50，甕類233，高坏１），石製模造品131点（勾玉1，臼玉129，双孔円板１）が出土している。ほとんどが細片で，図示できたのは中央部の覆土下層から出土している105，西コーナー寄りの床面から出土している106だけである。また，臼玉が南壁寄りの床面から大量に出土しているが，そのうち位置が特定できるものは，床面から散在して出土しているＱ22～Ｑ92である。Ｑ93～Ｑ150は，南壁寄りから出土しているが，覆土最下層から選別されたものである。また，Ｑ21も南壁寄りの床面から出土しているが，Ｑ151は覆土上層からの出土である。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。南壁寄りの床面から臼玉が大量に出土しており，住居廃絶時に何らかの祭祀行為が行われたと推定される。



第35図　第40号住居跡実測図



第36図　第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
105	土師器	坏	[12.7]	5.2		長石・石英	浅黄橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラ磨き	中央部下層	40%
106	土師器	椀	10.0	7.0	2.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き	西コーナー床面	90%　PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q21	勾玉	3.4	2.3	0.5	5.6	滑石	孔径0.18，表面縦位の研磨，片面穿孔	南壁床面	
Q151	双孔円板	(2.6)	(2.4)	0.3	(2.9)	滑石	孔径0.14，両面斜位の研磨，片面穿孔，1/3欠損	覆土上層	

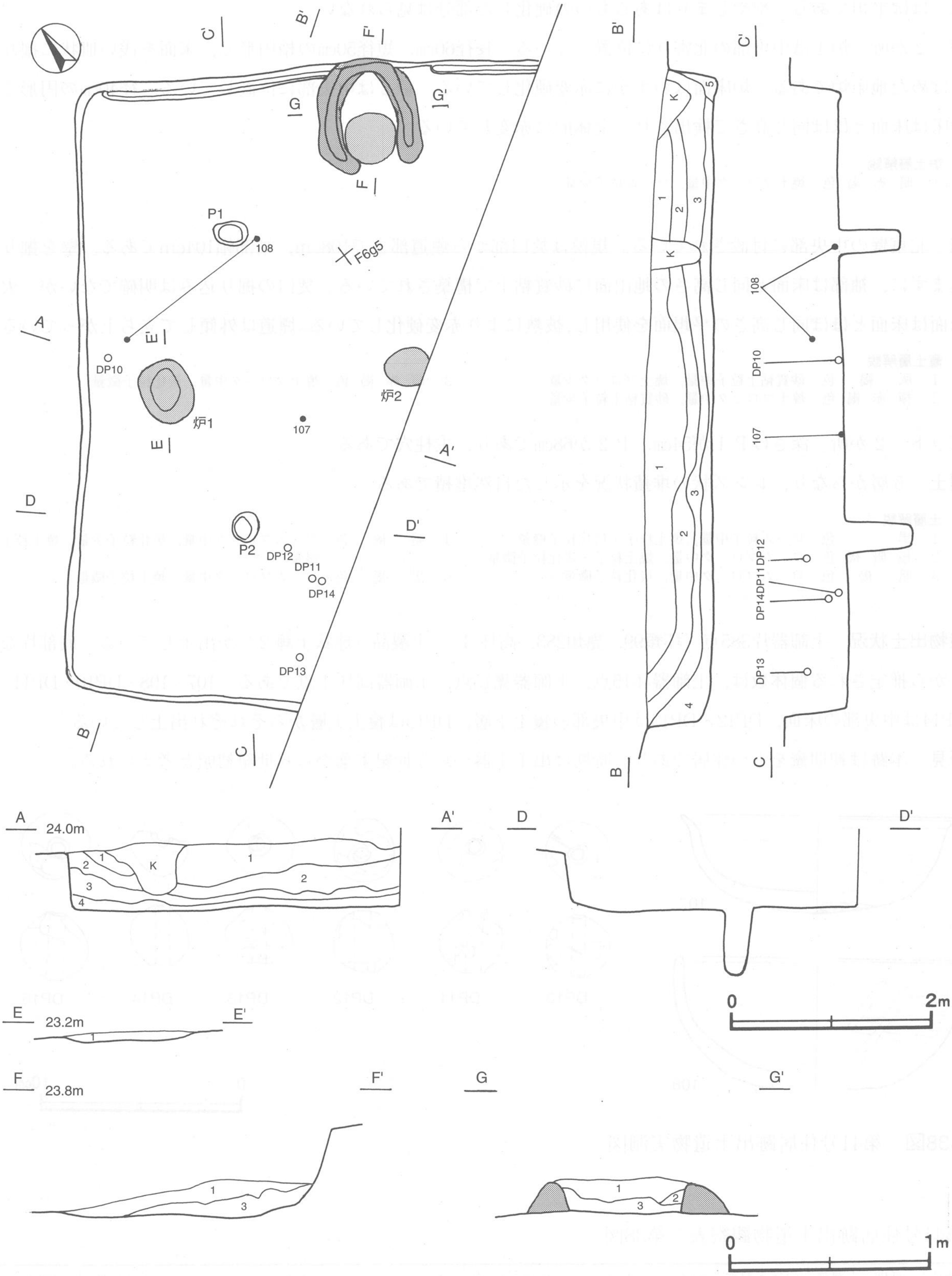
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q22	臼玉	0.54	0.20	0.18	0.10	滑石	側面は円盤状，片面穿孔	覆土下層	
Q23	臼玉	0.50	0.22	0.17	0.10	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q24	臼玉	0.53	0.41	0.19	0.18	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q25	臼玉	0.54	0.35	0.18	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q26	臼玉	0.51	0.33	0.17	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q27	臼玉	0.56	0.29	0.18	0.14	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q28	臼玉	0.52	0.26	0.17	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q29	臼玉	0.49	0.29	0.18	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q30	臼玉	0.52	0.30	0.17	0.14	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q31	臼玉	0.49	0.39	0.18	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q32	臼玉	0.51	0.36	0.17	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q33	臼玉	0.50	0.24	0.16	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q34	臼玉	0.59	0.36	0.19	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q35	臼玉	0.55	0.36	0.19	0.14	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q36	臼玉	0.50	0.47	0.17	0.24	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q37	臼玉	0.48	0.30	0.19	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q38	臼玉	0.50	0.30	0.16	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q39	臼玉	0.50	0.30	0.17	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q40	臼玉	0.50	0.42	0.19	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q41	臼玉	0.54	0.32	0.16	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q42	臼玉	0.55	0.36	0.18	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q43	臼玉	0.51	0.40	0.18	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q44	臼玉	0.53	0.31	0.18	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q45	臼玉	0.51	0.36	0.18	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q46	臼玉	0.46	0.36	0.19	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q47	臼玉	0.56	0.32	0.17	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q48	臼玉	0.52	0.22	0.17	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q49	臼玉	0.54	0.27	0.18	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	南壁床面	
Q50	臼玉	0.50	0.38	0.17	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q51	臼玉	0.58	0.31	0.19	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q52	臼玉	0.45	0.36	0.18	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q53	臼玉	0.50	0.29	0.18	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q54	臼玉	0.54	0.35	0.17	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q55	臼玉	0.55	0.29	0.18	0.17	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q56	臼玉	0.54	0.27	0.18	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q57	臼玉	0.50	0.40	0.18	0.17	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q58	臼玉	0.51	0.36	0.15	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q59	臼玉	0.48	0.35	0.18	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q60	臼玉	0.54	0.32	0.16	0.14	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q61	臼玉	0.51	0.35	0.15	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q62	臼玉	0.53	0.29	0.18	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q63	臼玉	0.53	0.33	0.16	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	
Q64	臼玉	(0.52)	0.33	0.17	(0.11)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔，一部欠損	南壁床面	
Q65	臼玉	(0.51)	0.36	0.16	(0.17)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔，一部欠損	覆土下層	
Q66	臼玉	0.56	0.34	0.18	0.16	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q67	臼玉	0.57	0.43	0.18	0.22	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q68	臼玉	0.51	0.35	0.18	0.14	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q69	臼玉	0.67	0.35	0.19	0.20	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q70	臼玉	0.54	0.45	0.18	0.21	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q71	臼玉	0.52	0.34	0.18	0.16	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q72	臼玉	0.57	0.35	0.17	0.12	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q73	臼玉	0.55	0.46	0.17	0.20	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q74	臼玉	0.55	0.26	0.28	0.13	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q75	臼玉	0.57	0.48	0.12	0.22	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q76	臼玉	0.47	0.38	0.18	0.15	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q77	臼玉	0.50	0.31	0.18	0.11	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q78	臼玉	0.50	0.30	0.20	0.13	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	
Q79	臼玉	0.56	0.32	0.18	0.16	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	
Q80	臼玉	0.52	0.39	0.19	0.18	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	南壁床面	
Q81	臼玉	0.45	0.30	0.18	0.12	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q82	臼玉	0.54	0.38	0.20	0.20	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q83	臼玉	0.58	0.36	0.17	0.23	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q84	臼玉	0.55	0.42	0.15	0.25	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q85	臼玉	0.55	0.35	0.17	0.16	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q86	臼玉	0.58	0.42	0.19	0.20	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q87	臼玉	0.58	0.45	0.18	0.24	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q88	臼玉	0.57	0.30	0.16	0.18	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q89	臼玉	0.57	0.35	0.18	0.20	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q90	臼玉	0.53	0.29	0.18	0.12	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q91	臼玉	0.50	0.48	0.18	0.17	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q92	臼玉	0.54	0.37	0.18	0.20	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q93	臼玉	0.54	0.35	0.18	0.20	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q94	臼玉	0.56	0.36	0.18	0.20	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q95	臼玉	0.54	0.29	0.16	0.13	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q96	臼玉	0.54	0.32	0.16	0.19	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q97	臼玉	0.54	0.32	0.17	0.18	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q98	臼玉	0.55	0.35	0.16	0.17	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q99	臼玉	0.49	0.34	0.17	0.13	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q100	臼玉	0.54	0.24	0.16	0.13	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q101	臼玉	0.55	0.37	0.17	0.17	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q102	臼玉	0.55	0.38	0.17	0.19	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q103	臼玉	0.56	0.33	0.17	0.14	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q104	臼玉	0.55	0.31	0.15	0.13	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q105	臼玉	0.57	0.29	0.17	0.17	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q106	臼玉	0.54	0.32	0.17	0.13	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q107	臼玉	0.53	0.46	0.18	0.19	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q108	臼玉	0.54	0.32	0.17	0.15	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	覆土下層	
Q109	臼玉	(0.51)	0.32	0.18	(0.11)	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔，一部欠損	南壁床面	
Q110	臼玉	0.55	0.35	0.17	0.12	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q111	臼玉	0.55	0.44	0.18	0.20	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q112	臼玉	0.55	0.34	0.17	0.16	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q113	臼玉	0.57	0.34	0.17	0.20	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q114	臼玉	0.54	0.40	0.18	0.19	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q115	臼玉	0.54	0.30	0.17	0.16	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q116	臼玉	0.52	0.50	0.15	0.20	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q117	臼玉	0.53	0.31	0.18	0.13	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q118	臼玉	0.52	0.41	0.16	0.18	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q119	臼玉	0.46	0.41	0.19	0.18	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q120	臼玉	0.53	0.30	0.17	0.15	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q121	臼玉	0.59	0.41	0.20	0.24	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q122	臼玉	0.50	0.46	0.20	0.21	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q123	臼玉	(0.52)	0.55	0.19	(0.20)	滑石	側面に稜，片面穿孔，一部欠損	南壁床面	PL44
Q124	臼玉	0.58	0.36	0.18	0.19	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q125	臼玉	0.55	0.35	0.17	0.16	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q126	臼玉	0.48	0.39	0.15	0.16	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q127	臼玉	0.54	0.26	0.18	0.11	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q128	臼玉	0.57	0.46	0.19	0.20	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q129	臼玉	0.58	0.40	0.18	0.24	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	PL44
Q130	臼玉	0.54	0.43	0.18	0.20	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	
Q131	臼玉	0.55	0.46	0.18	0.25	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	
Q132	臼玉	0.52	0.32	0.17	0.15	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	
Q133	臼玉	0.54	0.40	0.20	0.23	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q134	臼玉	0.58	0.40	0.17	0.24	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q135	臼玉	0.55	0.44	0.17	0.22	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q136	臼玉	0.57	0.40	0.19	0.19	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q137	臼玉	0.55	0.30	0.17	0.18	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q138	臼玉	0.49	0.35	0.17	0.16	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q139	臼玉	0.55	0.37	0.18	0.22	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q140	臼玉	0.58	0.47	0.18	0.23	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q141	臼玉	0.52	0.30	0.17	0.12	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q142	臼玉	0.54	0.25	0.18	0.15	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q143	臼玉	0.52	0.39	0.17	0.15	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q144	臼玉	0.59	0.41	0.18	0.24	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q145	臼玉	0.54	0.24	0.18	0.13	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土下層	
Q146	臼玉	(0.53)	0.46	0.18	(0.18)	滑石	側面に稜，片面穿孔，一部欠損	南壁床面	
Q147	臼玉	0.54	0.37	0.17	0.16	滑石	側面に稜，片面穿孔	南壁床面	
Q148	臼玉	(0.54)	0.40	0.16	(0.15)	滑石	側面に稜，片面穿孔，一部欠損	南壁床面	
Q149	臼玉	(0.58)	0.20	0.17	(0.11)	滑石	側面に稜，片面穿孔，一部欠損	南壁床面	
Q150	臼玉	(0.55)	0.36	0.18	(0.13)	滑石	側面に稜，片面穿孔，一部欠損	覆土下層	

第41号住居跡（第37・38図）

位置　調査区西部のＦ６g4区，標高23.8mほどの平坦な台地上に位置している。また，南東部は調査区域外に延びているため，未調査である。



第37図　第41号住居跡実測図

規模と形状　南東側が調査区域外に延びているため，全体の規模は不明である。長軸は6.25m，短軸は4.50mほどが確認された。主軸方向はN－40°－Eであり，平面形は長方形と推定される。壁高は43～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。ややしまりはあるものの硬化した部分は見られない。

炉　２か所。炉１は中央部の北寄りに位置している。長径60cm，短径50cmの楕円形で，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面はわずかに赤変硬化している。炉２は中央部に位置している。径40cmの円形で，炉床は床面とほぼ同じ高さで検出され，全体的に赤変している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量

竈　北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで108cm，袖部幅104cmである。壁を掘り込まずに，袖部は床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築されている。焚口の掘り込みは明確でないが，火床面は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用し，被熱により赤変硬化している。煙道は外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　灰褐色　砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量
2　極赤褐色　焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

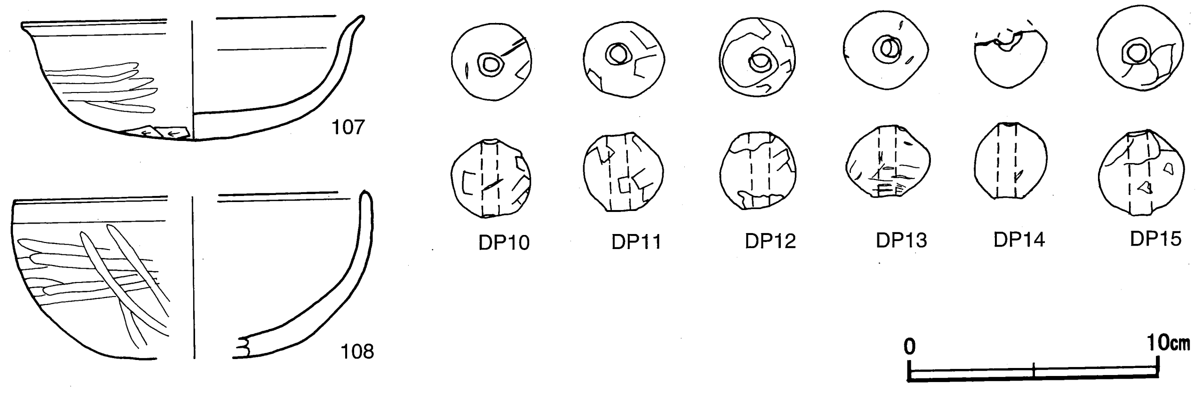
ピット　２か所。深さはＰ１が54cm，Ｐ２が68cmであり，主柱穴である。

覆土　５層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片385点（坏類99，甕類283，高坏３），土製品（球状土錘２）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏15点，土師器甕15点，土師器高坏１点である。107・108・DP10・DP11・DP14は中央部の床面，DP12・DP13は中央部の覆土下層，DP15は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は初期竈をもつ住居であり，時期は出土土器から５世紀末葉から６世紀初頭と考えられる。



第38図　第41号住居跡出土遺物実測図

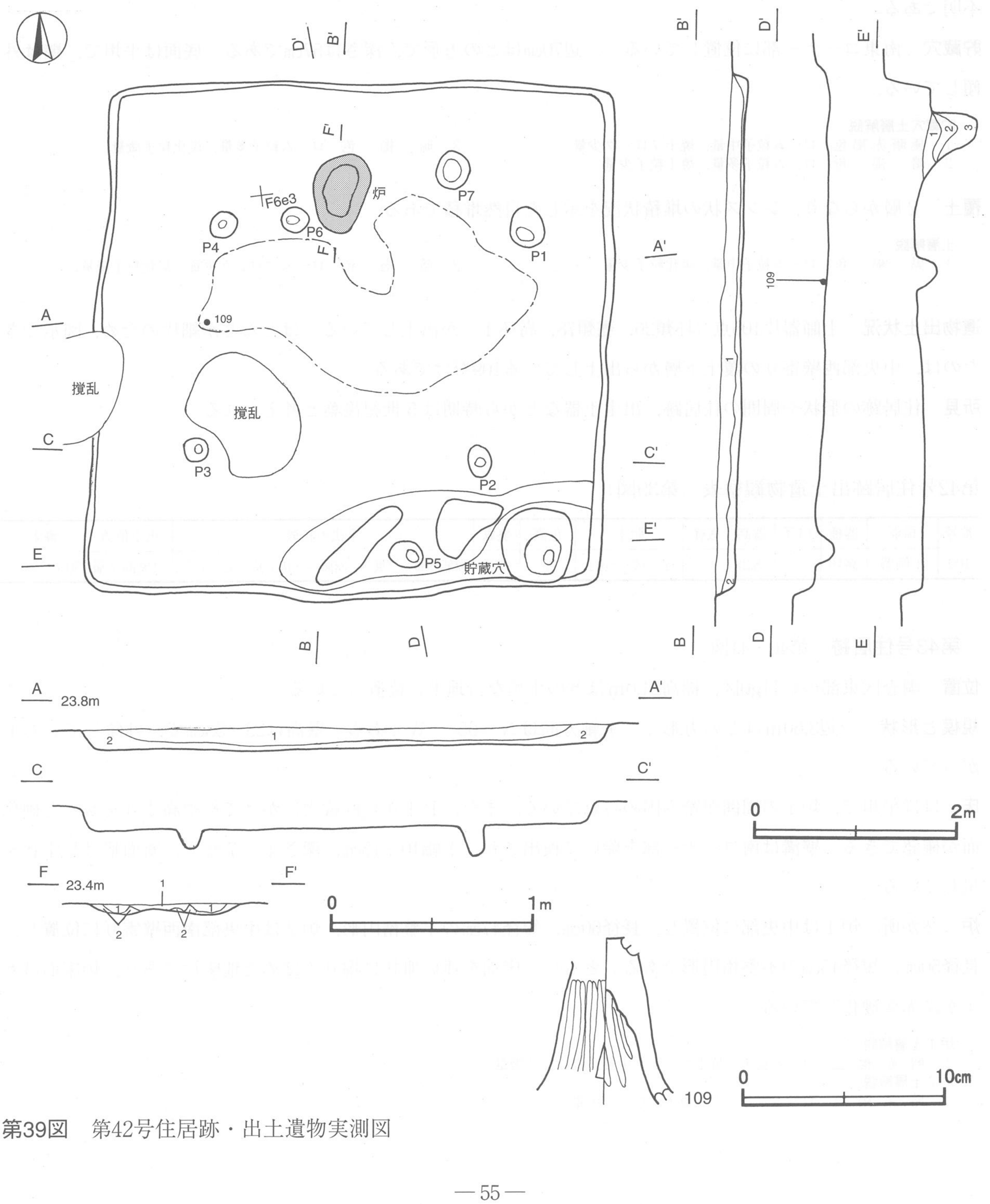
第41号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
107	土師器	坏	[13.6]	5.0		長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ナデ	中央部床面	40%
108	土師器	坏	[14.2]	(6.5)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	中央部床面	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP10	球状土錘	3.2	3.2	0.5	29.9	土製	ナデ，片面穿孔	中央部床面	
DP11	球状土錘	3.2	3.3	0.8	28.8	土製	ナデ，片面穿孔	中央部床面	
DP12	球状土錘	3.1	3.0	0.7	27.7	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	
DP13	球状土錘	3.3	0.3	0.7	25.8	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	
DP14	球状土錘	(2.9)	3.1	(0.7)	(15.5)	土製	ナデ，片面穿孔，1/2欠損	中央部床面	
DP15	球状土錘	3.4	0.3	0.7	34.0	土製	ナデ，片面穿孔	覆土上層	

第42号住居跡（第39図）

位置　調査区西部のＦ６e3区，標高23.6ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第39図　第42号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状　西壁のほぼ中央に撹乱を受けているが，長軸5.15m，短軸5.05mほどの方形で，主軸方向はＮ－10°－Ｅである。壁高は15～35cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。また，貯蔵穴西側周辺に高まりをもった硬化面が確認できる。

炉　中央部の北寄りに位置している。長径80cm，短径50cmの楕円形で，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量

ピット　7か所。Ｐ1～Ｐ4が主柱穴に相当し，深さはＰ2が30cm，Ｐ1・Ｐ3・Ｐ4が20cmほどである。Ｐ5は深さ20cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。また，Ｐ6・Ｐ7は深さ20cmほどであるが，性格は不明である。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。一辺70cmほどの方形で，深さは57cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　極暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

覆土　2層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片105点（坏類26，甕類78，高坏1）が出土している。ほとんどが細片のため，図示できたのは，中央部西壁寄りの覆土下層から出土している109だけである。

所見　住居跡の形状や周囲の住居跡，出土土器などから時期は5世紀後葉と考えられる。

第42号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
109	土師器	高坏	－	(8.2)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ状工具によるナデ	中央部下層	30%

第43号住居跡（第40・41図）

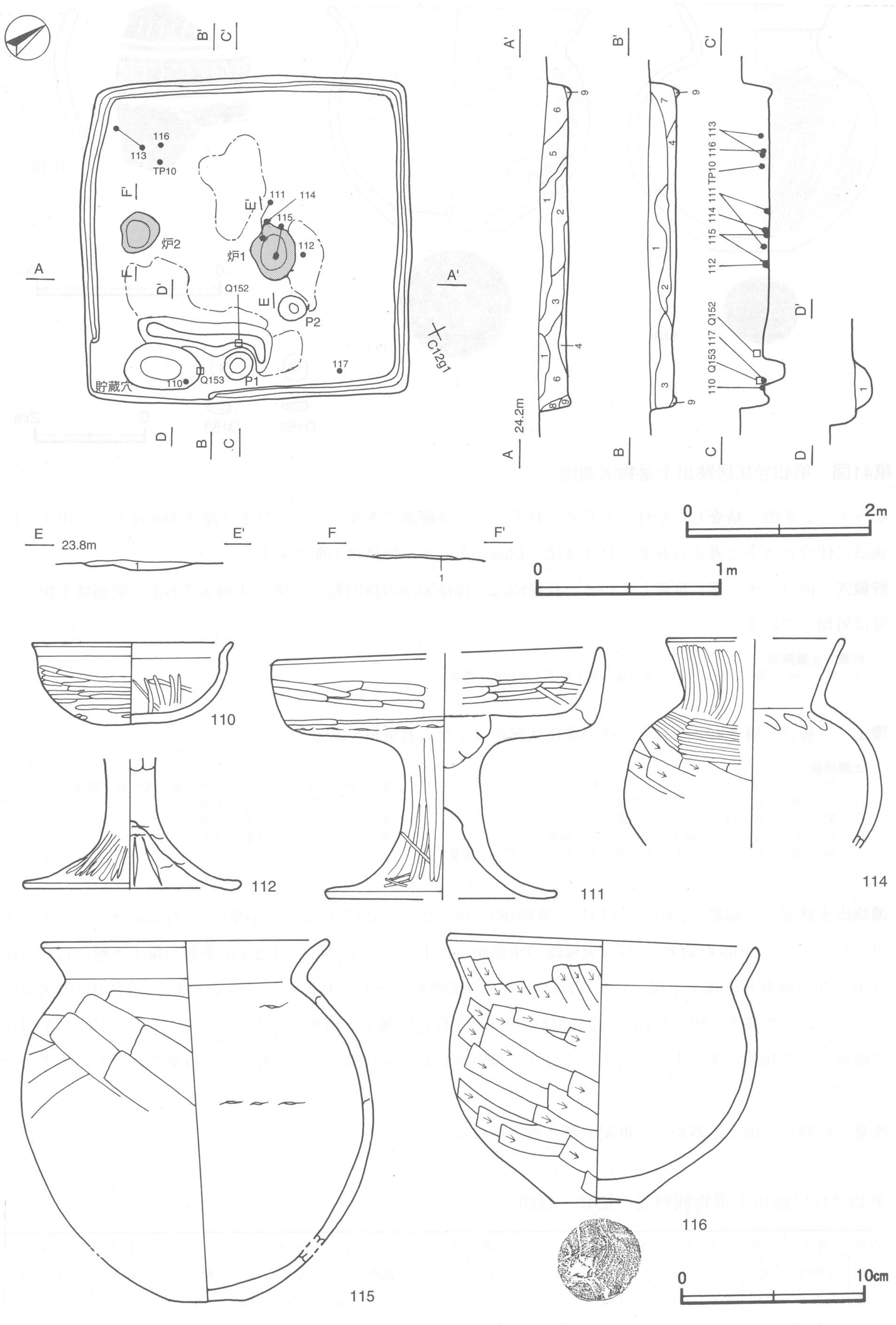
位置　調査区東部のＣ11g0区，標高24.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺3.60mほどの方形で，主軸方向はＮ－65°－Ｗである。壁高は23～33cmで，外傾して立ち上がっている。

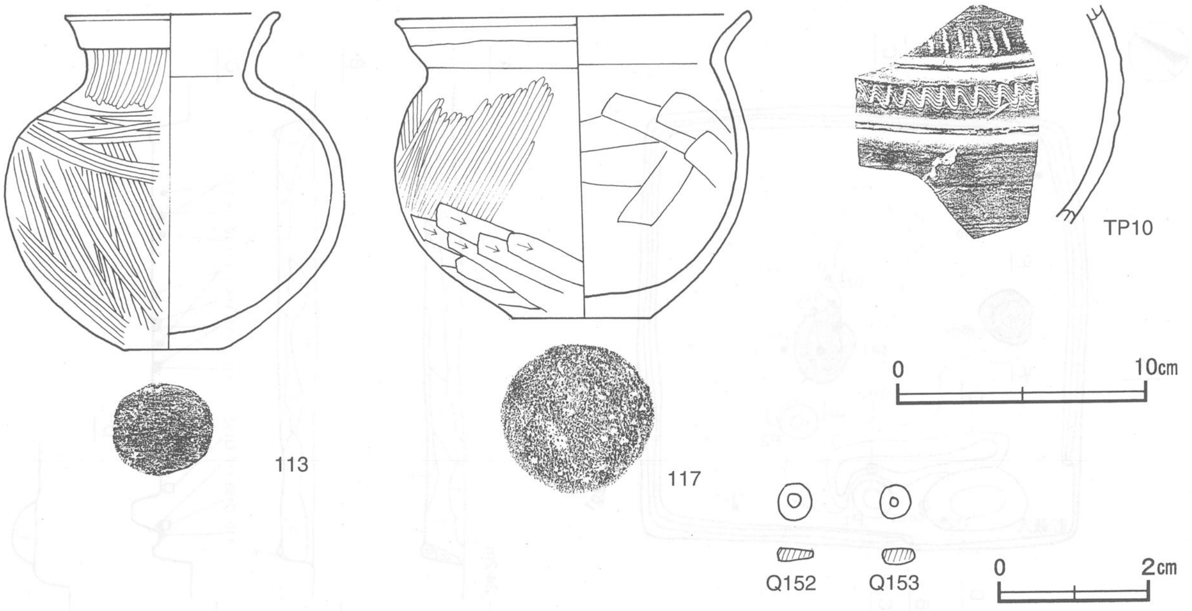
床　ほぼ平坦で，炉1の周囲が踏み固められている。また，Ｐ1から貯蔵穴にかけてやや高まりをもった硬化面が確認できる。壁溝は南コーナー部を除いて検出され，上幅10～15cm，深さ4～7cmで，断面形はＵ字状を呈している。

炉　2か所。炉1は中央部に位置し，長径60cm，短径47cmの不整楕円形，炉2は中央部南西壁寄りに位置し，長径50cm，短径45cmの不整楕円形である。ともに，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
炉2土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック中量



第40図　第43号住居跡・出土遺物実測図



第41図　第43号住居跡出土遺物実測図

ピット　２か所。精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。Ｐ１は深さ20cmほどで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２は深さ13cmであるが，性格は不明である。

貯蔵穴　南コーナー部に位置している。長径82cm，短径50cmの楕円形で，深さは20cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　９層に分層され，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　褐　　　色　ローム粒子中量
9　褐　　　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片198点（坏類11，甕類185，高坏２），須恵器片１点（小型壺），石製品２点（臼玉）が出土している。110は貯蔵穴，117は東壁際の床面から出土している。111・112は中央部の覆土下層，113・116は中央部西壁寄りの覆土下層，114・115は中央部の床面からそれぞれ出土している。また，TP10は中央部西コーナー寄りの覆土下層，Q152・Q153は中央部Ｐ１付近の覆土下層から出土している。111・113・115・116は破砕された状態でまとまって出土しており，TP10・Q152・Q153とともに廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。

第43号住居跡出土遺物観察表（第40・41図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
110	土師器	坏	10.8	4.6		長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き	貯蔵穴	80%　PL28
111	土師器	高坏	[17.6]	13.7	[12.6]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部内・外面・脚部外面・裾部ヘラ磨き	中央部下層	70%　PL34
112	土師器	高坏	－	(7.1)	11.9	長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，脚部から裾部内面溝状の研ぎ痕	中央部下層	40%
113	土師器	壺	8.5	13.5	3.6	長石・石英	橙	普通	頸部から体部外面ヘラ削り，内面ナデ，底部ヘラ削り	中央部下層	90%　PL30

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
114	土師器	壺	[9.8]	(11.3)	－	長石・石英	橙	普通	頸部ヘラ磨き，体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き	中央部床面	70%
115	土師器	甕	15.4	[19.6]	3.9	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ，内面ナデ，底部ヘラ削り	中央部床面	80%
116	土師器	甕	16.7	14.7	4.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部から体部外面ヘラ削り，内面ナデ，底部ヘラ削り	中央部下層	70%
117	土師器	甕	13.9	12.2	5.6	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ，底部ヘラ削り	東壁床面	100% PL30
TP10	須恵器	壺	－	(8.7)	－	長石	灰	普通	凸線間に４本の櫛歯状工具による波状文	中央部中層	PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q152	臼玉	0.50	0.20	0.17	0.07	滑石	側面に稜，片面穿孔	中央部下層	
Q153	臼玉	0.40	0.25	0.15	0.08	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	中央部下層	

第44号住居跡（第42図）

位置　調査区東部のＢ11j9区，標高24.2ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.45ｍ，短軸3.10ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｅである。壁高は25～30㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉１から南東壁にかけて硬化面が見られる。また，出入り口と考えられるＰ１から貯蔵穴周辺にやや高まりをもった硬化面が確認できる。

炉　２か所。炉１は中央部に位置し，長径67㎝，短径59㎝の不整楕円形である。炉２は北西壁寄りに位置し，長径65㎝，短径35㎝の不整楕円形である。ともに床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉１土層解説
１　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量　　２　赤　褐　色　焼土ブロック中量
炉２土層解説
１　にぶい赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量　　２　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量

ピット　４か所。精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。Ｐ１は深さ32㎝で出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２・Ｐ３は深さ約15㎝，Ｐ４は深さ25㎝ほどであるが，性格は不明である。

貯蔵穴　南コーナー部に位置している。長径72㎝，短径33㎝の楕円形で，深さは18㎝である。底面は平坦で，壁は外傾している。

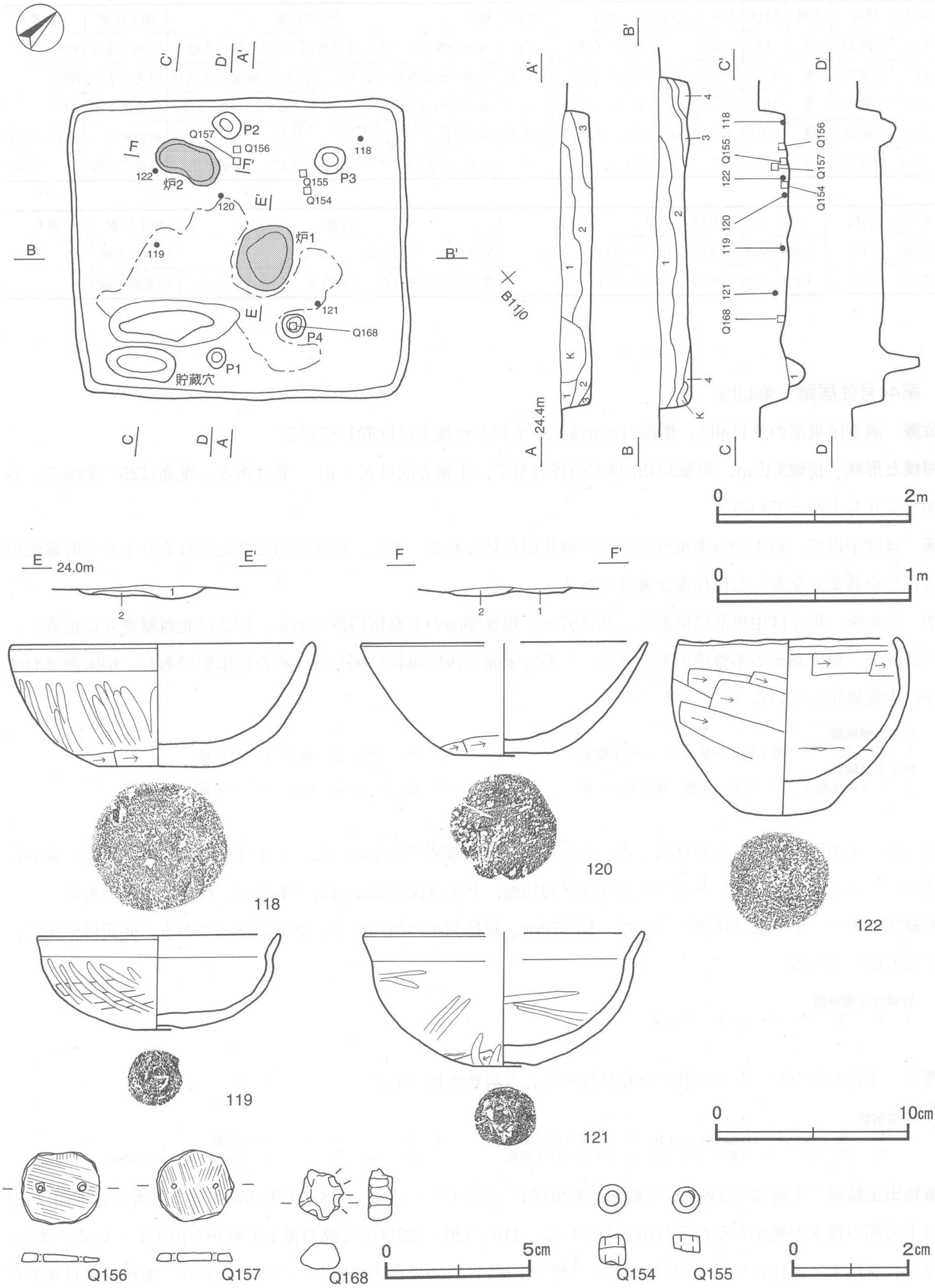
貯蔵穴土層解説
１　暗　褐　色　ロームブロック中量

覆土　４層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
１　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量　　３　褐　　　色　ローム粒子少量
２　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　４　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片208点（坏類28，甕類180）が出土している。118は中央部北コーナー寄りの床面，121は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。119・120・122は中央部の覆土下層から出土している。また，Q154・Q156・Q157は中央部北西壁寄りの覆土下層，Q155は覆土中層から出土しており，廃絶後に投棄されたものと考えられる。Q168は中央部南東壁寄りの床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第42図　第44号住居跡・出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
118	土師器	坏	15.5	6.3	6.2	長石・石英	黒褐	普通	体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り，底部ヘラ削り	中央部床面	95%　PL27
119	土師器	坏	12.5	4.9	2.5	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面摩耗，底部ヘラ削り	中央部下層	85%
120	土師器	坏	[14.8]	5.7	5.1	長石・石英	橙	普通	体部外面下位ヘラ削り，内・外面摩耗，底部ヘラ削り	中央部下層	60%
121	土師器	坏	[14.4]	6.9	3.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き，底部ヘラ削り	中央部中層	50%
122	土師器	椀	11.3	9.1	5.2	長石・石英	明褐灰	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラ削り	中央部下層	100%　PL30

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q154	臼玉	0.43	0.50	0.18	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	中央部下層	
Q155	臼玉	0.42	0.36	0.20	0.10	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	中央部中層	

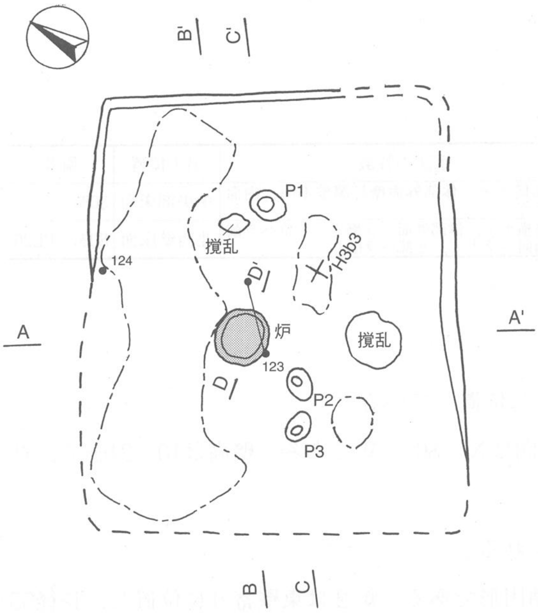
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q156	双孔円板	2.6	2.4	0.3	3.4	滑石	孔径0.20，表面斜位の研磨痕，裏面横位の研磨痕，片面穿孔	中央部下層	
Q157	双孔円板	2.5	2.4	0.4	4.1	滑石	孔径0.20，表面斜位の研磨痕，裏面横位の研磨痕，片面穿孔	中央部下層	
Q168	不明	(1.5)	(1.5)	0.8	(2.4)	滑石	孔を1/2残して欠損，臼玉未整品カ	中央部床面	

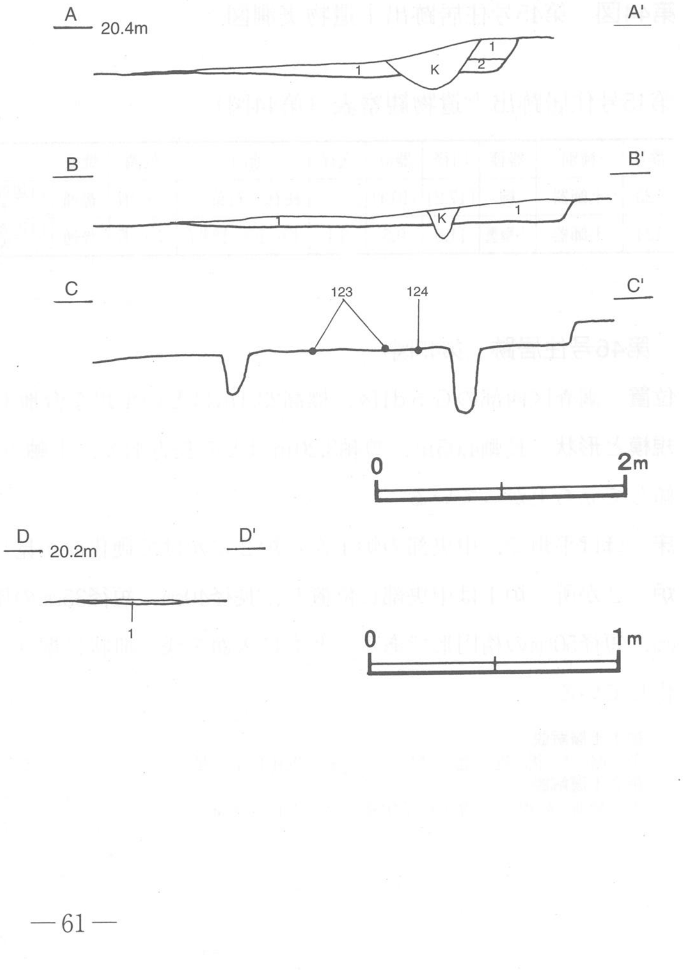
第45号住居跡（第43・44図）

位置　調査区西部のＨ３a2区，標高20.2ｍほどの西への斜面部に位置している。

規模と形状　西側が削平され，東コーナー部は撹乱を受けているが，長軸3.55ｍ，短軸3.00ｍほどの長方形と推定され，主軸方向はＮ－60°－Ｅである。壁高は最大16㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉から北西壁にかけて硬化面が見られる。





第43図　第45号住居跡実測図

炉　中央部に位置し，径45cmほどの円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量

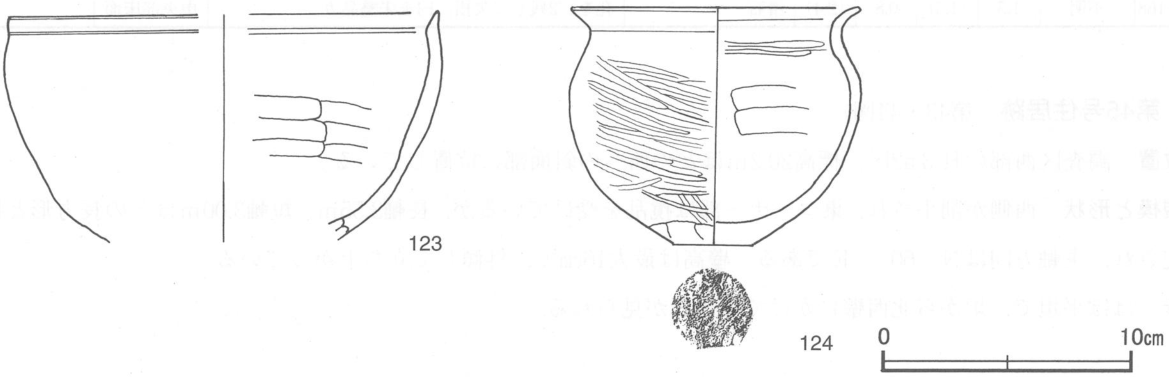
ピット　3か所。深さはＰ１が52cm，Ｐ２・Ｐ３が30cmほどであるが，主柱穴とは考えられず，性格は不明である。

覆土　薄いため明確に断定できないが，ローム粒子を含んだ自然堆積と考えられ，2層に分層される。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量　　2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片55点（坏類28，甕類27）が出土している。123は中央部の床面，124は北西壁際の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第44図　第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
123	土師器	椀	[17.2]	(10.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面摩耗調整不明，内面ヘラナデ	中央部床面	30%
124	土師器	小型甕	11.6	9.5	3.1	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，下位ヘラ削り，内面ヘラナデ，底部ヘラ削り	北西壁床面	80%　PL26

第46号住居跡（第45図）

位置　調査区西部のＧ５d1区，標高23.4ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸4.05ｍ，短軸3.20ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－80°－Ｗである。壁高は10～24cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部の炉１から炉２にかけて硬化面が見られる。

炉　２か所。炉１は中央部に位置し，長径40cm，短径35cmの楕円形である。炉２は東壁寄りに位置し，長径55cm，短径50cmの楕円形である。ともに床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

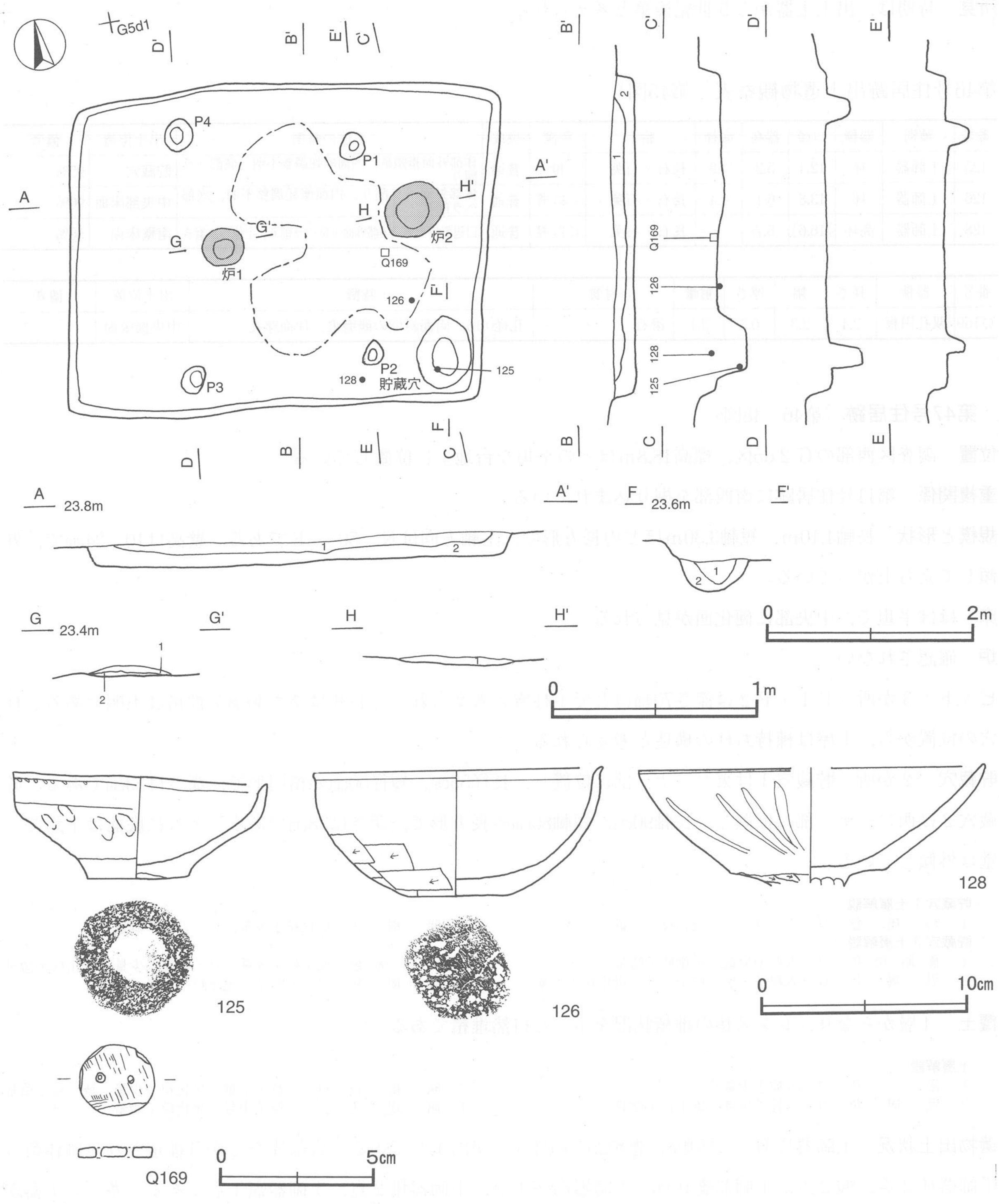
炉１土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量　　2　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子少量

炉２土層解説
1　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量

ピット　４か所。深さは，Ｐ１・Ｐ４が22cm，Ｐ２が17cm，Ｐ３が30cmであるが，主柱穴とは考えられない。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。長径70cm，短径50cmの楕円形で，深さは32cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説
１　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量　　２　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



第45図　第46号住居跡・出土遺物実測図

覆土　２層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
１　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
２　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片264点（坏類69，甕類189，高坏６），石製品模造品１点（双孔円板）が出土している。125は貯蔵穴の底面から出土している。また，126・Q169は中央部，128は南壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。

第46号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
125	土師器	坏	12.4	5.2	4.9	長石・石英	橙	普通	体部外面指頭痕，内面摩耗調整不明，底部ヘラ削り	貯蔵穴	95%
126	土師器	坏	13.8	6.1	4.4	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明，底部ヘラ削り	中央部床面	90%
128	土師器	高坏	[16.6]	(5.7)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，坏部外面下位ヘラ削り，上位ヘラ磨き	南壁床面	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q169	双孔円板	2.4	2.3	0.3	3.1	滑石	孔径0.16，両面斜位の研磨痕，片面穿孔	中央部床面	

第47号住居跡（第46～48図）

位置　調査区西部のＧ２d5区，標高18.8ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第11号住居跡に南西部を掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.10ｍ，短軸3.30ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｅである。壁高は10～24㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部に硬化面が見られる。

炉　確認されない。

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ70㎝ほどで主柱穴と考えられる。Ｐ３は深さ30㎝で性格は不明である。柱穴の位置から，上屋は棟持ち柱の構造と考えられる。

貯蔵穴　２か所。貯蔵穴１は東コーナー部に位置し，長径55㎝，短径50㎝の楕円形で，深さは53㎝である。貯蔵穴２は西コーナー部に位置し，長軸90㎝，短軸80㎝の長方形で，深さは38㎝である。ともに底面は平坦で，壁は外傾している。

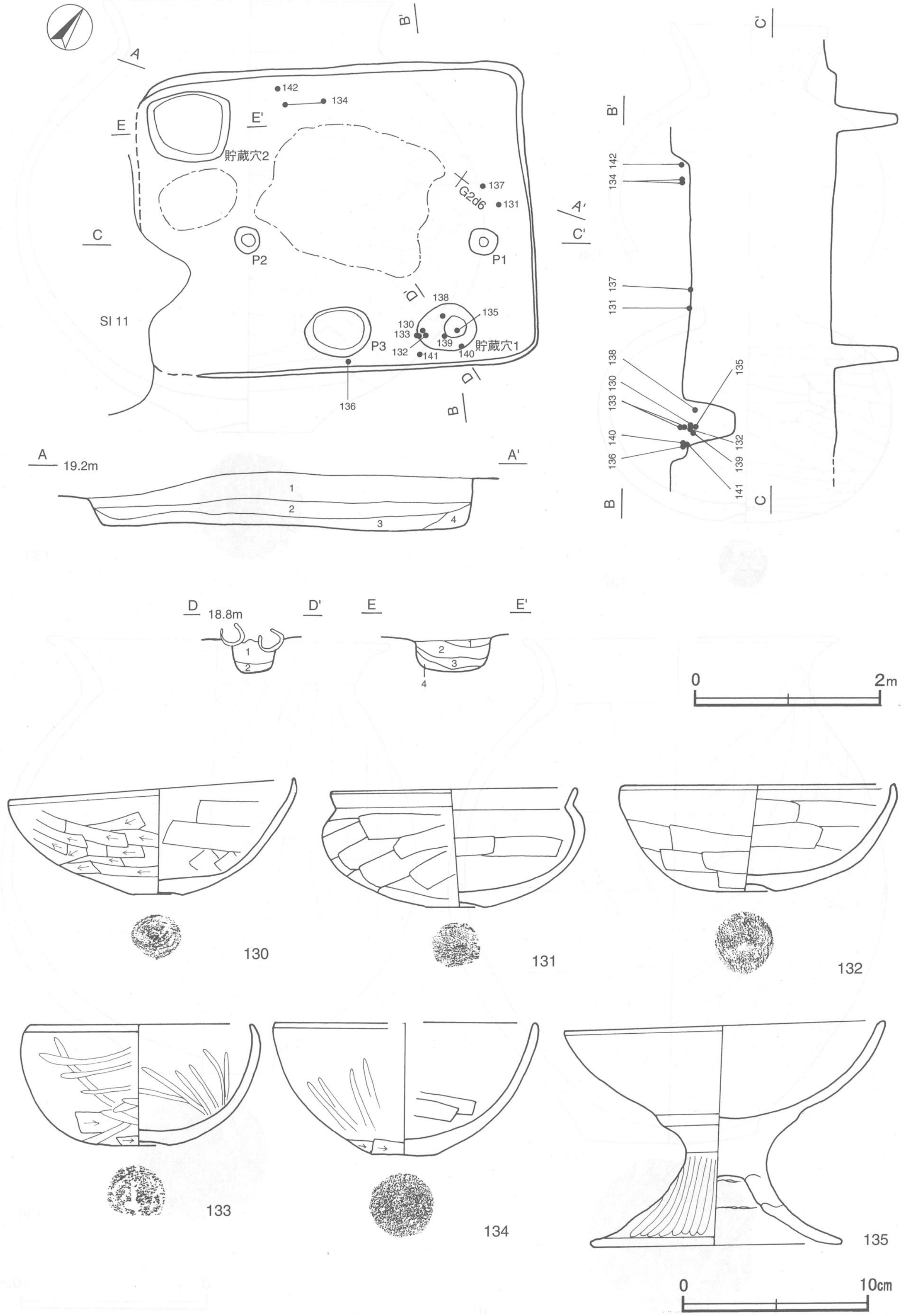
貯蔵穴１土層解説
１　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
２　暗　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量

貯蔵穴２土層解説
１　極 暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
２　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
３　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
４　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量

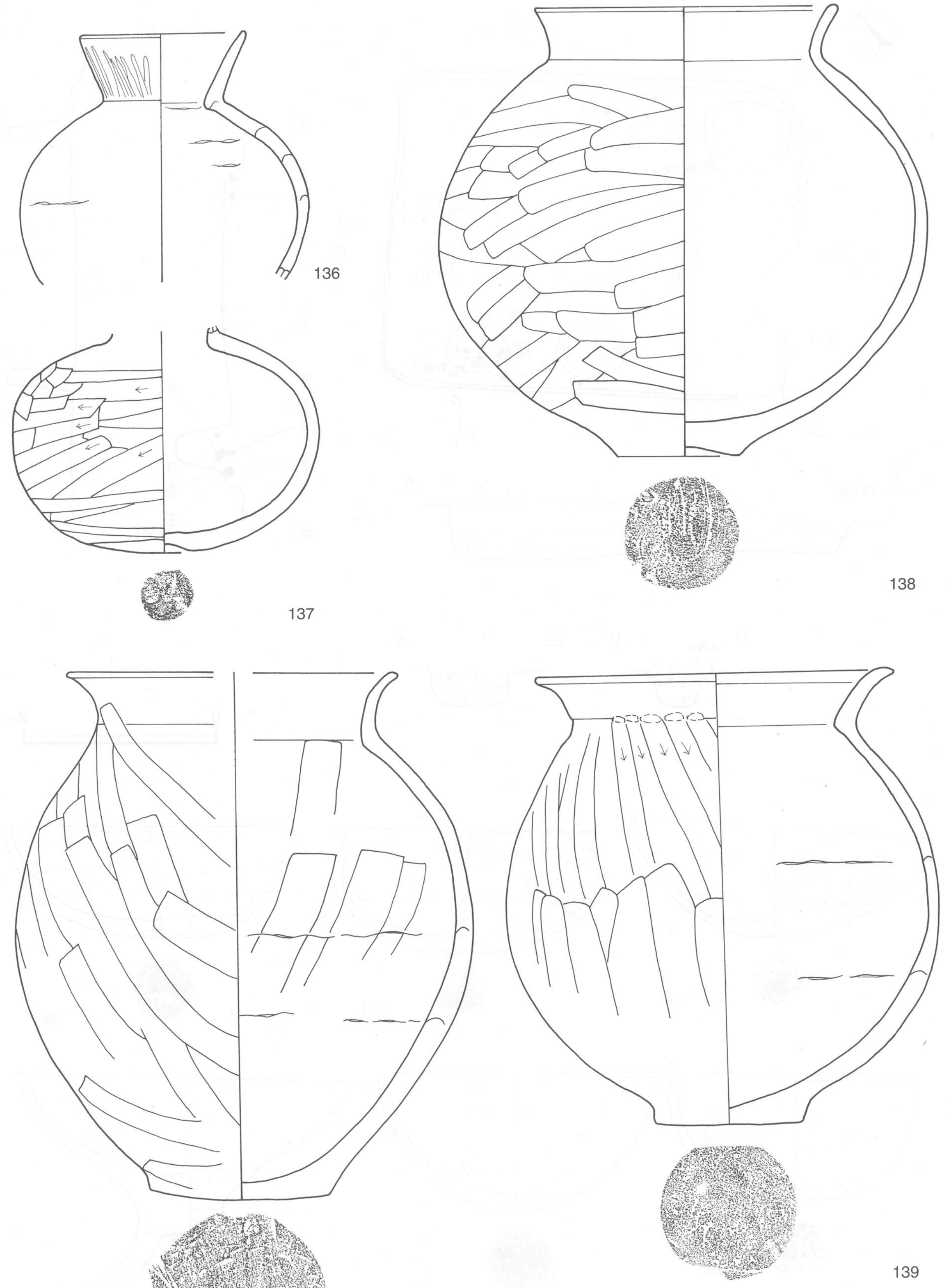
覆土　４層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
１　褐　　　色　ローム粒子少量
２　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
３　暗　褐　色　ローム粒子中量・炭化粒子少量，焼土粒子微量
４　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

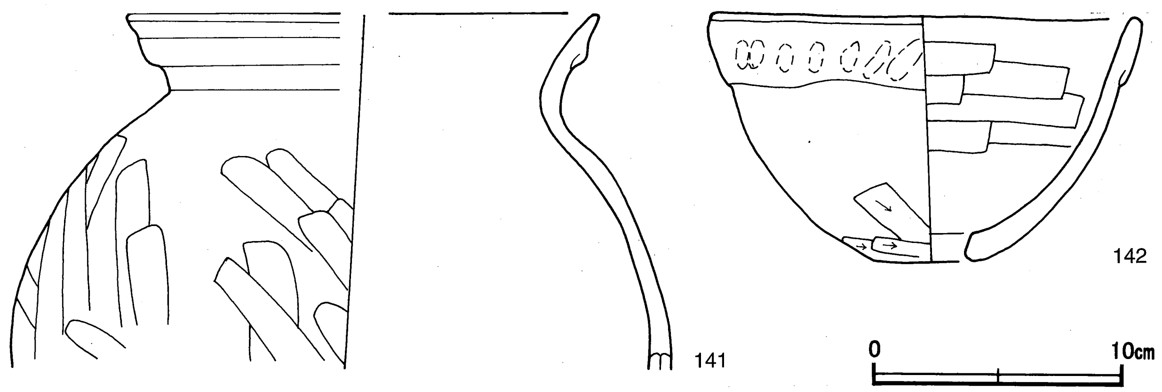
遺物出土状況　土師器片34点（坏類8，甕類25，高坏１）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏３点，椀２点，土師器甕９点，土師器高坏１点，土師器坩２点，土師器甑１点である。多くの土器が完形で出土しており，遺棄されたものと考えられる。130・132・135・138・139・140は貯蔵穴1，131・137は中央部北東壁寄り，133・141は貯蔵穴１付近の床面，136は南西壁際の床面からそれぞれ出土している。



第46図　第47号住居跡・出土遺物実測図



第47図　第47号住居跡出土遺物実測図（1）



第48図　第47号住居跡出土遺物実測図（2）

また，134・142は北西壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は出土土器から5世紀後葉と考えられる。

第47号住居跡出土遺物観察表（第46～48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
130	土師器	坏	15.2	6.2	2.6	長石・石英	にぶい褐	普通	体部内・外面ヘラ削り，内面ヘラナデ，底部ヘラ削り	貯蔵穴	100%
132	土師器	坏	14.5	5.7	2.9	長石・石英	灰褐	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ，底部ヘラ削り	貯蔵穴	90%
131	土師器	椀	13.0	6.3	2.6	長石・石英	赤橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ，底部ヘラ削り	中央部床面	98%
133	土師器	椀	12.0	6.5	3.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラ磨き，底部ヘラ削り	中央部床面	95%
134	土師器	椀	[14.0]	7.2	3.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き，内面ヘラナデ，底部ヘラ削り	北西壁下層	50%
135	土師器	高坏	17.2	11.9	13.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗，脚部ヘラ磨き	貯蔵穴	100% PL34
136	土師器	壺	8.5	(12.9)	—	長石・石英	黒褐	普通	頸部ヘラ磨き，体部外面ヘラ削り，体部内・外面摩耗調整不明	南西壁床面	40%
137	土師器	壺	—	(11.7)	2.5	長石・石英	灰黄	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ，底部ヘラ削り	中央部床面	70%
141	土師器	壺	[18.6]	(14.3)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ	南東壁床面	50%
138	土師器	甕	15.4	23.3	6.2	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面ヘラナデ，内面ナデ，底部ヘラ削り	貯蔵穴	100% PL31
139	土師器	甕	18.6	23.2	7.5	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ，底部ヘラ削り	貯蔵穴	90% PL29
140	土師器	甕	[16.8]	27.3	9.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ，底部ヘラ削り	貯蔵穴	80% PL29
142	土師器	甑	16.8	10.0	4.2	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部指頭痕，体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ	北西壁下層	90% PL40

第48号住居跡（第49図）

位置　調査区東部のＢ12j2区，標高24.2mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸6.50m，短軸5.90mほどの長方形で，主軸方向はＮ－55°－Ｗである。壁高は20～30cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，ややしまりはあるものの硬化した部分は見られない。また，床面に焼土塊が散在して検出され，焼失住居と考えられる。

炉　3か所。北東壁寄りに位置し，炉1は長径65cm，短径48cmの楕円形，炉2は長径82cm，短径48cmの楕円形，炉3は長径70cm，短径42cmの楕円形である。いずれも床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

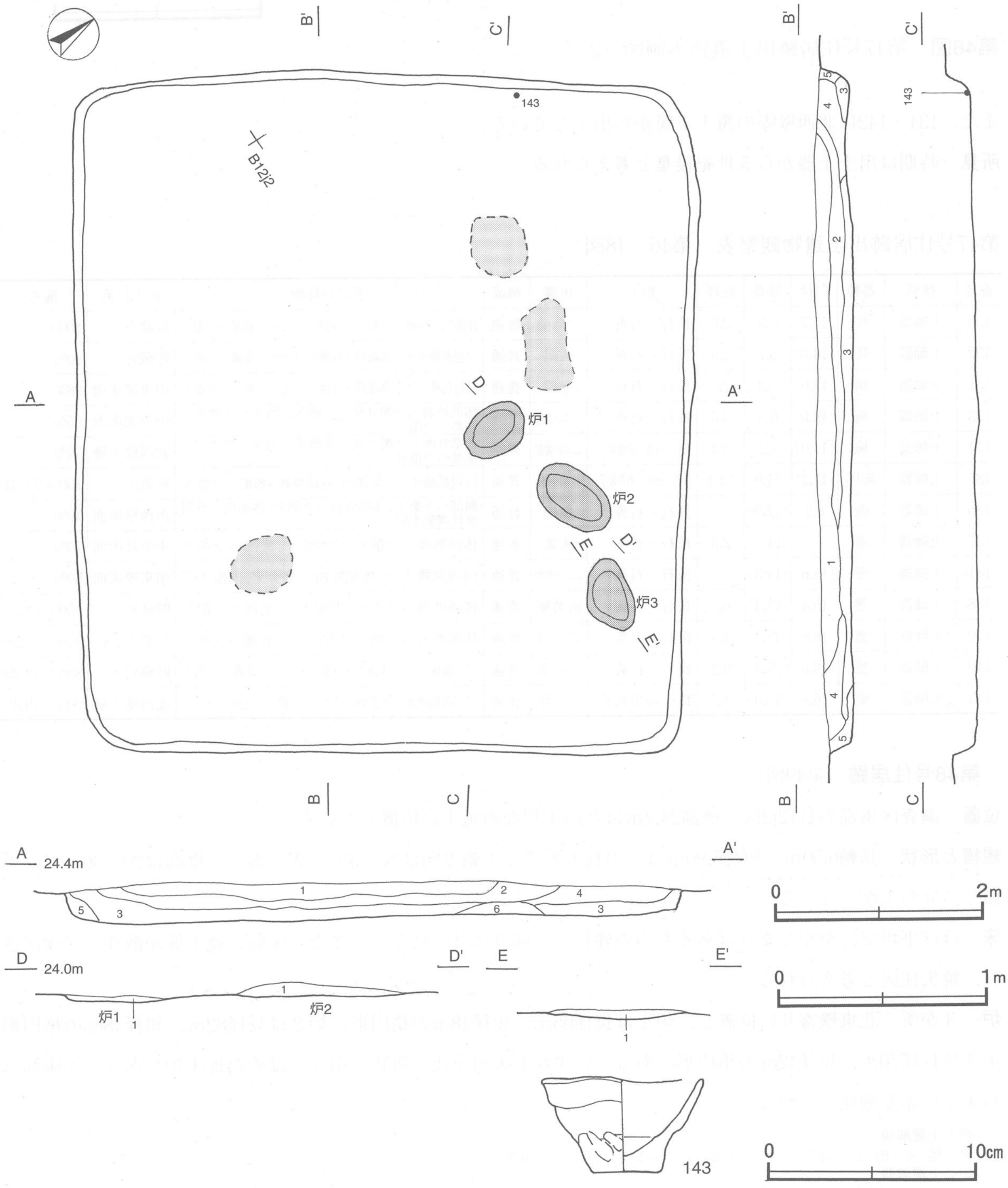
炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
炉2土層解説
1　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化粒子微量
炉3土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子少量

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　６層からなり，1，2層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積，3～６層はロームブロック・焼土ブロックを多く含んだ人為堆積である。

土層解説

1	黒褐色	炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量	4	極暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量
2	黒褐色	炭化粒子・焼土粒子少量，ローム粒子微量	5	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック中量



第49図　第48号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　床面に焼土塊が散在して検出された焼失住居であり，土師器片167点（坏類３，甕類161，高坏２，手捏土器１）が出土している。ほとんどが細片で図示できたのは北西壁際の覆土下層から出土した143の手捏土器だけである。甕の細片にはハケ目整形が確認できるものが多い。

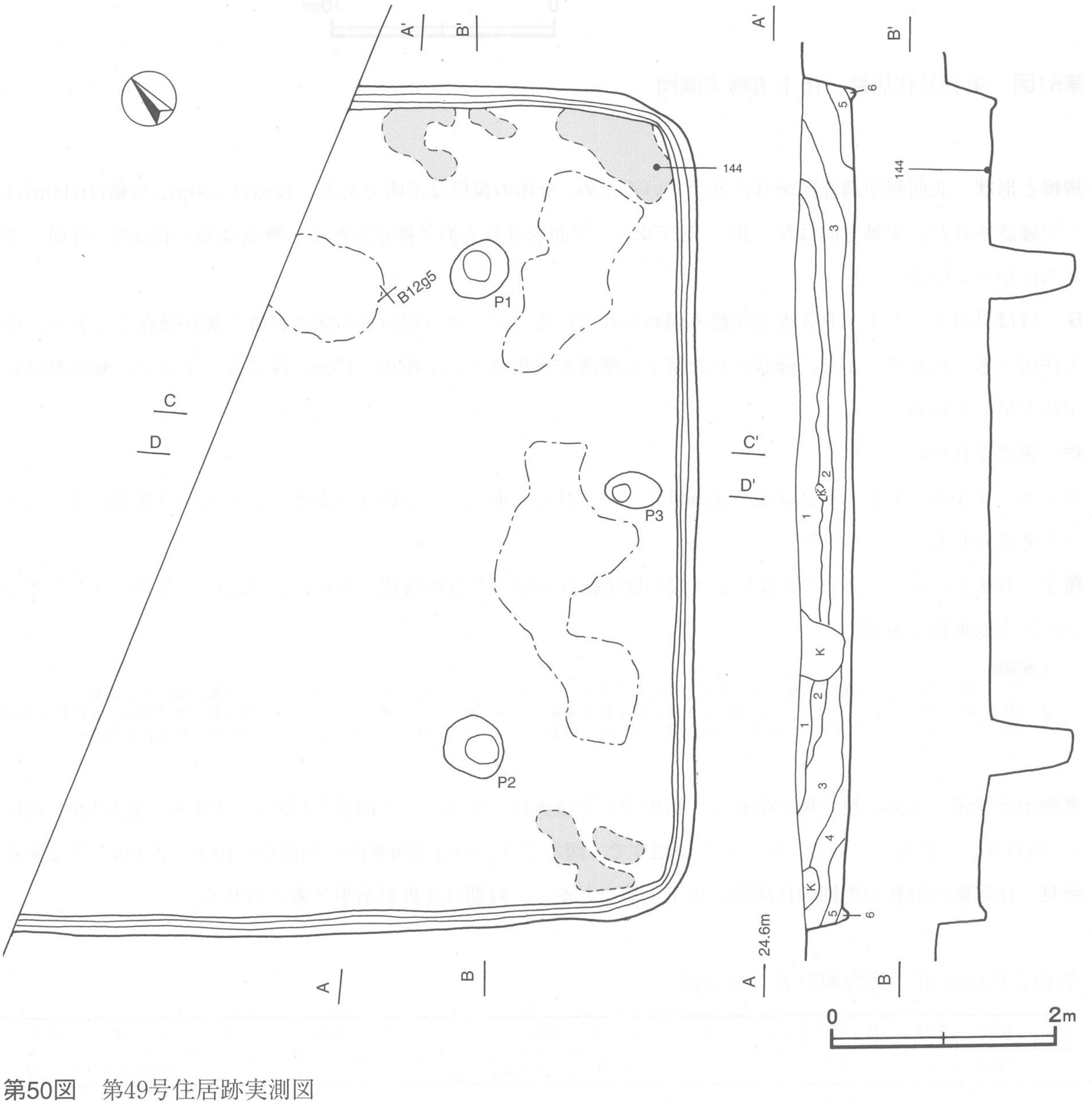
所見　出土土器のほとんどが細片で明確な時期判断が困難であるが，住居跡の形状や周囲の住居跡，出土土器などから，４世紀代と推定される。

第48号住居跡出土遺物観察表（第49図）

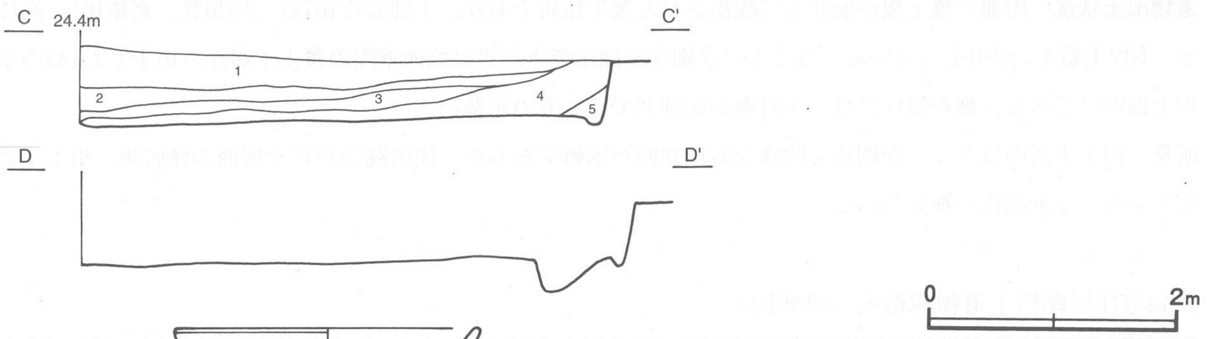
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
143	土師器	手捏土器	7.4	4.6	3.1	長石･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面指頭痕，内面ナデ，底部ヘラ削り	北西壁下層	70%　PL34

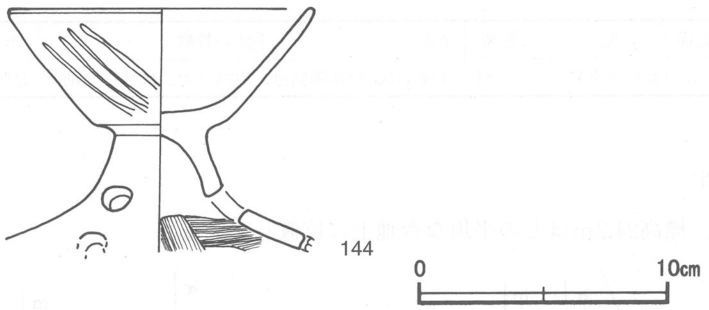
第49号住居跡（第50・51図）

位置　調査区東部のＢ12g4区，標高24.2ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第50図　第49号住居跡実測図





第51図　第49号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状　北西側が調査区域外に延びているため，全体の規模は不明である。長軸は7.50m，短軸は6.00mほどが確認された。主軸方向はＮ－40°－Ｅであり，平面形は長方形と推定される。壁高は33～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，Ｐ１・Ｐ３周辺が踏み固められている。コーナー部付近の床面に焼土塊が散在しており，焼失住居と考えられる。また，確認された壁下に壁溝が検出され，上幅10～15cm，深さ５～７cmで，断面形はＵ字状を呈している。

炉　確認されない。

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ75cmほどで，主柱穴である。Ｐ３は深さ28cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　６層からなり，１・２層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積，３層以下ははロームブロックを多く含んだ人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　褐　　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　床面に焼土塊が散在して検出された焼失住居であり，土師器片142点（坏類８，甕類129，高坏４，器台１）が出土している。ほとんどが細片で，図示できたのは南東壁際の床面から出土した144だけである。

所見　住居跡の形状や周囲の住居跡，出土土器などから，時期は４世紀前半と考えられる。

第49号住居跡出土遺物観察表（第51図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
144	土師器	高坏	12.0	(9.7)	－	長石	橙	普通	坏部外面ヘラ磨き，内面ナデ，裾部内面ハケ目整形，６窓	南東壁床面	70%　PL35

第50号住居跡（第52・53図）

位置　調査区東部のＢ13g6区，標高24.4ｍほどの平坦な台地上に位置している。

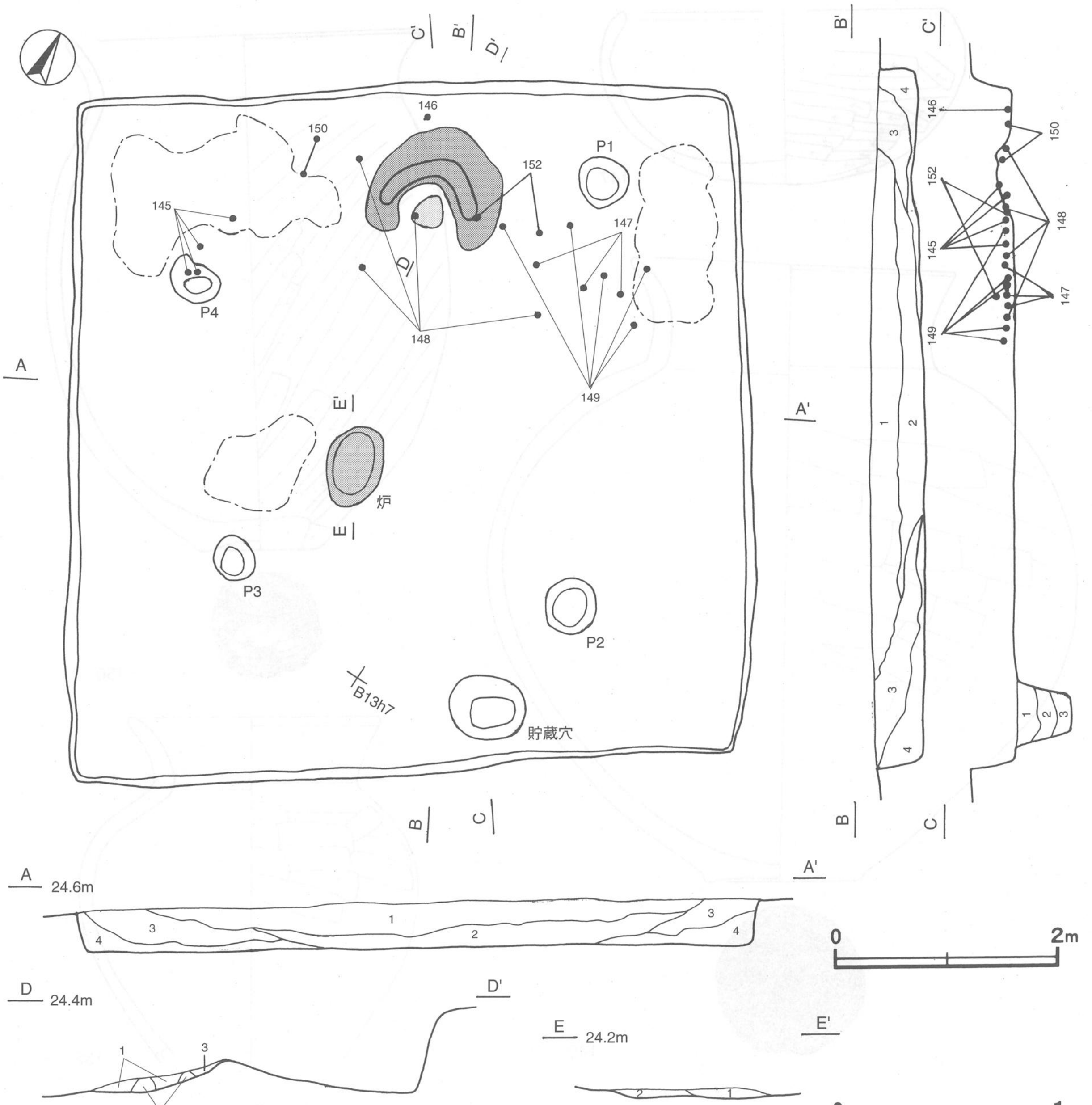
規模と形状　一辺6.15ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｗである。壁高は24～38㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈の両側，及び炉の周囲に硬化面が確認できる。

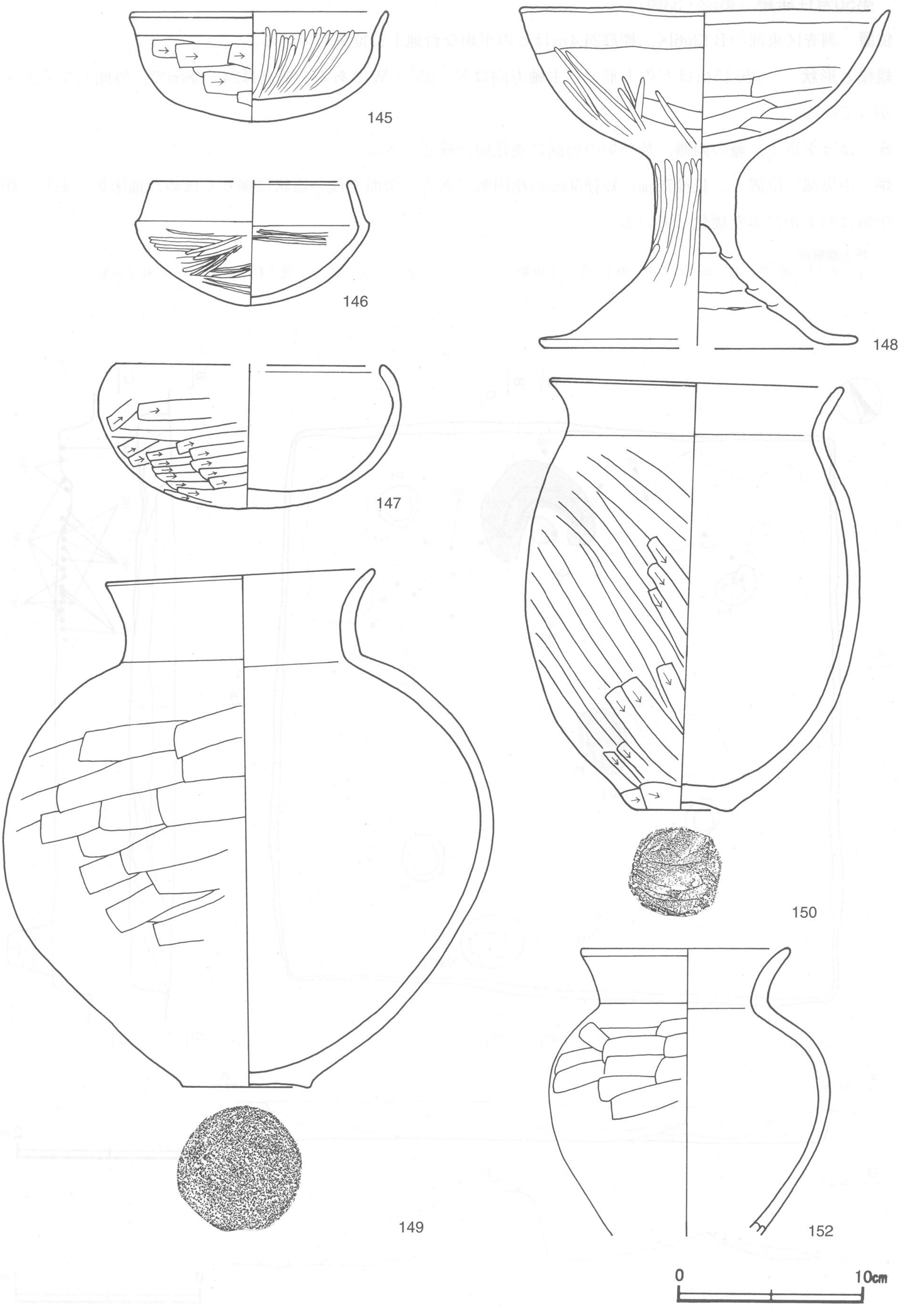
炉　中央部に位置し，長径75㎝，短径50㎝の楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック中量　　2　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ローム粒子中量



第52図　第50号住居跡実測図



第53図　第50号住居跡出土遺物実測図

竈　北壁の中央部から25cmほど内側の床面に付設されている。竈材がわずかに残存した状態で検出され，規模は袖部幅120cmほどで，焚口の掘り込みは検出できなかった。壁を掘り込まずに，袖部を床面と同じ高さの地山面に砂質粘土で構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており，火床面は被熱により赤変硬化している。

竈土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　灰　褐　色　粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量

ピット　4か所。主柱穴は明確でなく，Ｐ１～Ｐ４は深さ15cmほどであるが性格は不明である。

貯蔵穴　南壁の中央部寄りに位置し，長軸70cm，短軸55cmの長方形で，深さは52cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　4層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片297点（坏類53，甕類241，高坏３）が出土している。145・150は中央部北壁寄り，147・152は竈左側の床面，146は竈と北壁との間の覆土下層からそれぞれ出土している。また，148・149は竈周辺の床面から散在して出土しており，本跡廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見　本跡は，初期竈をもつ住居であり，時期は出土土器から６世紀前葉と考えられる。

第50号住居跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
145	土師器	坏	13.7	6.0		長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	中央部床面	70%　PL26
146	土師器	坏	[10.7]	6.8		長石・石英	赤橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き	北壁下層	80%
147	土師器	椀	[14.4]	7.8		長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面剥離	竈左側床面	60%
148	土師器	高坏	19.8	18.2	[16.6]	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部から脚部外面ヘラ磨き，坏部内面ヘラナデ	竈周囲床面	70%　PL36
149	土師器	甕	14.4	28.0	6.9	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ，内面ナデ，底部ヘラ削り	竈左側床面	80%
150	土師器	甕	15.8	23.1	5.1	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ，底部ヘラ削り	中央部床面	80%
152	土師器	甕	11.0	(15.5)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ	竈左側床面	60%

第52号住居跡（第54・55図）

位置　調査区東部のＣ13a5区，標高24.3ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸5.60ｍ，短軸5.50ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｗである。壁高は16～23cmで，直立気味に立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉１からＰ４の間及び南東壁寄りに硬化面が確認できる。

炉　２か所。炉１はＰ１とＰ４の間に位置し，長径90cm，短径70cmの不整楕円形，炉２はＰ１とＰ２の間に位置し，径30cmほどの円形である。ともに床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉１土層解説
1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック中量，炭化粒子少量

炉２土層解説
1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量

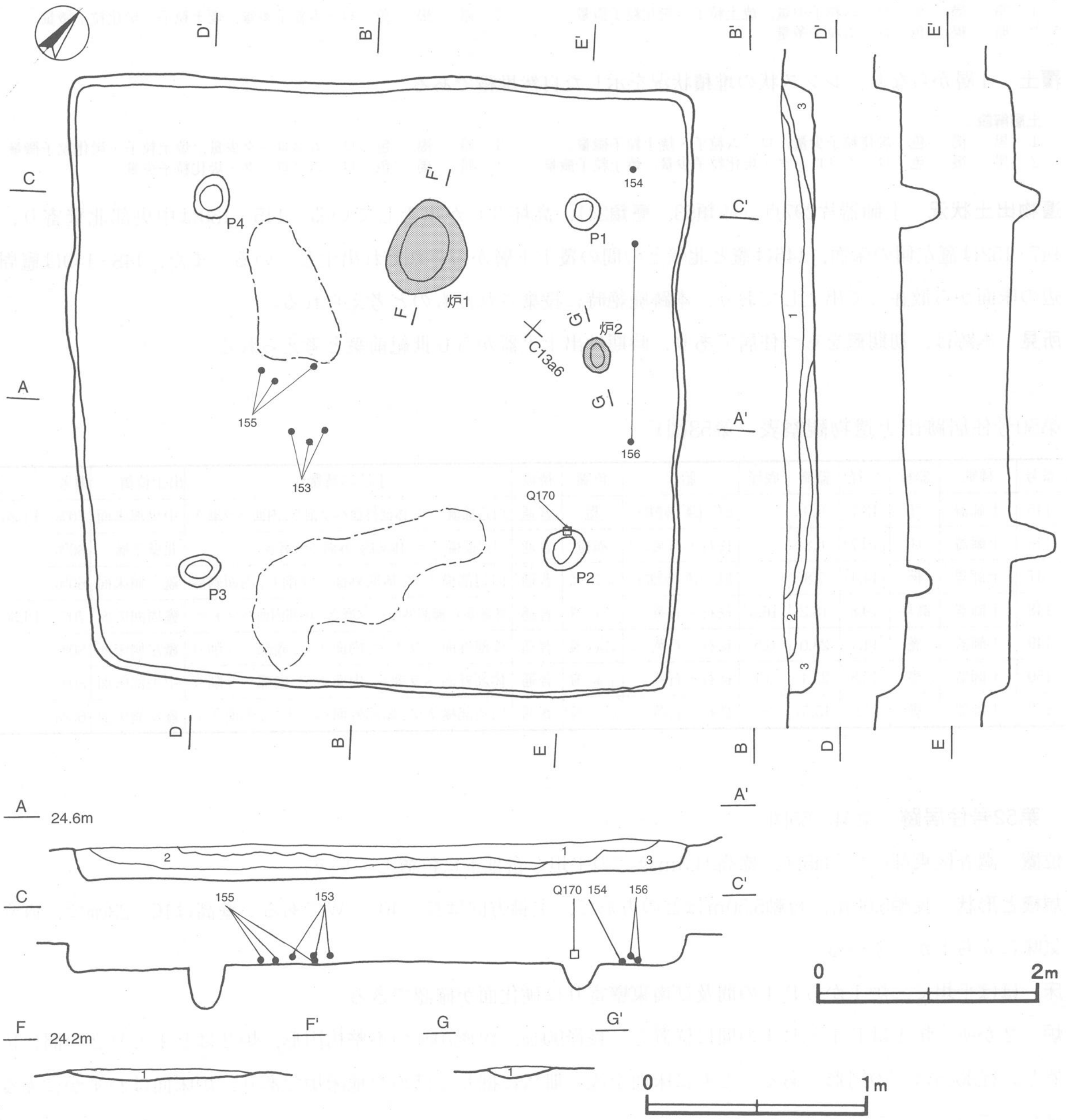
ピット 4か所。いずれも主柱穴に相当し，深さはＰ１が15cm，Ｐ２・Ｐ４が40cm，Ｐ３が23cmほどである。

覆土 3層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

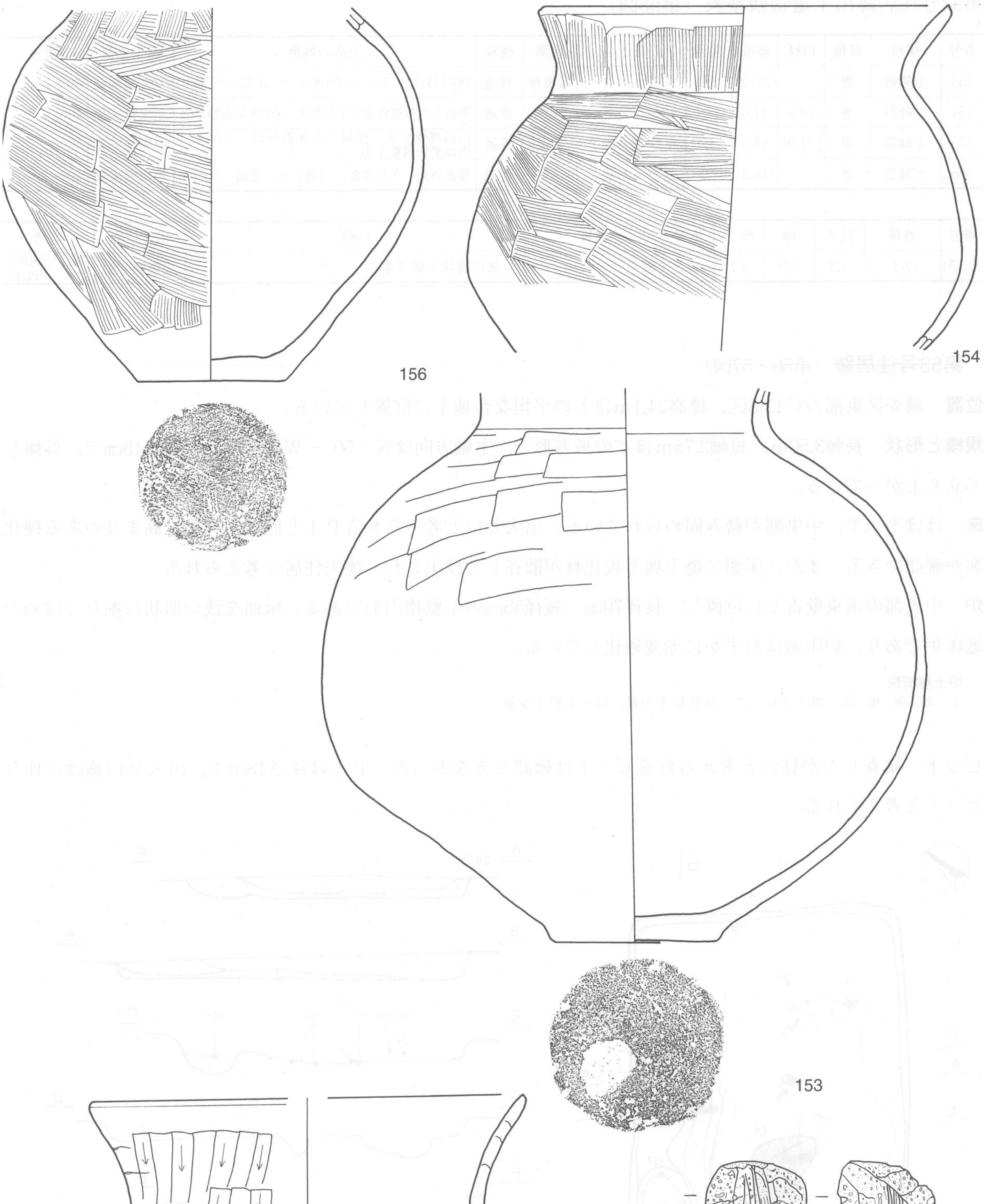
土層解説
1 黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 極 暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片137点（坏類26，甕類106，高坏５），石製品１点（浮子）が出土している。153･155は中央部，154は中央部北東壁寄りの床面，Ｑ170は東コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。また，156は北東壁寄りの床面から散在して出土しており，廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から４世紀後半と考えられる。



第54図　第52号住居跡実測図



第55図　第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
153	土師器	甕	－	(27.2)	8.0	長石	浅黄橙	普通	体部外面ヘラナデ，内面ナデ，底部ヘラ削り	中央部床面	80%
154	土師器	甕	19.8	(17.0)	－	長石・石英	浅黄	普通	頸部から体部外面ハケ目整形，内面摩耗調整不明	北東壁床面	40%
155	土師器	甕	[21.0]	(15.3)	－	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，頸部から体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	中央部床面	40%
156	土師器	甕	－	(18.3)	7.1	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目整形，内面ナデ，底部ヘラ削り	北東壁床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q170	浮子	4.3	4.9	4.7	18.3	軽石	上部に溝状の研ぎ痕	北東壁下層	砥石として利用カ PL42

第53号住居跡（第56・57図）

位置　調査区東部のＣ12f3区，標高24.1ｍほどの平坦な台地上に位置している。

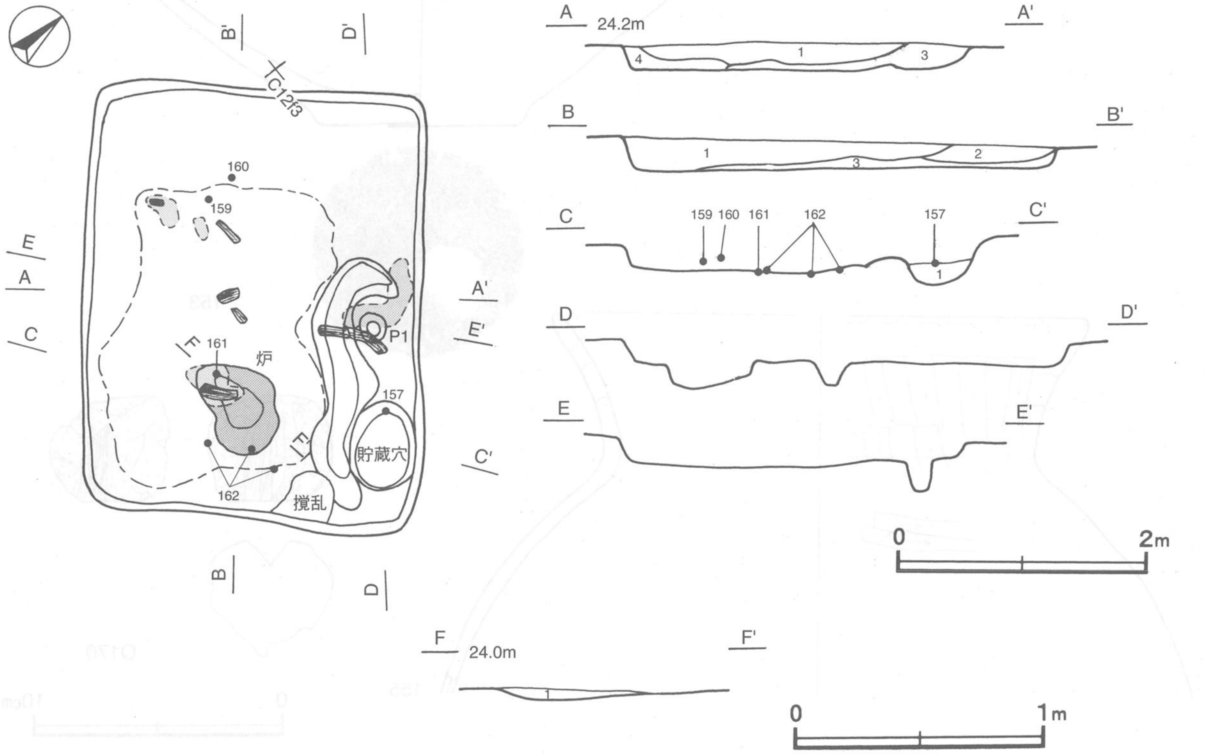
規模と形状　長軸3.50ｍ，短軸2.75ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｗである。壁高は15㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。出入り口と考えられるＰ１と貯蔵穴の間に高まりのある硬化面が確認できる。また，床面に焼土塊と炭化材が散在して検出され，焼失住居と考えられる。

炉　中央部の南東壁寄りに位置し，長径70㎝，短径55㎝の不整楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。Ｐ１は深さ18㎝で，出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第56図　第53号住居跡実測図

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径75cm，短径50cmの楕円形で，深さは20cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。

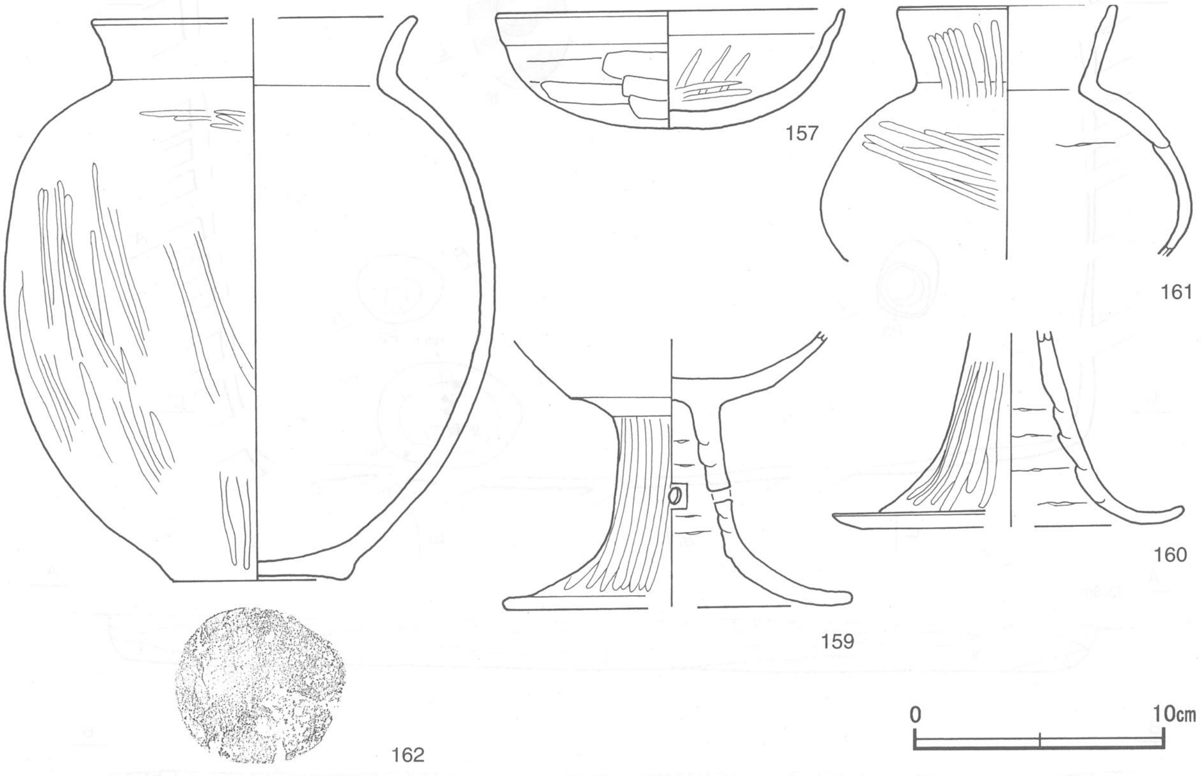
貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　4層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片302点（坏類83，甕類210，高坏9）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏3点，土師器甕7点，土師器高坏2点，土師器壺1点である。157は貯蔵穴，161·162は炉周囲の床面から出土している。また，159・160は中央部覆土中層から出土している。

所見　本跡は，床面から焼土塊や炭化物が多く出土していることや出土土器の状況から焼失住居であり，廃絶後間もなく焼失したものと考えられる。時期は，出土土器から5世紀中葉と考えられる。



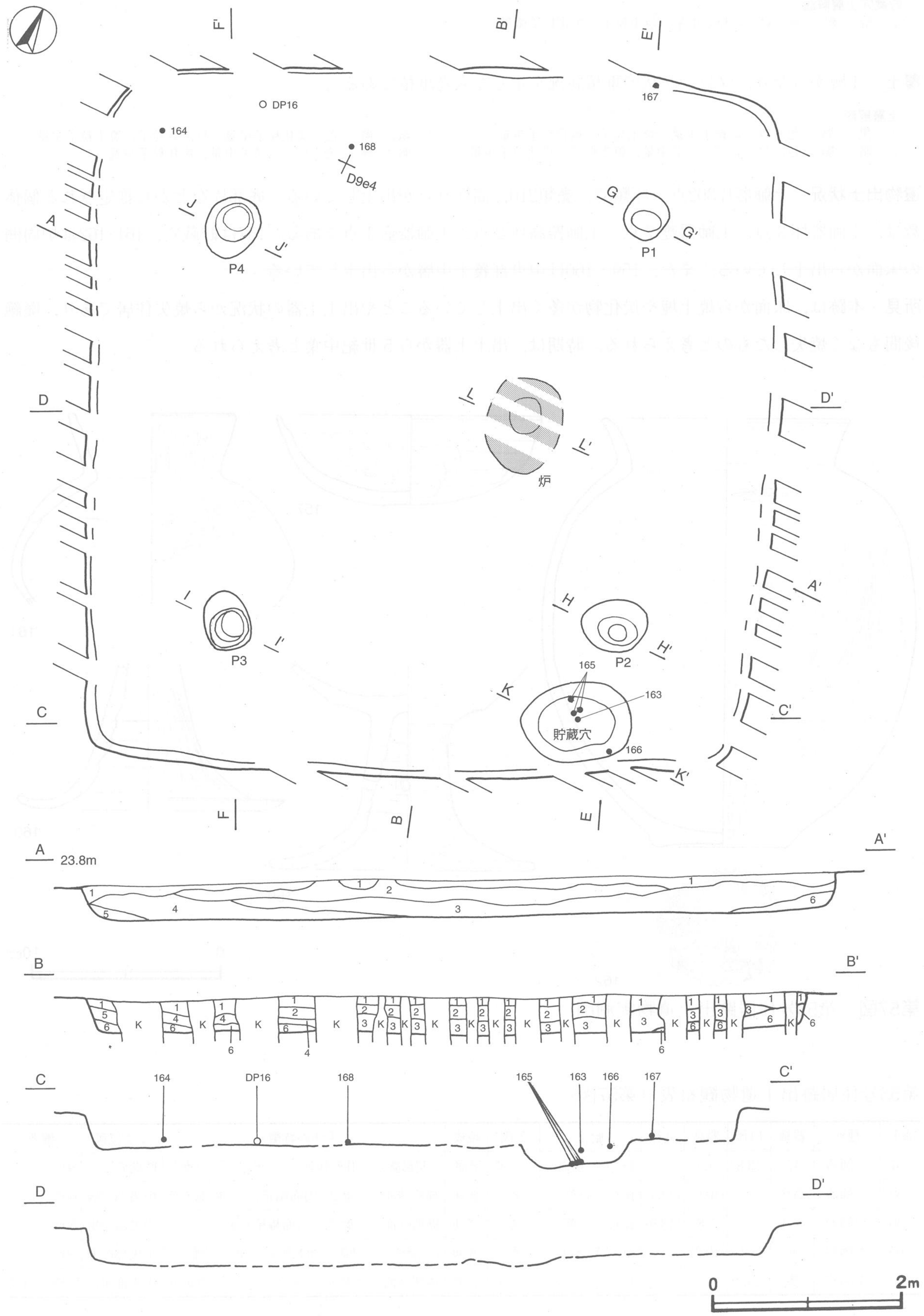
第57図　第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表（第57図）

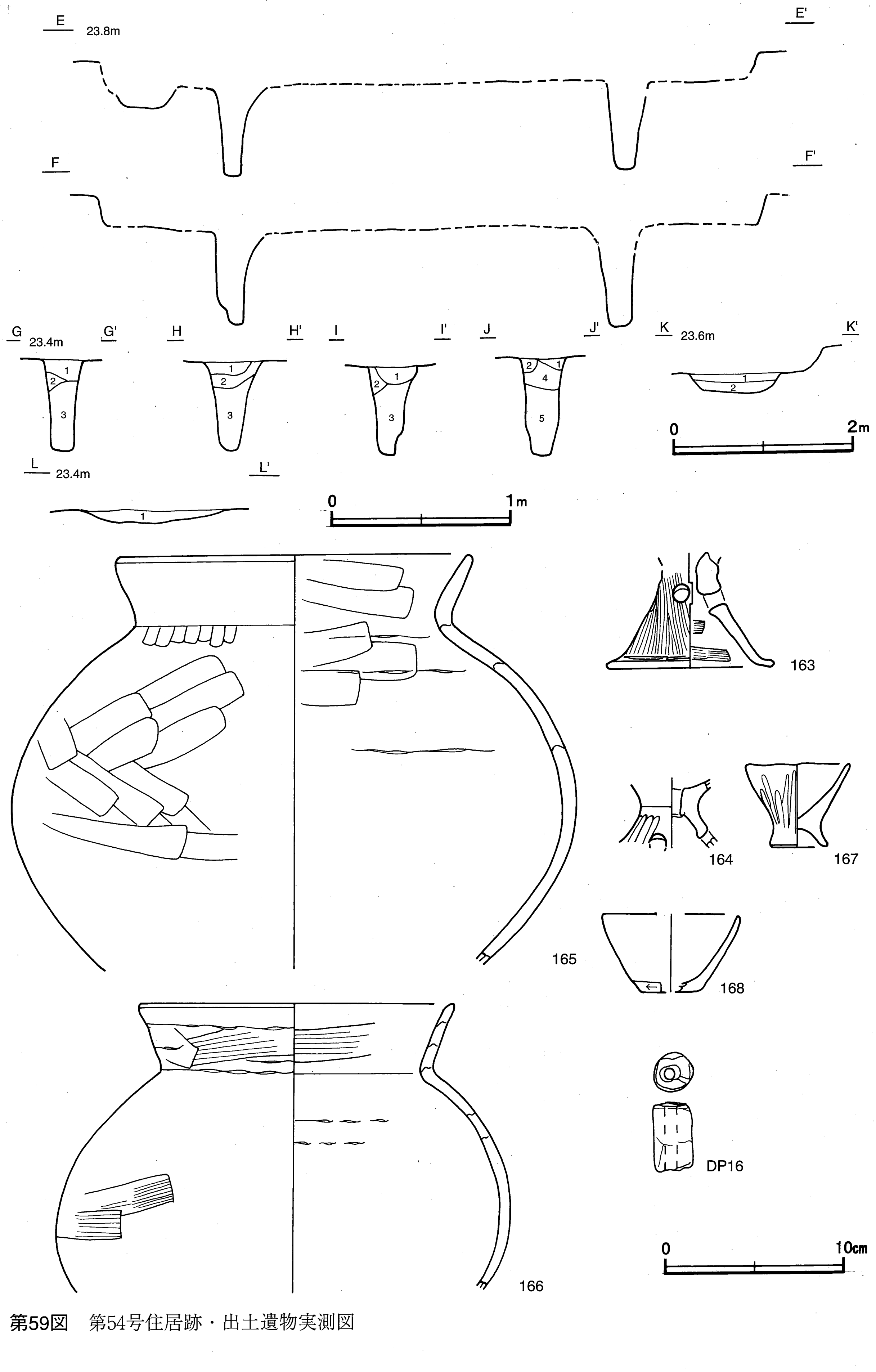
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
157	土師器	坏	13.8	4.6		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き	貯蔵穴	80%
159	土師器	高坏	－	(10.9)	[13.4]	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面輪積み痕，裾部ナデ	中央部中層	60%
160	土師器	高坏	－	(7.8)	[13.9]	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面輪積み痕	中央部中層	50%
161	土師器	壺	8.4	(10.2)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，頸部から体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	中央部床面	50%
162	土師器	甕	[13.0]	22.6	7.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ，底部ヘラ削り	中央部床面	70%　PL32

第54号住居跡（第58・59図）

位置　調査区中央部のＤ９e4区，標高23.5ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第58図　第54号住居跡実測図



第59図　第54号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状　長軸7.40m，短軸7.20mほどの方形で，主軸方向はN－25°－Wである。壁高は35cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，ややしまりはあるものの硬化した部分はない。

炉　中央部の東壁寄りに位置し，長径95cm，短径80cmの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　4か所。いずれも主柱穴に相当し，それぞれ深さ100cmほどである。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

貯蔵穴　南壁の南東コーナー部寄りに位置し，長径115cm，短径80cmの楕円形で，深さは25cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　　色　ロームブロック少量

覆土　6層に分層される。トレンチャーによる攪乱が見られるがレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　褐　　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片334点（甕類323，器台3，高坏6，ミニチュア土器2），土製品1点（管状土錘）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器甕9点，土師器器台2点，土師器ミニチュア土器2点である。163・165・166は貯蔵穴から出土している。167・168・DP16は中央部北壁寄りの床面，164は中央部北壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から4世紀後半と考えられる。

第54号住居跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	土師器	器台	－	(6.4)	9.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目整形，4窓	貯蔵穴	50%
164	土師器	器台	－	(4.0)	－	長石	浅黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，3窓	北西コーナー下層	60%
165	土師器	甕	19.4	(23.1)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	貯蔵穴	30%
166	土師器	甕	17.5	(16.0)	－	長石・石英	浅黄橙	普通	頸部から体部外面ハケ目整形	貯蔵穴	20%
167	土師器	ミニチュア土器	5.8	4.6	3.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	北壁下層	90%　PL34
168	土師器	ミニチュア土器	[7.5]	4.3	[3.3]	長石・石英	橙	普通	体部外面下位ヘラ削り，内面ナデ	北壁床面	40%

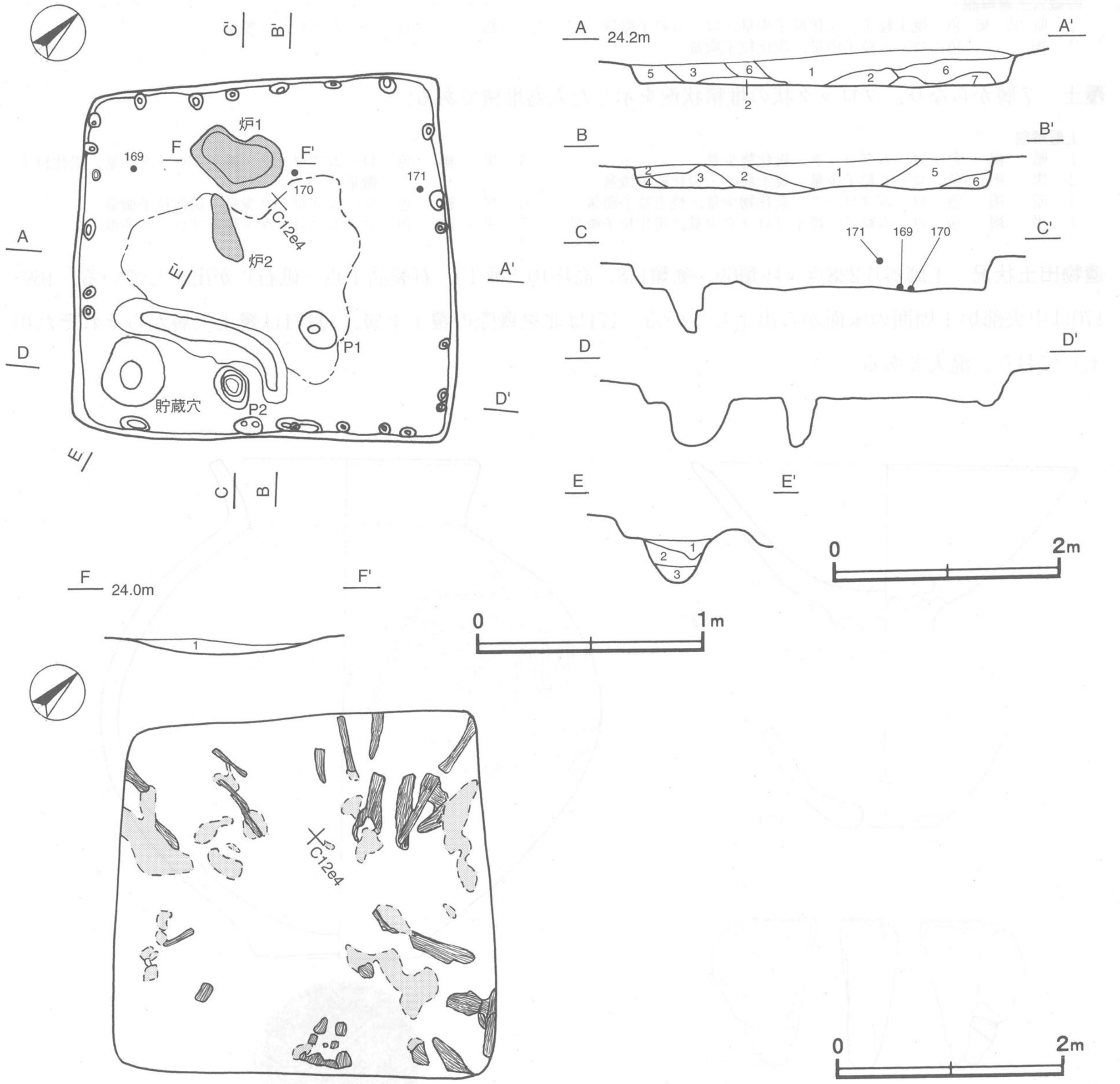
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP16	管状土錘	2.2	3.8	0.6	23.4	土製	ナデ，片面穿孔	北壁床面	PL42

第55号住居跡（第60・61図）

位置　調査区中央部のＣ12e4区，標高24.0ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.30ｍ，短軸3.20ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｅである。壁高は18～32㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められており，出入り口と考えられるＰ１から貯蔵穴周辺に土手状の高まりをもった硬化面が確認できる。壁際に径８～24㎝の円形状で深さ５～14㎝の小ピットが24か所見られ，壁柱穴と考えられる。また，壁際から中央部に向かって焼土塊と長さ50㎝ほどの炭化材が出土しており，焼失住居と考えられる。



第60図　第55号住居跡実測図

炉　2か所。炉1は中央部の北西壁寄りに位置し，長径85cm，短径50cmの不整楕円形，炉2は炉1の南東に位置し，長径60cm，短径20cmの不整楕円形である。炉1は床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。炉2は床面と同じ高さで赤変硬化している。

炉1土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　26か所（24か所は壁際の小ピット）。Ｐ1は深さ42cmで南東壁のやや南寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ2は深さ21cmで性格は不明である。

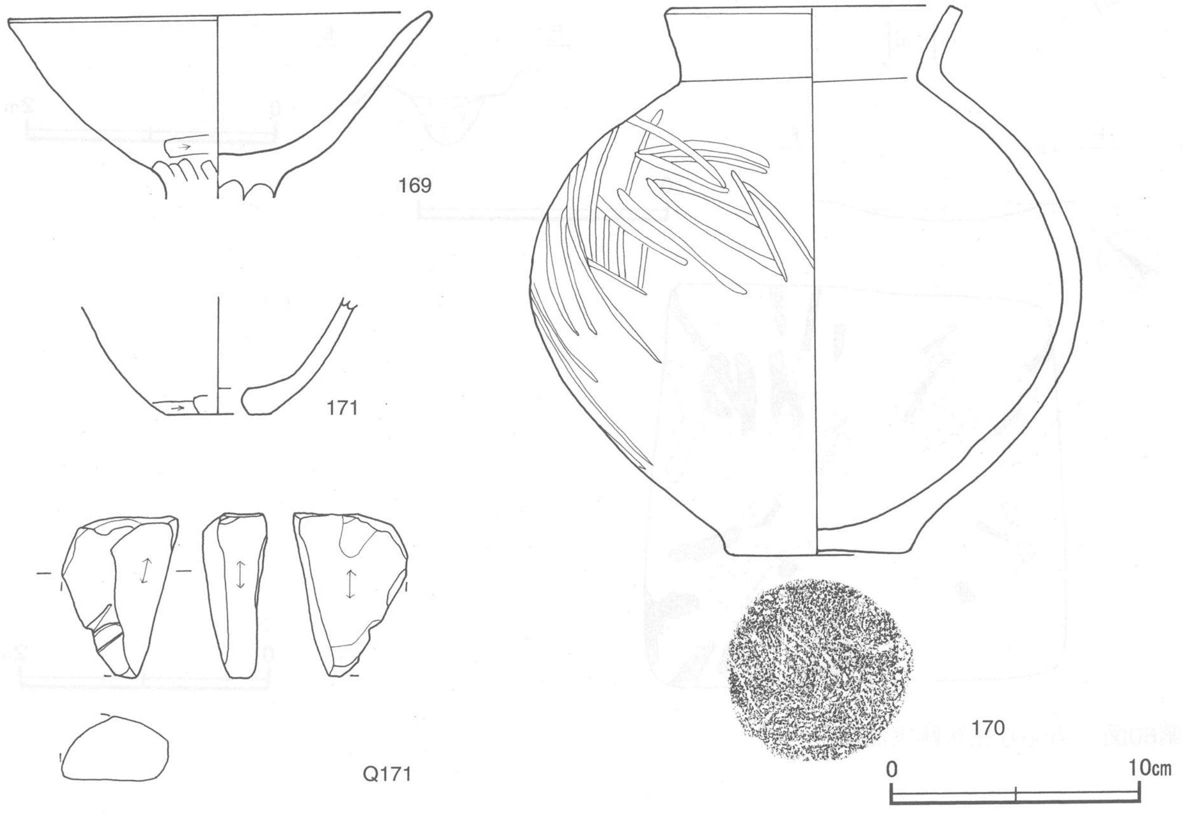
貯蔵穴　南コーナー部に位置し，長径62cm，短径55cmの楕円形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐色　ロームブロック多量

覆土　7層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量
2　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
5　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
6　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック多量

遺物出土状況　土師器片228点（坏類69，甕類148，高坏10，甑1），石製品1点（砥石）が出土している。169・170は中央部炉1周囲の床面から出土している。171は北東壁際の覆土上層，Ｑ171は覆土上層からそれぞれ出土しており，混入である。



第61図　第55号住居跡出土遺物実測図

所見　本跡は，床面から焼土塊や炭化物が多く出土していることや出土土器の状況から焼失住居であり，廃絶後間もなく焼失したものと考えられる。時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。

第55号住居跡出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
169	土師器	高坏	16.8	(7.4)	－	長石	にぶい黄橙	普通	坏部外面ヘラ削り後ナデ，下位ヘラ磨き，内面摩耗調整不明	中央部床面	90%
170	土師器	甕	11.3	22.0	7.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，内面ナデ	中央部床面	80%　PL32
171	土師器	甑	－	(4.7)	4.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ磨き，下位ヘラ削り，内面ナデ	北西壁上層	5％

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q171	砥石	6.6	(4.6)	2.6	(73.0)	砂岩	側面に研磨痕，断面は四角形，砥面３面	覆土上層	PL42

第56号住居跡（第62・63図）

位置　調査区中央部のＤ10h1区，標高23.9ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸5.30ｍ，短軸4.50ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－65°－Ｅである。壁高は12～27㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，主柱穴と考えられるＰ１～Ｐ４の間は踏み固められている。出入り口と考えられる南東壁に面してやや高まりをもった硬化面が確認できる。また，各壁際の床面から焼土塊とともに炭化物が検出され，焼失住居と考えられる。

炉　東側の一部に攪乱を受けているが，中央部のＰ１寄りに位置し，径62㎝の円形と推定される。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
１　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量
２　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　４か所。いずれも主柱穴に相当し，深さはＰ１・Ｐ３・Ｐ４が70㎝，Ｐ２が60㎝ほどである。

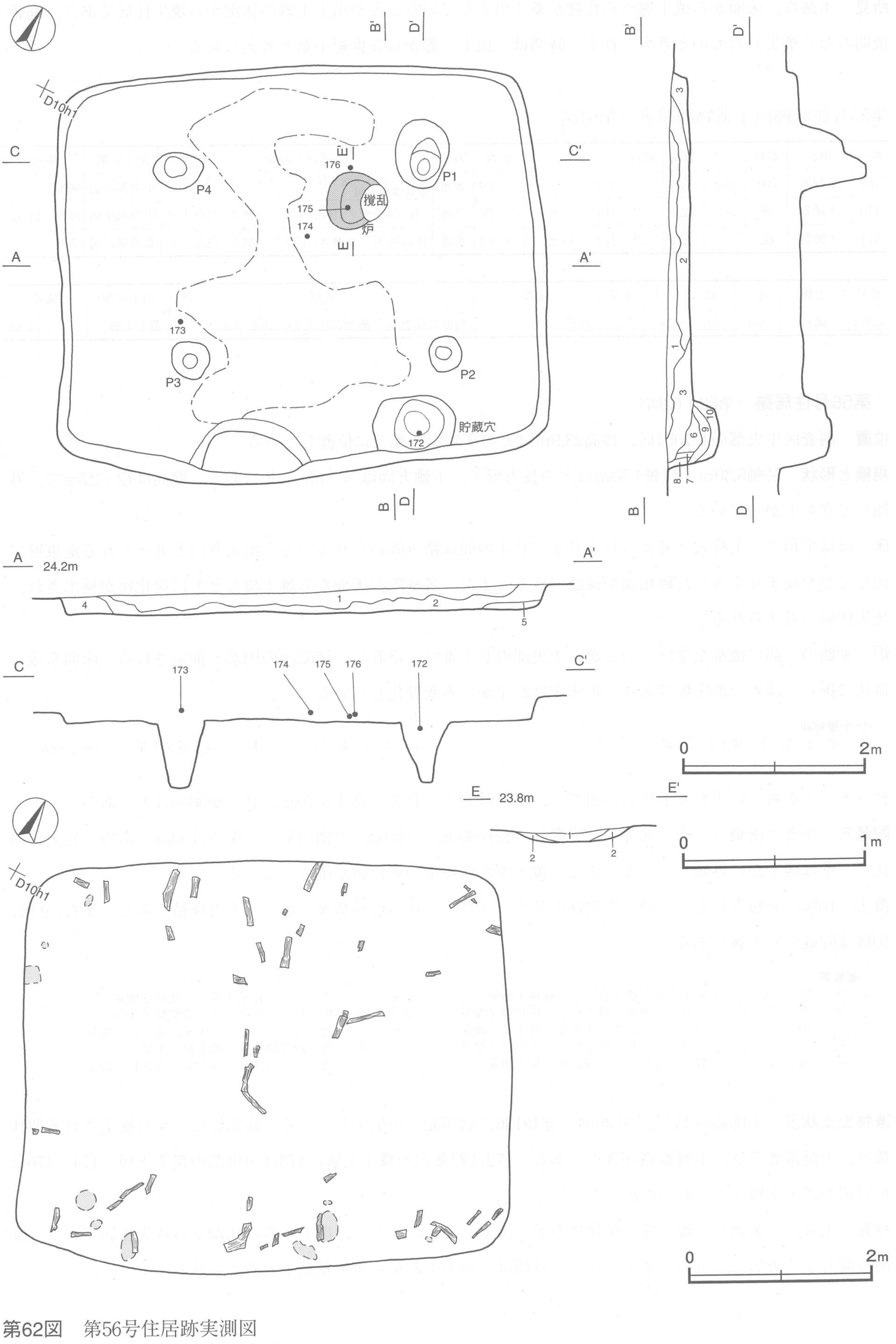
貯蔵穴　南壁の南東コーナー部寄りに位置し，長径90㎝，短径63㎝の楕円形で，深さは33㎝である。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。また，覆土中から多量の炭化物が出土している。

覆土　10層に分層される。下層に炭化物が多く，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。また，９層，10層は貯蔵穴の土層である。

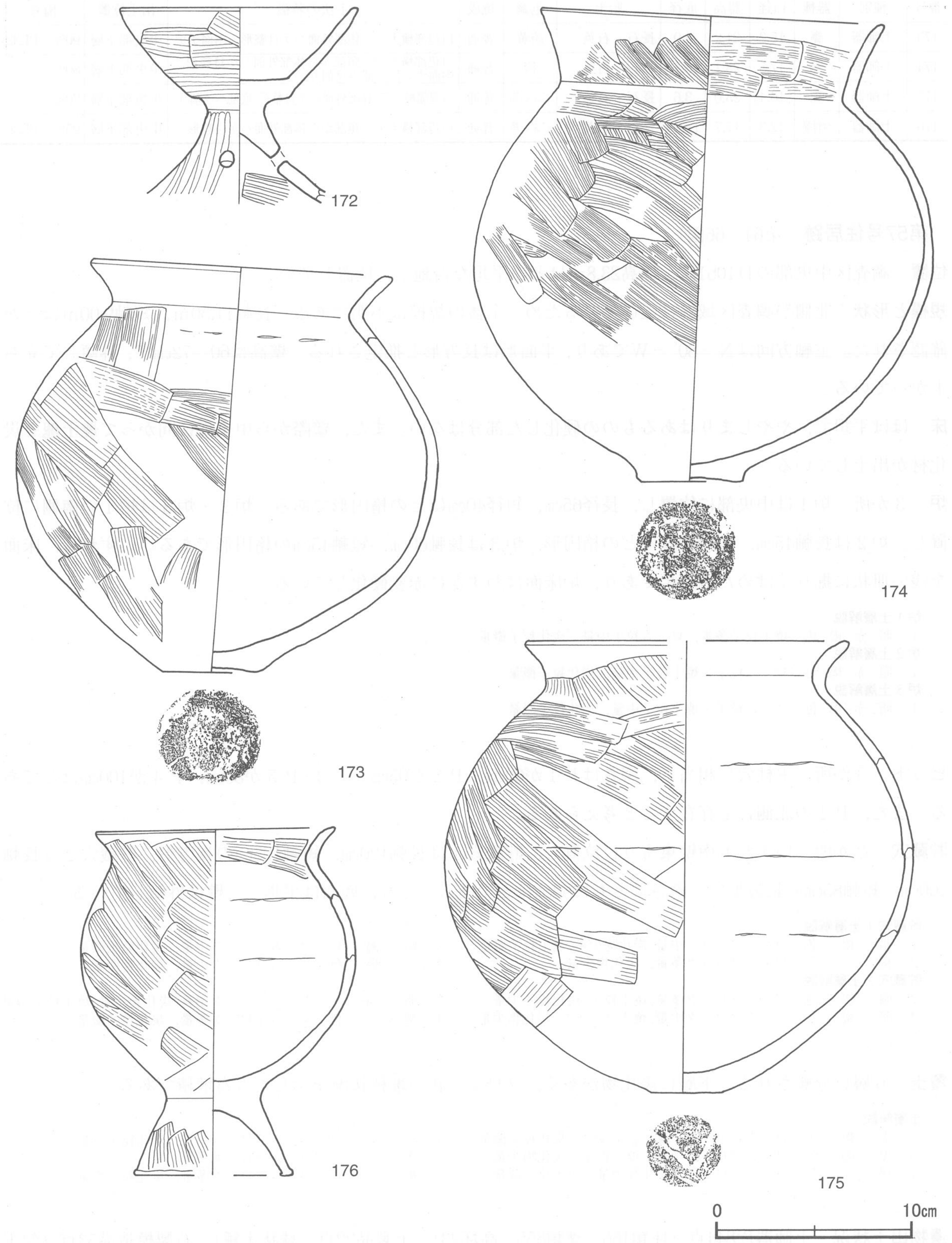
土層解説
１　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
２　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
３　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
４　褐　　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
５　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
６　褐　　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
７　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
８　褐　　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
９　黒　褐　色　炭化物中量，焼土粒子少量
10　褐　　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片232点（坏類64，甕類136，高坏32）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器甕７点，土師器高坏３点である。172は貯蔵穴の覆土上層，173は中央部の覆土下層，174～176は炉周辺の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　本跡は，床面から焼土塊や炭化物が多く出土していることや，出土土器の状況から焼失住居であり，廃絶後間もなく焼失したものと考えられる。時期は，出土土器から４世紀前半と考えられる。



第62図　第56号住居跡実測図



第63図　第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
172	土師器	高坏	12.0	(10.0)	−	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	坏部外面ハケ目整形，内面摩耗，脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目整形，3窓	貯蔵穴	90%　PL35

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
173	土師器	甕	15.2	21.2	4.9	長石・石英	淡黄	普通	口辺部横ナデ，体部外面ハケ目整形，内面ナデ	中央部下層	90%　PL32
174	土師器	甕	17.5	23.1	5.4	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，頸部から体部外面ハケ目整形，内面ナデ，底部ヘラ削り	中央部下層	80%
175	土師器	甕	[16.4]	23.0	3.6	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部横ナデ，体部外面ハケ目整形，底部ヘラ削り	中央部下層	70%
176	土師器	台付甕	12.3	17.7	[8.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，頸部から体部外面ハケ目整形	中央部下層	95%　PL36

第57号住居跡（第64～66図）

位置　調査区中央部のD10b1区，標高23.8mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北側が調査区域外に延びているため，全体の規模は不明である。長軸11.50m，短軸9.00mほどが確認された。主軸方向はN－80°－Wであり，平面形は長方形と推定される。壁高は60～72cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，ややしまりはあるものの硬化した部分はない。また，壁際から中央部に向かって焼土塊と炭化材が出土している。

炉　3か所。炉1は中央部に位置し，長径65cm，短径40cmほどの楕円形である。炉2・炉3は炉1の南側に位置し，炉2は長軸45cm，短軸30cmほどの楕円形，炉3は長軸60cm，短軸45cmの楕円形である。いずれも，床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子微量

炉2土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量

炉3土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量

ピット　5か所。主柱穴に相当し，深さはP1が60cm，P2が95cm，P3・P5が80cm，P4が100cmほどである。また，P1の北側にも存在すると考えられる。

貯蔵穴　2か所。いずれも南壁東寄りに位置し，貯蔵穴1は長軸120cm，短軸105cmの長方形，貯蔵穴2は長軸100cm，短軸85cmの長方形で，深さはともに60cmほどである。ともに底面は平坦で，壁は外傾している。

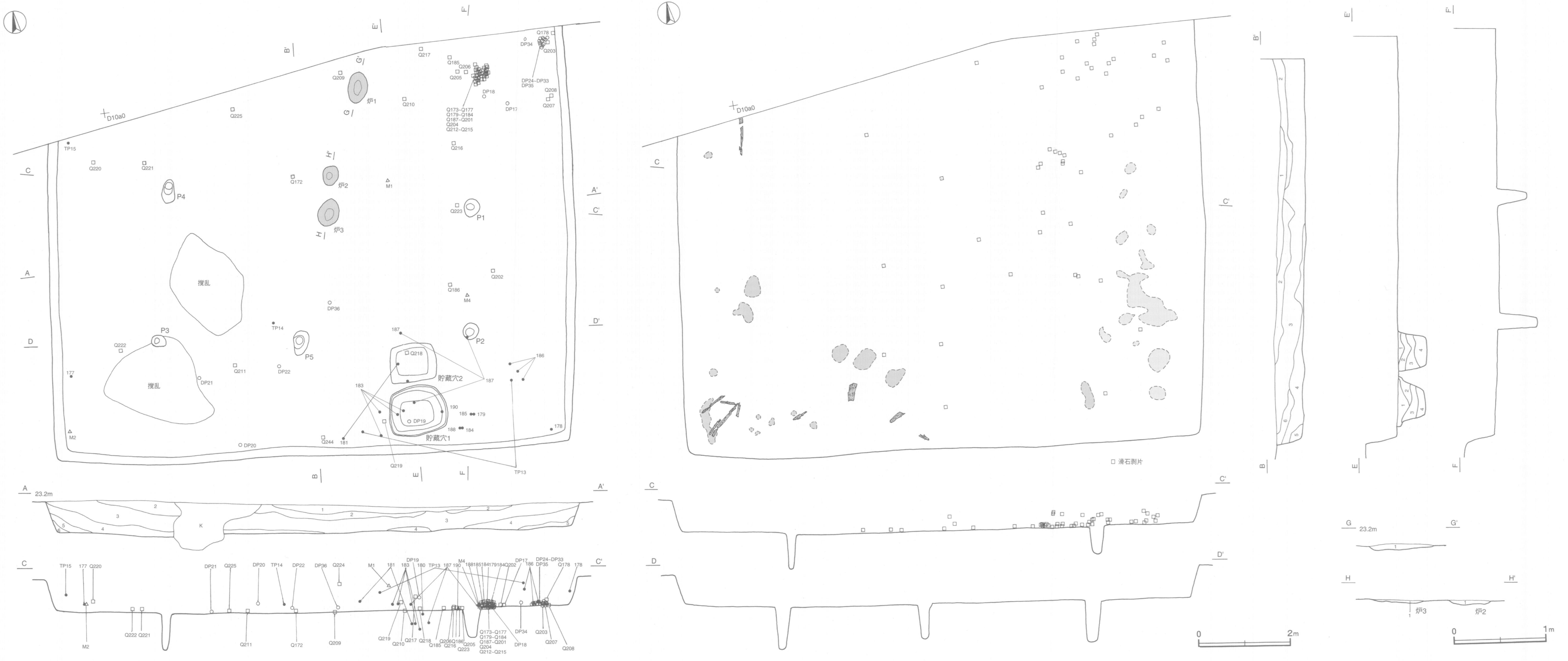
貯蔵穴1土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
2　褐色　ロームブロック多量，炭化物少量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量

貯蔵穴2土層解説
1　暗褐色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量
3　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
4　褐色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

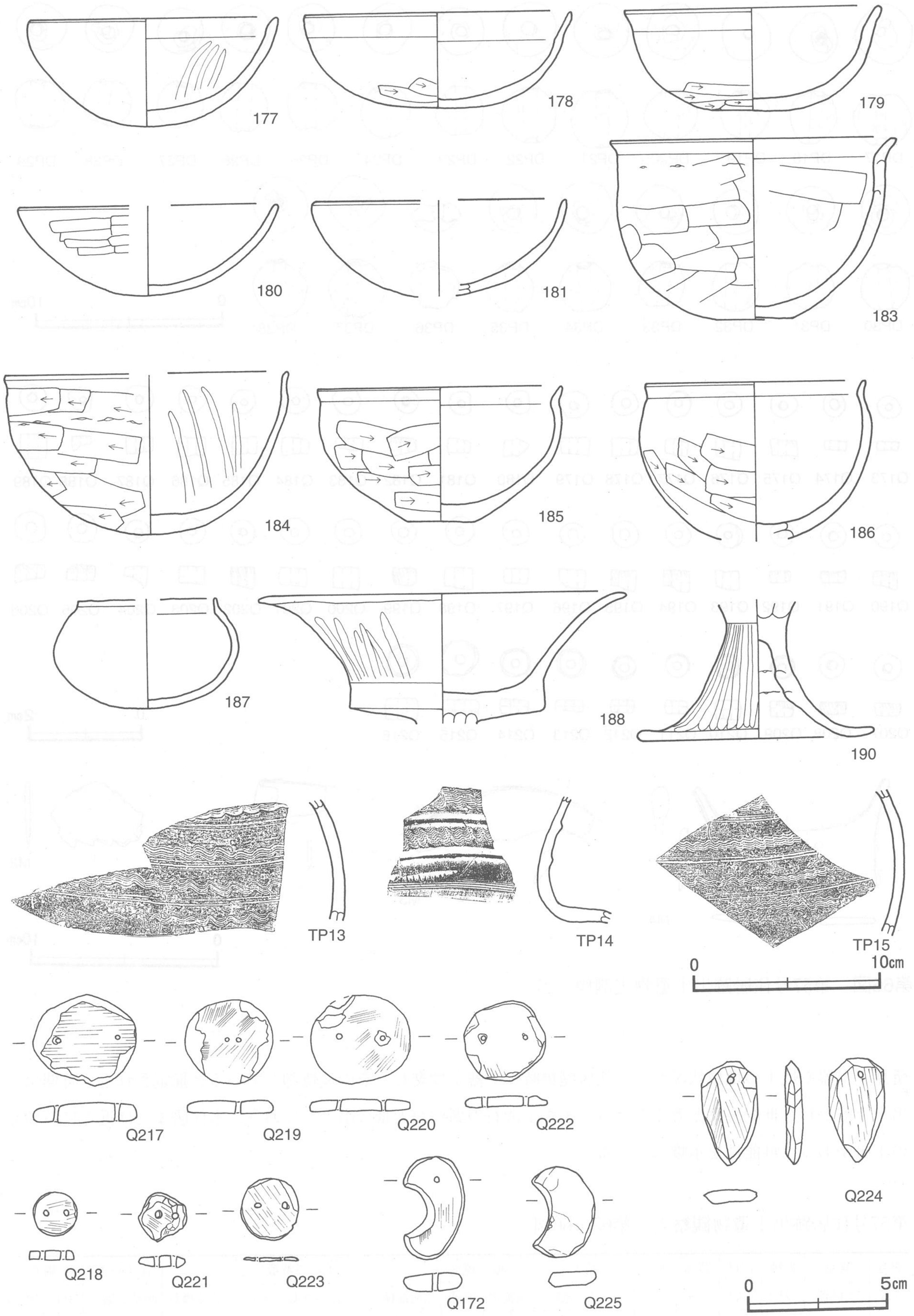
覆土　6層に分層される。下層に炭化物が多く，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土粒子少量・炭化粒子微量
2　黒褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
3　褐色　ロームブロック・炭化物中量，焼土粒子微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
5　褐色　ロームブロック多量
6　褐色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

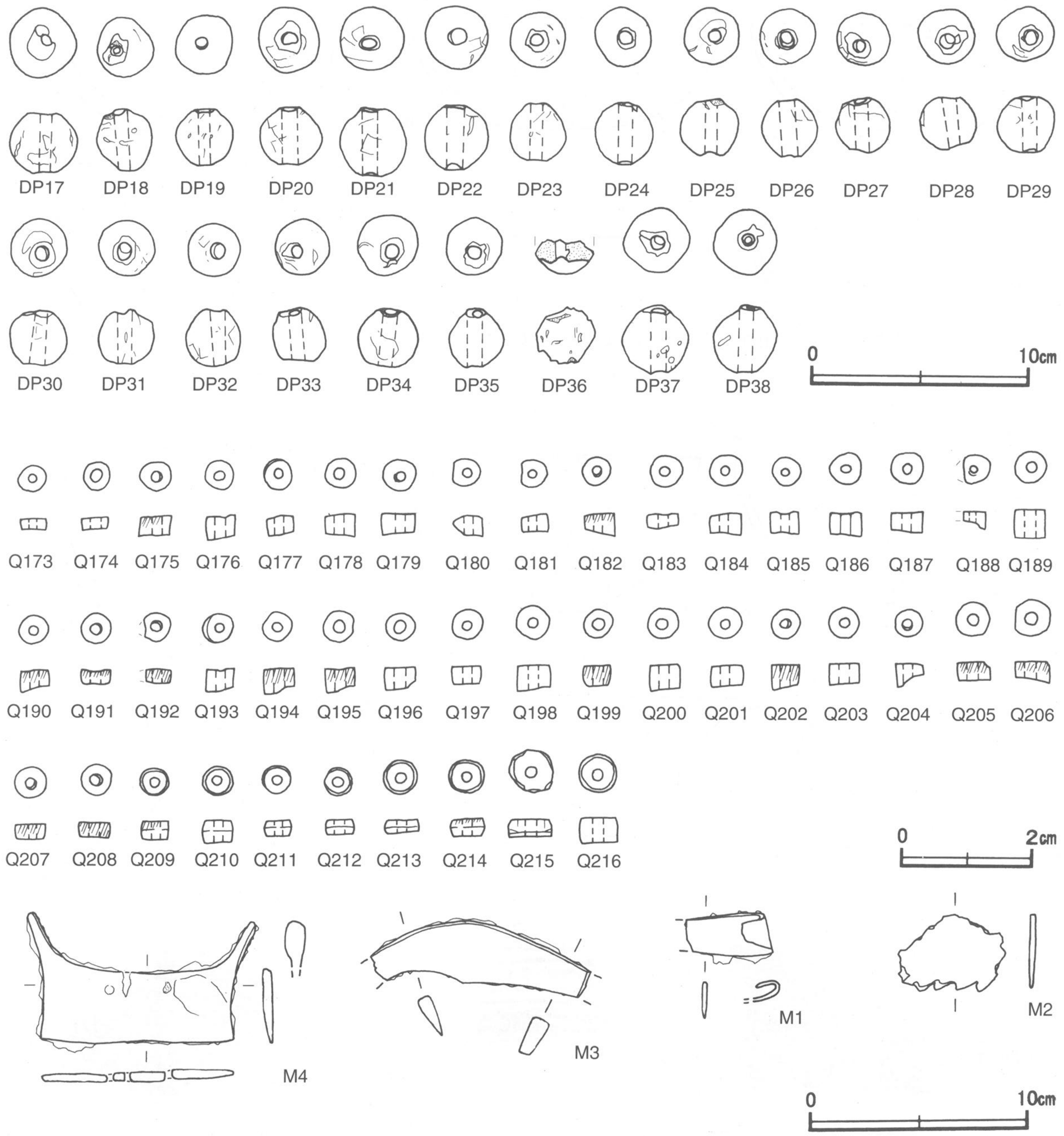
遺物出土状況　土師器片844点（坏類166，甕類655，高坏23），土製品22点（球状土錘），石製模造品53点（勾玉1，臼玉43，双孔円板7，剣形1，未成形品1），ガラス小玉1点，鉄製品4点（鎌2，不明2）が出土している。184・188は南壁際の床面，179・185は南壁際の覆土下層から出土している。181・183・187は貯蔵穴から出土した破片と南壁寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。DP23～DP36は東壁寄り，Q173～Q185・Q187～Q208・Q212～Q215はさらに東壁寄りの床面から集中して出土している。また，123点出土している滑石の剥片のうち，出土位置のはっきりしているものの多くは東壁寄りの覆土中層に集中している。



第64図　第57号住居跡実測図



第65図　第57号住居跡出土遺物実測図（1）



第66図　第57号住居跡出土遺物実測図（2）

所見　土器や焼土の堆積状況から，住居廃絶時に土器を投棄し，その後焼却していると推定される。時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。また，滑石の剥片が大量に出土しており，本住居または近くに石製品の工房があった可能性を示唆している。

第57号住居跡出土遺物観察表（第65・66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
177	土師器	坏	13.3	5.8		長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面摩耗	西壁下層	100%　PL26
178	土師器	坏	14.3	5.0		長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面下位ヘラ削り，内面摩耗	南東コーナー中層	100%
179	土師器	坏	13.6	5.6	3.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面下位ヘラ削り，内面摩耗，底部多方向ヘラ削り	南壁下層	98%　PL26

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
180	土師器	坏	[13.6]	4.7		長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面摩耗	貯蔵穴	60%
181	土師器	坏	[13.4]	(5.1)	－	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内・外面摩耗	貯蔵穴・南壁中層	40%
183	土師器	椀	15.4	9.5	4.1	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ，底部一方向ヘラ削り	貯蔵穴・南壁中層	90% PL42
184	土師器	椀	[15.3]	8.5		長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	南壁床面	95%
185	土師器	椀	13.0	7.2	3.5	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗	南壁下層	80%
186	土師器	椀	11.2	(8.4)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗	東壁下層	70%
187	土師器	椀	[7.4]	5.7		長石・石英	浅黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗	貯蔵穴・南壁中層	70% PL34
188	土師器	高坏	19.7	(6.7)	－	長石・石英	橙	普通	坏部外面ヘラ磨き，内面摩耗	南壁床面	50%
190	土師器	高坏	－	(7.1)	12.7	長石	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面輪積痕	貯蔵穴	40%
TP13	須恵器	甕	－	(6.6)	－	長石	灰	良好	2条の凹線を挟んで9本1条の櫛歯状工具による波状文	南壁中層	PL42
TP14	須恵器	壺	－	(6.9)	－	長石・石英	灰	良好	頸部片，1条の凹線を挟んで9本1条の櫛歯状工具による波状文	中央部中層	
TP15	須恵器	甕	－	(7.9)	－	長石・石英	灰	良好	2条の凹線を挟んで9本1条の櫛歯状工具による波状文	西壁中層	PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP17	球状土錘	3.1	2.6	0.6	24.6	土製	ナデ，片面穿孔	東壁下層	PL42
DP18	球状土錘	2.6	2.8	0.5	17.0	土製	ナデ，片面穿孔	東壁下層	PL42
DP19	球状土錘	2.6	2.6	0.5	16.6	土製	ナデ，片面穿孔	南壁中層	PL42
DP20	球状土錘	3.0	2.6	0.7	21.5	土製	ナデ，片面穿孔	南壁中層	PL42
DP21	球状土錘	3.0	3.1	0.8	25.2	土製	ナデ，片面穿孔	中央部床面	PL42
DP22	球状土錘	2.9	2.9	0.8	23.2	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP23	球状土錘	2.5	2.6	0.5	16.2	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP24	球状土錘	2.6	2.8	0.6	18.9	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP25	球状土錘	2.6	2.4	0.5	16.3	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP26	球状土錘	2.6	2.7	0.7	16.7	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP27	球状土錘	2.5	2.5	0.6	16.1	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP28	球状土錘	2.7	2.4	0.7	17.6	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP29	球状土錘	2.7	2.6	0.8	17.4	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP30	球状土錘	2.6	2.5	0.7	17.4	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP31	球状土錘	2.6	2.5	0.7	16.1	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP32	球状土錘	2.4	2.6	0.7	15.3	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP33	球状土錘	2.5	2.4	0.6	15.7	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP34	球状土錘	2.7	2.6	0.6	21.0	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP35	球状土錘	2.6	2.7	0.6	15.5	土製	ナデ，片面穿孔	東壁床面	PL42
DP36	球状土錘	(2.7)	2.6	(0.5)	(8.0)	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	
DP37	球状土錘	3.1	3.2	0.7	25.8	土製	ナデ，片面穿孔	覆土中層	PL42
DP38	球状土錘	2.9	3.1	0.6	24.5	土製	ナデ，片面穿孔	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q172	勾玉	3.6	2.2	0.6	7.1	滑石	孔径0.15，C字状，両面縦位の研磨	中央部下層	PL43

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q173	臼玉	0.40	0.17	0.14	0.05	滑石	側面は円盤状，片面穿孔	東壁床面	
Q174	臼玉	0.44	0.17	0.18	0.16	滑石	側面は円盤状，片面穿孔	東壁床面	
Q175	臼玉	0.45	0.29	0.14	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q176	臼玉	0.45	0.39	0.15	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q177	臼玉	0.48	0.30	0.15	0.10	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q178	臼玉	0.47	0.37	0.16	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q179	臼玉	0.50	0.32	0.16	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q180	臼玉	0.48	0.39	0.15	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q181	臼玉	0.44	0.32	0.14	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q182	臼玉	0.45	0.36	0.15	0.10	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q183	臼玉	0.48	0.22	0.15	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q184	臼玉	0.48	0.35	0.16	0.14	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q185	臼玉	0.42	0.39	0.15	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	
Q186	臼玉	0.47	0.40	0.15	0.14	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	中央部床面	
Q187	臼玉	0.49	0.39	0.15	0.16	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q188	臼玉	(0.48)	0.29	0.16	(0.08)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔，一部欠損	東壁床面	PL44
Q189	臼玉	0.48	0.45	0.15	0.20	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q190	臼玉	0.46	0.32	0.15	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q191	臼玉	0.46	0.20	0.13	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q192	臼玉	(0.46)	0.22	0.15	(0.10)	滑石	側面は円筒状，片面穿孔，一部欠損	東壁床面	PL44
Q193	臼玉	0.44	0.35	0.15	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q194	臼玉	0.45	0.40	0.15	0.12	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q195	臼玉	0.48	0.38	0.16	0.12	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q196	臼玉	0.43	0.35	0.18	0.10	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q197	臼玉	0.47	0.27	0.14	0.11	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q198	臼玉	0.51	0.43	0.16	0.19	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q199	臼玉	0.45	0.32	0.16	0.12	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q200	臼玉	0.46	0.41	0.16	0.15	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q201	臼玉	0.46	0.34	0.14	0.13	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q202	臼玉	0.44	0.42	0.15	0.12	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q203	臼玉	0.45	0.35	0.14	0.11	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q204	臼玉	0.41	0.38	0.15	0.09	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q205	臼玉	0.54	0.29	0.13	0.14	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q206	臼玉	0.55	0.34	0.18	0.16	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q207	臼玉	0.46	0.24	0.15	0.11	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q208	臼玉	0.48	0.23	0.16	0.11	滑石	側面はやや膨らむ，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q209	臼玉	0.40	0.27	0.14	0.09	滑石	側面に稜，片面穿孔	中央部床面	PL44
Q210	臼玉	0.44	0.34	0.15	0.12	滑石	側面に稜，片面穿孔	中央部床面	PL44
Q211	臼玉	0.42	0.25	0.13	0.08	滑石	側面に稜，片面穿孔	中央部床面	PL44
Q212	臼玉	0.41	0.23	0.16	0.07	滑石	側面に稜，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q213	臼玉	0.51	0.22	0.17	0.12	滑石	側面に稜，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q214	臼玉	0.51	0.25	0.14	0.12	滑石	側面に稜，片面穿孔	東壁床面	PL44
Q215	臼玉	0.67	0.29	0.15	0.22	滑石	未製品	東壁床面	PL44
Q216	小玉	0.57	0.39	0.17	0.20	ガラス	濃い紫色，球状，両面面取り	東壁床面	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q217	双孔円板	3.3	3.7	0.7	13.3	滑石	孔径0.15，両面横位の研磨，片面穿孔	東壁中層	PL43
Q218	双孔円板	1.5	1.5	0.3	1.4	滑石	孔径0.2，両面横位の研磨，片面穿孔	貯蔵穴	PL43
Q219	双孔円板	3.1	3.1	0.5	7.5	滑石	孔径0.15，両面斜位の研磨，片面穿孔	南壁中層	PL43
Q220	双孔円板	3.2	3.6	0.4	(7.4)	滑石	孔径0.14，両面斜位の研磨，片面穿孔	西壁中層	PL43
Q221	双孔円板	1.7	1.7	0.4	1.4	滑石	孔径0.19，両面斜位の研磨，片面穿孔，中途穿孔痕有り	西壁下層	PL43
Q222	双孔円板	2.8	2.9	0.4	4.8	滑石	孔径0.15，両面斜位の研磨，片面穿孔	西壁下層	PL43
Q223	双孔円板	2.0	2.1	0.2	1.5	滑石	孔径0.16，両面斜位の研磨，片面穿孔	中央部床面	PL43
Q224	剣形	3.7	2.0	0.5	6.1	滑石	孔径0.15，両面斜位の研磨，断面は台形を呈し，片面に鎬を有する	南壁上層	PL43
Q225	不明	3.1	2.2	0.5	4.3	滑石	C字状，勾玉未形成品ヵ	中央部床面	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鎌	(3.8)	1.8	0.20	(5.4)	鉄	基部は全体を折り返す	南西コーナー下層	PL46
M 2	不明	(4.9)	(3.4)	0.25	(9.5)	鉄	薄刃の板状，三角形の切れ込みを有す，鋸ヵ	覆土中	PL46
M 3	不明	(11.7)	2.6	0.90	(58.6)	鉄	断面は長方形，厚みのある刃をもち，弓状に湾曲，鎌ヵ	中央部床面	PL46
M 4	不明	10.4	5.4	0.40	39.3	鉄	刃部は幅広，2か所穿孔，鋤先ヵ	中央部上層	PL46

第58号住居跡（第67・68図）

位置　調査区中央部のD11d3区，標高24.0mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.45m，短軸3.10mほどの長方形で，主軸方向はN－45°－Eである。壁高は14～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，ややしまりはあるものの硬化した部分はない。

炉　中央部に位置し，長径65cm，短径55cmほどの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

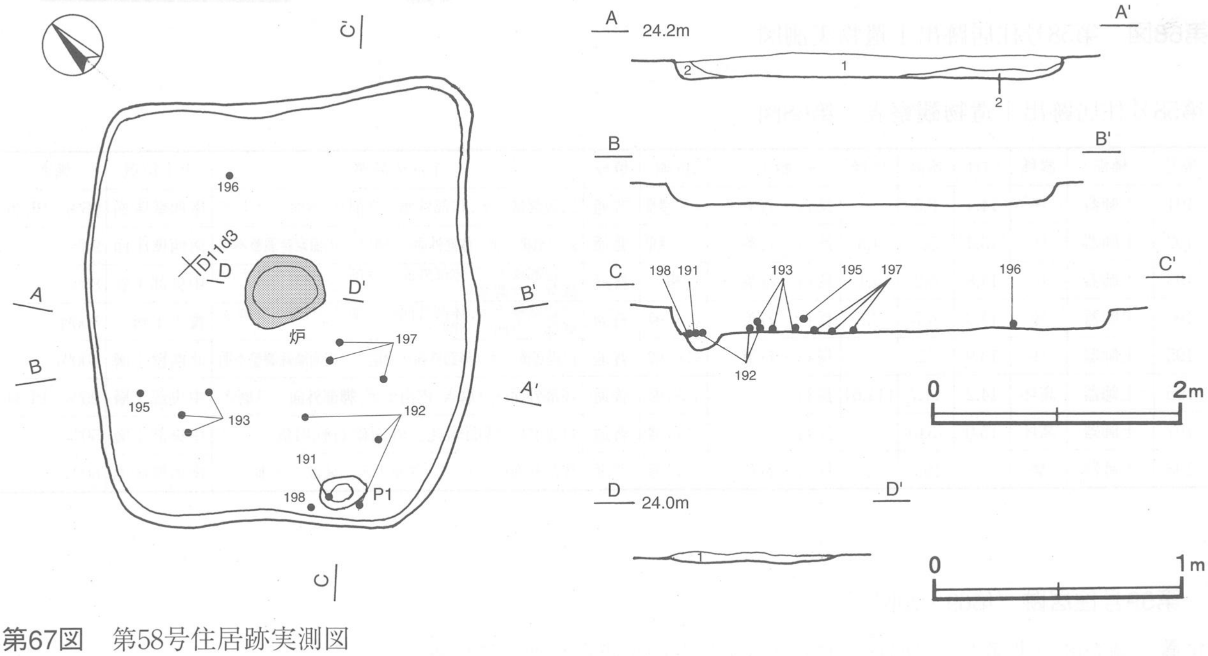
炉土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック中量

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。P 1は南西壁寄りに位置し，深さ15cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　薄く明確に断定できないが，ローム粒子を含んだ自然堆積と考えられ，2層に分層される。

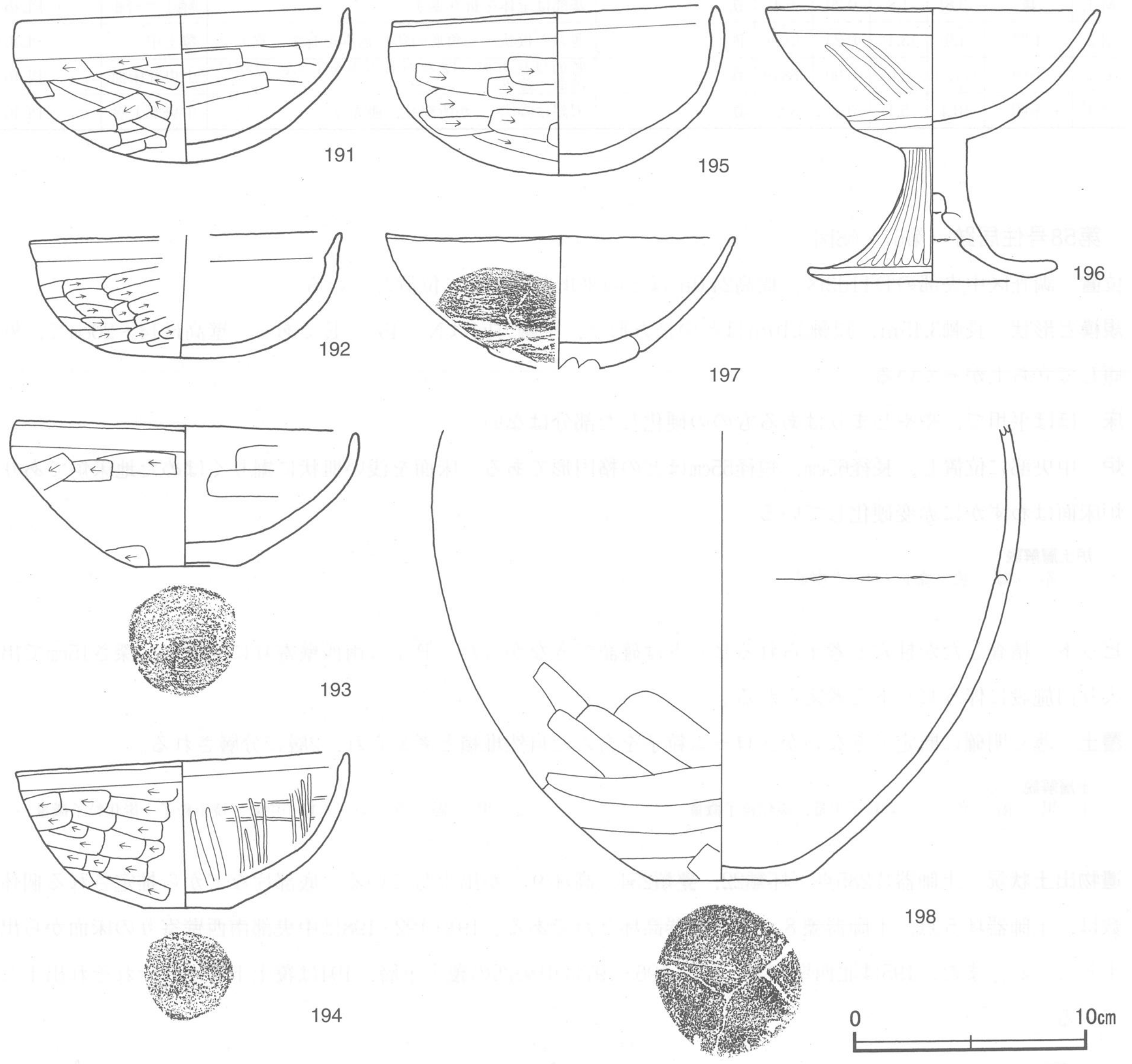
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片285点（坏類22，甕類254，高坏9）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏5点，土師器甕8点，土師器高坏2点である。191・192・198は中央部南西壁寄りの床面から出土している。また，195は北西壁寄り，193・196・197は中央部の覆土下層，194は覆土下層からそれぞれ出土している。



第67図　第58号住居跡実測図

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第68図　第58号住居跡出土遺物実測図

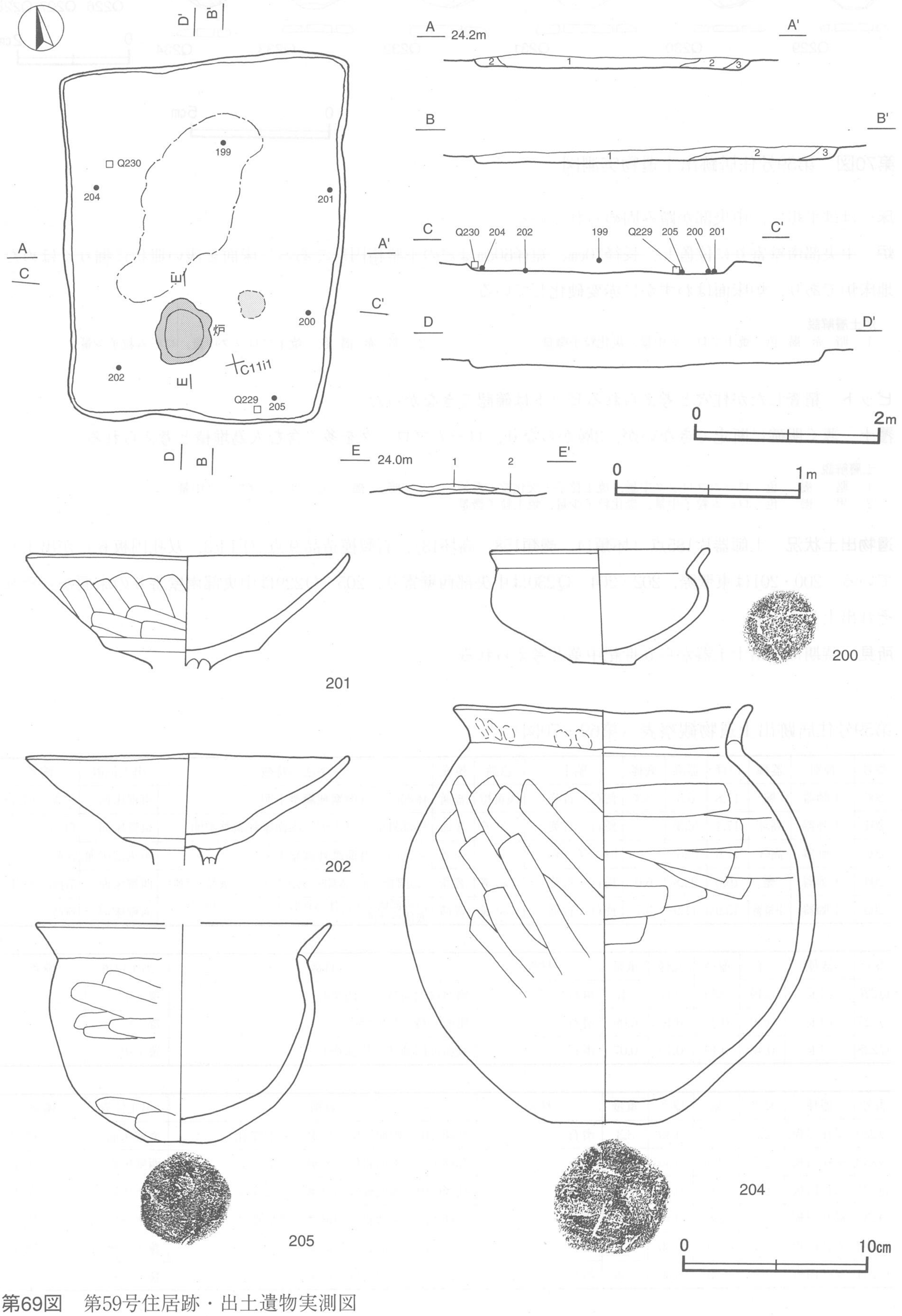
第58号住居跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
191	土師器	坏	14.4	6.5		長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ	南西壁床面	95%　PL26
192	土師器	坏	[13.4]	5.3	4.3	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	南西壁床面	90%
193	土師器	坏	14.8	6.2	4.1	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ，底部ヘラ削り	中央部下層	80%
194	土師器	坏	14.3	6.7	3.7	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き，底部一方向ヘラ削り	覆土下層	100%
195	土師器	坏	13.9	7.2		長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	北西壁下層	100%
196	土師器	高坏	14.2	11.7	[11.6]	長石	にぶい橙	普通	坏部外面ヘラ磨き，内面ナデ，脚部外面ヘラ磨き	中央部下層	95%　PL34
197	土師器	高坏	15.0	(5.6)	－	長石	にぶい橙	普通	坏部内・外面摩耗，外面砥石転用痕	中央部下層	50%
198	土師器	甕	－	(19.6)	5.7	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ，内面ナデ，底部ヘラ削り	南西壁床面	50%

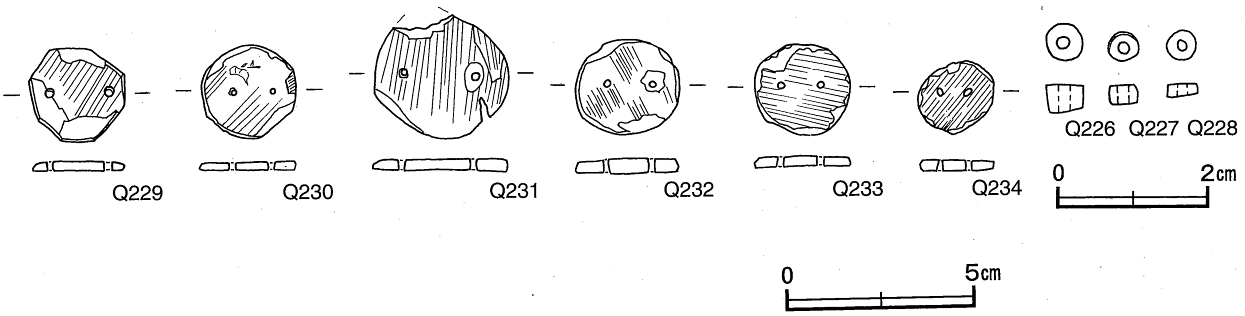
第59号住居跡（第69・70図）

位置　調査区中央部のＣ11h1区，標高24.1ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.90ｍ，短軸3.00ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｅである。壁高は６～10㎝で，外傾して立ち上がっている。



第69図　第59号住居跡・出土遺物実測図



第70図　第59号住居跡出土遺物実測図

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉　中央部南壁寄りに位置し，長径70cm，短径60cmほどの不整楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　薄く明確に断定できないが，3層からなり，ロームブロックを多く含む人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片185点（坏類14，甕類158，高坏13），石製模造品９点（臼玉3，双孔円板６）が出土している。200・201は東壁際，202・204・Q230は中央部西壁寄り，205・Q229は中央部南壁寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。

第59号住居跡出土遺物観察表（第69・70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
200	土師器	椀	11.8	6.3	3.3	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内・外面摩耗調整不明	東壁床面	95%　PL30
201	土師器	高坏	17.4	(6.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	東壁床面	50%
202	土師器	高坏	17.6	(5.6)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部内・外面摩耗調整不明	中央部床面	50%
204	土師器	甕	16.0	22.8	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部指頭痕，体部内・外面ヘラナデ，底部ヘラ削り	西壁床面	70%　PL32
205	土師器	小型甕	[15.9]	11.9	3.7	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ，底部ヘラ削り	南壁床面	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q226	臼玉	0.49	0.39	0.17	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土中	
Q227	臼玉	0.39	0.25	0.16	0.09	滑石	側面に稜，片面穿孔	覆土中	
Q228	臼玉	0.40	0.19	0.12	0.07	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q229	双孔円板	2.5	2.5	0.30	3.3	滑石	孔径0.10，両面斜位の研磨，片面穿孔	南壁床面	PL43
Q230	双孔円板	2.5	2.5	0.30	4.1	滑石	孔径0.10，両面斜位の研磨，片面穿孔	西壁床面	PL43
Q231	双孔円板	(3.3)	3.6	0.40	(7.8)	滑石	孔径0.10，両面縦位の研磨，片面穿孔	覆土中層	PL43
Q232	双孔円板	2.5	2.8	0.40	5.0	滑石	孔径0.15，両面斜位の研磨，片面穿孔	覆土下層	PL43
Q233	双孔円板	2.4	2.5	0.30	3.0	滑石	孔径0.14，両面斜位の研磨，片面穿孔	覆土下層	PL43
Q234	双孔円板	1.8	2.0	0.30	1.4	滑石	孔径0.12，両面斜位の研磨，片面穿孔	覆土下層	PL43

第60号住居跡（第71～73図）

位置　調査区中央部のＣ11f1区，標高24.1ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺6.00ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｗである。壁高は68～75cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。Ｐ５から貯蔵穴周辺に土手状に馬蹄形の高まりが確認できる。壁溝は北東壁の一部を除いて検出され，上幅12～16cm，深さ４～８cmで，断面形はＵ字状を呈している。壁際及び溝の中に径が８～16cmの円形状で，深さ５～20cmの小ピットが38か所見られ，壁柱穴と考えられる。また，壁際から中央部に向かって焼土塊と炭化材が出土しており，焼失住居である。

炉　３か所。炉１はＰ１とＰ４の間に位置し，長径115cm，短径44cmの不整楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。炉２はＰ１とＰ２の間に位置し，長径65cm，短径40cmの不整楕円形，炉３は北西壁とＰ４の間に位置し，径18cmほどの円形である。ともに，床と同じ高さで炉床面は赤変硬化している。

炉１土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量，ローム粒子少量	2	暗赤褐色	焼土粒子中量

ピット　44か所（38か所は壁際の小ピット）。Ｐ１～Ｐ４は配置と規模から主柱穴と考えられ，深さは，Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４が50cm，Ｐ２が65cmである。Ｐ５は深さ50cmで南東壁のやや北寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６は深さ12cmで性格は不明である。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径60cm，短径50cmの楕円形で，深さは50cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	3	暗褐色	ローム粒子・炭化物少量
2	褐色	ロームブロック多量，炭化粒子微量			

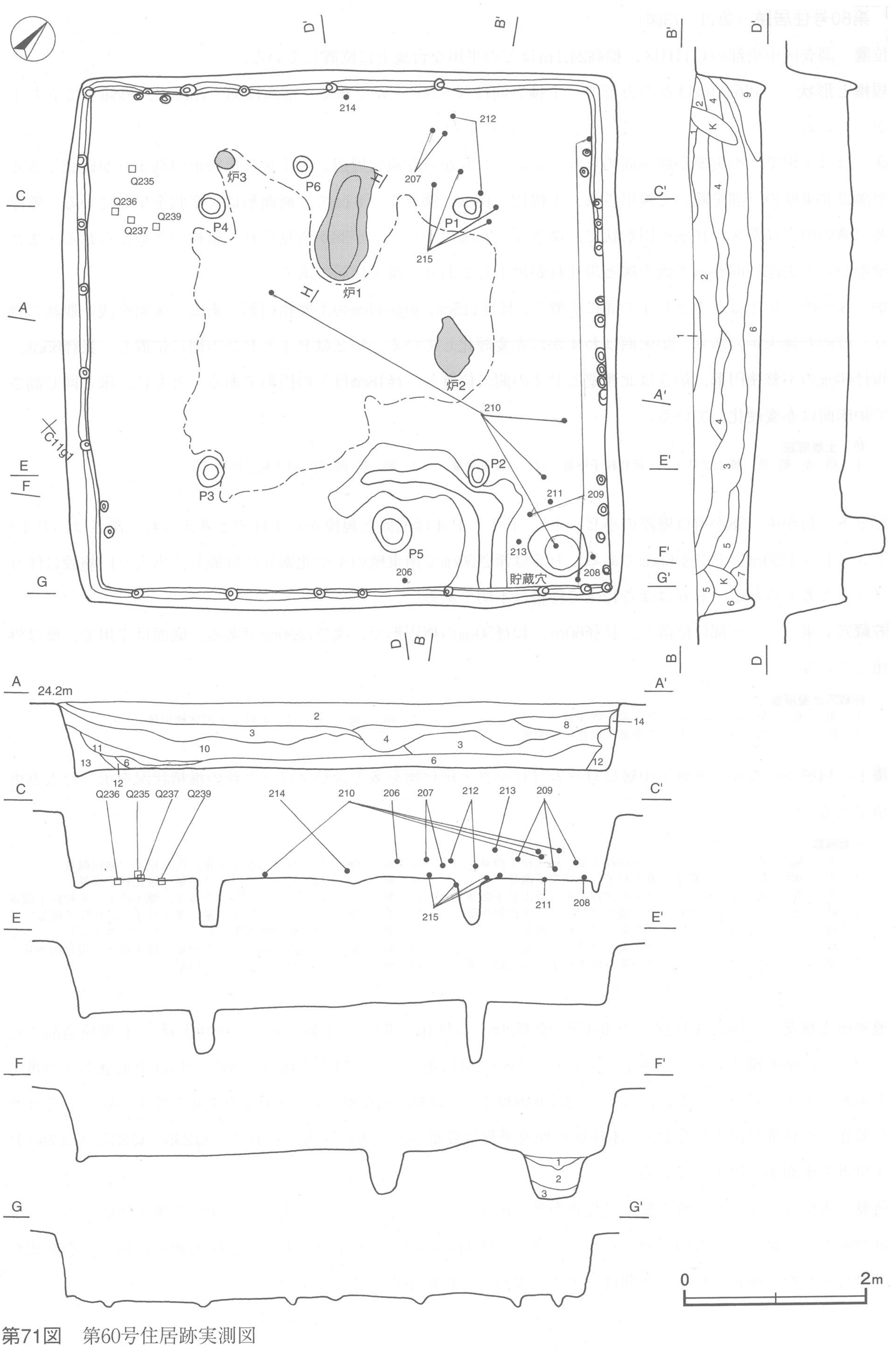
覆土　14層からなり，下層・中層にロームブロック・炭化物を多く含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

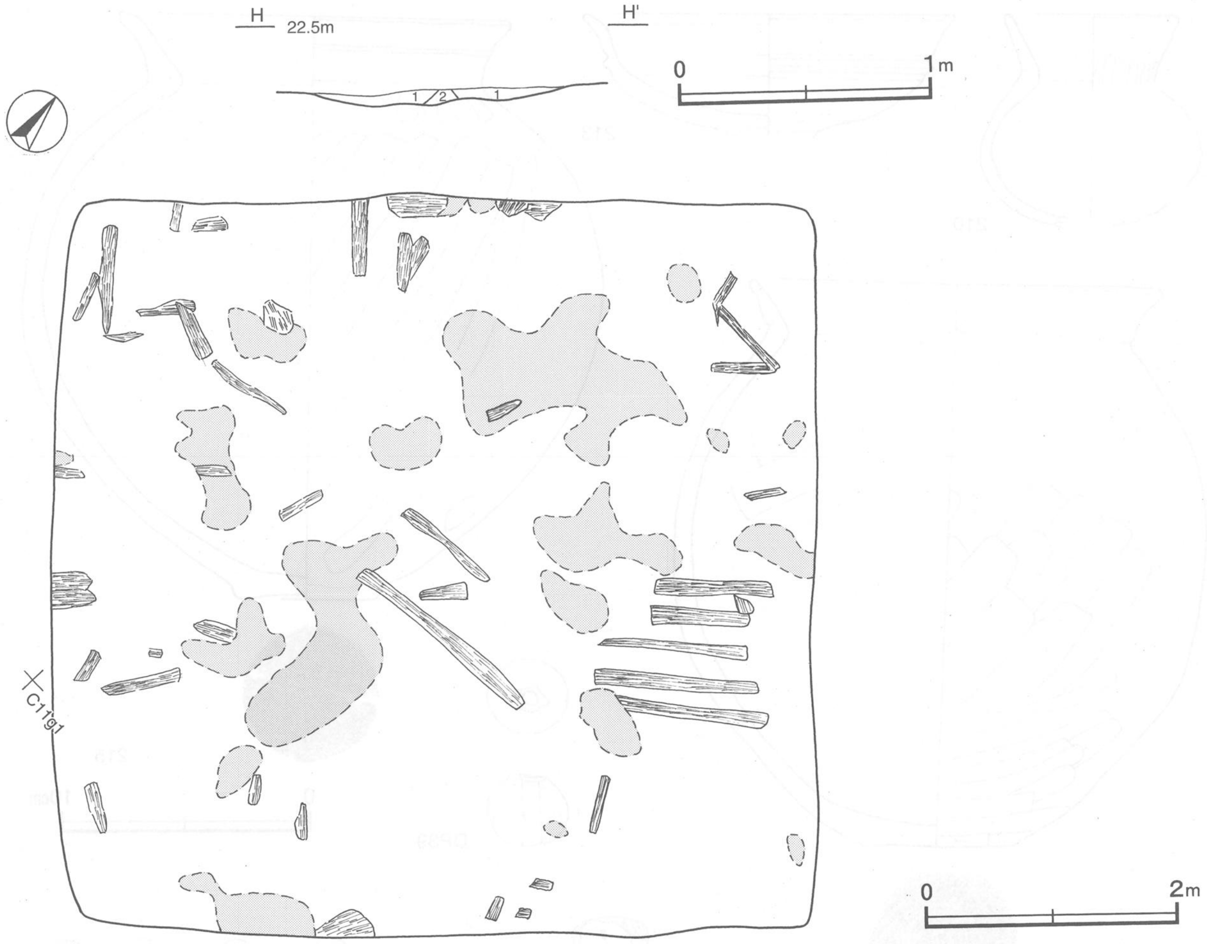
1	黒褐色	ロームブロック・砂粒少量，炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量	10	褐色	ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	11	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック中量，炭化粒子微量	12	褐色	炭化物多量，ロームブロック・焼土ブロック少量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	13	暗褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量
7	褐色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物少量	14	褐色	ロームブロック中量

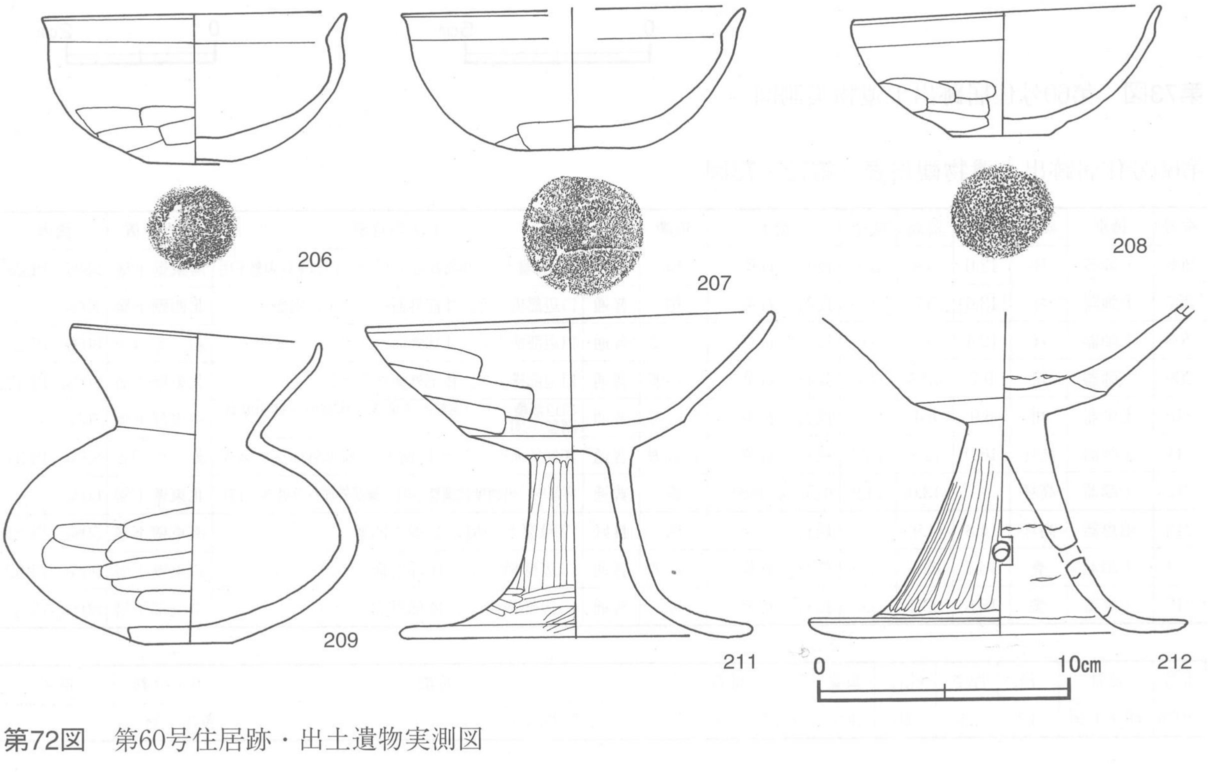
遺物出土状況　土師器片342点（坏類116，甕類208，高坏16，坩２），土製品１点（球状土錘），石製模造品４点（臼玉３，剣形模造品１）が出土している。208・211は東コーナー付近の床面，206・213は南東壁寄りの覆土下層から出土している。また，207・212は北西壁寄り，209は北東壁寄り，210は中央部の覆土下層からそれぞれ散在した状態で出土しており，本住居の埋没過程で投棄されたものと考えられる。Ｑ235～Ｑ237，Ｑ239はＰ４付近の床面から出土している。

所見　本跡は，床面から焼土塊や炭化物が多く出土していることや，出土土器の状況から焼失住居であり，廃絶後間もなく焼失したものと考えられる。また，床面から臼玉が出土しており，住居廃絶時に何らかの祭祀行為が行われたと推定される。時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。

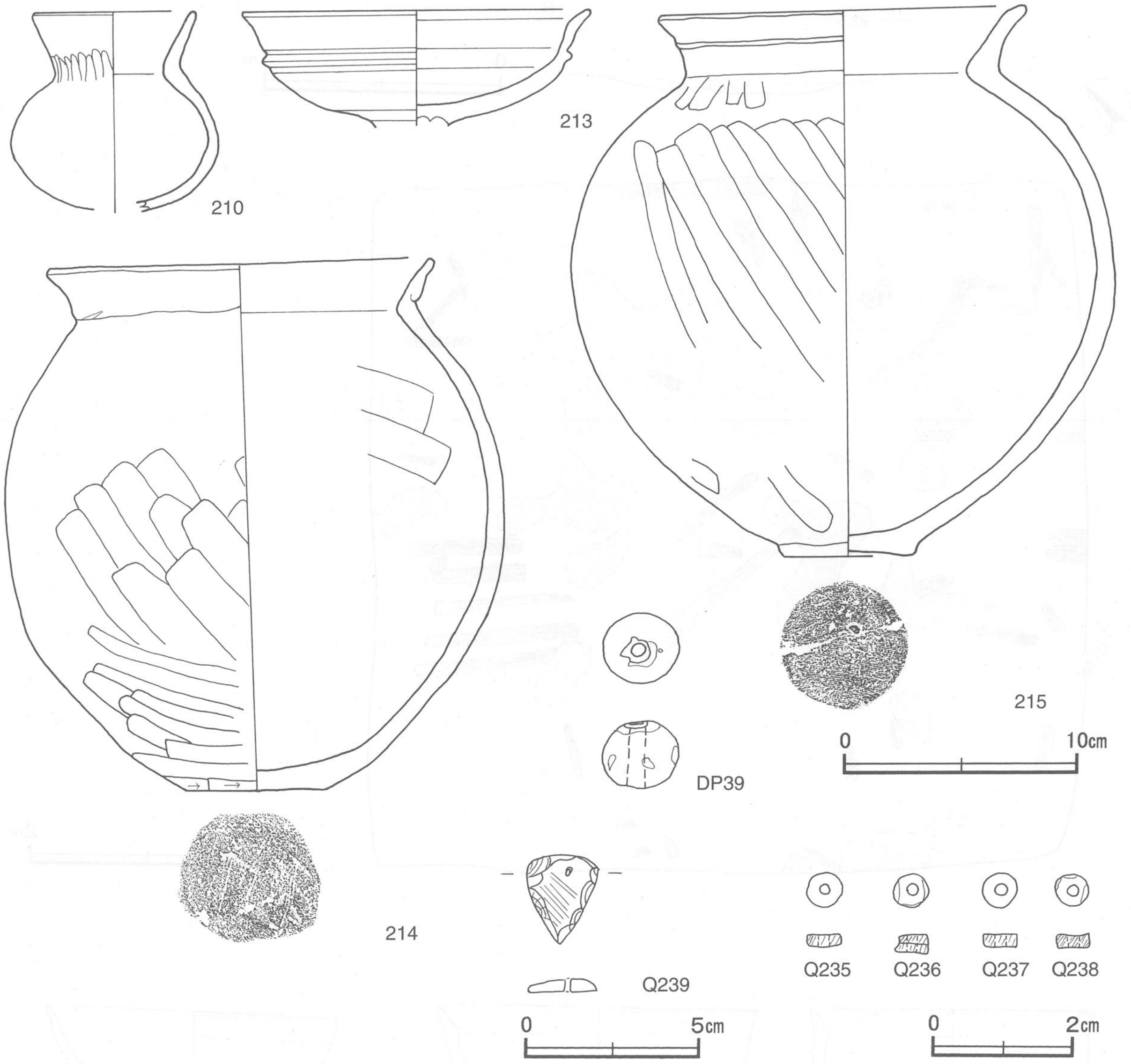


第71図　第60号住居跡実測図





第72図　第60号住居跡・出土遺物実測図



第73図　第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第72・73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
206	土師器	坏	12.0	5.9	3.5	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	南東壁下層	98%　PL28
207	土師器	坏	[13.6]	5.7	4.5	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ	北西壁下層	70%
208	土師器	坏	12.4	5.1	3.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ	東コーナー床面	80%　PL26
209	土師器	坩	9.7	12.8	3.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ	北東壁下層	80%　PL42
210	土師器	坩	6.9	8.4	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，頸部ヘラ磨き，体部内・外面摩耗調整不明	中央部下層	70%
211	土師器	高坏	16.0	12.8	13.4	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部外面ヘラナデ，内面ナデ，脚部外面ヘラ磨き	東コーナー床面	85%　PL34
212	土師器	高坏	－	(13.0)	14.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部内・外面摩耗調整不明，脚部外面ヘラ磨き，1窓	北東壁下層	60%
213	須恵器	高坏	14.8	(4.9)	－	長石	灰	良好	口縁部との境に２本の凹線	南東壁下層	50%　PL31
214	土師器	甕	16.7	22.8	6.1	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ	北東壁下層	90%　PL32
215	土師器	甕	15.8	23.4	5.6	長石・石英	赤	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ	中央部下層	80%　PL32

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP39	球状土錘	3.2	2.9	0.6	30.6	土製	ナデ，片面穿孔	覆土上層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q235	臼玉	0.49	0.17	0.13	0.07	滑石	側面は円盤状，片面穿孔	北西壁床面	
Q236	臼玉	0.49	0.29	0.16	0.10	滑石	側面に稜をもつ，片面穿孔	北西壁床面	
Q237	臼玉	0.49	0.17	0.17	0.07	滑石	側面は円盤状，片面穿孔	北西壁床面	
Q238	臼玉	0.50	0.22	0.15	0.09	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q239	剣形	2.5	2.0	0.4	2.2	滑石	孔径0.14，両面斜位の研磨，片面穿孔	北西壁床面	

第61号住居跡（第74・75図）

位置　調査区中央部のＢ13c4区，標高24.3ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北側が調査区域外に延びているため，全体の規模は不明である。長軸は3.30ｍ，短軸は3.00ｍほどが確認された。主軸方向はＮ－35°－Ｅであり，平面形は長方形と推定される。壁高は37～45㎝ほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。南東壁際から貯蔵穴周辺に土手状に馬蹄形の高まりが確認でき，出入り口施設に相当すると考えられる。

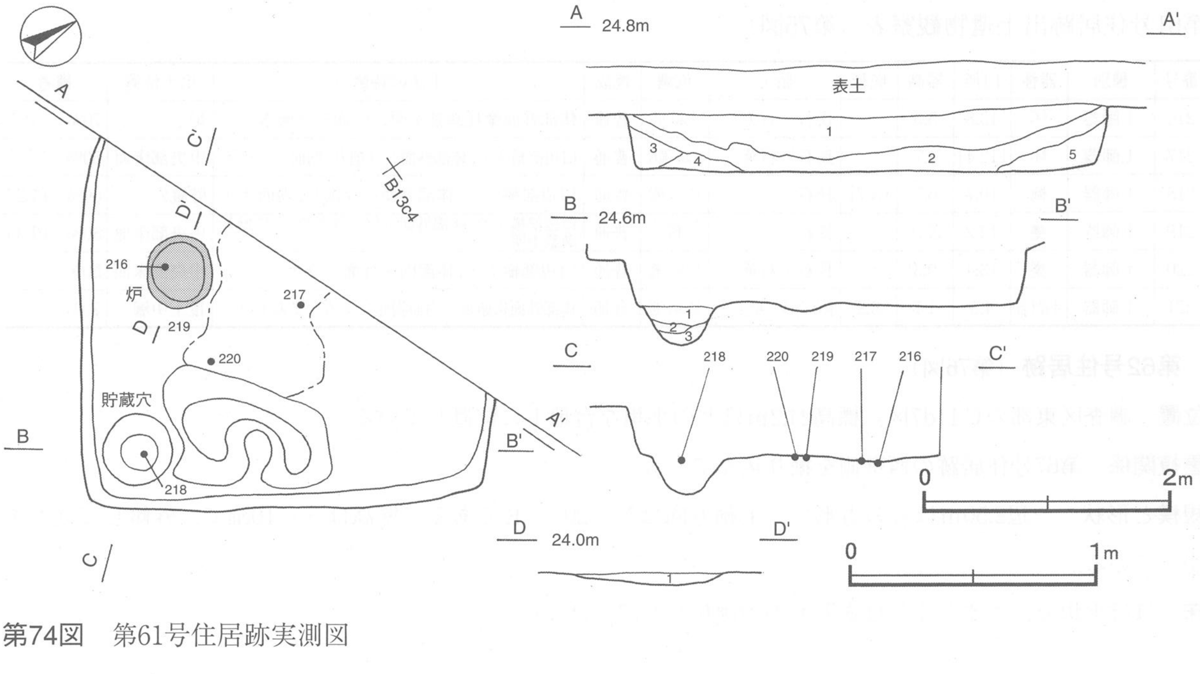
炉　南西壁寄りに位置し，長径60㎝，短径50㎝の楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，径55㎝の円形で，深さは34㎝である。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化物少量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



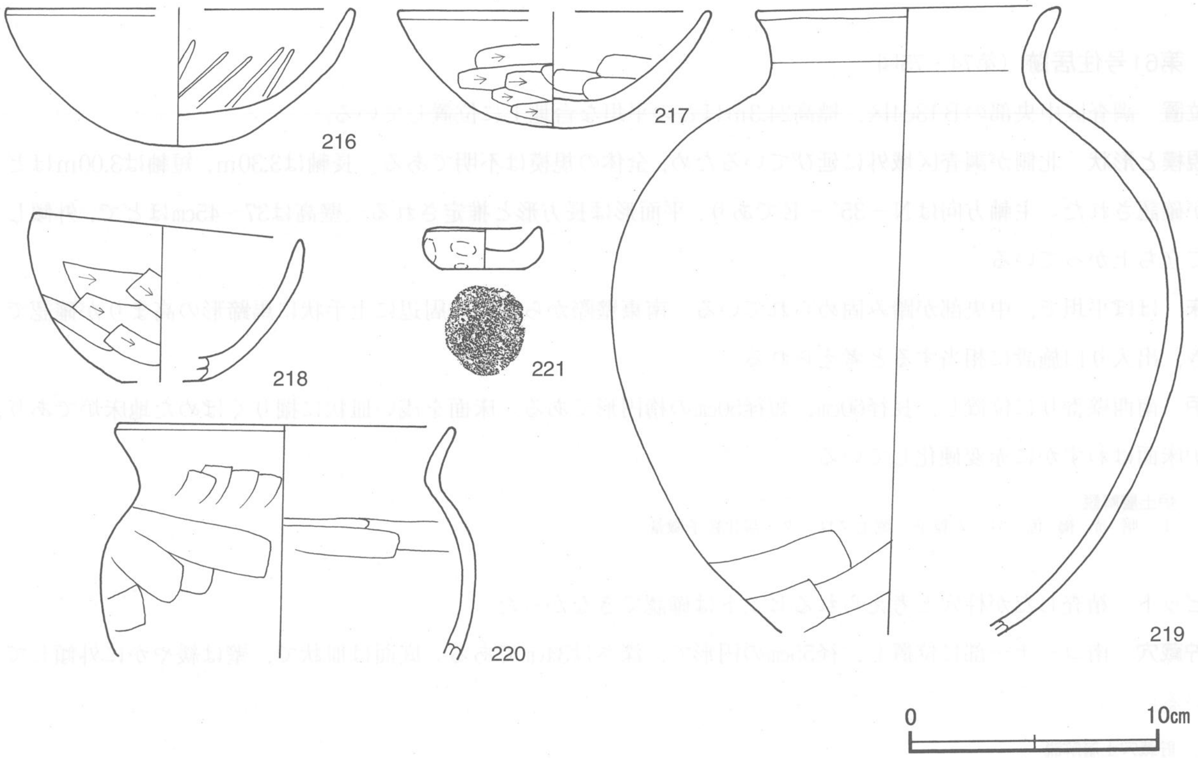
第74図　第61号住居跡実測図

覆土　5層からなり，下層にロームブロック多く含む，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化物少量，ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片173点（坏類31，甕類139，高坏2，手捏土器1）が出土している。216・217・219・220は中央部の床面，218は貯蔵穴からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第75図　第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
216	土師器	坏	[13.8]	5.5		長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面摩耗調整不明，内面ヘラ磨き	炉	70%
217	土師器	坏	[12.4]	4.7		長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ヘラナデ	中央部床面	50%
218	土師器	椀	10.7	6.7	[3.7]	長石	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラ削り,内面ナデ	貯蔵穴	60%　PL27
219	土師器	甕	12.2	25.1	－	長石	橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面下位ヘラナデ,上位摩耗調整不明	中央部床面	80%　PL33
220	土師器	甕	13.4	(9.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部内・外面ヘラナデ	中央部床面	50%
221	土師器	手捏土器	4.5	1.7	3.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面指頭痕，内面指頭によるつまみ上げ	覆土中層	70%

第62号住居跡（第76図）

位置　調査区東部のＣ11d7区，標高24.2ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第67号住居跡の西壁側を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺2.50ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－20°－Ｅである。壁高は５～10㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，ややしまりはあるものの硬化した部分はない。

炉　中央部に位置し，長径50cm，短径40cmほどの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量

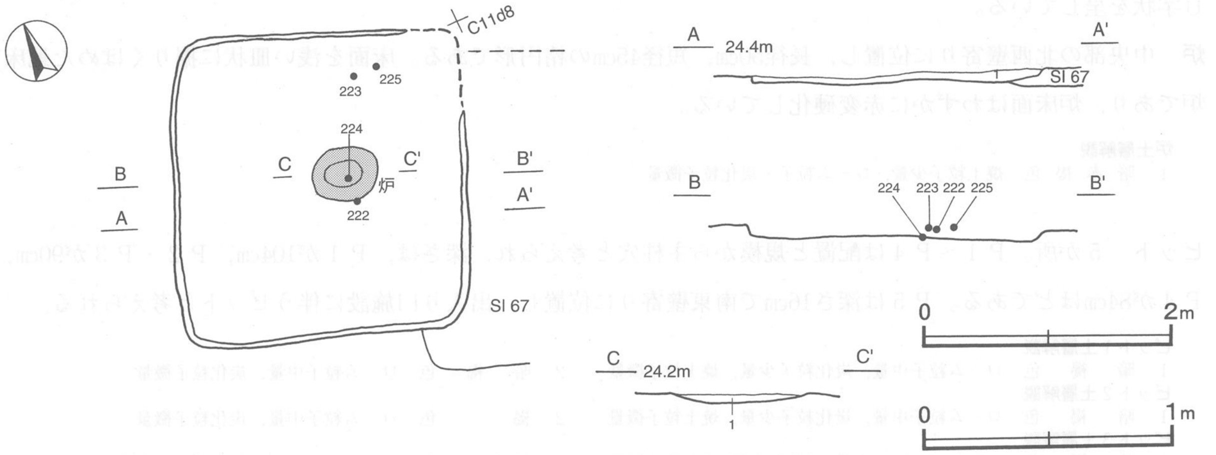
ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

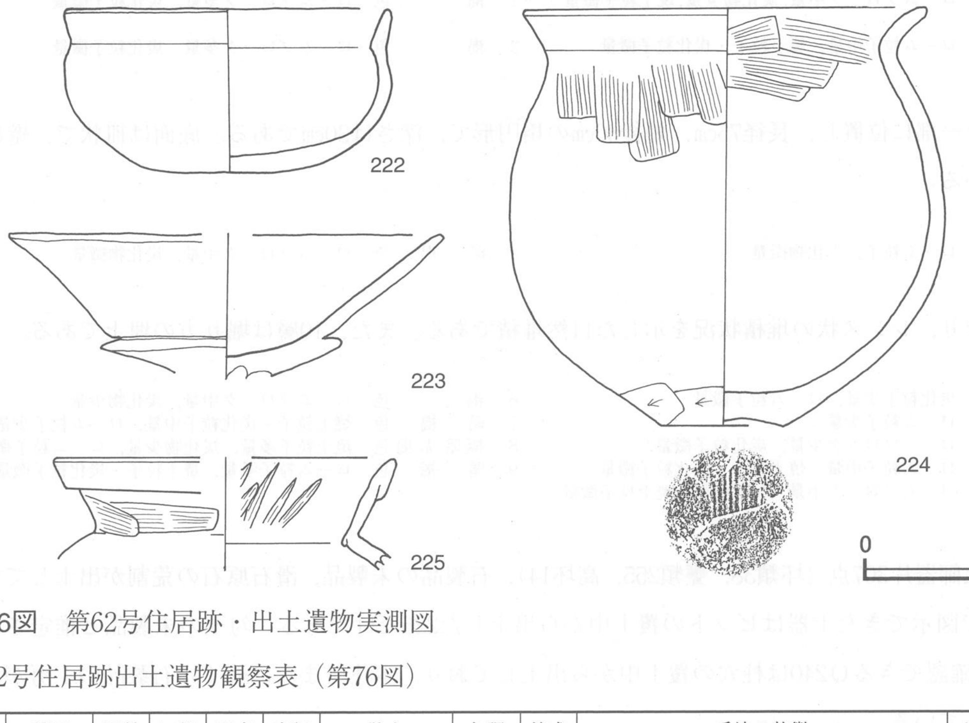
覆土　単一層である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片96点（坏類12，甕類81，高坏３）が出土している。224は炉の直上から出土している。また，222は中央部，223・225は中央部北壁寄りの覆土中層から出土しており，混入と考えられる。

所見　時期は，出土土器から４世紀後半と考えられる。





第76図　第62号住居跡・出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
222	土師器	鉢	13.0	6.6		長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗調整不明	中央部中層	80%
223	土師器	高坏	[17.3]	(5.7)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部外面摩耗調整不明，内面ナデ	北壁中層	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
224	土師器	甕	15.9	16.7	4.9	長石・石英	明赤褐	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ハケ目整形，底部ヘラ削り	中央部床面	80%
225	土師器	壺	[13.6]	(4.4)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部ヘラナデ，口辺部内面砥石転用痕	北壁中層	10%

第63号住居跡（第77・78図）

位置　調査区中央部のC11a7区，標高24.2mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺5.20mほどの方形で，主軸方向はN－35°－Wである。壁高は40～53cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉とP1の間，P3とP4の間，及びP2とP3の間に硬化面が確認できる。北東コーナー部がやや高くなっている。壁溝は南東壁の一部を除いて検出され，上幅14～20cm，深さ5～8cmで，断面形はU字状を呈している。

炉　中央部の北西壁寄りに位置し，長径50cm，短径45cmの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　5か所。P1～P4は配置と規模から主柱穴と考えられ，深さは，P1が104cm，P2・P3が90cm，P4が84cmほどである。P5は深さ16cmで南東壁寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット1土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

ピット2土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

ピット3土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量,炭化物少量,焼土粒子微量
2　褐色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

ピット4土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径75cm，短径60cmの楕円形で，深さは30cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。

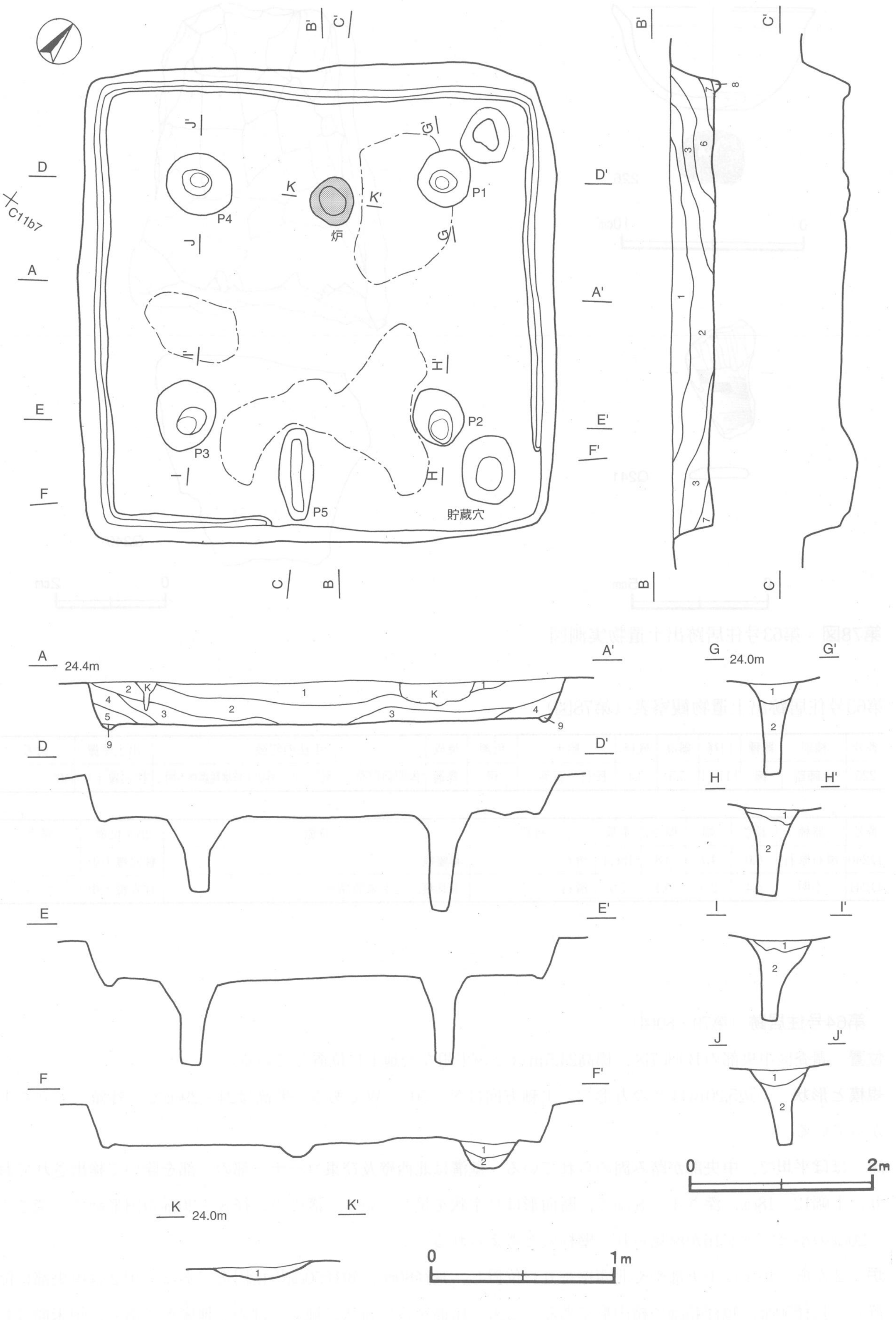
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム粒子，炭化物微量
2　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物微量

覆土　9層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。また，10層は掘り方の埋土である。

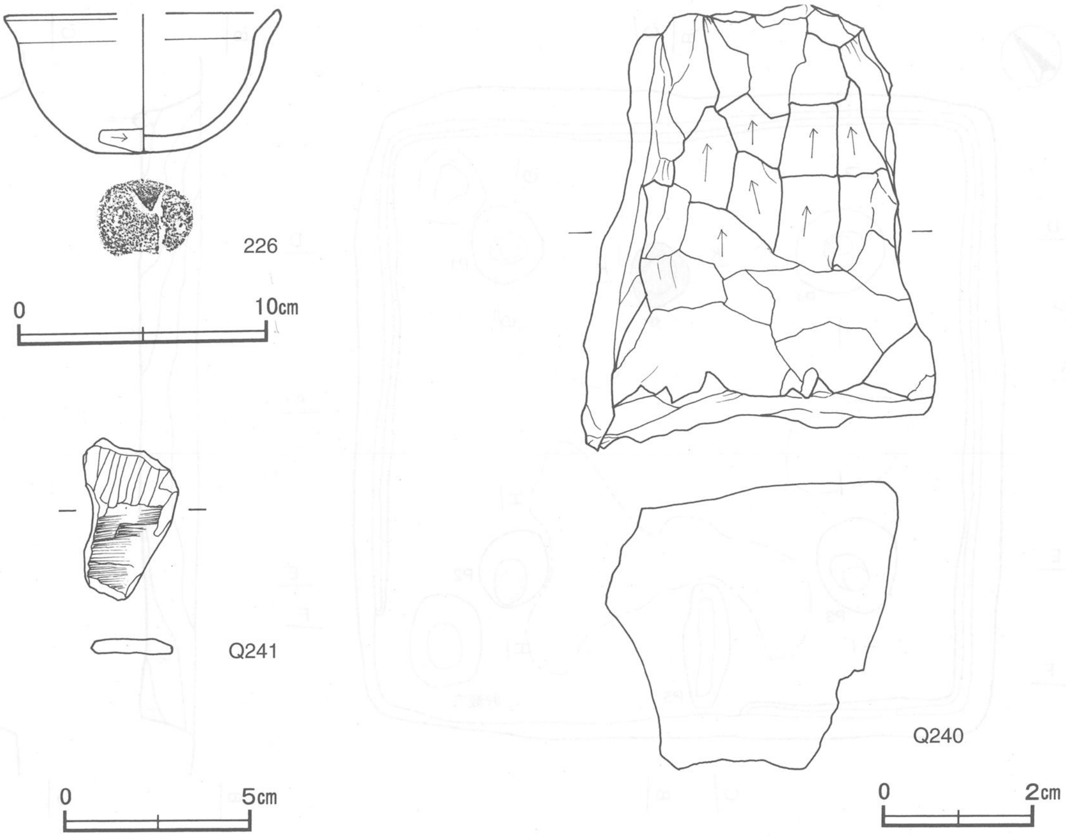
土層解説
1　黒色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐色　ロームブロック中量,炭化物少量,焼土粒子微量
6　褐色　ロームブロック中量，炭化物少量
7　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量
8　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化物少量，ローム粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片307点（坏類38，甕類255，高坏14），石製品の未製品，滑石原石の荒割が出土している。ほとんどが細片で図示できた土器はピットの覆土中から出土した226だけである。勾玉の未製品と推定されるQ241，剥離痕が確認できるQ240は柱穴の覆土中から出土しており，本住居または近くに石製品の工房があった可能性を示唆している。

所見　出土土器のほとんどが細片で明確な時期判断が困難であるが，住居跡の形状や周囲の住居跡，出土土器などから，5世紀中葉と考えられる。



第77図　第63号住居跡実測図



第78図　第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
226	土師器	椀	[11.1]	5.5	3.4	長石・石英	橙	普通	体部外面下位ヘラ削り，内・外面上位摩耗調整不明	柱穴覆土中	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q240	滑石原石	6.0	4.7	3.8	156.4	滑石	剥離痕	柱穴覆土中	
Q241	不明	4.4	2.5	0.4	7.0	滑石	工具痕，勾玉未製品カ	柱穴覆土中	

第64号住居跡（第79・80図）

位置　調査区中央部のＢ13c7区，標高24.5ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺5.20ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｗである。壁高は24～29㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は北西壁及び東コーナー部の一部を除いて検出されており，上幅12～18㎝，深さ４～８㎝で，断面形はＵ字状を呈している。溝の中に径８～20㎝の円形状で，深さ５～20㎝の小ピットが16か所見られ，壁柱穴と考えられる。

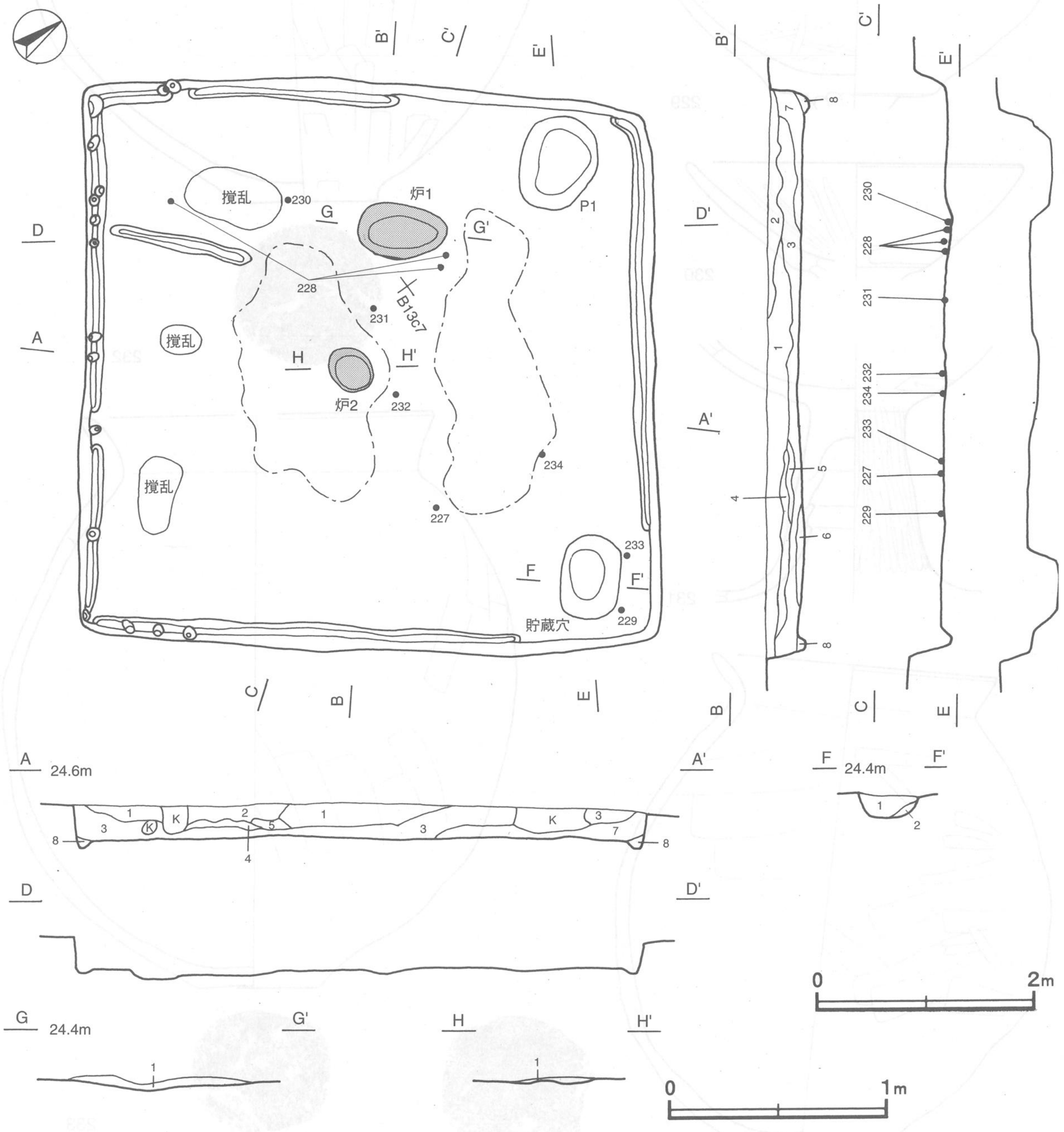
炉　２か所。炉１は中央部やや北西壁寄りに位置し，長径80㎝，短径50㎝の楕円形である。炉２は中央部に位置し，長径50㎝，短径45㎝の楕円形である。ともに床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉１土層解説
　1　極暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
炉２土層解説
　1　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量

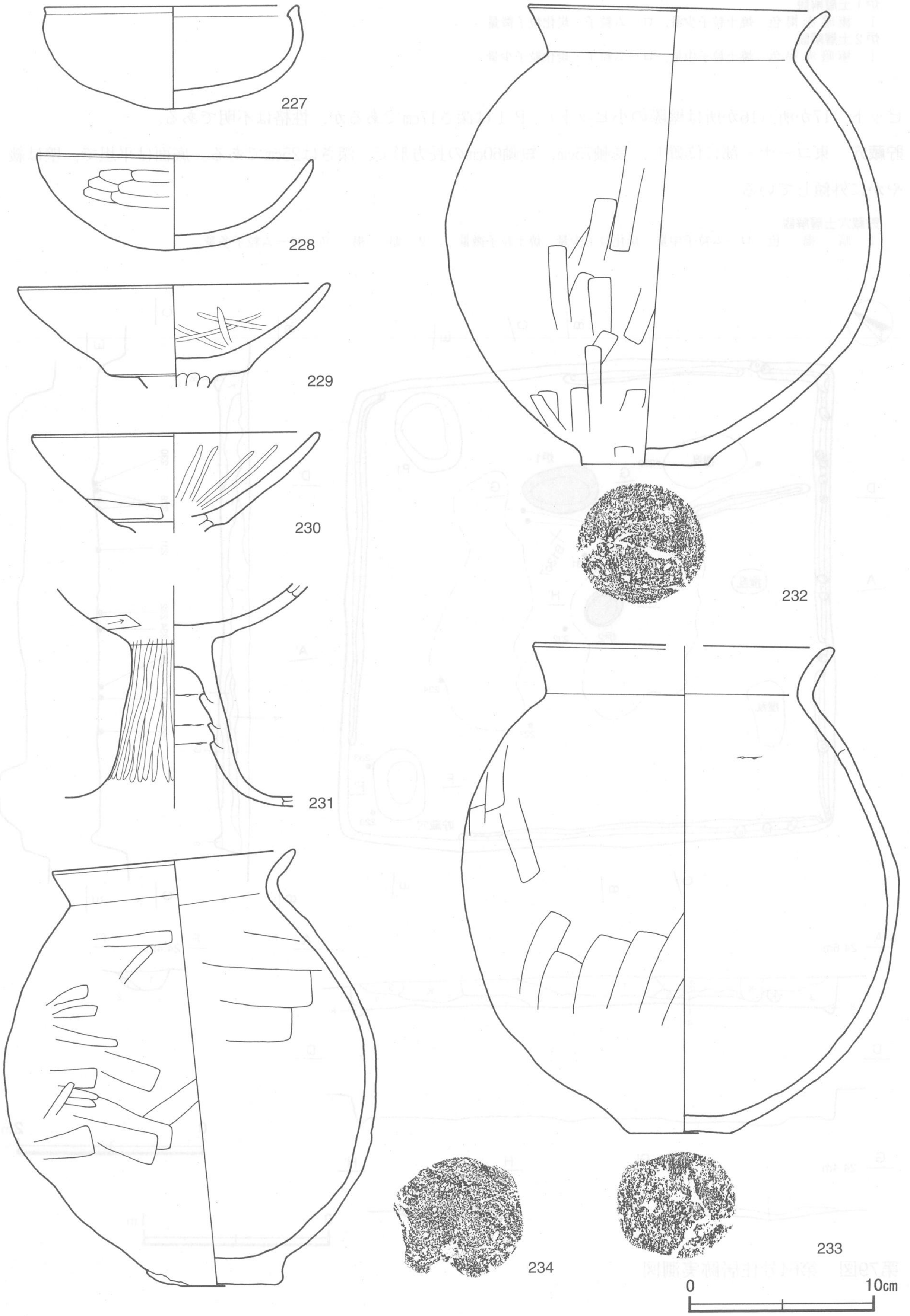
ピット　17か所（16か所は壁際の小ピット）。Ｐ１は深さ17cmであるが，性格は不明である。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長軸75cm，短軸60cmの長方形で，深さは25cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
　1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量　　2　暗　褐　色　ローム粒子多量



第79図　第64号住居跡実測図



第80図　第64号住居跡出土遺物実測図

覆土　8層に分層され，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化物少量
4 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ロームブロック少量，炭化物微量
6 褐 色 ロームブロック中量，炭化物微量
7 褐 色 ローム粒子多量，炭化粒子微量
8 褐 色 ロームブロック多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片541点（坏類38，甕類492，高坏11）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏４点，土師器甕13点，土師器高坏３点である。227，230～232，234は中央部，229，233は東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。また，228は中央部の覆土下層から床面にかけて散在して出土しており，廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。

第64号住居跡出土遺物観察表（第80図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
227	土師器	坏	13.7	5.5		長石・石英・微礫	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗調整不明	中央部床面	80%
228	土師器	坏	14.9	5.2		長石・石英	明赤褐	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	中央部床面	95%
229	土師器	高坏	16.6	(5.5)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面摩耗調整不明，内面ヘラ磨き	東コーナー床面	50%
230	土師器	高坏	15.2	(5.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下位ヘラナデ，内面ヘラ磨き	中央部床面	50%
231	土師器	高坏	－	(11.9)	－	長石・石英	橙	普通	坏部外面ヘラ削り，内面摩耗，脚部外面ヘラ磨き	中央部床面	60%
232	土師器	甕	16.1	24.8	6.7	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ，底部ヘラ削り	中央部床面	70% PL31
233	土師器	甕	[16.0]	26.3	5.6	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面ナデ，底部ヘラ削り	東コーナー床面	70% PL28
234	土師器	甕	13.0	23.5	6.9	長石・石英	にぶい褐	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ，底部ヘラ削り	中央部床面	70% PL29

第65号住居跡（第81・82図）

位置　調査区中央部のＢ14d1区，標高24.5ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺6.65ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－40°－Ｗである。壁高は25～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，ややしまりはあるものの硬化した部分はない。壁溝は全周しており，上幅10～18cm，深さ５～８cmで，断面形はＵ字状を呈している。間仕切り溝が南西壁に１条確認され，長さ95cm，幅18cm，深さ８cmである。壁際から中央に向かって延びており，Ｐ３と連結している。

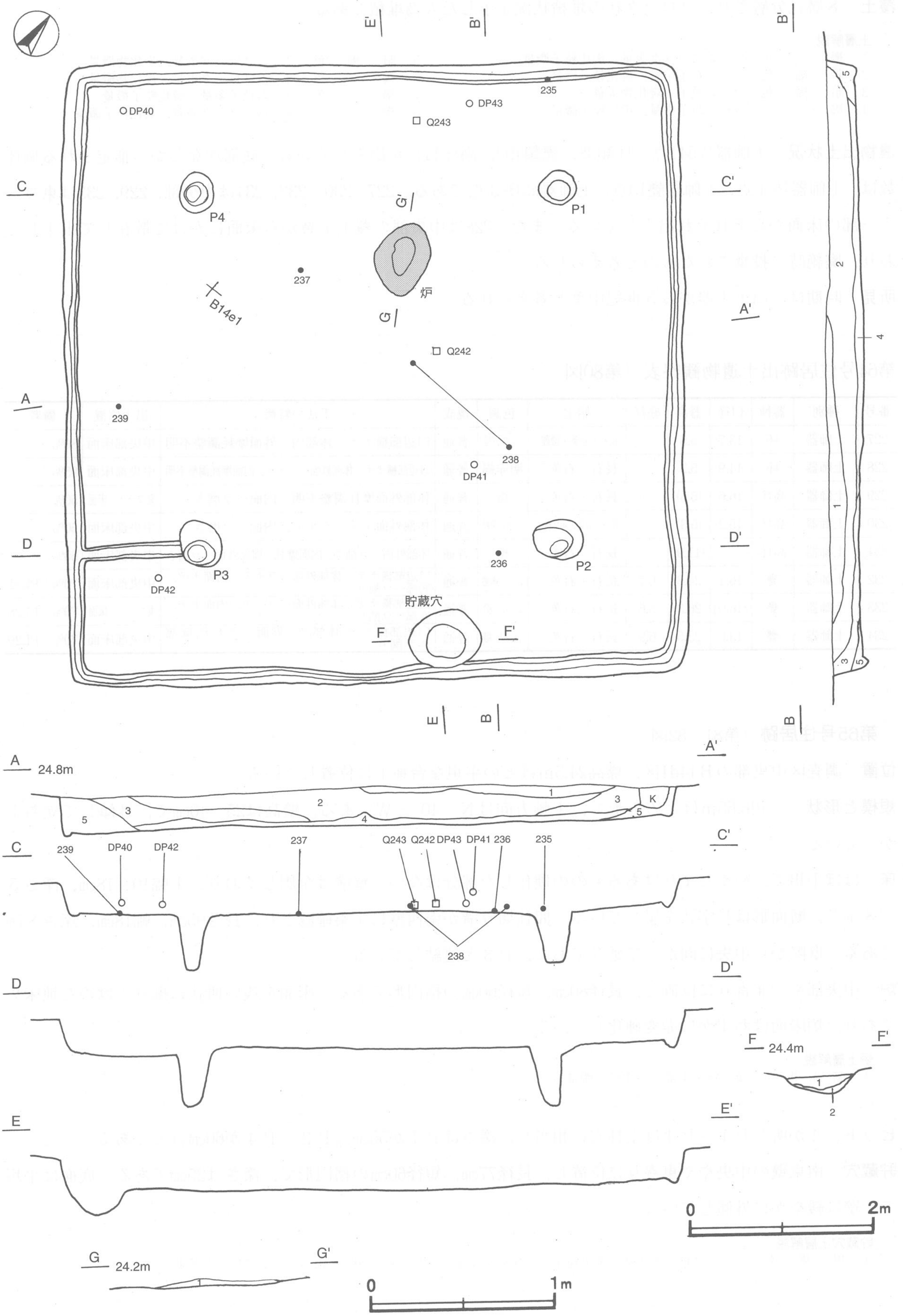
炉　中央部やや北寄りに位置し，長径80cm，短径60cmの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1 暗 赤 褐 色 焼土粒子少量，炭化粒子微量

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴に相当し，深さはＰ１が55cm，Ｐ２～Ｐ４が60cmほどである。

貯蔵穴　南東壁の中央やや東寄りに位置し，長径77cm，短径60cmの楕円形で，深さは25cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック多量



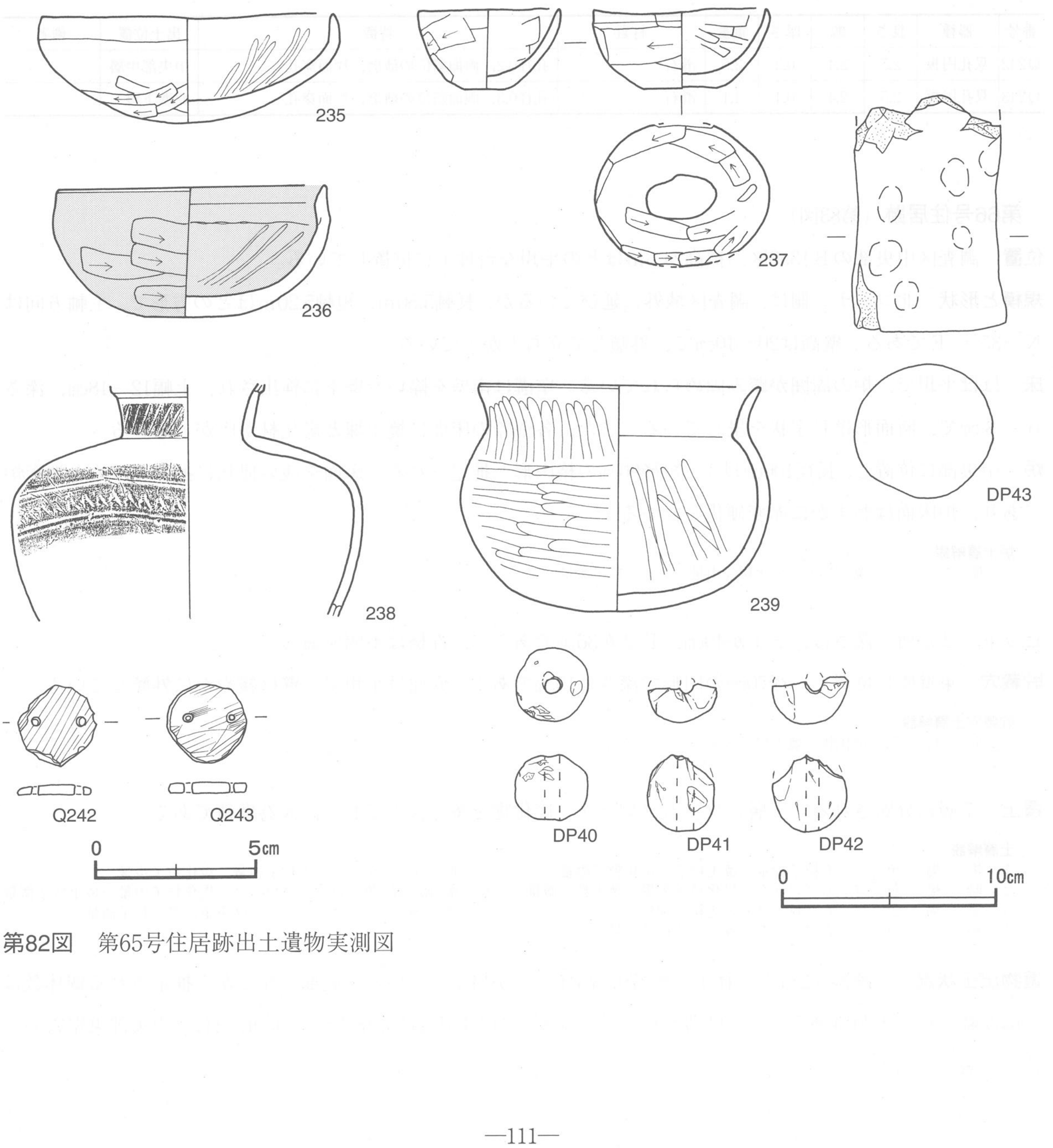
第81図　第65号住居跡実測図

覆土　5層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　黒　　　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量
5　褐　　　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片289点（坏類17，甕類269，高坏2，ミニチュア土器1），須恵器片1点（小形壺1），土製品4点（球状土錘3，支脚1），石製模造品2点（双孔円板）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏7点，土師器甕9点，土師器高坏2点，土師器ミニチュア土器1点，須恵器小型壺1点である。236は中央部，239は中央部西壁寄り，235は北壁際の床面からそれぞれ出土している。また，237･238は中央部，Q243は中央部北壁寄りの覆土下層から出土している。Q242，DP40～DP43は覆土中層から上層で出土しており，本跡の埋没過程で流入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から5世紀後葉と考えられる。



第82図　第65号住居跡出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
235	土師器	坏	13.6	5.0		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面下位ヘラ削り，内面ヘラ磨き	北壁床面	90%　PL24
236	土師器	坏	12.6	6.0	4.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き，赤彩	中央部床面	90%　PL29
237	土師器	ミニチュア土器	8.0 6.8	3.7	3.3 2.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラナデ	中央部下層	95%　舟形状 PL34
238	須恵器	小型壺	－	(10.8)	－	長石・石英	褐灰	良好	頸部・体部外面８本の櫛歯状工具による波状文	中央部下層	20%　PL41
239	土師器	小型甕	13.1	10.6		長石・石英	橙	普通	頸部から体部内・外面ヘラ磨き	西壁床面	100% PL26

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP40	球状土錘	3.4	3.1	0.7	34.4	土製	ナデ，片面穿孔	北壁上層	
DP41	球状土錘	[3.1]	3.5	[0.8]	(15.5)	土製	ナデ，片面穿孔，1/2欠損	中央部上層	
DP42	球状土錘	[3.5]	3.5	[0.6]	(19.3)	土製	ナデ，片面穿孔，1/2欠損	西壁中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP43	支脚	(10.7)	6.5	6.2	(463.2)	土製	側面ナデ，指頭痕，被熱痕	北壁中層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q242	双孔円板	2.5	2.4	0.3	3.5	滑石	孔径0.2，両面斜位の研磨，片面穿孔	中央部中層	
Q243	双孔円板	2.5	2.4	0.4	4.1	滑石	孔径0.3，両面斜位の研磨，片面穿孔	北壁下層	

第66号住居跡（第83図）

位置　調査区中央部のＢ13a9区，標高24.5ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北コーナー側は，調査区域外に延びているが，長軸5.50ｍ，短軸5.20ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－35°－Ｅである。壁高は20～40㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，炉の周囲が踏み固められている。壁溝は南壁を除いた壁下に検出され，上幅12～18㎝，深さ６～８㎝で，断面形はＵ字状を呈している。また，各壁際の床面に焼土塊と炭化材が広がっている。

炉　中央部に位置し，長径100㎝以上，短径90㎝の楕円形と推定される。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量

ピット　２か所。深さは，Ｐ１が40㎝，Ｐ２が36㎝であるが，性格は不明である。

貯蔵穴　東壁際に位置し，径70㎝の円形で深さは15㎝である。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾している。

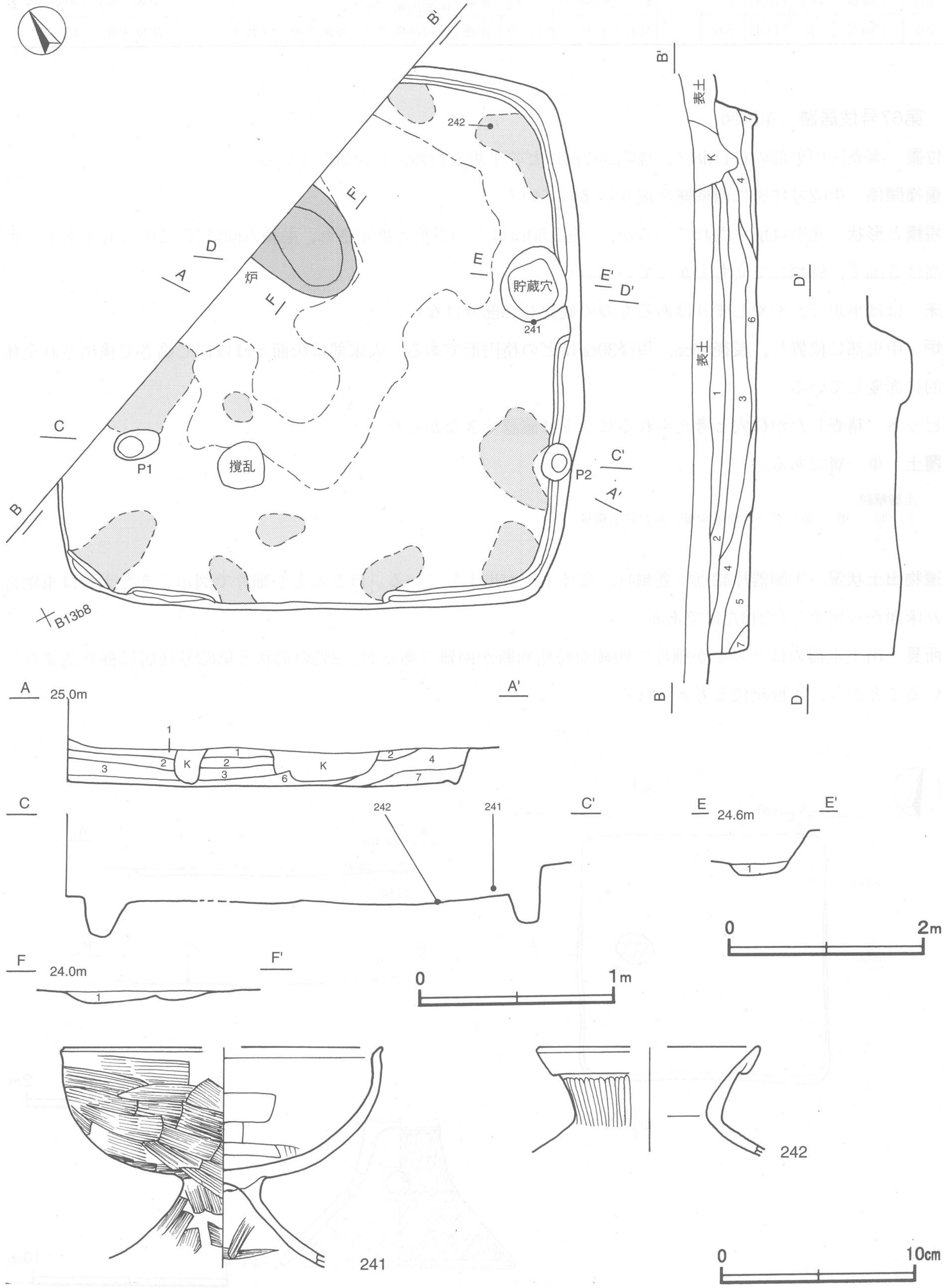
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　炭化物・焼土粒子少量

覆土　７層に分層される。下層にロームブロック・炭化物を多く含んでおり，人為堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　褐色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
5　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
6　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片281点（鉢１，甕279，高坏１）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器鉢１点，土師器甕７点，土師器高坏１点である。242は中央部北壁寄りの床面，241は中央部東壁寄りの覆土下層から出土している。

所見　本跡は，壁に沿って焼土が広がっており，焼失住居である。また，時期は，出土土器から４世紀前半と考えられる。



第83図　第66号住居跡・出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
241	土師器	高坏	[16.4]	(11.2)	－	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，坏部～脚部外面ハケ目整形，坏部内面ヘラナデ	東壁下層	80%　PL35
242	土師器	壺	[11.4]	(5.6)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，頸部外面ヘラ磨き	北壁床面	15%

第67号住居跡（第84図）

位置　調査区中央部のＣ11d8区，標高24.2ｍほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係　第62号住居に西壁側を掘り込まれている。

規模と形状　北壁は削平されているが，一辺2.50ｍほどの方形と推定され，主軸方向はＮ－20°－Ｅである。壁高は５㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，ややしまりはあるものの硬化した部分はない。

炉　中央部に位置し，長径40㎝，短径30㎝ほどの楕円形である。火床部は床面とほぼ同じ高さで検出され全体的に赤変している。

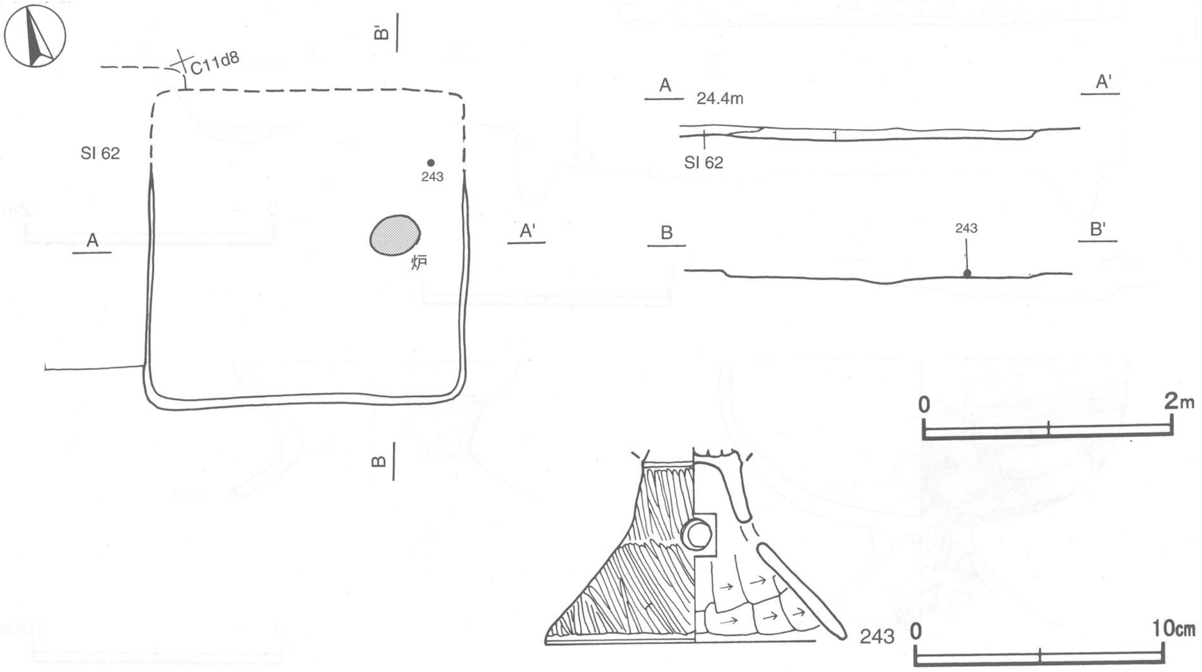
ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　単一層である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片42点（甕類41，高坏１）が出土している。ほとんどが細片で図示できた土器は東壁寄り床面から出土した243だけである。

所見　出土土器のほとんどが細片で明確な時期判断が困難であるが，243の形状と第62号住居に掘り込まれていることから，４世紀代と考えられる。



第84図　第67号住居跡・出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表（第84図）

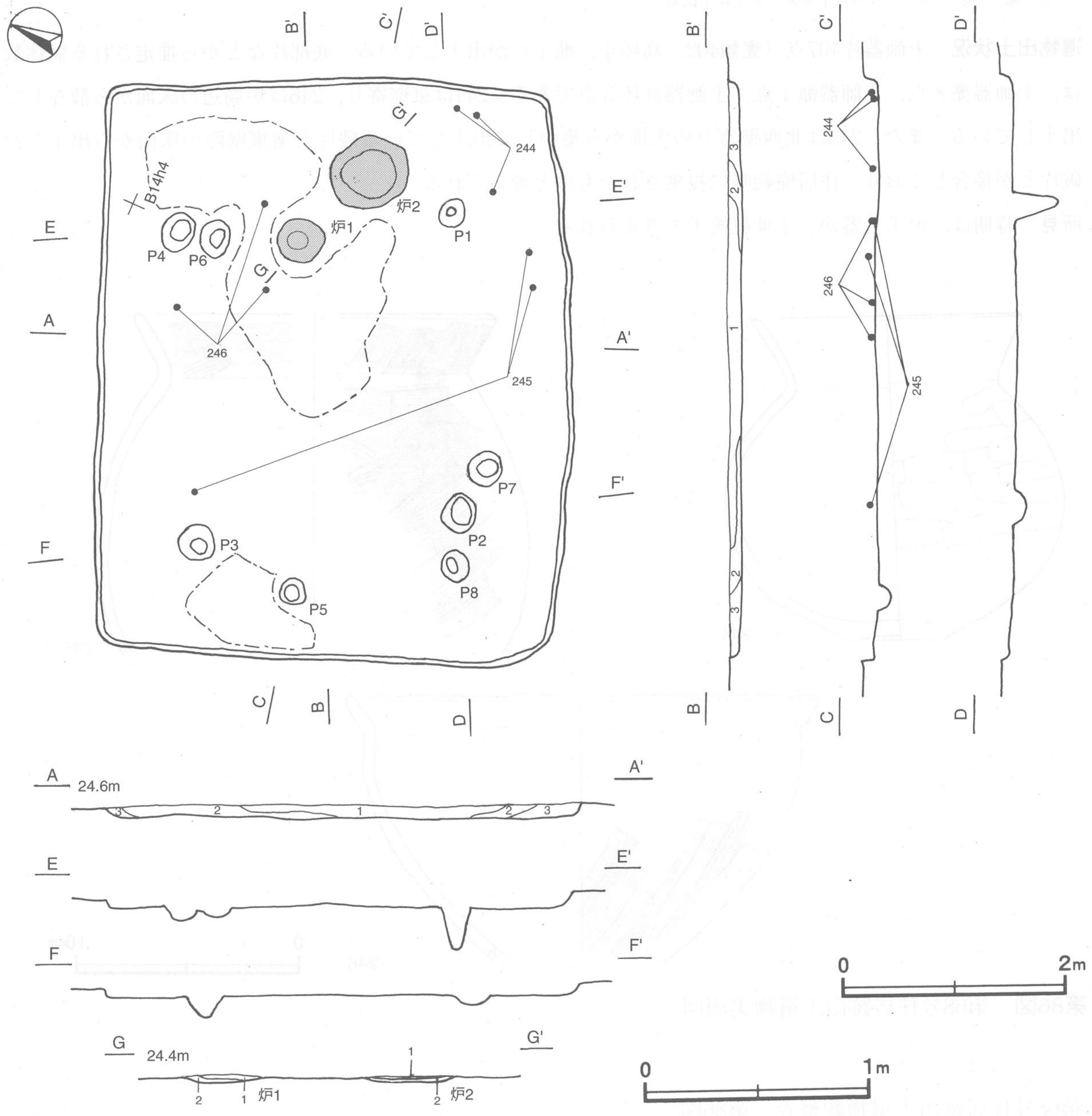
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
243	土師器	高坏	－	(7.7)	12.0	長石	にぶい赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラ削り	東壁床面	50%

第68号住居跡（第85・86図）

位置 調査区中央部のＢ14h3区，標高24.4ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.15ｍ，短軸4.25ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－60°－Ｅである。壁高は12㎝で，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部と東壁の間及び西壁際に硬化面が確認できる。



第85図　第68号住居跡実測図

炉　２か所。炉1, 炉２とも中央部東壁寄りに位置し，径40㎝ほどの円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉１土層解説
１　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
２　赤　褐　色　焼土粒子中量，炭化粒子微量

炉２土層解説
１　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子・ローム粒子少量
２　暗赤褐色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

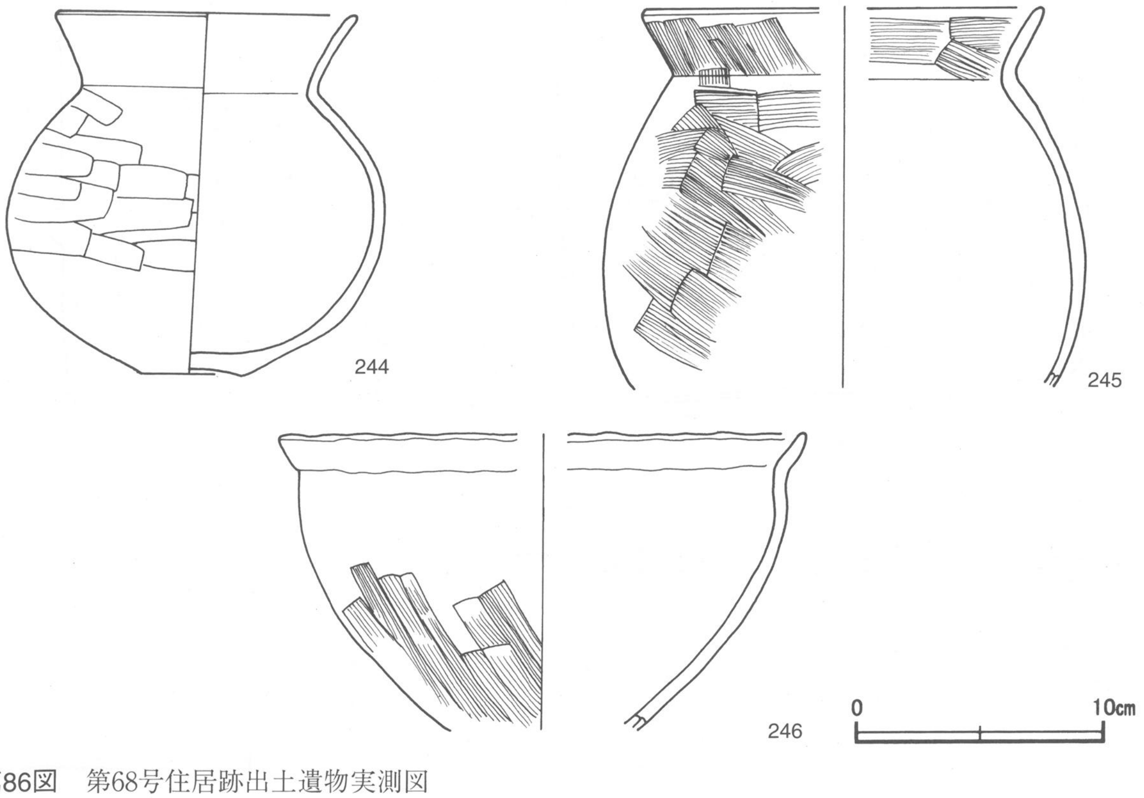
ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴に相当し，深さはＰ１が39㎝，Ｐ２～Ｐ４が15㎝ほどである。Ｐ５は深さ11㎝で西壁のやや北寄りに位置し，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ６～Ｐ８は深さがそれぞれ11～26㎝であるが性格は不明である。

覆土　３層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
１　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
２　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
３　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片407点（甕類402，高坏４，甑１）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器甕８点，土師器甑１点，土師器高坏３点である。244は東壁寄り，246は炉周辺の床面から散在して出土している。また，245は北西壁寄りの床面から集中して出土している破片と南東壁際の床面から出土した破片とが接合しており，住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から４世紀後半と考えられる。



第86図　第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
244	土師器	甕	12.1	14.3	4.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラナデ,底部ヘラ削り	東壁床面	95%　PL30

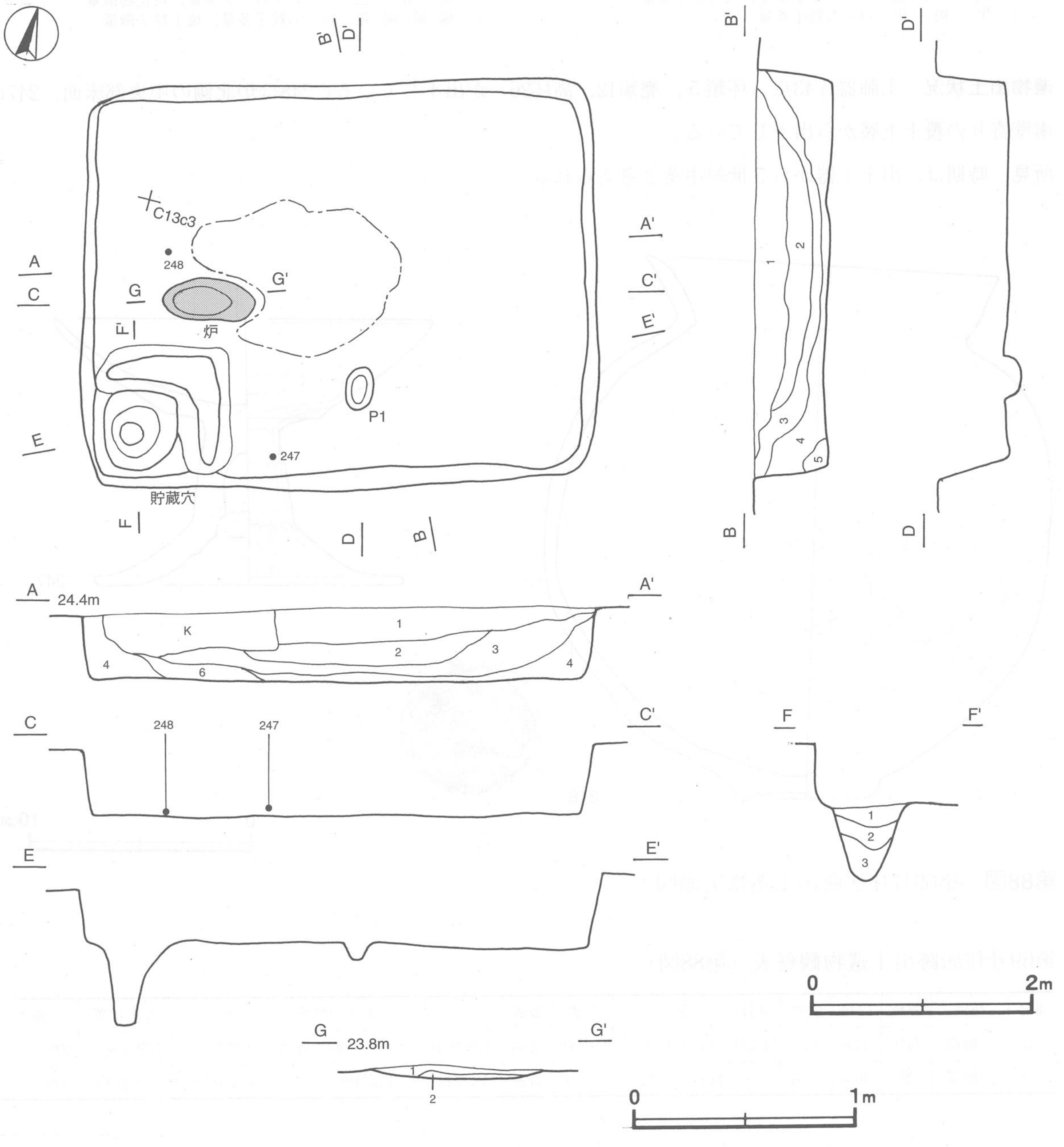
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
245	土師器	甕	[16.0]	(15.3)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部から体部外面ハケ目整形	中央部床面	30%
246	土師器	甑	[21.2]	(12.0)	−	石英	にぶい黄橙	普通	体部外面ハケ目整形，内面ナデ	中央部床面	30%

第69号住居跡（第87・88図）

位置　調査区中央部のC13c3区，標高24.3mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸4.55m，短軸3.70mほどの長方形で，主軸方向はN−75°−Eである。壁高は60〜66cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。貯蔵穴の周囲に土手状の高まりが確認される。



第87図　第69号住居跡実測図

炉　中央部西壁寄りに位置し，長径80cm，短径35cmの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　黒　　褐　　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
2　極暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量

ピット　1か所。南壁寄りに位置し，深さ15cmである。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴　南西コーナー部に位置し，径70cmの円形で，深さは70cmである。底面は平坦で，壁は外傾している。

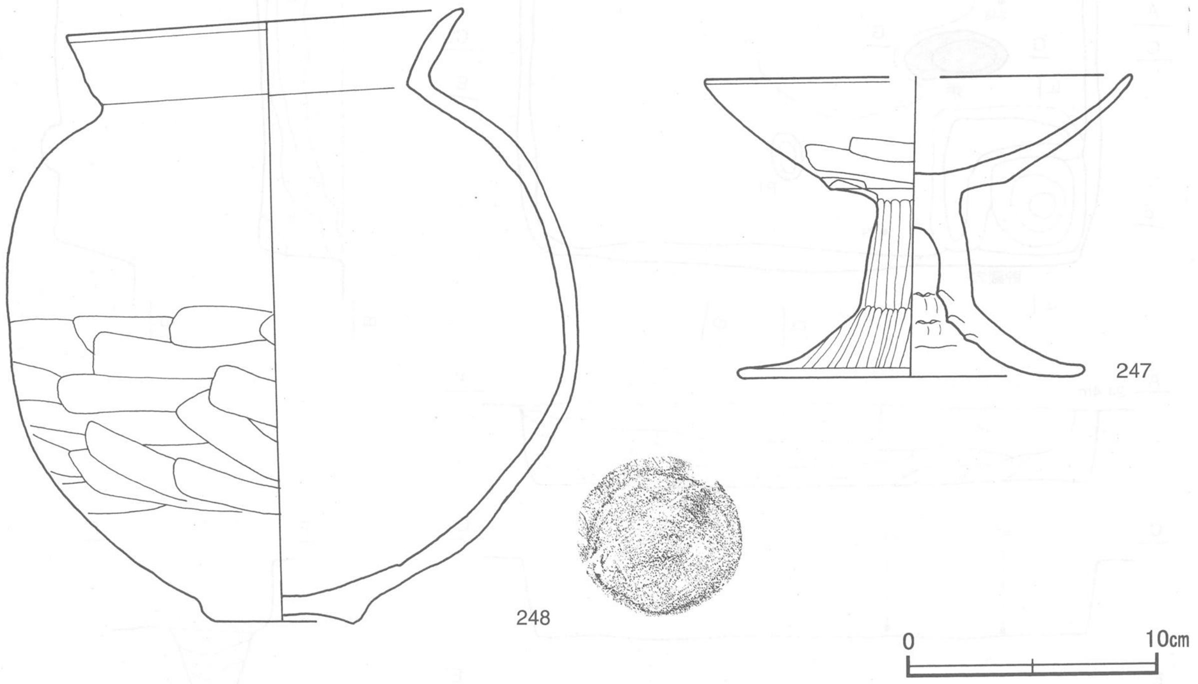
貯蔵穴土層解説
1　暗　　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
2　褐　　　　　色　ローム粒子多量
3　褐　　　　　色　ロームブロック多量

覆土　6層に分層され，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　極　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
3　黒　　褐　　色　ローム粒子多量
4　暗　　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
6　極　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片43点（坏類5，甕類12，高坏26）が出土している。248は炉北側の中央部床面，247は南壁寄りの覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第88図　第69号住居跡出土遺物実測図

第69号住居跡出土遺物観察表（第88図）

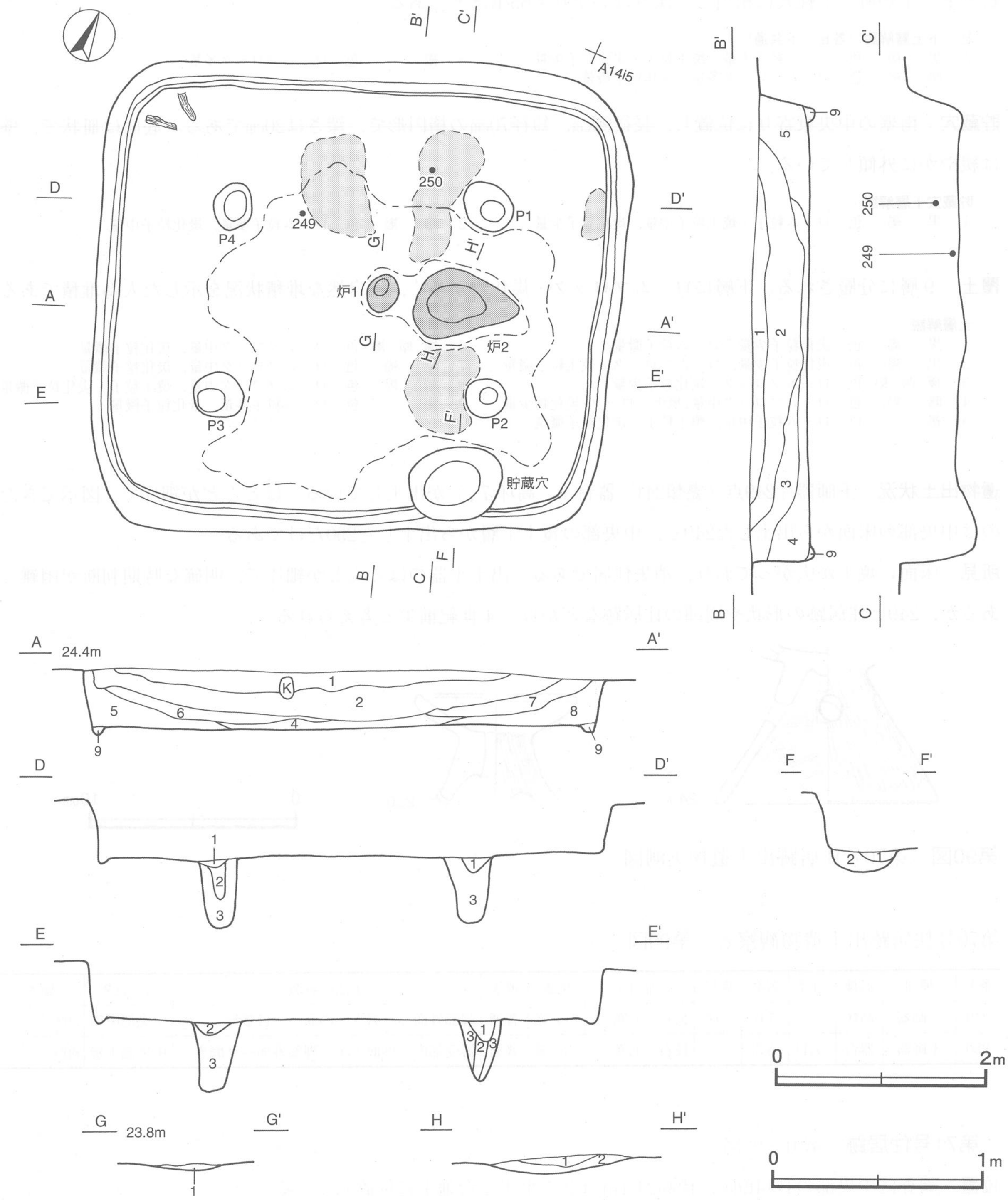
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
247	土師器	高坏	[17.0]	12.0	[13.5]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部外面ヘラナデ，脚部外面ヘラ磨き	南壁下層	60%
248	土師器	甕	16.0	24.6	5.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラナデ,底部ヘラ削り	中央部床面	80%　PL33

第70号住居跡（第89・90図）

位置　調査区中央部のＡ14i4区，標高24.2ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸5.00ｍ，短軸4.50ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－65°－Ｅである。壁高は45～55㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は貯蔵穴付近を除いた壁下に検出され，上幅15～20㎝，深さ５～８㎝で，断面形はＵ字状を呈している。また，床面から焼土塊と炭化材が検出されている。



第89図　第70号住居跡実測図

炉　2か所。炉1は中央部に位置し，径30cmほどの円形である。炉2はやや東壁寄りに位置し，長径100cm，短径70cmの不整楕円形である。ともに床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉1土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量
炉2土層解説
1　暗赤褐色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量　　2　極暗赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット　4か所。主柱穴に相当し，深さはいずれも65cmほどである。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量　　3　褐　色　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

貯蔵穴　南壁の中央東寄りに位置し，長径90cm，短径70cmの楕円形で，深さは20cmである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。

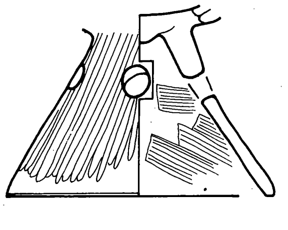
貯蔵穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量　　2　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子中量

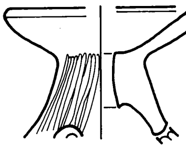
覆土　9層に分層される。下層にロームブロック・炭化物が多く，不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

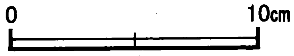
土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量,焼土ブロック·炭化物少量
5　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片249点（甕類241，器台1，高坏7,）が出土している。ほとんどが細片で，図示できたのは中央部の床面から出土した249と，中央部の覆土下層から出土した250だけである。

所見　床面に焼土が広がっており，消失住居である。出土土器のほとんどが細片で，明確な時期判断が困難であるが，249と住居跡の形状や周囲の住居跡などから，4世紀前半と考えられる。


249


250



第90図　第70号住居跡出土遺物実測図

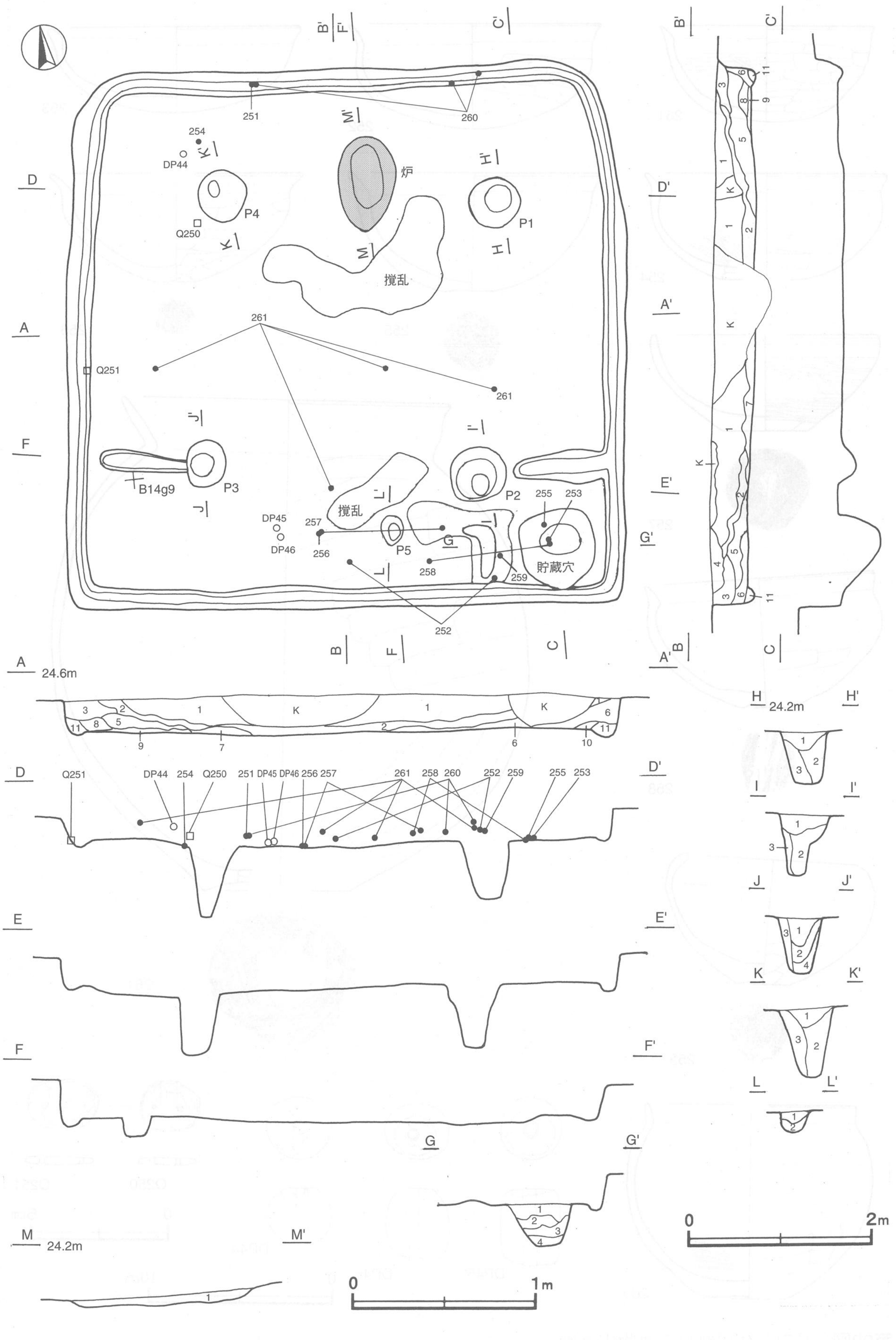
第70号住居跡出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
249	土師器	高坏	—	(7.6)	10.6	長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目整形	中央部床面	50%
250	土師器	器台	[7.4]	(5.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	器受部内・外面ナデ，脚部外面ヘラ磨き	中央部下層	60%

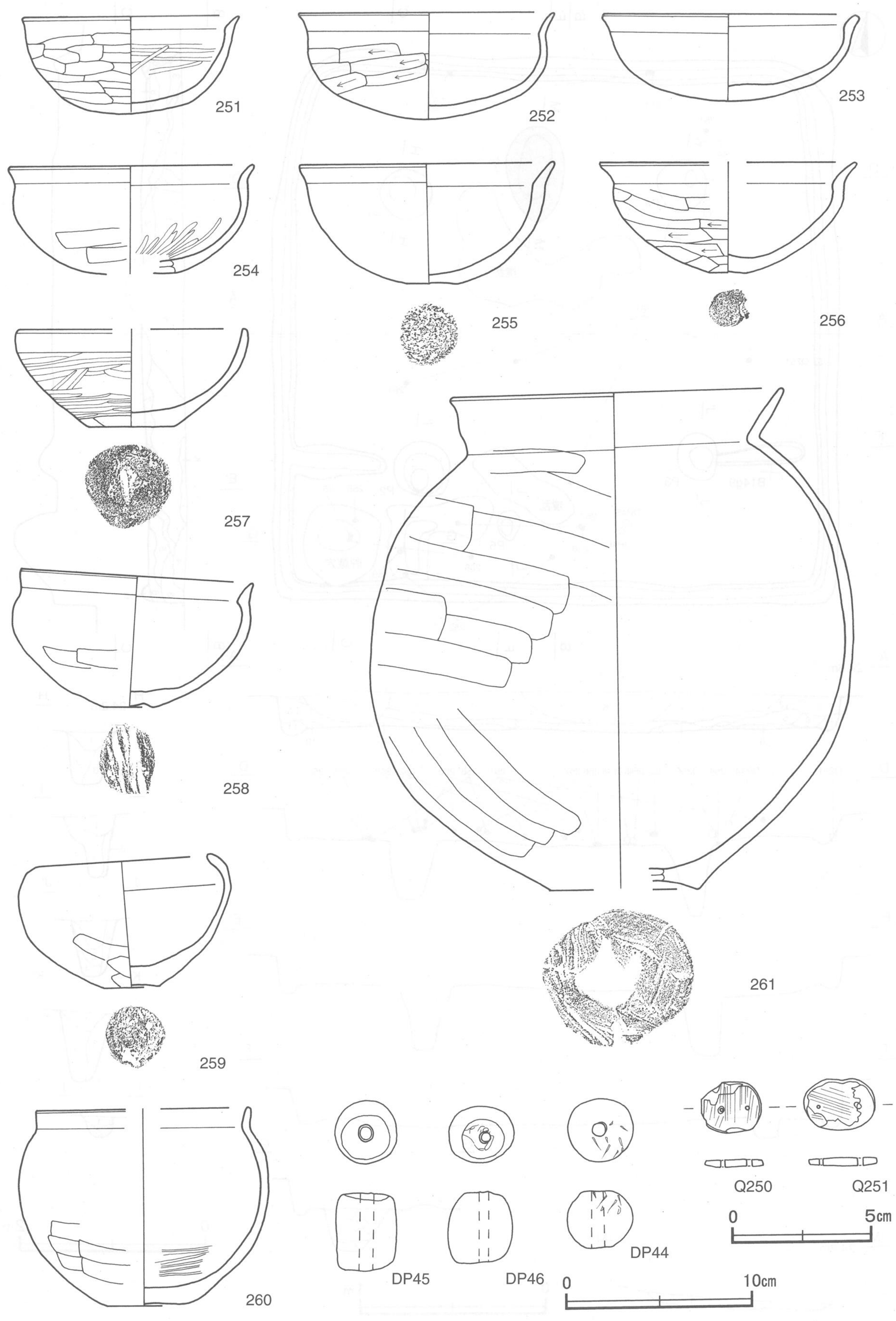
第71号住居跡（第91・92図）

位置　調査区中央部のＢ14f9区，標高24.4ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　一辺6.00ｍほどの方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。壁高は25～35cmで，外傾して立ち上がっている。



第91図　第71号住居跡実測図



第92図　第71号住居跡出土遺物実測図

床　ほぼ平坦で，中央部及び出入り口付近が踏み固められている。貯蔵穴とＰ５の間に土手状の高まりのある硬化面が確認できる。壁溝は全周しており，上幅10～18cm，深さ５～８cmで，断面形はＵ字状を呈している。間仕切り溝が東壁及び西壁に１条ずつ確認され，長さ95cm，幅18～20cm，深さ10～15cmである。壁際から中央に向かって延びており，それぞれＰ2，Ｐ３と連結している。

炉　中央部の北壁寄りに位置し，長径100cm，短径60cmの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，ローム粒子少量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は主柱穴に相当し，深さはＰ１～Ｐ３が65cmほど，Ｐ４が77cmである。Ｐ５は深さ22cmで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐色　ロームブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　褐色　ロームブロック多量
4　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

貯蔵穴　南東コーナー部に位置し，径80cmほどの円形で，深さは45cmである。底面はＵ字状で，壁は緩やかに外傾している。

貯蔵穴土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・粘土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，粘土粒子少量

覆土　11層からなり，下層はロームブロック・炭化物を多く含む不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
9　褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
10　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子少量
11　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片561点（坏類146，甕類408，高坏７），土製品３点（球状土錘１，管状土錘２），石製模造品２点（双孔円板）が出土している。底部片などから推定される個体数は，土師器坏６点，土師器椀２点，土師器甕５点，土師器高坏３点である。253，255は貯蔵穴から出土している。254は中央部北壁寄りの床面，251は北壁際の覆土下層，256は南壁際の床面，259は中央部南壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。また，252・257・258は南壁沿い，260は北壁沿い，261は中央部の覆土下層から散在した状態で出土しており，廃絶後に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。

第71号住居跡出土遺物観察表（第92図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
251	土師器	坏	11.6	5.2		長石・石英	明褐黄	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラナデ,内面ヘラ磨き	北壁下層	80%　PL28
252	土師器	坏	13.8	5.7		長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	南壁下層	95%　PL28
253	土師器	坏	13.6	4.6		長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗調整不明	貯蔵穴	70%
254	土師器	坏	13.2	(5.8)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラナデ,内面ヘラ磨き	北壁床面	60%
255	土師器	坏	13.5	6.4	2.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面摩耗調整不明	貯蔵穴	95%　PL25
256	土師器	坏	[13.8]	5.8	2.0	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り，内面摩耗調整不明	南壁床面	60%
257	土師器	坏	[12.1]	5.2	4.5	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面・底部ヘラ磨き，内面摩耗調整不明	南壁下層	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
258	土師器	椀	12.5	7.5	2.8	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面摩耗，底部砥石転用痕	南壁下層	80% PL30
259	土師器	椀	9.1	7.0	3.0	石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	南壁下層	100% PL27
260	土師器	椀	[11.4]	10.5	4.0	長石・石英	灰褐	普通	体部外面ヘラナデ，内面ナデ，下位棒状工具によるナデ	北壁下層	60%
261	土師器	甕	17.8	26.3	[7.9]	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラナデ,底部ヘラ削り	中央部下層	70% PL28

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP44	球状土錘	3.5	3.1	0.7	35.1	土製	ナデ，片面穿孔	北壁上層	
DP45	管状土錘	3.3	4.1	0.8	50.9	土製	ナデ，片面穿孔	南壁下層	
DP46	管状土錘	3.5	3.9	0.6	39.8	土製	ナデ，片面穿孔	南壁下層	PL42

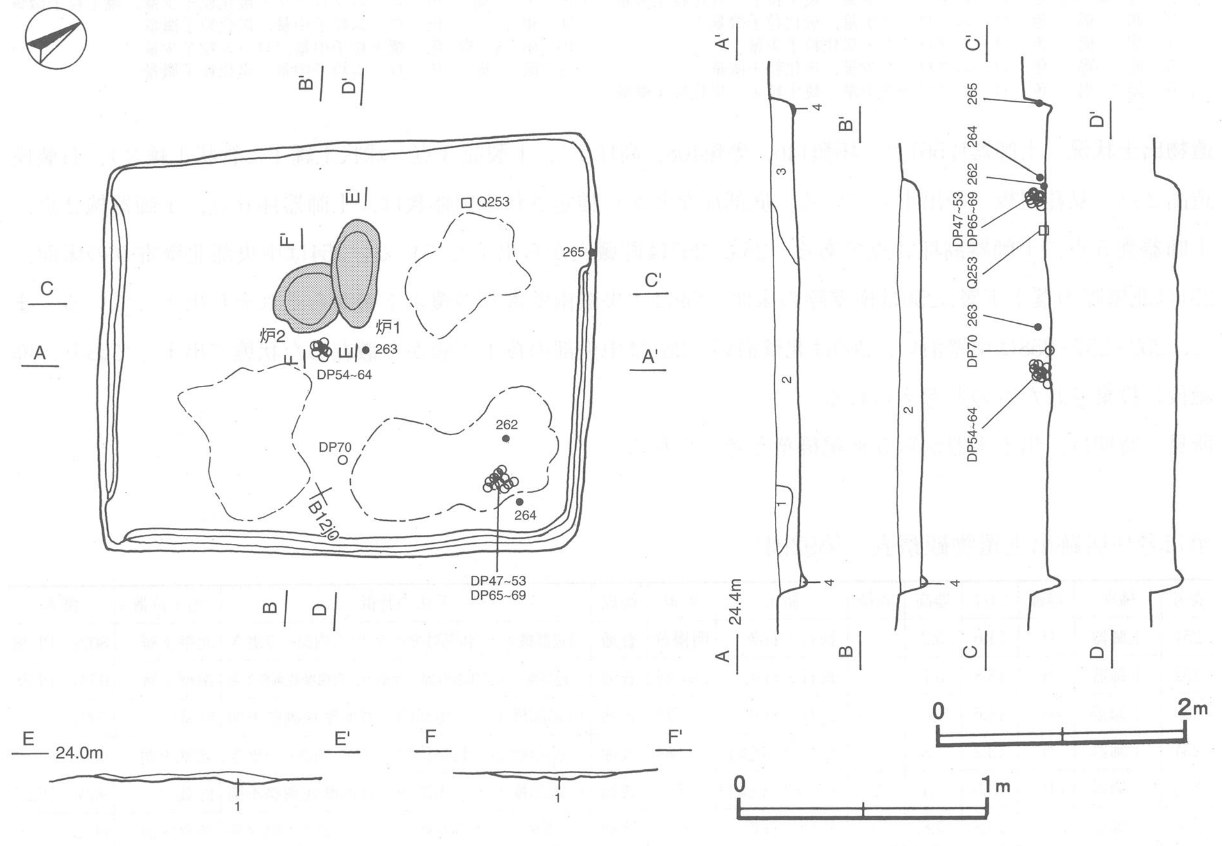
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q250	双孔円板	2.7	3.2	0.4	5.7	滑石	孔径0.23，両面斜位の研磨，片面穿孔	中央部下層	
Q251	双孔円板	3.3	4.1	0.75	8.5	滑石	孔径0.27，両面斜位の研磨，片面穿孔	西壁下層	

第72号住居跡（第93・94図）

位置　調査区中央部のＢ12i9区，標高24.1ｍほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長軸3.90ｍ，短軸3.30ｍほどの長方形で，主軸方向はＮ－25°－Ｅである。壁高は15～20㎝で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部から東側に硬化面が確認できる。壁溝は北西壁を除いて検出され，上幅10～16㎝，深さ５～８㎝で，断面形はＵ字状を呈している。

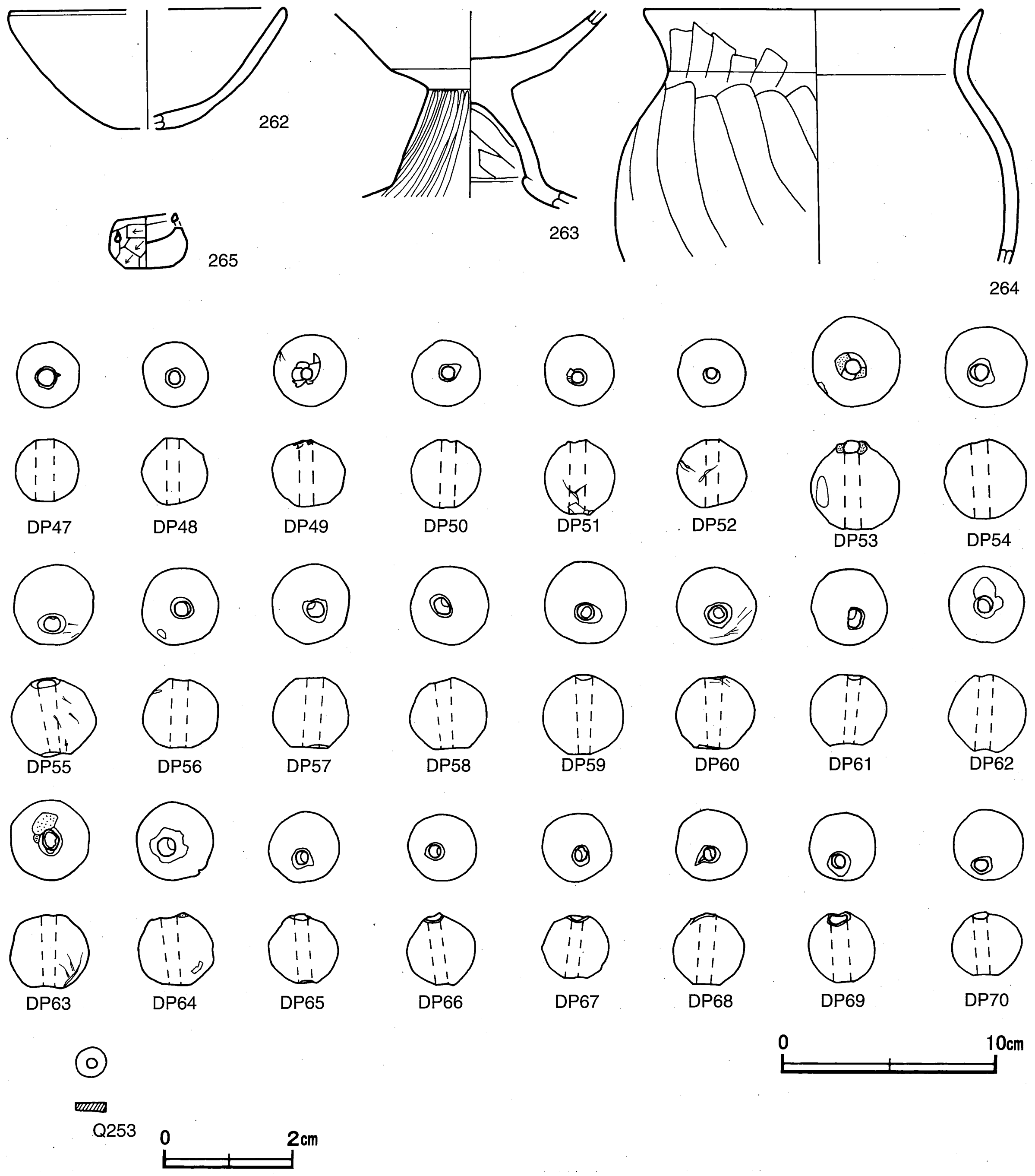


第93図　第72号住居跡実測図

炉　2か所。炉1は中央部の北西壁寄りに位置し，長径80cm，短径40cmの楕円形である。炉2は炉1に掘り込まれており，径50cmの円形と推定される。ともに床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉1土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子微量
炉2土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。



第94図　第72号住居跡出土遺物実測図

覆土　3層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1 暗　褐　色　ローム粒子少量
2 暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
3 黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片241点（坏類37，甕類179，高坏24，ミニチュア土器1），土製品24点（球状土錘），石製模造品1点（臼玉）が出土している。262は中央部の床面，Q253は北西壁寄りの床面，264は東コーナー寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。また，263は中央部の覆土中層，265は北東壁際の覆土中層，DP47～DP53・DP65～DP69は東コーナー寄りの覆土下層から中層，DP54～DP64・DP70は中央部の床面から覆土中層にかけてそれぞれ出土しており，本住居が埋没する過程で投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から5世紀中葉と考えられる。

第72号住居跡出土遺物観察表（第94図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
262	土師器	椀	[12.8]	5.5	[2.8]	長石・石英	橙	普通	体部内・外面摩耗調整不明	中央部床面	30%
263	土師器	高坏	－	(9.2)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部内・外面摩耗，脚部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	中央部中層	40%
264	土師器	甕	15.5	(11.8)	－	長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，頸部から体部内・外面ヘラナデ	東コーナー下層	40%
265	土師器	ミニチュア土器	2.6	2.5	2.0	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面つまみ上げ，2孔	北東壁中層	100% PL34

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q253	臼玉	0.48	0.14	0.18	0.06	滑石	円盤状	北西壁下層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP47	球状土錘	3.0	2.9	0.8	22.4	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	
DP48	球状土錘	3.1	3.1	0.7	24.0	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP49	球状土錘	3.4	3.2	0.7	30.2	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP50	球状土錘	3.2	3.2	0.6	27.3	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP51	球状土錘	3.3	3.5	0.7	31.8	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP52	球状土錘	3.2	3.2	0.6	27.3	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP53	球状土錘	4.1	4.2	0.8	59.4	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP54	球状土錘	3.8	3.7	0.8	44.7	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP55	球状土錘	3.7	3.6	0.8	43.1	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP56	球状土錘	3.6	3.3	0.8	40.6	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP57	球状土錘	3.6	3.3	0.7	41.6	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP58	球状土錘	3.6	3.4	0.7	41.5	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP59	球状土錘	3.8	3.6	0.8	49.4	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP60	球状土錘	3.8	3.4	0.8	41.2	土製	ナデ，片面穿孔	中央部中層	PL42
DP61	球状土錘	3.6	3.2	0.6	38.2	土製	ナデ，片面穿孔	中央部中層	PL42
DP62	球状土錘	3.6	3.5	0.8	39.2	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP63	球状土錘	3.7	3.4	0.7	43.2	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP64	球状土錘	3.6	3.3	0.8	39.7	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42
DP65	球状土錘	3.8	3.2	0.7	29.1	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP66	球状土錘	3.7	3.3	0.6	29.9	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP67	球状土錘	3.2	3.0	0.6	26.8	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP68	球状土錘	3.3	3.3	0.7	32.2	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP69	球状土錘	3.7	3.2	0.8	30.1	土製	ナデ，片面穿孔	東コーナー中層	PL42
DP70	球状土錘	3.3	2.9	0.7	30.1	土製	ナデ，片面穿孔	中央部下層	PL42

第73号住居跡（第95図）

位置　調査区中央部のＤ８c5区，標高23.3mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　北側が調査区域外に延びているため，全体の規模は不明である。長軸は3.40m，短軸は2.80mほどが確認された。主軸方向はＮ－55°－Ｅであり，方形または長方形である。壁高は38～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，ややしまりはあるものの硬化した部分はない。

炉　中央部に位置し，長径45cm，短径35cmの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

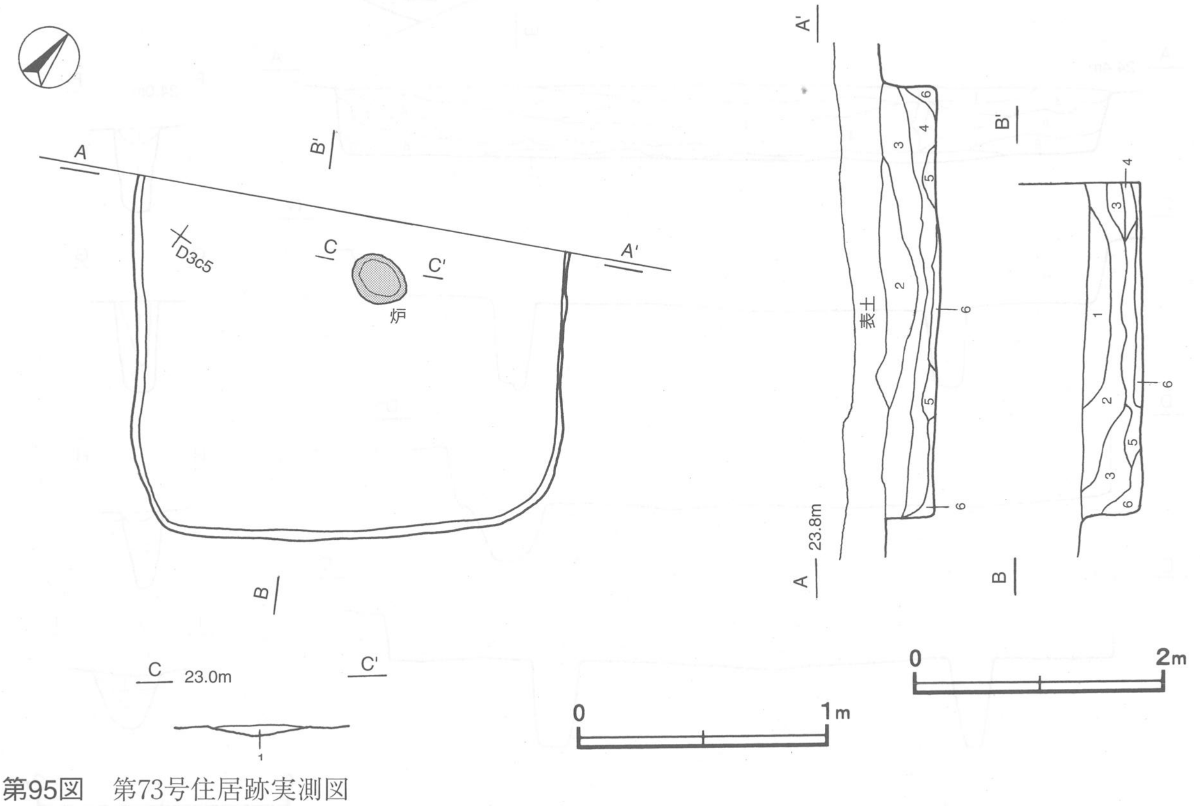
ピット　精査したが柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

覆土　6層からなり，下層にロームブロック・炭化物が多く，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物中量，焼土粒子少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子多量，炭化物中量，ローム粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片52点（坏類14，甕類38）が出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

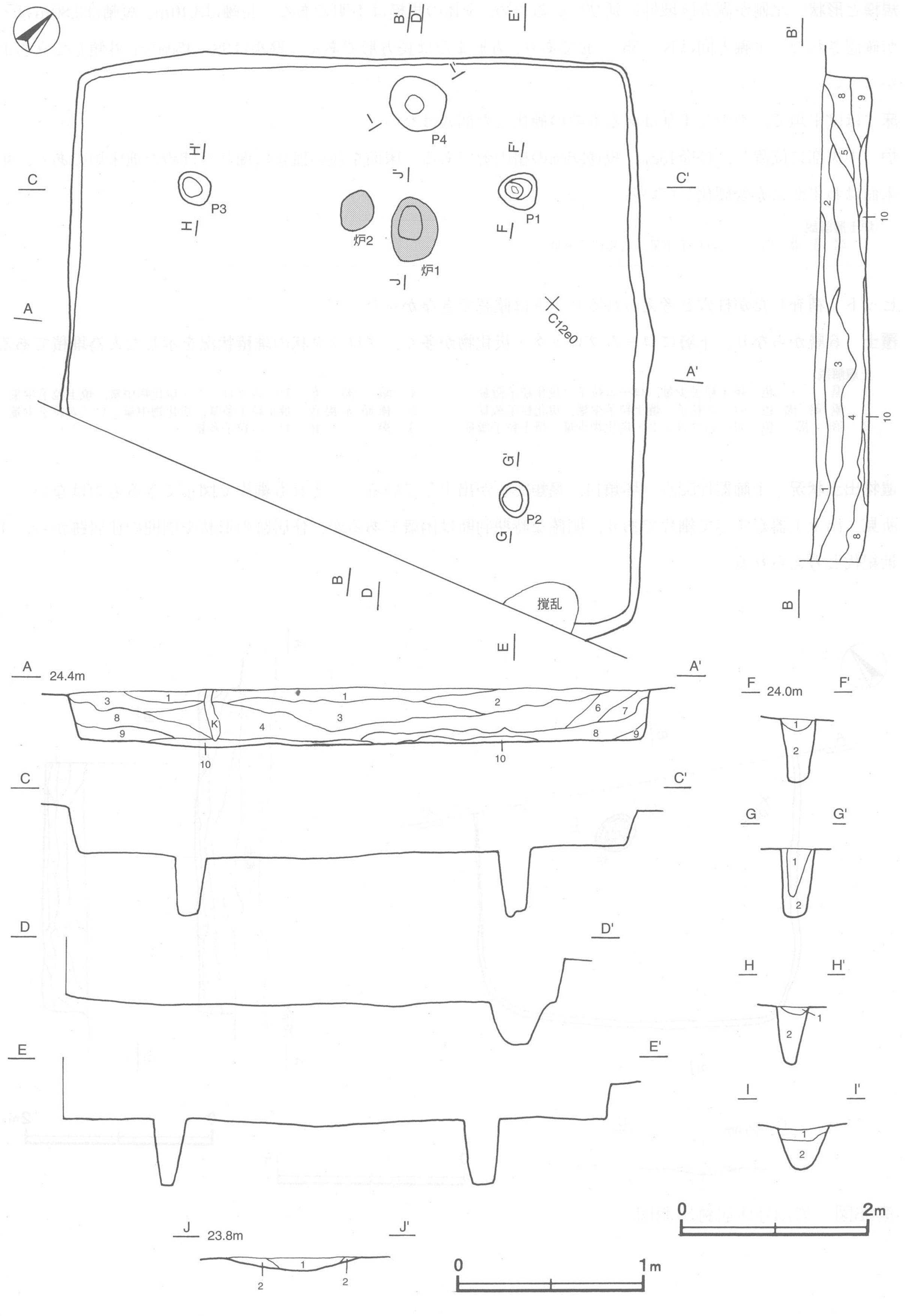
所見　出土土器がすべて細片であり，明確な時期判断は困難であるが，住居跡の形状や周囲の住居跡から，４世紀代と考えられる。



第95図　第73号住居跡実測図

第74号住居跡（第96図）

位置　調査区中央部のＣ12e9区，標高24.2ｍほどの平坦な台地上に位置している。



第96図　第74号住居跡実測図

規模と形状　南側は，調査区域外に延びているが，一辺6.20mほどの方形で，主軸方向はN－40°－Wである。壁高は35～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，ややしまりはあるものの硬化した部分はない。

炉　2か所。炉1は中央部のやや北寄りに位置し，長径70cm，短径50cmの楕円形である。床面を浅い皿状に掘りくぼめた地床炉であり，炉床面はわずかに赤変硬化している。炉2は炉1の南西に位置し，長径45cm，短径35cmの楕円形である。炉床面は床面とほぼ同じ高さで検出され全体的に赤変している。

炉1土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子少量

ピット　4か所。P1～P3は主柱穴に相当し，深さ65cmほどである。P4は深さ40cmであるが，性格は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

覆土　10層からなり，下層にロームブロック・炭化物が多く，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量,焼土ブロック・炭化物少量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　黒　　　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片103点（坏類32，甕類71）が出土している。いずれも細片で図示できるものはない。

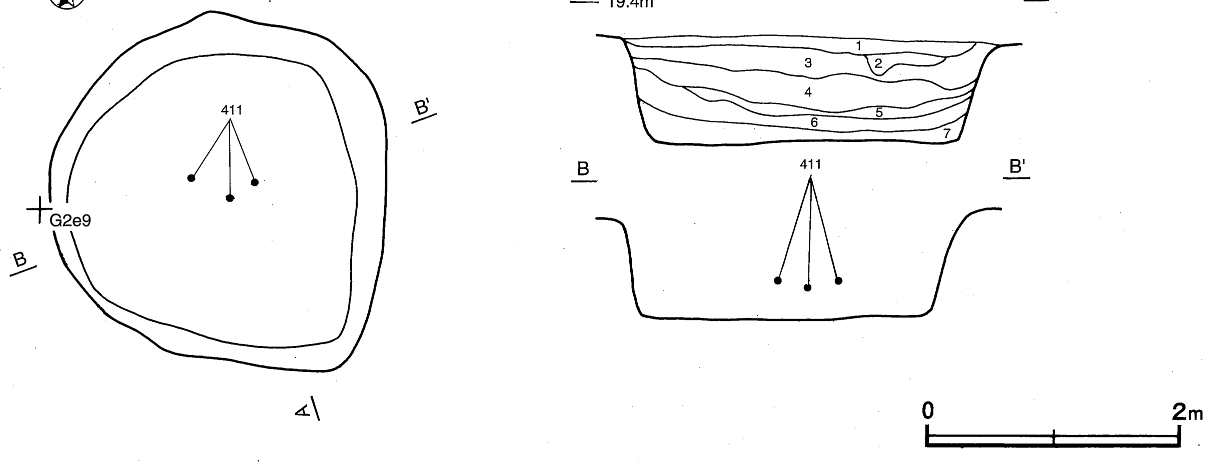
所見　出土土器がすべて細片であり，明確な時期判断は困難であるが，住居跡の形状や周囲の住居跡から，5世紀代と考えられる。

(2) 土坑

第6号土坑（第97・98図）

位置　調査区西部のG2d9区，標高19.2mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状　長径3.00m，短径2.70mほどの不整楕円形で，深さは85cmほどである。底面は平坦で，壁は直立している。長径方向はN－30°－Wである。



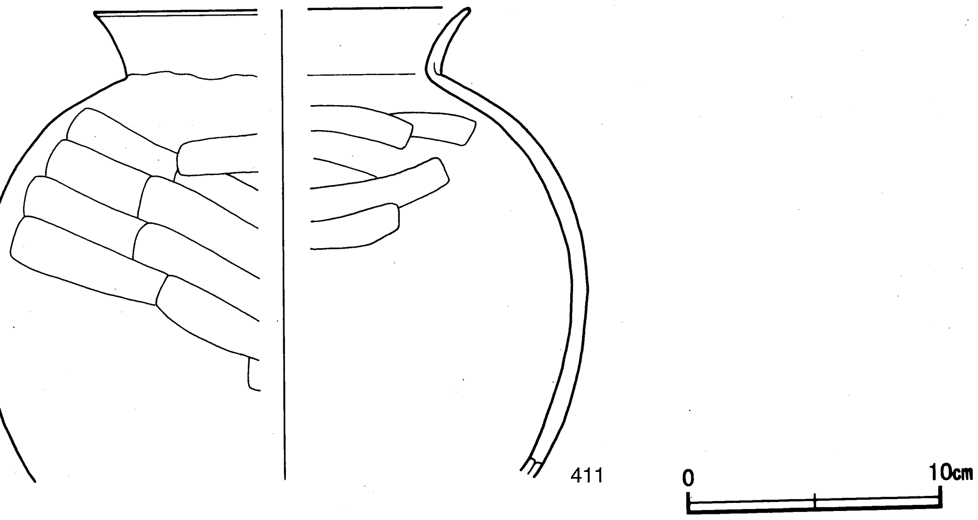
第97図　第6号土坑実測図

覆土　7層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　粘土ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片97点（甕類）が出土している。遺物の多くは第3層から第4層にかけて出土しており，411は中央部の覆土中層から出土している。

所見　出土土器から5世紀後葉には廃絶していたと考えられる。



第98図　第6号土坑出土遺物実測図

第6号土坑出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
411	土師器	甕	[14.8]	(18.5)	−	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	中央部中層	40%

第11号土坑（第99図）

位置　調査区西部のF5b7区，標高23.0mほどの平坦な台地上に位置している。

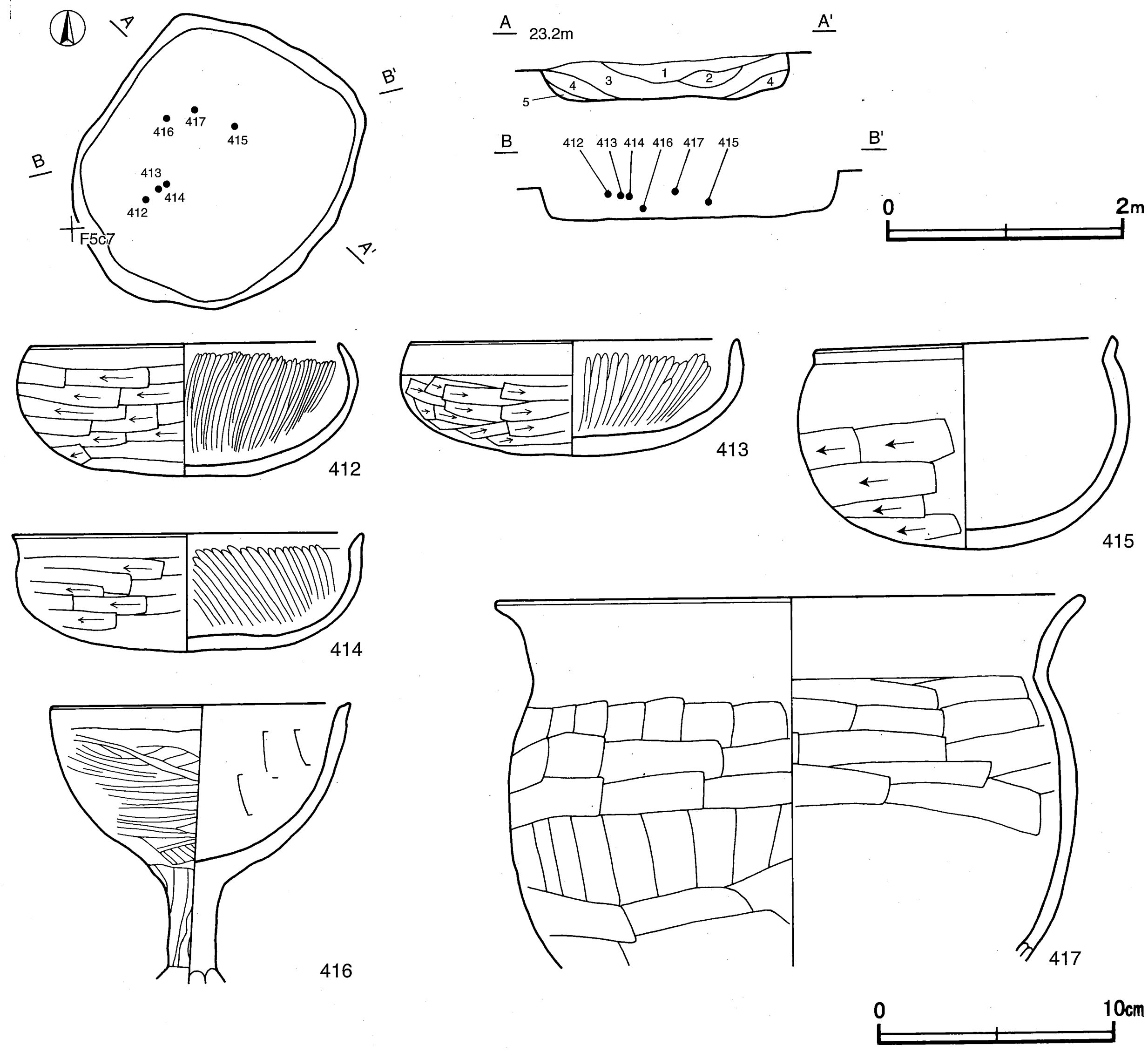
規模と形状　長径2.50m，短径2.20mほどの楕円形で，深さは32cmほどである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN−40°−Eである。

覆土　5層からなり，ロームブロックを多く含んだ人為堆積である。

土層解説
1　褐　　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片111点（坏類8，甕類102，高坏1）が出土している。これらの多くは覆土中層から下層にかけてまとまって出土しており，出土状況から投棄されたものと考えられる。415・416は北部の覆土下層，417は北部の覆土中層，412〜414は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から5世紀末葉から6世紀初頭と考えられる。



第99図　第11号土坑・出土遺物実測図

第11号土坑出土遺物観察表（第99図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
412	土師器	坏	13.0	5.6		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	西部中層	95%　PL25
413	土師器	坏	13.7	4.9		長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	西部中層	90%　PL25
414	土師器	坏	14.8	5.2		長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	西部中層	80%
415	土師器	椀	12.6	9.0		長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ削り	北部下層	100%　PL27
416	土師器	高坏	12.7	(11.6)	—	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	坏部外面から脚部外面ヘラ磨き，坏部内面ヘラナデ	北部下層	60%　PL35
417	土師器	甕	[24.8]	(15.6)	—	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ヘラナデ	北部中層	40%

第12号土坑（第100図）

位置　調査区西部のＦ５d7区，標高23.2ｍほどの平坦な台地上に位置している。

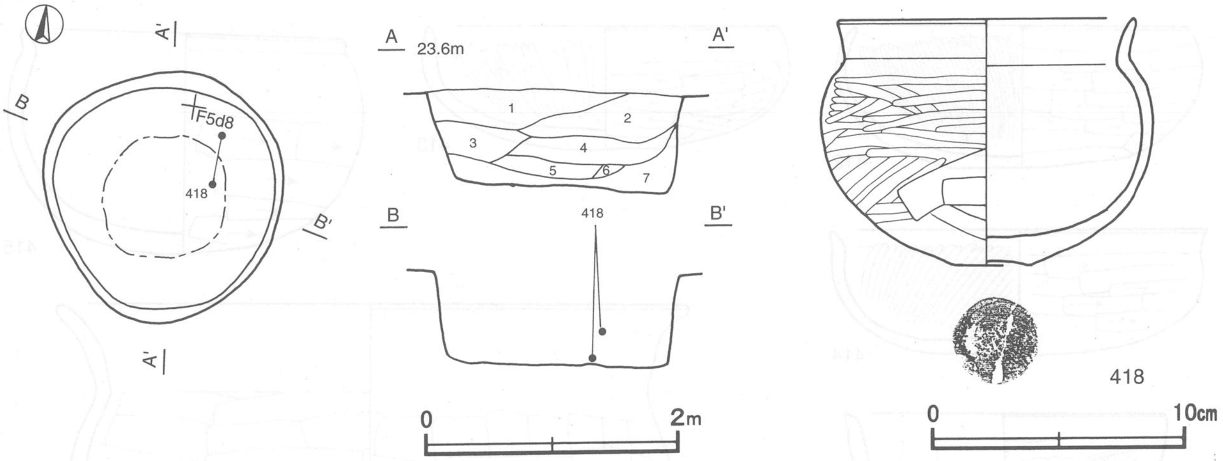
規模と形状　径1.90ｍほどの円形で，深さは75㎝ほどである。底面は平坦で中央部が硬化し，壁は外傾して立ち上がっている。また，第13号土坑と近接している。

覆土　7層からなり，ロームブロックを多く含んだ人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片36点（坏類８，甕類28）が出土している。418は北東部の覆土中層から出土した破片と中央部底面から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第100図　第12号土坑・出土遺物実測図

第12号土坑出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
418	土師器	甕	11.6	9.3	3.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面下位ヘラナデ，上位ヘラ磨き	中央部底面	80%　PL27

第13号土坑（第101図）

位置　調査区西部のＦ５d8区，標高23.4ｍほどの平坦な台地上に位置している。

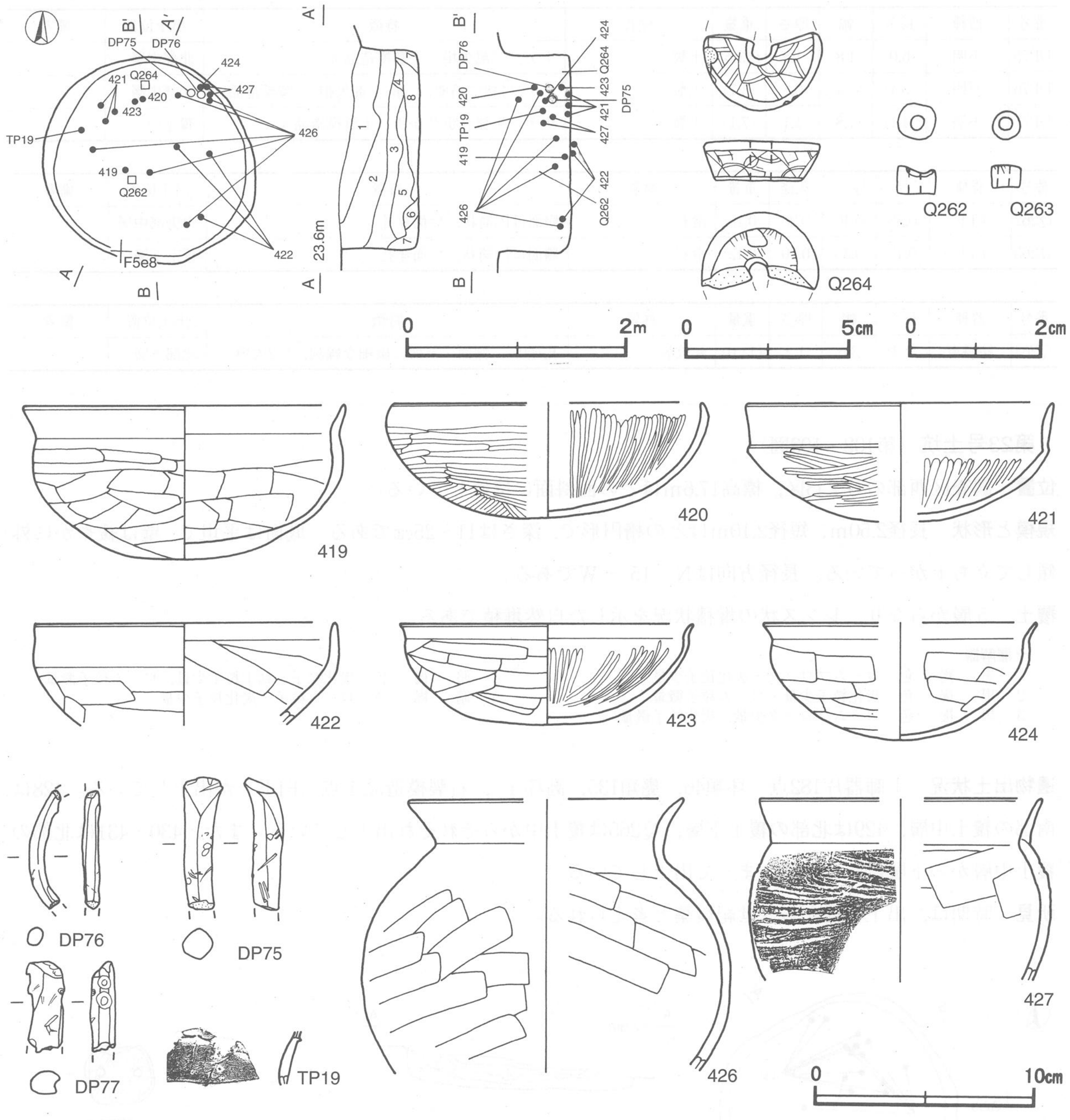
規模と形状　径1.90ｍほどの円形で，深さは72㎝ほどである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。また，第12号土坑と近接している。

覆土　８層からなり，第４～８層に焼土粒子を多く含んだ人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子少量
5　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
6　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片956点（坏類47，高坏9，甕類900），須恵器片１点（𤭯），模造品と推定される土製品３点，石製品３点（紡錘車１，臼玉２）が出土している。419・421・422は底面，423～427は覆土下層，Ｑ262～Ｑ264は覆土中層からそれぞれ出土している。また，桃の種子が18点出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀末葉から６世紀初頭と考えられる。



第101図　第13号土坑・出土遺物実測図

第13号土坑出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
419	土師器	坏	14.6	7.0		長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	中央部底面	80%　PL31
420	土師器	坏	[14.0]	5.3		長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ヘラ磨き	北部中層	60%
421	土師器	坏	[14.0]	(5.4)	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラ磨き	北部底面	60%
422	土師器	坏	13.6	(4.7)	−	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	東部底面	60%
423	土師器	坏	[13.2]	4.6		長石・石英	橙	普通	口辺部横ナデ,体部外面ヘラナデ,内面ヘラ磨き	北部下層	60%
424	土師器	坏	[12.4]	5.4		長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	東部中層	40%
426	土師器	甕	[12.4]	(12.4)	−	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	中央部下層	40%
427	土師器	小形甕	[12.8]	(8.3)	−	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面砥石転用痕，内面ヘラナデ	東部中層	20%
TP19	土師器	䚃	−	(2.4)	−	長石	灰	普通	頸部片，9本の櫛歯状工具による波状文	西部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP75	不明	(6.0)	1.8	1.8	(13.5)	土製	ナデ，下部欠損，土製模造品ヵ	北部中層	
DP76	不明	(5.4)	(1.4)	0.8	(3.7)	土製	ナデ，弓状に湾曲，上部・下部欠損，土製模造品ヵ	北部中層	
DP77	不明	(4.1)	1.8	1.1	(7.1)	土製	ナデ，未穿孔痕２か所，土製模造品ヵ	覆土中	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q262	臼玉	0.55	0.40	0.20	0.18	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	中央部中層	
Q263	臼玉	0.45	0.35	0.20	0.12	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q264	紡錘車	(2.3)	3.6	1.2	(14.0)	蛇紋岩	孔径0.7，側面・上面に微細な線刻，1/2欠損	北部下層	

第23号土坑（第102・103図）

位置　調査区西部のＧ２i3区，標高17.6ｍほどの西斜面に位置している。

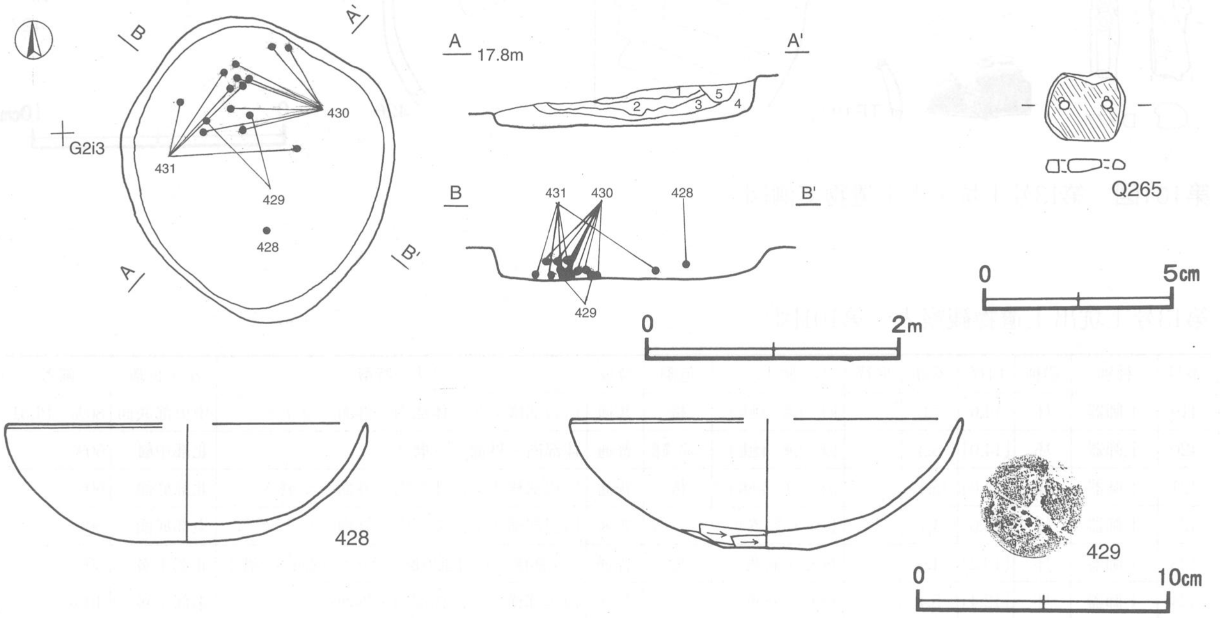
規模と形状　長径2.50ｍ，短径2.10ｍほどの楕円形で，深さは11～25㎝である。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－15°－Ｗである。

覆土　５層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

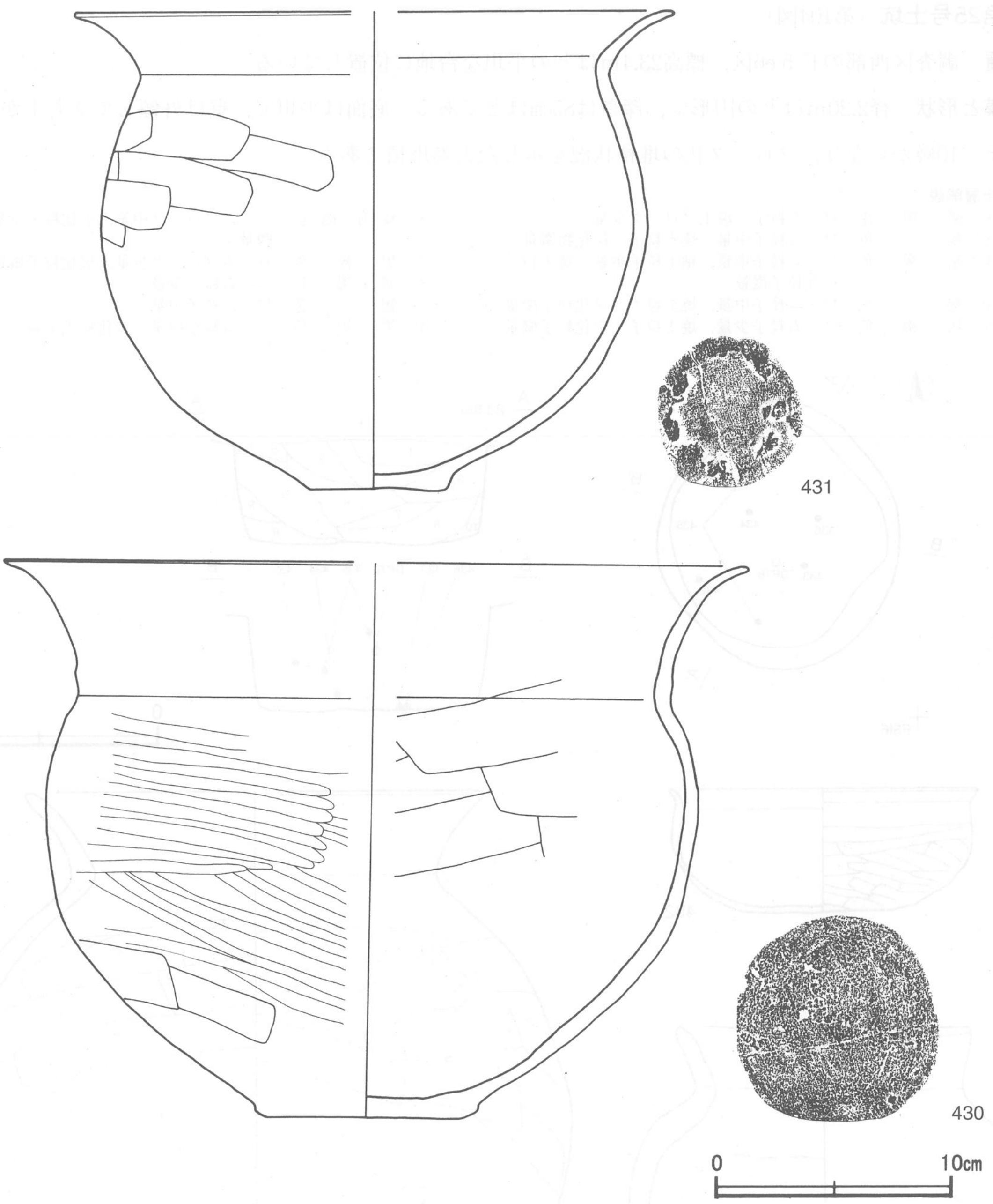
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量・ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片182点（坏類46，甕類135，高坏１），石製模造品１点（臼玉）が出土している。428は南部の覆土中層，429は北部の覆土下層，Ｑ265は覆土中からそれぞれ出土している。また，430・431は北部の覆土中層から下層にかけてまとまって出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第102図　第23号土坑・出土遺物実測図



第103図　第23号土坑出土遺物実測図

第23号土坑出土遺物観察表（第102・103図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
428	土師器	坏	[14.2]	4.6		長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面摩耗調整不明	南部中層	70%
429	土師器	坏	[15.4]	5.2	3.3	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面摩耗調整不明，体部外面下位ヘラ削り	北部下層	70%
430	土師器	甕	[31.4]	23.4	8.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラ磨き，外面下位・内面ヘラナデ	北部中層～下層	60%
431	土師器	甕	[27.2]	20.3	5.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	北部中層～下層	60%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q265	双孔円板	1.7	2.1	0.4	2.3	滑石	孔径0.20，両面斜位の研磨，片面穿孔	覆土中	

第25号土坑（第104図）

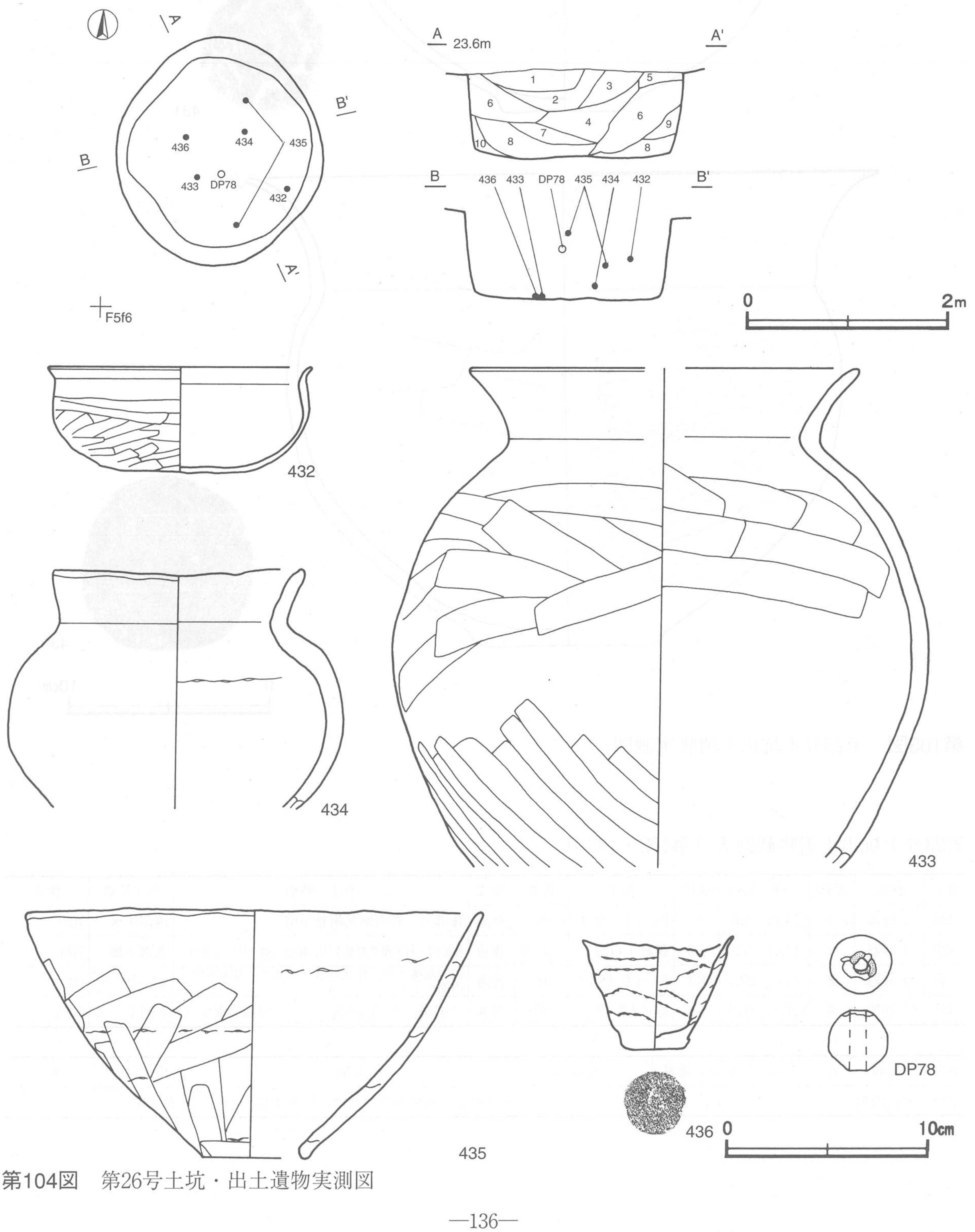
位置　調査区西部のＦ５e6区，標高23.4ｍほどの平坦な台地に位置している。

規模と形状　径2.20ｍほどの円形で，深さは85㎝ほどである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　10層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック少量
2	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
3	暗褐色	ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	灰褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6	極暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
7	黒褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子少量
9	褐色	ローム粒子中量
10	黒褐色	ローム粒子中量，炭化粒子少量



第104図　第26号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片120点（坏類15，甕類104，手捏土器１），土製品１点（球状土錘）が出土している。433・434・436は中央部の底面より出土しており遺棄されたものと考えられる。また，432・435・DP78は中央部の中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。

第25号土坑出土遺物観察表（第104図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
432	土師器	坏	[13.0]	5.5		長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラナデ，内面摩耗調整不明	中央部中層	80%
433	土師器	甕	[19.2]	(25.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口辺部横ナデ，体部内・外面ヘラナデ	中央部底面	80%
434	土師器	小形甕	12.3	(11.9)	－	長石・石英	橙	普通	体部内・外面摩耗調整不明	中央部底面	70%
435	土師器	甑	22.6	12.3	5.0	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラナデ，内面ナデ，輪積み痕	中央部中層	90%　PL40
436	土師器	手捏土器	[7.5]	5.5	2.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ，輪積み痕	中央部底面	95%　PL34

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP78	球状土錘	3.0	2.9	0.7	24.5	土製	ナデ，片面穿孔	中央部中層	

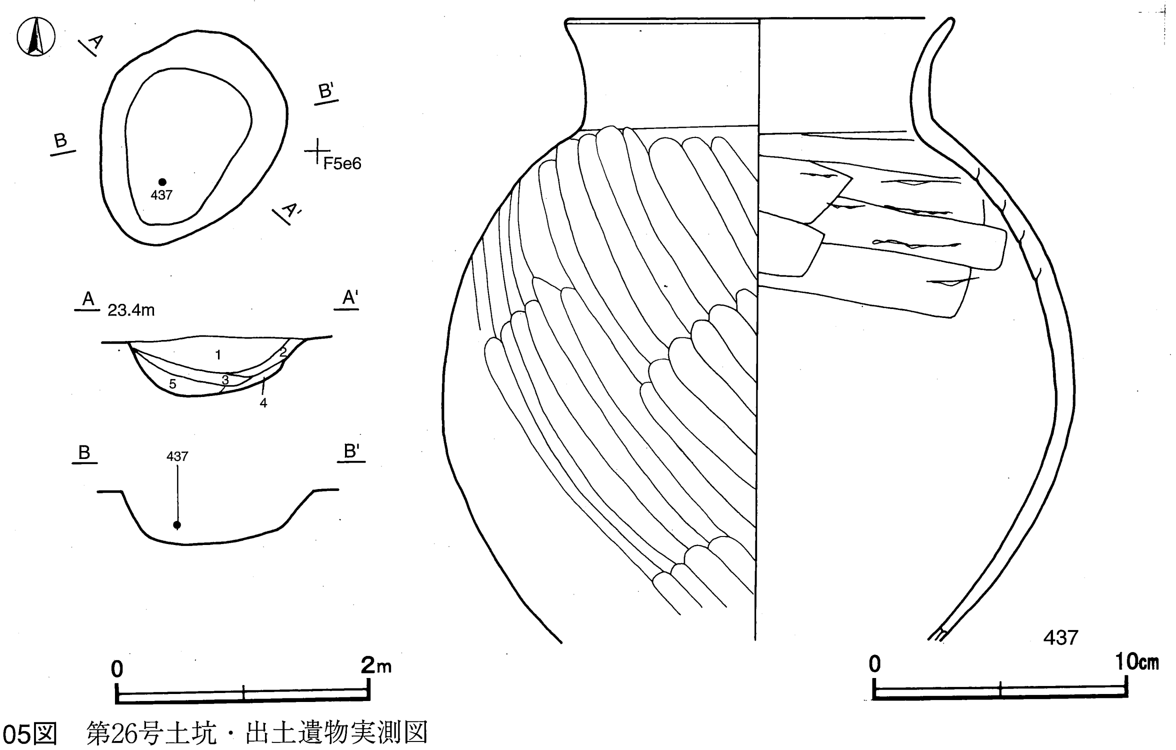
第26号土坑（第105図）

位置　調査区西部のＦ５d5区，標高23.2ｍほどの平坦な台地に位置している。

規模と形状　長径1.75ｍ，短径1.40ｍほどの不整楕円形で，深さは45㎝ほどである。底面は皿状で，壁は緩やかに外傾している。長径方向はＮ－25°－Ｅである。

覆土　５層からなり，第３層・第４層にロームブロックを多く含んだ人為堆積である。

土層解説
１　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
２　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
３　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
４　黒　褐　色　炭化粒子多量，ロームブロック中量，焼土粒子少量
５　黒　褐　色　炭化粒子多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量



第105図　第26号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片27点（坏類1，甕類26）が出土している。437は南部下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。

第26号土坑出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
437	土師器	甕	15.4	(24.6)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	南部下層	80%

第30号土坑（第106図）

位置　調査区西部のＦ５b0区，標高23.4ｍほどの北東への斜面部に位置している。

規模と形状　径1.95ｍほどの円形で，深さは95㎝ほどである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がっている。

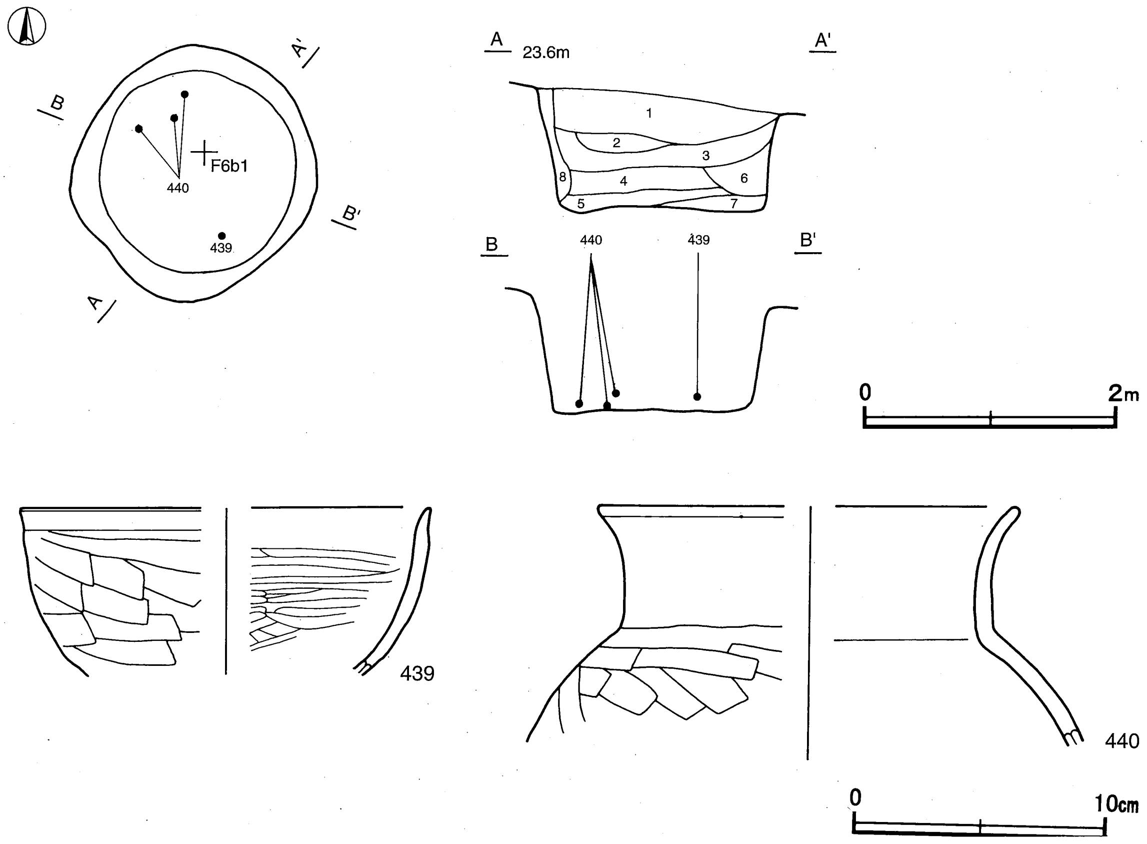
覆土　８層からなり，ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	褐　　色	ローム粒子少量
2	褐　　色	ロームブロック少量
3	暗　褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
4	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒　褐　色	ローム粒子少量
6	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
7	暗　褐　色	ローム粒子・炭化粒子少量
8	褐　　色	ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片331点（坏類50，甕類273，高坏８）が出土している。遺物の多くは下層から底面に集中しており，439は南部の底面，440は北部の底面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第106図　第30号土坑・出土遺物実測図

第30号土坑出土遺物観察表（第106図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
439	土師器	坏	[16.2]	(6.6)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ，内面ヘラ磨き	南部底面	30%
440	土師器	甕	[16.4]	(9.4)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口辺部横ナデ，体部外面ヘラナデ	北部底面	20%

第35号土坑（第107・108図）

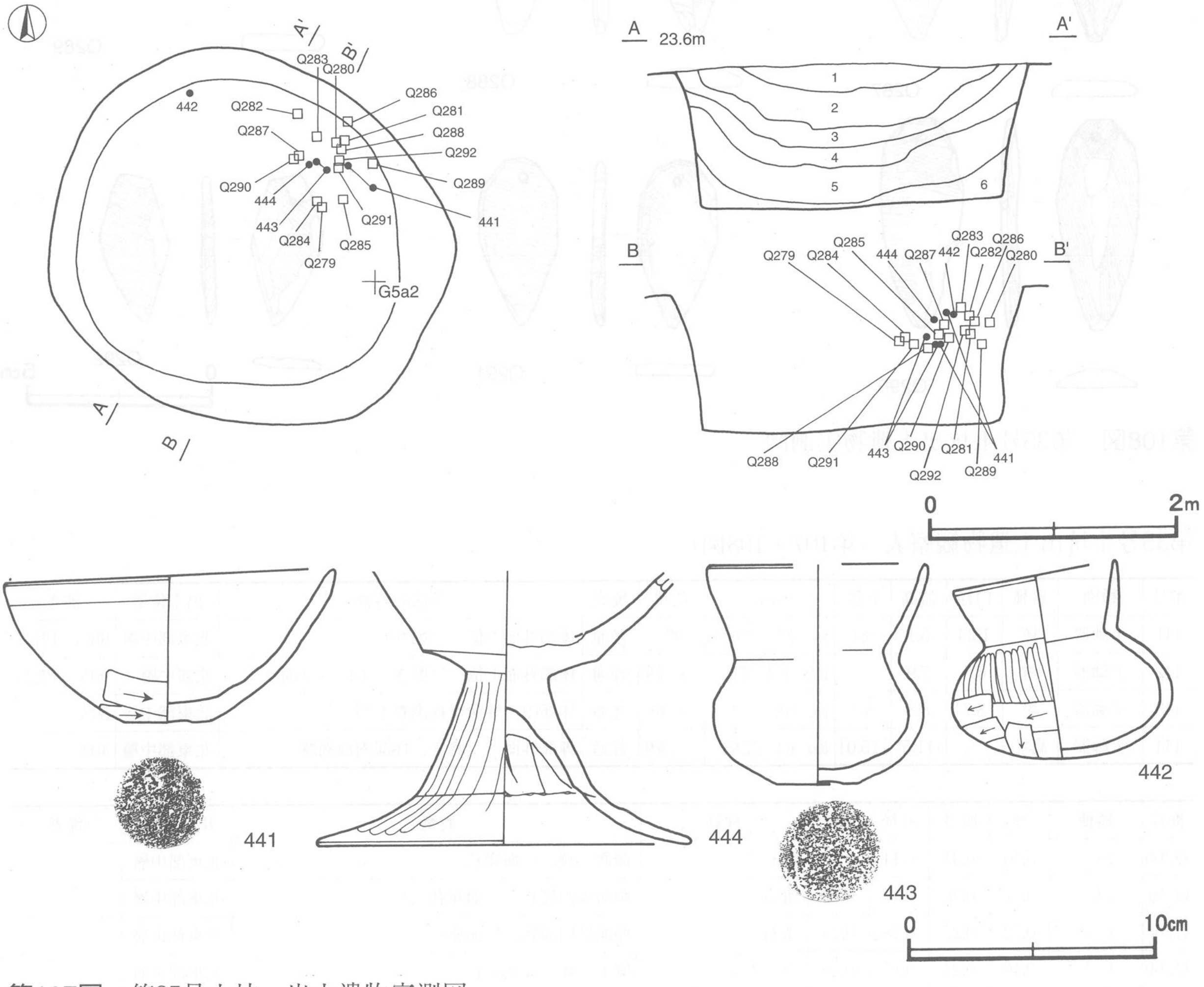
位置　調査区西部のＦ５j1区，標高23.4mほどの平坦な台地に位置している。

規模と形状　長径3.10m，短径2.90mほどの円形で，深さは108㎝ほどである。底面は平坦で，壁は垂直に立ち上がっている。

覆土　６層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

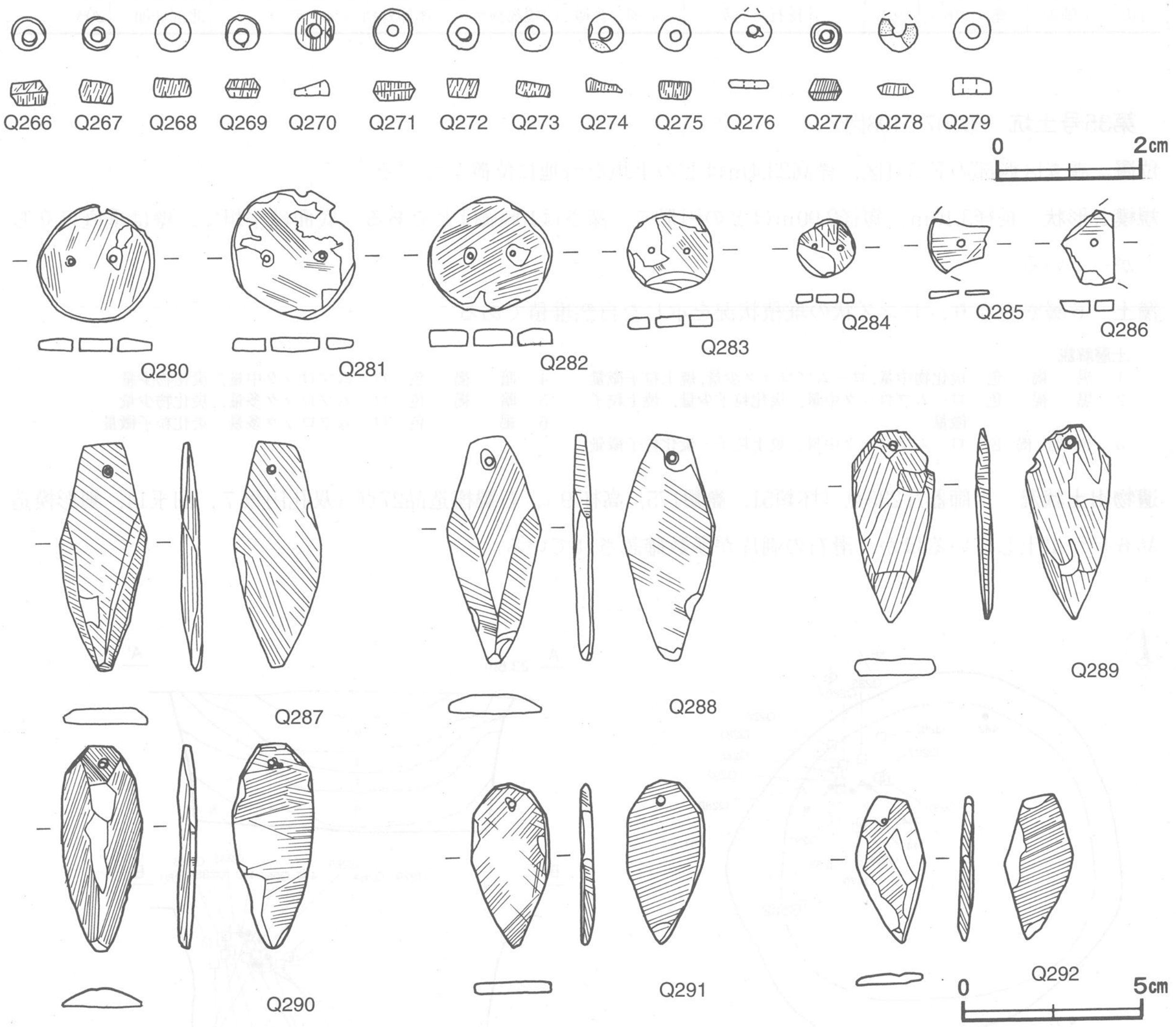
土層解説
1　黒　褐　色　炭化物中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　極暗褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
5　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化物少量
6　褐　　　色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片235点（坏類51，甕類175，高杯９），石製模造品27点（双孔円板７，臼玉14，剣形模造品６）が出土しているほか，滑石の剥片が多数確認されている。



第107図　第35号土坑・出土遺物実測図

所見　本跡は，滑石の剥片とともに多数の石製模造品が出土しており，石製品の工房に関わる施設であった可能性も考えられる。時期は，出土土器から５世紀後葉と考えられる。



第108図　第35号土坑出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表（第107・108図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
441	土師器	坏	13.3	6.1	3.4	長石・石英・白色粒子	橙	普通	体部外面下位ヘラ削り	北東部中層	95%　PL27
442	土師器	坩	6.5	7.9		長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面上位ヘラ磨き，下位ヘラ削り	北部中層	90%　PL36
443	土師器	坩	[8.7]	8.8	3.2	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面摩耗調整不明	北東部中層	50%
444	土師器	高坏	−	(11.5)	[15.0]	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，坏部内面剥離	北東部中層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q266	臼玉	0.46	0.31	0.14	0.11	滑石	側面に稜，片面穿孔	北東部中層	
Q267	臼玉	0.47	0.28	0.17	0.10	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北東部中層	
Q268	臼玉	0.52	0.27	0.18	0.15	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北東部中層	
Q269	臼玉	0.46	0.24	0.17	0.10	滑石	側面に稜，片面穿孔	北東部中層	
Q270	臼玉	0.51	0.20	0.17	0.08	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北東部中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q271	臼玉	0.52	0.24	0.15	0.13	滑石	側面に稜，片面穿孔	北東部中層	
Q272	臼玉	0.44	0.27	0.15	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北東部中層	
Q273	臼玉	0.52	0.20	0.16	0.11	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北東部中層	
Q274	臼玉	0.51	0.16	0.15	0.07	滑石	側面は円盤状，片面穿孔	北東部中層	
Q275	臼玉	0.46	0.25	0.15	0.10	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北東部中層	
Q276	臼玉	[0.55]	0.13	0.16	(0.08)	滑石	側面は円盤状，片面穿孔	北東部中層	
Q277	臼玉	0.43	0.30	0.18	0.09	滑石	側面に稜，片面穿孔	北東部中層	
Q278	臼玉	[0.51]	0.16	[0.17]	(0.04)	滑石	側面は円盤状，片面穿孔，1/2欠損	北東部中層	
Q279	臼玉	0.52	0.52	0.16	0.13	滑石	側面は円筒状，片面穿孔	北東部中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q280	双孔円板	3.2	3.2	0.4	6.8	滑石	孔径0.16，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q281	双孔円板	3.6	3.3	0.4	7.2	滑石	孔径0.17，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q282	双孔円板	3.1	3.4	0.4	7.9	滑石	孔径0.17，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q283	双孔円板	2.2	2.3	0.4	3.2	滑石	孔径0.20，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q284	双孔円板	1.6	1.6	0.3	1.1	滑石	孔径0.15，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q285	双孔円板	(1.5)	(1.6)	0.2	(0.5)	滑石	孔径0.20，両面斜位の研磨，片面穿孔，2/3欠損	北東部中層	PL43
Q286	双孔円板	(1.5)	(2.0)	0.4	(1.4)	滑石	孔径0.20，両面斜位の研磨，片面穿孔，1/2欠損	北東部中層	PL43
Q287	剣形模造品	6.3	2.3	0.5	11.4	滑石	孔径0.15，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q288	剣形模造品	6.2	2.6	0.5	11.1	滑石	孔径0.18，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q289	剣形模造品	5.3	2.3	0.5	8.7	滑石	孔径0.20，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q290	剣形模造品	5.7	2.2	0.5	8.6	滑石	孔径0.15，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q291	剣形模造品	4.5	2.1	0.3	5.0	滑石	孔径0.18，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43
Q292	剣形模造品	4.0	1.9	0.3	3.4	滑石	孔径0.13，両面斜位の研磨，片面穿孔	北東部中層	PL43

第39号土坑（第109・110図）

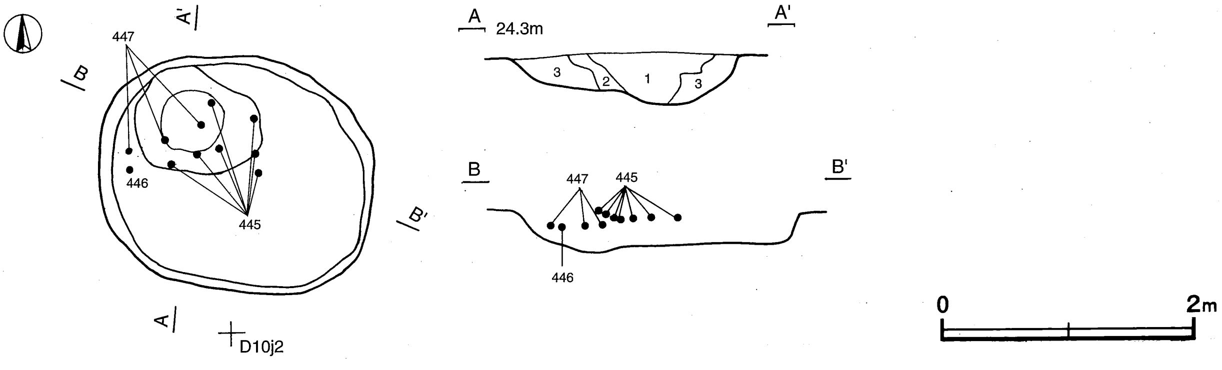
位置　調査区西部のＤ10i1区，標高24.0ｍほどの平坦な台地に位置している。

規模と形状　長径2.20ｍ，短径1.90ｍほどの楕円形で，深さは25～40㎝ほどである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－40°－Ｗである。

覆土　３層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

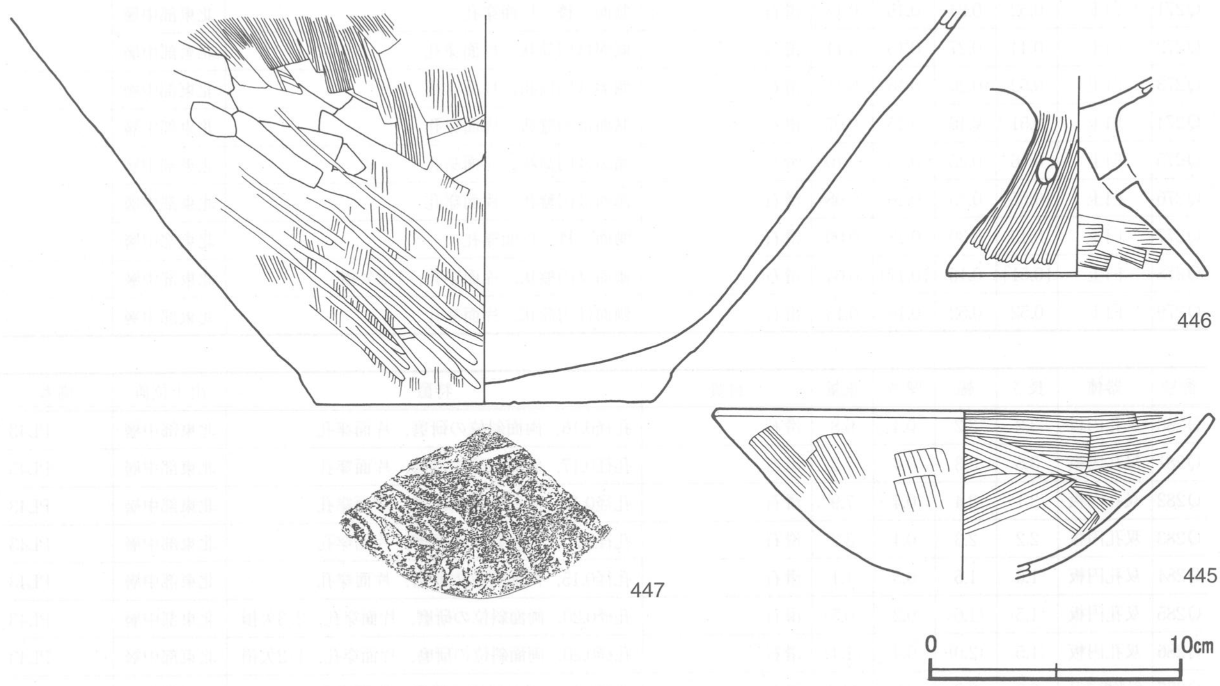
土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片102点（坏類３，甕類97，高坏２）が出土している。445～447とも北部の覆土中層から出土している。



第109図　第39号土坑実測図

所見　時期は，出土土器から４世紀前半と考えられる。



第110図　第39号土坑出土遺物実測図

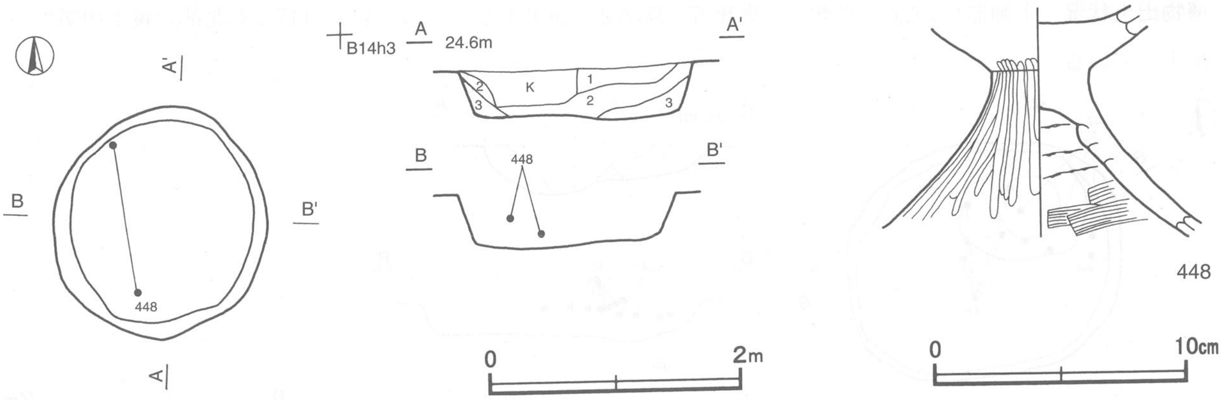
第39号土坑出土遺物観察表（第110図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
445	土師器	高坏	19.4	(6.6)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	坏部内・外面ハケ目整形	北部中層	40%
446	土師器	高坏	－	(7.8)	10.4	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目整形	北部中層	30%
447	土師器	甕	－	(15.5)	[13.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面ハケ目整形後ヘラ磨き	北部中層	30%

第47号土坑（第111図）

位置　調査区西部の14Bh2区，標高24.4ｍほどの平坦な台地に位置している。

規模と形状　長径1.80ｍ，短径1.70ｍほどの円形で，深さは25～40㎝ほどである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。



第111図　第47号土坑・出土遺物実測図

覆土　3層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片22点（坏類2，甕類20）が出土している。448は北部の覆土中層の破片と南部の覆土下層の破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から4世紀後半と考えられる。

第47号土坑出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
448	土師器	高坏	－	(9.1)	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	脚部外面ヘラ磨き，内面ハケ目整形・輪積み痕	南部下層	50%

4　平安時代の遺構と遺物

今回の調査で，平安時代の竪穴住居跡28軒と土坑1基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡（第112・113図）

位置　調査区西部のＩ1d6区，標高21.4～21.9mほどの東への斜面部に位置している。

重複関係　東側で第3号住居跡，南側で第2号住居跡をそれぞれ掘り込んでいる。

規模と形状　長軸4.65m，短軸4.60mほどの方形で，主軸方向はＮ－15°－Ｗである。壁高は10～47cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，東側に向かって緩やかに傾斜し，中央部が踏み固められている。壁溝はほぼ全周しており，上幅10～12cm，深さ4～6cmで，断面形はU字状を呈している。

竈　北壁中央部を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は焚口部から煙道部まで長さ84cm，袖部幅138cmほどである。火床部は平坦で，火床面はわずかに赤変している。煙道は，緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　褐　　　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　褐　　　　色　ローム粒子・焼土粒子少量

ピット　5か所。深さはＰ1・Ｐ4が60cm，Ｐ2が15cm，Ｐ3が20cmほどで，主柱穴である。Ｐ5は深さ20cmほどで，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　7層からなり，レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片482点（坏類29，甕類453），須恵器片198点（坏類79，甕類119）が出土している。底部片から推定される個体数は，土師器坏5点，土師器甕4点，須恵器坏3点，須恵器甕4点である。269は竈焚口部，277は竈右袖側の床面，270は東壁寄りの中央部床面，271・273は東壁寄りの中央部覆土下層，DP84は西壁際の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。